平成 27 年 第 2 回定例会

南種子町議会会議録

平成 27 年 6 月 24 日 開会

平成 27 年 7 月 3 日 閉会

南種子町議会

平成27年第2回南種子町議会定例会会議録目次

第1号（6月24日）（水曜日）

1. 開 会	5
1. 開 議	5
1. 日程第1 会議録署名議員の指名	5
1. 日程第2 会期の決定	5
1. 日程第3 議長諸報告	5
1. 日程第4 町長行政報告	6
1. 日程第5 平成27年度施政方針及び提案理由の説明	7
町長説明	7
1. 休 憩	25
1. 日程第6 報告第1号 平成26年度南種子町繰越明許費繰越計算書	25
総務課長説明	25
質疑	26
1. 日程第7 議案第31号 町長等の給与等に関する条例の特例に関する条例制定について	26
総務課長説明	26
質疑	27
6番 広浜喜一郎君	27
7番 上園和信君	27
9番 日高澄夫君	27
討論	27
採決	28
1. 日程第8 議案第32号 南種子町手数料徴収条例の一部を改正する条例制定について	28
総合農政課長説明	28
質疑	28
討論	28
採決	29
1. 日程第9 議案第33号 南種子辺地総合整備計画の変更について	29
企画課長説明	29

計補正予算（第1号）	54
建設課長説明	54
質疑	55
5番 塩釜俊朗君	55
討論	56
採決	56
1. 日程第13 議案第37号 平成27年度南種子町介護保険特別会計補 正予算（第2号）	56
保健福祉課長説明	56
質疑	57
討論	57
採決	57
1. 日程第14 議案第38号 平成27年度南種子町後期高齢者医療保険 特別会計補正予算（第1号）	57
保健福祉課長説明	57
質疑	58
討論	58
採決	58
1. 日程第15 陳情第3号 議員報酬の減額及び議員定数15名への増等に関 する陳情について	58
1. 休 憩	59
1. 日程第16 陳情第4号 職員定数改善と義務教育費国庫負担制度 2分の1復元を図るための2016年度政府 予算に係る意見書採択の陳情について	59
1. 日程第17 陳情第6号 種子島・屋久島を「活動火山周辺地域防 災営農対策事業」の対象地域に組み入れ ることを求める陳情について	59
1. 散 会	60
第2号（7月2日）（木曜日）	
1. 開 議	63
1. 日程第1 一般質問	63
1番 河野浩二君	63
1. 現在の財政状況について	

2.	人口減少対策について	
3.	地域包括ケアシステムについて	
4.	夏季打上げ予定のH-II B ロケット打上げにおける観光客の誘致について	
5.	日悦上人について	
1.	休憩	81
2番	柳田 博君	81
1.	島間古川川の大雨（豪雨）と大潮による氾濫防止対策について	
2.	野間島間港線（県道558号線）の開通に伴う弊害解消について	
3.	町内集落の里道舗装について	
4.	町長の政治姿勢について	
1.	休憩	88
8番	立石靖夫君	89
1.	名越町長の政治姿勢について	
2.	名越町長の選挙公約実現策について	
1.	休憩	104
7番	上園和信君	104
1.	選挙公約について	
2.	教育施策の推進について	
3.	町長の政治姿勢について	
1.	散会	121

第3号（7月3日）（金曜日）

1.	開議	124
1.	日程第1 一般質問	124
4番	西園 茂君	124
1.	国道58号線，上中地区整備事業について	
2.	米軍基地等馬毛島移設問題対策協議会について	
3.	地区公民館からの要望書に対する対応について	
4.	地方創生事業について	
1.	休憩	140
9番	日高澄夫君	140

1. 日程第6 発議第3号 職員定数改善と義務教育費国庫負担制	
度拡充に係る意見書の提出について	202
5番 塩釜俊朗君趣旨説明	202
質疑	203
討論	203
採決	203
1. 日程第7 発議第4号 種子島・屋久島を「活動火山周辺地域防	
災営農対策事業」の対象地域に組み入れ	
ることを求める意見書の提出について	203
1番 河野浩二君趣旨説明	203
質疑	203
討論	204
採決	204
1. 日程第8 発議第5号 南種子町議会会議規則の一部を改正する	
規則の制定について	204
9番 日高澄夫君趣旨説明	204
質疑	205
討論	205
採決	205
1. 休 憩	205
1. 日程第9 発議第6号 安全保障法制の慎重な審議を求める意見	
書の提出について	205
9番 日高澄夫君趣旨説明	206
質疑	206
討論	206
採決	207
1. 日程第10 発議第7号 米軍基地等馬毛島移設問題対策協議会か	
ら離脱を求める決議	207
8番 立石靖夫君趣旨説明	207
質疑	208
討論	208
9番 日高澄夫君	208
採決	208
1. 日程第11 閉会中の継続調査申し出	209

1. 日程第12 閉会中の継続審査申し出	209
1. 日程第13 議員派遣	209
1. 閉 会	209

平成27年第2回南種子町議会定例会会期日程

6月24日開会～7月3日閉会 会期10日間

月	日	曜	日 程	備 考
6	24	水	本 会 議 (開 会)	1. 議長諸報告 2. 町長行政報告 3. 平成27年度施政方針及び提案理由の説明 4. 議案審議 (1)報告 1件 (報告第1号) (2)条例 2件 (議案第31号～第32号) (3)事件 1件 (議案第33号) (4)予算 5件 (議案第34号～第38号) 5. 請願陳情委員会付託
	25	木	委 員 会	総務文教委員会・特別委員会
	26	金	委 員 会	議会運営委員会・産業厚生委員会
	27	⊕	休 会	
	28	⊕	休 会	
	29	月	休 会	
	30	火	休 会	
7	1	水	委 員 会	総務文教委員会
	2	木	本 会 議	1. 一般質問 (4名)

	3	金	本 会 議 (閉 会)	1. 一般質問（4名） 2. 提案理由の説明 3. 議案審議 (1) 予算 1件（議案第39号） 4. 委員長報告（陳情審査） 総務文教委員会・産業厚生委員会 5. 発議 (1) 意見書 3件（発議第3号・第4号・第6号） (2) 規則 1件（発議第5号） (3) 決議 1件（発議第7号） 6. 閉会中の継続調査申し出 7. 閉会中の継続審査申し出 8. 議員派遣
--	---	---	----------------	---

平成27年第2回南種子町議会定例会

第 1 日

平成27年6月24日

平成27年第2回南種子町議会定例会会議録
平成27年6月24日（水曜日） 午前10時開議

1. 議事日程（第1号）

- 開会の宣告
- 日程第1 会議録署名議員の指名
- 日程第2 会期の決定
- 日程第3 議長諸報告
- 日程第4 町長行政報告
- 日程第5 平成27年度施政方針及び提案理由の説明
- 日程第6 報告第1号 平成26年度南種子町繰越明許費繰越計算書
- 日程第7 議案第31号 町長等の給与等に関する条例の特例に関する条例制定について
- 日程第8 議案第32号 南種子町手数料徴収条例の一部を改正する条例制定について
- 日程第9 議案第33号 南種子辺地総合整備計画の変更について
- 日程第10 議案第34号 平成27年度南種子町一般会計補正予算（第2号）
- 日程第11 議案第35号 平成27年度南種子町国民健康保険事業勘定特別会計補正予算（第2号）
- 日程第12 議案第36号 平成27年度南種子町簡易水道事業特別会計補正予算（第1号）
- 日程第13 議案第37号 平成27年度南種子町介護保険特別会計補正予算（第2号）
- 日程第14 議案第38号 平成27年度南種子町後期高齢者医療保険特別会計補正予算（第1号）
- 日程第15 陳情第3号 議員報酬の減額及び議員定数15名への増等に関する陳情について
- 日程第16 陳情第4号 職員定数改善と義務教育費国庫負担制度2分の1復元を図るための2016年度政府予算に係る意見書採択の陳情について
- 日程第17 陳情第6号 種子島・屋久島を「活動火山周辺地域防災営農対策事業」の対象地域に組み入れることを求める陳情について

2. 本日の会議に付した事件

- 議事日程のとおり

3. 出席議員（10名）

1番	河野浩二君	2番	柳田博君
3番	大崎照男君	4番	西園茂君
5番	塩釜俊朗君	6番	広浜喜一郎君
7番	上園和信君	8番	立石靖夫君
9番	日高澄夫君	10番	小園實重君

4. 欠席議員（0名）

5. 出席事務局職員

局長 濱田広文君 書記 日高一幸君

6. 地方自治法第121条の規定により説明のため出席した当局職員の職氏名

職名	氏名	職名	氏名
町長	名越修君	副町長	長田繁君
教育長	遠藤修君	総務課長兼 選挙管理委員会 事務局長	小脇秀則君
会計管理者 兼会計課長	野首知子さん	企画課長	小脇隆則君
保健福祉課長	高田真盛君	観光課長	坂口浩一君
総合農政課長	島崎憲一郎君	税務課長	河口恵一郎君
教育委員会 社会教育課長	高田健一郎君	建設課長	古市義朗君
農業委員会 事務局長	羽生幸一君	教育委員会管理課長兼 給食センター所長	小西嘉秋君
保育園長	小川ひとみさん		

△ 開 会 午前10時00分

開 議

- 議長（小園實重君） ただいまから平成27年第2回南種子町議会定例会を開会します。
これから本日の会議を開きます。
本日の議事日程はお手元の日程表のとおりであります。
-

日程第1 会議録署名議員の指名

- 議長（小園實重君） 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。
会議録署名議員は、会議規則第125条の規定によって、7番、上園和信君、8番、立石靖夫君を指名します。
-

日程第2 会期の決定

- 議長（小園實重君） 日程第2、会期の決定についてを議題とします。
お諮りします。本定例会の会期は、本日6月24日から7月3日までの10日間にし
たいと思います。御異議ありませんか。
[「異議なし」と呼ぶ者あり]

- 議長（小園實重君） 異議なしと認めます。
したがって会期は本日6月24日から7月3日までの10日間に決定しました。
-

日程第3 議長諸報告

- 議長（小園實重君） 日程第3、議長諸報告を行います。
報告書をお手元に配付しておりますが、要点について局長から説明させます。
- 事務局長（濱田広文君） 御報告申し上げます。お手元に議長報告書を配付してござ
いますのでお目通しいただきたいと思います。
監査結果報告書でございますが、例月出納検査報告書の平成27年2月分から平成
27年4月分までを配付しております。
それから、町長提出議案一覧表を配付しております。
次に、各種行事、業務及び動静については、平成27年3月4日から6月23日まで
の分について列記しておりますが、その主なものについて御報告いたします。
まず、議長会関係の会議等でありますが、5月13日、平成27年度熊毛郡町議会議
長会総会が開催され、平成26年度事業報告、決算、平成27年度事業計画、予算が提
案され、承認及び原案可決しております。
また、平成27、28年度会長に小園議長が選出されました。

同日、県離島振興町村議会議長会臨時会が開催され、役員の改選が行われ、会長に中種子町の鎌田勇二郎議長が再任されました。

次に、一部事務組合関係ですが、6月11日、中南衛生管理組合議会臨時会が開催され、議長に小園議長が、議選監査委員に広浜議員が選出されました。

同日、公立種子島病院組合議会臨時会が開催され、副議長に小園議長が選出されました。

6月23日、公立種子島病院組合議会臨時会が開催され、識見監査委員に日高幸男代表監査委員が選出されました。

以上で報告を終わります。

○議長（小園實重君） これで議長諸報告を終わります。

日程第4 町長行政報告

○議長（小園實重君） 日程第4、行政報告を行います。

町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 行政報告を申し上げます。

平成26年度産さとうきびの生産状況についてでございますが、本町の作付面積は509ヘクタールでございます。種子島全体では2,695ヘクタール、前年対比99.9%と横ばいの面積となりました。

操業は12月12日から4月9日の119日間で終了し、各市町の平均単収は西之表市4,889キログラム、中種子町5,525キログラム、南種子町4,947キログラムで管内の平均単収は前年度を大幅に下回る5,236キログラムとなりました。

本町のさとうきびの作柄及び生産状況は、春先の低温と日照不足や6月の豪雨により、さとうきびの茎数、茎長が平年以下となり、加えて10月の2度の台風襲来により茎の倒伏や折損、葉の裂傷や枯死の被害があったことが原因で、昨年を大幅に下回る生育でありました。

また、品質につきましては、10月中旬に行った調査では農林8号でブックス値は11.13%、平年比で81.2%と下回って経過しました。農林22号では13.15%、平年比で118.1%で順調な登熟でありましたが、台風による葉の裂傷等により糖度は上昇せず、本町の最終平均糖度は過去に例のない10.31%となりました。

トン当たりの農家手取り価格は、原料代分と交付金分をあわせて1万7,647円、10アール当たりの生産額は8万7,300円と、例年に比べ5万5,004円下回る結果となり、生産額は約4億4,300万円で、前年度より2億6,700万円ほどの減収となったところでございます。

平成27年度さとうきびの作付状況につきましては、5月末の植えつけ調査を実施

した段階で488ヘクタールで、昨年比で19ヘクタールの減の見込みでございます。栽培者数については高齢化や後継者不足などにより329戸で、昨年より24戸の減となりました。

行政といたしましてもさとうきびは本町を支える重要な作物であるため、持続的に栽培できるよう、また、後継者、新規栽培者が安心して栽培に取り組める作物であるよう支援を続けていくよう努めてまいります。

平成25年度に国の基金事業としてさとうきび増産基金事業が創設され、平成25、26年度の2カ年において土壌改良作業委託費や資材購入費について助成を行ったところであります。本年度についても、国のこの事業のほか昨年同様、優良種苗確保事業やさとうきび増産強化事業を実施し、1人でも多くの方に事業を活用していただくよう、農家には周知をしていくところでございます。

今後とも本町の基幹産業であります農業について、希望の持てる政策を講じ、農業所得の向上を図ってまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（小園實重君） これで行政報告を終わります。

日程第5 平成27年度施政方針及び提案理由の説明

○議長（小園實重君） 日程第5、町長提出の報告第1号及び議案第31号から議案第38号までの9件を一括上程します。

平成27年度施政方針及び提案理由の説明を求めます。町長、名越 修君。

[名越 修町長登壇]

○町長（名越 修君） 初めに、去る5月29日の口永良部島の新岳の爆発的噴火により、全島民が島外に避難されているところであります。被災された方々に心からお見舞いを申し上げます。

そして、被災者の皆様の御健康と1日も早い復旧、復興をお祈り申し上げるところでございます。

私はこのたびの統一地方選挙におきまして、町民の温かい御支援をいただき町政の重責を担うことになりました。本議会におきましては、ここに私の町政運営に関する基本方針と、主要施策の概要並びに各議案につき提案理由の御説明を申し上げたいと存じます。

また、各議員におかれましては、このたびの選挙におきまして栄えある御当選に対し、心からの敬意を表する次第でございます。

私は町政を担当するに当たり、職員とも心をひとつにして町政発展と町民生活の安定、福祉増進を図るため、町民の声をよく聴き、議員の皆様方の御意見を踏まえ

ながら活力ある町づくりに努めてまいり所存でございます。私の町政運営の基本は、選挙中に発表いたしましたマニフェストを緊急性、必要性等に配慮しながら諸施策を実行してまいり所存でございます。

さて、我が国はバブル経済の崩壊を契機とした長期的な経済の低迷、国際的な競争力の低下、少子高齢化による人手不足や内需不足など、出口の見えない厳しい状況に直面しております。

政府が打ち出した地方創生は、現状を打破し、特に全国的な少子高齢化や地方における深刻な人口の減少に対応し、その影響を最小限に抑制すべく推進される一大プロジェクトであり、「まち・ひと・しごと創生法」に基づき具現化しようとするものであります。

このような現状に鑑み、当町においても地方版総合戦略を策定し、所要の財源を確保しながら国県と協調して必要な施策の位置づけを行うとともに、当町の現状やこれまでの歴史的な経緯をも踏まえ、将来を見据えた効果的、効率的な施策を町民の皆様とともに推進してまいります。

地方財政を取り巻く環境は、一部に明るい兆しが見えるものの、社会保障関係費の自然増など厳しい状況にあり、国の政策によっても影響を受けることから、その状況に常に注視しつつ、健全な財政運営を図りながら希望の持てる活力ある町づくりに全身全霊で取り組んでまいります。

本年度は、統一地方選挙の関係から当初予算は骨格予算として計上しておりましたので、平成27年度における施政方針及び予算措置については、今後における町の発展方向を踏まえながら諸施策の決定をいたした次第でございます。

当初予算で議決いただいている一般会計総予算は45億6,140万円ですが、今後予算をつけてほしいという関係課長からの要望額は3億円余りです。

それでは、各施策の主な事項につきまして申し述べたいと存じます。

まず、農業政策についてであります。

本町の基幹産業である第1次産業の振興については、高齢化等による担い手不足やそれに伴う産地力低下、海上輸送費高騰や農畜産物生産資材コストの上昇、多様な消費者ニーズや需要に対応した安全・安心な農畜産物の安定供給、耕作放棄地再生、持続的な地域営農の推進など多くの課題を抱えております。

このような状況の中で国からは新たな農業・農村政策が示されました。この改革の考え方として農業従事者の高齢化、耕作放棄地の拡大などの課題が生じており、構造改革をさらに加速化させていくことが必要であることから、「農林水産・地域の活力創造プラン」がとりまとめられ、農業を足腰の強い産業としていくための政策、つまり農業政策と農業・農村の有する多面的機能の維持、発揮を図るための政

策、地域政策を車の両輪として推進し、関係者が一体となって課題の解決に向けて取り組むことの必要性が示されております。あわせて平成27年4月に人口減少社会に向けての取り組みと、地域の活性化のために強い農業と美しく活力ある農村の実現を目指して、これからの10年を見据えた食料・農業・農村基本計画が策定されました。この計画は我が国の農業・農村が経済社会の構造変化等に的確に対応し、その潜在力を最大限に発揮しながら、将来にわたってその役割を適切に担っていける施策の改革や国民全体による取り組みを進めるための指針であります。

このような状況の中で、本町基幹産業である農業を発展させるため、あらゆる施策を精査し、迅速な情勢の把握とニーズにあった施策の導入が必要であります。平成26年度より創設された農地中間管理機構を活用し、地域の担い手への農地の集積、集約化を図ることにより農作業の効率化と遊休農地解消対策に努めます。後継者確保対策、農家の所得向上等地域の活性化につながる取り組みを行うことが重要であると認識しております。このため、農業関係団体と協力を密にし、町民の御理解をいただきながら、地域の活性化につながる施策の実現に向け、積極的に取り組んでまいります。

新規就農者の確保、育成につきましては、国が進める新規就農総合支援事業や人・農地プランなどを引き続き活用し、新規就農者が農業に取り組みやすい環境を整え、計画的かつ効果的な経営支援に努めてまいります。

これまでの地場野菜販売所を、農山漁村活性化プロジェクト支援交付金事業を活用し整備拡充して平成26年度に南種子町観光物産館を開館し、施設、人員体制の拡充を図り、地産地消のための地元農産物や加工品等の販売拠点として、また、食育や地元産品の島外発信の推進拠点施設としての整備を行いました。このことにより、地産地消はもとより、出郷者等町外居住者へ地元産品の発信を行うなどの取り組みを行い、高齢者を初めとした農家等の所得向上対策と地域産業の振興を図りたいと考えて事業を進めておりますが、このような事業を役場が直接するのではなく、町内民間企業ができないか、今後検討を要します。

また、あわせて平成25年度に新設整備したインギー地鶏の生産鶏舎を活用し、インギー地鶏振興会を軸とした生産体制の充実を図り、特産品としてのインギー地鶏の活用を図りますが、それには企業化が必要であります。姉妹都市大館市の比内地鶏駅弁日本一に学ぶべきと思いますので検討をしてまいりたいと思います。

「早期水稻」「さとうきび」「でん粉用さつまいも」につきましては、本町の基幹作物であり、現在取り組んでいる国や県の施策などを継続し、経営安定対策と生産量の確保に努め、特に作付面積の減少等による原料不足が危惧される「でん粉用さつまいも」については、鹿児島県地域振興推進事業で導入した育苗ハウスを有効

に活用し、生産農家へのトンネルマルチ資材購入支援やバイオ苗の普及を行い、単収向上を図る必要があると思います。

「さとうきび」につきましては、これまでどおり優良種苗確保対策を継続し、さとうきび増産強化対策事業を活用し、基幹産業に係る機械整備への支援を行い、単収向上を実現して10年後のさとうきび生産振興を見据えた経営者育成を目指して、若手農家を中心にさとうきび規模拡大志向生産者組織を立ち上げております。平成27年度はWINWINプロジェクト会議や、地区プロジェクト会議と連携した支援を行ってまいります。

また、株式会社横峯 代表取締役 河脇秀二郎氏が7月に富山県で開催される第64回全国農業コンクールに全国20農家代表に選抜されて出場されます。いち早く法人化に取り組み、先進的なキビ作農家である同氏を初めとしたリーダー的農家の農業経営方針を指標としたキビ作振興にも取り組んでまいります。

次に、露地野菜、施設花卉、果樹、お茶につきましては、国や県などの事業を活用して生産量の確保と商品性を高め、産地間競争に打ち勝つ産地づくりを推進するとともに、販売促進、販路の拡大にも努めてまいります。

「安納いも」につきましては、安納いもブランド推進本部を中心として図形商標を活用して島内一体となった取り組みの強化を図るとともに、引き続き育苗施設導入支援を行い、バイオ苗での増産体制を進めてまいります。

また、高齢者を中心に地域に根ざした生産が行われ、消費者などから高い評価を得られている地域特産品の「レザーリーフファン」や「ロベ」「シキミ」などについては引き続き生産組織の育成や生産流通体制の確立、強化に取り組んでまいります。

本町の畜産を取り巻く環境は、他品目と同様に担い手の高齢化や後継者不足等の課題はあるものの、畜産農家の減少や飼育頭数の減少については他市町に比べて減少の状況は鈍化しているところであり、減少傾向に一定の歯どめをかけられていると考えます。平成27年度に入ってから肉相場は好調に推移しており、子牛価格も高値で取引されてはおりますが、配合飼料や粗飼料価格は高どまりの状態であり、畜産経営は依然として予断を許さない状況にあります。

このような中、本町においては畜産のさらなる発展を図るため、「町酪農・肉用牛生産近代化計画」に基づき、生産性の向上、経営の合理化、自給資料の安定確保、畜産環境対策を積極的に推進するとともに、家畜伝染病の予防と蔓延防止など家畜防疫対策の徹底や家畜の損耗防止対策等を講じてまいります。

また、肉用牛繁殖基盤の拡大を図るため、肉用牛貸付基金の活用による増頭や優良雌牛への更新を支援し、町は全国各地、県内等からの優良雌牛を確保するための

対策を講じまして、本町肉用牛の生産基盤の増強に努めてまいります。

また、酪農経営農家への支援対策として、乳用牛導入畜産振興資金の活用を行い、優良牛導入支援の拡充を図ります。

肉用牛キャトルセンターについては、増頭対策や子牛販売価格安定対策などを促進するために大変重要な施設でありますので、飼養改善を進め、有効活用を図るため安定的な預託頭数の確保に努めてまいります。

堆肥センターにつきましては、施設の有効活用と高品質な堆肥を供給するため畜糞原料、敷料等の安定的な確保に努め、耕畜連携を強化してバイオ堆肥の増産に取り組んでまいります。

全国的に鳥獣による農作物被害が増加している中、本町においてもカラス、鹿などによる鳥獣被害が増加している状況であります。鳥獣被害防止計画に基づき、鳥獣被害対策協議会を中心に箱わな、くくりわなによる鳥獣駆除などの鳥獣対策等を引き続き講じてまいります。

次に、林業であります。近年の林業情勢は木材価格の低迷、内地材の競合やプレカット材の移入などによる地場産材の利用減少等が大きな問題であります。森林組合と十分協議を行います。

本町の林業対策として下刈り、除間伐の推進、保育作業路開設による人工林の育成、シキミを主体とした特用林産物の生産安定と品質向上対策のための事業導入、地元産材の消費拡大等、林業の振興を図るとともに、防潮・防風林の管理保全に努めてまいります。

特に、杉原木の島外出荷事業については、輸送費支援を行い間伐材等の販売促進を行うこととしております。

次に、水産業であります。漁獲量は今後も減少することが予測されることから、漁場環境を整えることなどによる「つくり育てる漁業」を推進してまいります。

また、漁業者の高齢化が進行し、後継者不足の中、沿岸海域における水産資源の大幅な減少に加えて、魚価の低迷や輸入水産物の増加により、漁業経営は極めて厳しい状況にあることから、離島漁業再生支援事業を活用し、藻場の造成、イカ産卵場の造成等に取り組みます。また、鮮魚活魚の島外出荷対策事業では移送費用の支援事業を行うこととしております。

農業農村整備事業でございますが、生産基盤や安心・安全な生活環境整備、農業の生産性を高めるなどの条件整備を進めるために重要な施策であります。

本年度は、農山漁村活性化プロジェクト支援交付金事業高田浦地区の用地の取得や工事発注による整備を行います。同じく平成25年度から継続して同交付金事業を活用して長谷地区の整備を行います。その他町単独事業も導入して関係施設の整備

をしてまいります。

平成27年度県営事業の中山間地域総合整備事業南種子地区として、町内の農道・用排水路整備事業を行います。また、農村災害整備事業として、ため池・用排水路の整備を行い、生産体制の整備を進めます。

なお、従来から実施しております認定農道の維持管理、公共性のある小規模農道整備や農業農村環境整備事業による農業用施設等の整備については、土地改良区、地元受益者と協力しながら地元受益者等の要望に沿って積極的に実施をし、生産体制の整備に努めてまいります。

また、多面的機能支払交付金制度については、農業・農村の持つ多面的機能の維持管理が高齢化や人口減少などにより難しくなっている現状を踏まえ、土地改良施設等の維持管理を交付金を活用して地域ぐるみの共同活動で取り組むこととして推進していきます。

農業委員会につきましては、農業生産の基盤となる農地を貴重な資源として位置づけ、平成21年度改正された農地法に基づく農地の権利移動や農地転用などについて、公正・公平な審議に努めるとともに、優良農地の確保と農地流動化を推進し、地域農業を支える認定農業者を中心として担い手農家の育成・確保、農地の有効活用促進を図り、遊休農地・荒廃農地の調査と解消に努めてまいります。

国は担い手農家への農地の集積と耕作放棄地の発生防止、解消の抜本的な強化を図るため、平成26年度より新たに「農地中間管理事業の推進に関する法律」が制定され、県に「農地中間管理機構の組織」が設置されました。

農業委員会が果たすべき役割として、従来の業務に加えて平成27年4月より農地基本台帳及び農地地図を公表し、農地利用状況調査をもとに、農地所有者への意思確認と遊休農地の権利調査や農地中間管理機構を活用した担い手への農地集積推進、農用地利用配分計画案の作成協力などが新たな業務として追加されております。

国が今年度より運用を開始した農地情報公開システム「全国農地ナビ」の情報活用促進、農業委員会で管理している農地基本台帳及び農地地図情報の公表など、農家への情報提供のサービス向上に努め、農業・農村が持つ多面的な機能を発揮できるよう集落、地域における話し合い活動を関係機関一体となって進めてまいります。

次に、建設事業であります。住民目線に沿った生活環境の整備及び社会資本の維持管理を含めた生産基盤の整備促進を図る重要な施策として、各事業の推進を図ってまいります。

まず、道路整備事業であります。国庫補助事業では宇都浦線・新栄町焼野線の改良舗装工事を実施してまいります。

さらに、道路整備と一体化した効果促進事業で防災拠点施設整備として旧中平中

跡地を防災拠点施設としての整備を図り安全・安心な町づくりを図ってまいります。

また、橋梁長寿命化修繕計画を策定しており、策定結果を踏まえ老朽化した橋梁を整備してまいります。

さらに、交通量の増、老朽化等による幹線町道の舗装等維持補修工事を引き続き補助事業で実施してまいります。

都市公園につきましては、宇宙ヶ丘公園・健康公園・前之浜海浜公園等の維持管理に努めてまいります。

河川管理については、寄り洲除去等維持管理に引き続き努めてまいります。

生活環境整備については、公営住宅等長寿命化計画に基づき、今後事業化に向けて検討するとともに、今年度も引き続き公営住宅等の維持管理を推進し、入居者が安全・安心して住めるように修繕等を行います。

港湾・漁港につきましては、魚価及び漁獲量の低迷で漁業者は大変厳しい状況にありますが、航路の安全と維持管理に努めてまいります。

県営事業の島間港整備につきましては、これまで関係機関等連携を取り、整備予算確保に向け精力的に要望してまいったところではありますが、現在、静穏度向上を目指し、防波堤西を整備中ではありますが、年次ごとの整備予算の圧縮により進捗において長期化している現状であります。

今後につきましては、整備拡充を図る上から防波堤西の早期完成を要望しながら、高速船寄港実現化のために、さらに延長して340メートル防波堤新設、浮棧橋設置を含め、関係機関と連携を取り、鹿児島県に対しまして予算獲得、事業化に向けた取り組みを強固なものとして推進してまいります。

県営事業の河川・砂防事業につきましては、通常砂防事業として西之田代の小川地区、下立石第一小川地区、地すべり対策として河内地区の調査観測等、事業推進に努めてまいります。

また、県管理の大浦川、宮瀬川、郡川、鹿鳴川の維持管理につきましても引き続き要望してまいります。

水道事業についてであります。本町の住民生活に直結する水道供給施設の重要性から、町内全域の普及完備を重要施策として鋭意推進しているところであります。

簡易水道事業統合計画に基づき、中央地区と平山地区、西之地区の統合事業に取り組み、その他、簡易水道施設においては道路改良事業に伴う配水管移設工事や、施設の老朽化による補修等に努めてまいります。

本町で管理している水道事業については、水道施設の確保及び老朽化施設の更新等を行い、平成29年度を目標に南種子町上水道事業に向けた取り組みを図ってまいります。

次に、福祉関係であります。全国的に少子化が進んでいる中、本町においても人口が減少してきております。平成27年4月1日現在における本町の高齢化率は33.2%、年少人口率は12.2%となっており、今後も少子高齢化が急速に進んでいくものと思われま。今年度においても、町民の方々が安心して暮らせる町づくりを継続していくために、国県の福祉施策を基本としながら、本町の施策を積極的に推進してまいります。

高齢者福祉については、高齢者が住み慣れた地域や家庭で生き生きとした生活ができるよう、高齢者福祉計画に基づきながら高齢者に係る福祉事業を推進し、各種サービスを実施してまいります。また、高齢者の孤独死等を防止し、独居高齢者の安心した生活維持対策としての見守り支援事業を引き続き実施してまいります。

障害者福祉につきましては、関係法令の改正等に伴い、市町村の果たす役割が拡大されてきており、障害者が自立した日常生活や社会生活を営むことができるよう必要なサービスにかかる給付や支援を行い、障害者の福祉の増進を図ってまいります。

児童福祉については、子ども・子育て支援法の施行に伴い策定した子ども・子育て支援事業計画に基づきながら子育て支援事業の推進を図ってまいります。

また、出産祝い金支給事業を初め、放課後子ども健全育成事業、放課後児童クラブや児童手当、保育園通園補助、多子世帯保育料等軽減事業を実施することとしております。

なお、昨年度に引き続き、国の施策として好循環実現のための経済対策の一環で、子育て世帯臨時特例給付金及び臨時福祉給付金の支給事業が低所得者・子育て世帯への経済支援として実施されます。安心とゆとりを持った子育てができる環境づくりに努めてまいります。

母子・父子福祉については、関係団体の活動支援を初め、ひとり親家庭の医療費助成事業を実施し、自己負担の軽減を図ってまいります。

福祉施設としての河内温泉センターは、住民の心身の癒しの場及び健康増進を図る施設として温泉プールもあわせた利用促進に努めてまいります。

国民年金については、引き続き制度の周知と諸手続及び相談窓口サービスの充実に関係機関と連携した取り組みに努めてまいります。

保健福祉であります。町民の生涯を通しての健康づくりのため、保健所はもとより医療関係機関と連携しながら感染症及び生活習慣病の予防対策等に努め、各種健診の受診率向上及び保健指導の充実を図るとともに、疾病の早期発見と早期治療に努め、町民生活の質の向上と全体医療費の削減を図ってまいります。

また、子ども医療費助成事業については、支給対象年齢を高校生までに引き上げ

るための諸準備を進めてまいります。引き続き子育て世帯の医療費の負担軽減を図ってまいります。あわせて妊婦健診費用の負担軽減も図ってまいります。

環境衛生については、一般廃棄物の適正処理を図るためマテリアルリサイクル施設であるリサイクルセンターと公害等の防止に万全を期した運用に努めてまいります。

清掃センター焼却施設であります。老朽化が激しく正常運転に支障を来すおそれがあることから、施設の改修工事を行ってまいります。

ごみ分別については、燃やせるごみから生ごみの分別及び資源ごみの拠点収集など、町民の理解と協力をいただきながら町衛生自治会と連携して循環型社会形成に対する意識向上を図り、生活環境の保全に努めてまいります。

し尿処理については、中南衛生管理組合との連携により、引き続き適切な処理が図られるよう努めてまいります。

また、国県の補助事業を活用した合併浄化槽設置事業の推進を図り、公共水域の水質汚濁防止と住みよい生活環境の確保に努めてまいります。

全国的に高齢化が進む中、合併浄化槽の設置は進む一方であり、保守点検料等が問題となってきましたが、これについては調査、検討が必要かと思えます。

国民健康保険・介護保険・後期高齢者医療保険等でございますが、まず国民健康保険事業については、持続可能な医療保険制度を構築するための国民健康保険法等の一部を改正する法律が公布されたことにより、保険税等の一部を改正する法律が公布されたことで国民健康保険制度の都道府県への運営移管時期が平成30年度となりました。

本町におきましては、年齢構成や医療費水準が高く、低所得者が多いことなどから保険税の負担が重いなどの構造的問題に加え、高齢化の進行と医療の高度化などによる医療費の増加など、これ以上被保険者への税負担の増加は厳しい状況にあります。昨年度まで実施しておりました一般会計からの法定外繰り入れにつきましては引き続き検討していくことといたしました。

医療費につきましては、生活習慣病が高額な医療費となっていることから、内臓脂肪型肥満に着目した特定健診におきまして引き続き無料クーポン券の配布や、未受診者を対象とした受診勧奨などにより受診率の向上につなげてまいります。そのため国民健康保険データヘルス計画や国民健康保険事業計画に基づき、被保険者の健康の保持増進に関する重症化予防対策などの保健事業を行うこととしており、健康で生涯を安心して過ごせる町づくりに努めてまいります。

後期高齢者医療保険制度事業については、国の制度改正の動向に注視しながら事業主体であります鹿児島県後期高齢者医療広域連合との連携を図り、保険料の賦課

徴収に努め、適正な運営に努めてまいります。

介護保険制度は、その基本的目標である高齢者の自立支援、在宅介護の重視を図るため、今後の高齢化社会を見据えて介護予防に重点をおいた第6期の介護保険事業計画に基づき、要介護者を対象とした施設の整備や要介護状態への悪化を防止する事業の充実及び高齢者の自立支援を図ってまいります。

また、介護認定業務を町単独で実施しておりますので、研修等も定期的に行い介護保険事業が円滑かつ適正に行われるよう努めてまいります。

地域包括支援センターにおいては、引き続き高齢者の生活を総合的に支える拠点としての機能を充実させ、専門的な知識を有した職員を配置して、地域ケアマネージャーの支援等の事業を展開してまいります。

同時に、高齢者が住み慣れた地域で尊厳をもって生活できる仕組みとして地域包括ケアシステムの推進を図ってまいります。

保育園であります。保育指針に基づき入所する子供たちの最善の利益を考慮し、保護者支援や子供の発達過程に適した保育計画を立てるとともに、療育児への手厚い支援保育を積極的に行い、専門性を生かした保育運営を進めてまいります。

そのひとつとして、気になる子供へのかかわりとして、目が行き届き他児と変わらない保育園生活を送れるよう、3歳児から5歳児クラスには2人の保育士配置を行ってまいります。引き続き療育相談等を活用しながら関係機関と情報共有を図ってまいります。

本年度から「子ども・子育て支援新制度」がスタートしました。大幅な変更箇所はありませんが、保護者の就労時間により保育時間が保育短時間と保育標準時間に区分されました。これまでどおり0歳児から5歳児までの受け入れを行い、午前7時30分から午後6時までの繰り下げ繰り上げ保育や、高齢者・幼稚園・小学生との交流を実施し、地域と共存する保育園を目指してまいります。

また、子育て支援事業を活用し、乳幼児及びその保護者が相互の交流を行う場所を開設して、子育てについての相談、情報の提供、助言その他の援助を引き続き行ってまいります。

さらに、隣接町との広域事業でもある療育支援事業は一層の充実を図り、通園児の成長を見届ける活動となるよう努めてまいります。

幼児期から「食を営む力」の育成に向け、育てる楽しさ、収穫の喜び、食する感謝を身につけさせるための家庭菜園での野菜栽培や農業の収穫体験を行ってまいります。

今年度は、職員のスキルアップを目的とした研修会の実施、AEDの設置、保育備品の購入等に予算措置を行い、安心・安全な保育運営ができるよう努めてまいり

ます。

次に教育行政について申し上げます。教育文化の振興については、「あしたをひらく心豊かでたくましい人づくり」を基本目標として、生涯学習の観点に立ち、人間性豊かでたくましく生きる町民の育成を目指して、活力ある教育の振興を図ってまいります。

学校教育については、社会の目まぐるしい変化の中で「知・徳・体」の調和の取れた生きる力を備え、伝統と文化を尊重し、それらを育ててきた我が郷土と国を愛する態度を養い、日本人としての矜持を保ち、国家及び地域社会づくりに貢献できる人材の育成に努めてまいります。

そのために基礎的、基本的学習を重視し、一人一人の個性を生かす教育の充実に努めるとともに、道徳科の新設や小学校の英語科など国の教育の方向を注視しながら、特色ある学校づくりを目指して必要な条件整備を総合的に推進してまいります。

年々、特別支援教育の必要な児童生徒が増加の傾向にあります。特別支援教育の充実のために必要な学校に支援員を配置します。

さらに、英語教育推進の町としてALTや英語指導助手の配置を行い、多くの児童生徒を英語圏へ派遣できる体制を整備することにより、海外派遣事業の拡充を図り、英語教育の推進に努めてまいります。

20年を迎えた宇宙留学制度は町宇宙留学連絡協議会のもとに「日本一の山村留学の町」を確立し、複式解消や留学終了を機にした定住など地域活性化の一翼を担ってきているところでございます。

南種子町における地方創生事業の一つとして、宇宙留学を基軸とした移住・定住相談窓口を設置し、交流人口の拡大と定住対策を進めてまいります。

本町における小学校は児童の教育のための施設であるだけでなく、地域のコミュニケーションの核として、防災、地域交流などの拠点としての機能をあわせ持っているところでございます。

子供たち一人一人に目の届く、小規模校のメリットを最大限に生かし、日本一の宇宙留学制度の充実、分散型小中一貫教育の推進や小学校間の連携強化による集合学習を拡充するなど、デメリットを最小化する対策を講じ、「地域とともにある学校づくり」の視点に立った学校教育の振興を図ってまいります。

そのためにスクールバスの運行体制を見直し、福祉バス運行改善とあわせて通学体制を確立してまいります。

また、種子島中央高等学校通学費補助、幼稚園就園奨励補助、奨学資金貸与等の事務事業を継続してまいります。

学校施設の整備については、緊急を要するものから計画的に整備してまいります。

子供たちが「食」に関する正しい知識や望ましい食習慣を身につけることができるよう、学校では「食育」の取り組みを推進し、学校給食センターでは南種子産の米や地場野菜の活用など、農政関係部署と連携した地産地消に配慮した安心でおいしい学校給食の提供に努めてまいります。

学校給食施設については、現在の施設を衛生管理基準に対応した整備を進め、学校給食費については少子化対策の一環として保護者負担の軽減を図るため、段階的に無償化を進めてまいります。

生涯学習の推進については、町民の自主的・意欲的な姿勢を大事にしながら、「町民一人、1学習、1スポーツ、1ボランティア運動」を引き続き推進するため、生涯各期にわたり生きがいとぬくもりに満ちた活力ある町づくりの創造のために、町民がいつでも自由に学習できる機会を提供し、学習講座等の拡充と推進の拠点となる社会教育施設の整備を図ってまいります。

また、地域力の向上と発展を目指し、住民の意見を十分に取り入れた公民館制度の新たな取り組みや機能の充実を図り、行政と各地区公民館が一体となった地域コミュニティ拠点の強化に努めてまいります。

条例公民館制度の人員配置については検討を行います。

社会教育については、住民が主体となり、健やかで豊かな人間性の育成と地域ぐるみの安全・安心な環境づくりを推進するため、年3回のクリーン作戦や花づくり58人衆事業などによる地域環境整備の推進、地域課題を解決していくためのリーダーの育成、青年団組織の拡充、地区公民館組織や社会教育団体等との連携強化を図ってまいります。

青少年の健全育成については、「青少年育成の日」の活動の充実を、家庭・学校・地域が一体となって推進し、家庭の教育力と意識向上を図り、「かしこくたくましく ひとり立ちできる みなみたねっ子」を体現化できるよう努めます。

郷土に伝わる伝統と気風を生かしながら、心身ともにたくましく思いやりのある本町の未来を担う人材を育成するため、「宇宙へはばたけ凧あげ大会」や、「みどりの少年団事業」など青少年交流を行います。また、自然の家の利用促進を図るため、ふるさと学寮の実施や青少年リーダー研修のプログラムの充実などの主催事業の開催や、健全育成の環境整備を行ってまいります。

芸術文化の振興についてであります。本年度は鹿児島県で国民文化祭が開催されることになり、本町では「種子島歌い継がれた民謡と踊りの祭典」の開催などを行い、民謡や郷土芸能などの伝統文化の保存伝承に努めてまいります。

また、宇宙芸術と古代文化をテーマにした「黒潮が育んだ古代文化と宇宙芸術展」を開催するなど、文化芸術の振興に寄与します。

文化財の保護活用につきましては、赤米伝統文化交流協定を結んでおります長崎県対馬市、岡山県総社市とともに、赤米文化の日本遺産の認定を目指します。

この日本遺産は、文化庁が東京オリンピックまでに100件の認定を目指しているものでございます。現在、全国で18件の認定がされておりますが、認定への第一歩として、先日総社市で行われました「赤米サミット2015in新本」におきまして、総社市、対馬市とともに日本遺産を目指す「共同宣言」を行ったところでございます。

私たちが新たに目指しております「日本遺産」は、地域に点在する遺産を「面」として活用し、物語でつなげて発信することで地域活性化を図ることを目的としています。

本町でも、広田遺跡ミュージアム、宇宙科学技術館、ロケット発射場などの町内に点在するさまざまな施設や文化財、景勝地などの文化資源を相互に関連づける取り組みを行い、広く情報発信などを行うことで、観光振興や郷土教育などに生かしてまいります。

社会体育については、町民が生涯を通して誰でも、いつでも、どこでもスポーツを親しむよう個々の体力づくりや健康づくりのため「スポーツクラブ宙太くん」の活用、情報の提供など指導者の養成に努めるとともに、社会教育施設の維持管理や環境整備を図ってまいります。

また、スポーツ少年団の県大会等出場補助の拡充、体育協会加盟団体の活性化、町民大運動会や町駅伝競争大会等の実施など、町民の健康増進や体力・競技力向上に努めてまいります。

次に、税務のことについてであります。厳しい景気の中で税収確保を図る役割はますます重要なものになっています。

課税については、決算認定に対する議会の要望意見としての執行当局への申し入れ事項を踏まえ、税負担の公平性を確保するため、課税客体の適正把握を一層進めてまいります。

収納については、平成26年度は現年度分で全税目において対前年度と比較して収納率は向上したものの、収納率の確保については依然として厳しい状況であります。特に、滞納整理については、支払い能力のある滞納者には厳しい姿勢を示すことが必要で、積極的な滞納整理を推進し、収納体制の強化へ向けて取り組み体制の見直しを行い、税の収納率向上に努めてまいります。

特に、新規滞納の発生と滞納額の増加を防止するため、少額滞納者に対して早期の納付勧告、臨戸徴収、納税相談を行い、口座振替の推進などによる納付をさらに周知するなど納税環境の整備を進めてまいります。

また、納付に誠意の見られない滞納者については徹底的な実態調査を行い、差し

押さえなどの滞納処分を厳しく行ってまいります。

地籍調査事業は、土地の最も基礎的な情報であり、個人の土地取引や公共事業などの円滑な推進のために、今年度は長谷、上中、平山地区の一部の地籍調査事業を計画的に実施してまいります。

次に企画部門であります。第5次長期振興計画に基づき、南種子町の恵まれた自然環境のもと、住民・事業者・行政が協力、連携していくテーマとして「人と自然が輝き 夢がふくらむ ふれあい元気タウン（自立・自興 参加と連帯によるまちづくり）」を目標として、事業を推進してまいります。

本町における本格的な人口減少は、喫緊の課題であり、少子化対策の充実、定住人口の確保及び交流人口拡大等計画的かつ総合的な施策の展開を進めていく必要があります。国の長期ビジョン及び総合戦略を勘案し、地方版総合戦略計画の策定をいたします。

宇宙開発の促進については、平成26年度は陸域観測技術衛星「だいち2号」を搭載したH-II Aロケット24号機を皮切りに、静止気象衛星「ひまわり8号機」、小惑星探査機「はやぶさ2」及び2基の情報収集衛星が打ち上げられ、年間過去最多の5基打ち上げを達成することができました。

特に、26号機では国内外から注目されていた小惑星探査機が打ち上げられ、全国から多くの見学者が訪れるなど、メディアの影響もあり、種子島を全国に大きく発信していただきました。

今年度は、宇宙ステーション補給機「こうのとり5号機」を初め、カナダの通信放送衛星「テルスター12V」など3基の打ち上げが予定されており、フランスの技術者が多数来訪する予定になっておりますので、フランス語対策を初め、さらなる支援対策を図ってまいります。

地域公共交通の確保については、コミュニティバスの運行を継続するとともに、昼間運行の増便対策も必要であります。種子島空港バス路線維持のための補助の実施等町民の皆様の利便性を確保してまいります。

また、島間港への高速船就航実現に向けた取り組みを初め、種子島空港滑走路の整備拡充に向けた検討等事業者への要望活動を強化してまいります。

自然保護については、ふるさと南種子のかけがえのない自然環境を守り育て、次世代に引き継いでいくために、自然保護監視員による監視活動、ウミガメ保護監視活動を実施してまいります。

米軍基地等馬毛島移設問題については、1市3町で組織している対策協議会がどう進んでいるのか、住民の意見も聞きながら対応してまいります。

トンミー大使については、意見交換の場を設け、本町へのさまざまな御意見、御

提案をいただき、本町の活性化へつなげてまいります。

人材育成事業については、中・高校生の海外ホームステイ体験による人材育成を目指して「南種子町青少年人材育成海外派遣事業」を継続して実施してまいります。また、過去の参加者が現在どのような考え方で生活されて意見を持っているのか、調査も検討いたします。

統計調査事業については、国勢調査事業を初めとする各種調査を実施してまいります。

広報については、住民に親しまれる広報誌づくりを目指します。字を少し大きくします。

電算関係については、機器の安定的な運用により、業務の効率化・迅速化を図ってまいります。

友好都市との交流親善につきましては、訪問団の受け入れや訪問を行い、交流を深めます。

また、種子島スペースキャンプ、種子島ロケットコンテストへ支援を行い、宇宙の町・南種子町ならではの交流人口の増加を目指してまいります。

次に観光についてであります。国は「観光立国推進基本法」を平成19年に制定し、観光を21世紀における日本の重要な政策の柱として位置づけされました。

また、県においても、平成21年に「観光立県かごしま県民条例」を制定、「観光産業は宿泊業や旅行業のみならず基幹産業である農林水産業等の産業と密接な関係有する総合的な産業」と発表しました。

本町は、種子島宇宙センターや鉄砲伝来を初めとした種子島の中でも特に観光資源の豊富な町でありますので、平成27年度も南種子町の個性を生かした観光振興を図ってまいります。

本年度は、観光施設整備事業として地域振興推進事業の助成を受けて、ロケット発射場に一番近い見学場所として人気の高い「恵美之江展望公園整備事業」を実施します。

また、門倉岬の「ポルトガル人上陸之地遊歩道整備事業」により観光地のイメージアップを図ってまいります。

観光イベント事業については、たねがしまロケットマラソン大会は、参加者も年々増加する傾向にあり島内最大のイベントとして定着しておりますので、さらに内容充実を図ってまいります。

また、ロケット祭は来場された方々から大変好評をいただいておりますので、平成27年度も町民の皆様に満足していただける祭りを実施してまいります。

種子島宇宙芸術祭推進協議会では、JAXAや三菱重工業株式会社等の協力の下、

宇宙と芸術を融合した住民参加型の「種子島宇宙芸術祭」を平成29年に計画しております。本祭の開催に向けて本年度も各種イベントを計画しておりますので支援をしてまいります。

また、独身男女交流イベント実行委員会が実施する町内の未婚男性を対象とした婚活イベント「第2回星コン」の開催を支援してまいります。

商工業の振興については、購買力の流出防止や明るく元気な商店街づくりを推進するために、商工会やスタンプ会等の各団体への支援を強化してまいります。

本年度は、上中本通り会が国からの補助金を受けて実施する「商店街まちづくり事業」による中心市街地の歩道整備を支援することにより、安心・安全な商店街づくりを推進してまいります。

特産品につきましては、今年度、熊毛地域特産品発掘・発信委員会の実施する「特産品コンクール」や「特産品・観光フェア」に、町特産品協会と連携を図りながら参加するなど、本町特産品の開発とブランド化を図ってまいります。

教育旅行等で全国的に人気の高いグリーンツーリズムについては、平成25年3月に発足した町グリーンツーリズム協議会において今年度も受け入れが予定されておりますので、今後も受け入れ家庭の指導・支援を図ってまいります。

一般行政、選挙について申し述べます。行政諸般の施策についてであります、地方分権や住民ニーズに適切に対処するため、より一層の行政組織の合理化と事務改善を促進し、できるものは速やかに対処するという積極的な姿勢で公平公正な町政運営を推進してまいります。

また、引き続き各種の職員研修を充実強化し、職員の意識改革に努めてまいります。

「安全安心まちづくり」については、犯罪・事件等がなく町民が安全で安心して暮らせるまちづくりを図るため、関係機関・団体等と連携しながら安全対策の強化に努めてまいります。

消防交通関係であります、消防団員の訓練については、県消防学校での教育訓練を初め、各火災予防運動期間中の訓練や普通救命講習など団員の技術及び資質の向上に努めてまいります。

消防施設整備については、老朽化した水利の補修や角型水槽の配備など、消防力の向上に努めてまいります。

また、火災予防対策については、依然としてハカマ焼きなどの火災が多く発生している状況でありますから、引き続き消防組合や消防団とともに連携して広報活動を行い、町民の意識改革に努めてまいります。

常備消防については、消防機材の更新のほか、各種講習やセミナーに参加し、救

命力の向上に努めてまいります。

防災対策については、地域住民が連帯し、地域ぐるみの防災体制を確立することが重要でありますので、防災知識の普及・啓発など、自主防災組織の育成強化に努めてまいります。また、南海トラフ地震による津波などの災害を想定した住民参加型の防災訓練の実施を予定しております。

交通安全対策については、平成26年に死亡事故が発生し、ことしに入ってからも駐車場事故が増加していることから、それぞれ事故の特徴に応じた事故防止対策を講じてまいります。

また、依然として高齢者が当事者となる交通事故が多く発生していることから、高齢者元気度アップ・ポイント制度を高齢者交通安全教室で導入するなど、関係機関・団体等と連携して、年齢に応じた交通安全教育の推進に努めてまいります。

戸籍住民登録に関する業務は、あらゆる行政の基礎となりますので、関係法令等に基づき適正かつ迅速な事務処理に努め、親切丁寧な窓口サービスの提供を行ってまいります。

また、社会保障・税番号制度の運用開始に向けて新制度への移行措置を円滑に進めてまいります。

選挙関係については、本年4月に統一地方選挙を執行いたしましたので、12月には南種子町土地改良区総代選挙が執行される予定であり、選挙の公正な執行と明るい選挙を推進するための啓発活動に積極的に取り組んでまいります。

次に、行財政改革の推進については、第5次南種子町行財政改革大綱に掲げる「自立・自興・参加と連帯によるまちづくり」の構築に向け、積極的に改革に取り組み、町民ニーズを的確に捉えた行政サービスを継続的に提供しながら、規律ある財政運営を徹底し、行財政基盤の確立に努めてまいります。

また、社会保障・税番号制度の導入や、総務省から求められている公共施設等総合管理計画及び地方公会計の整備促進についても適切に対応してまいります。

財政運営及び予算執行でございますが、予算及び各議案について一括して説明申し上げますが、今期定例会に提案いたしました案件は報告案件1件、条例案2件、事件案件1件、予算案件5件の計9件でございます。

それでは、報告案件から順次要約して御説明申し上げます。

報告第1号は、平成26年度南種子町繰越明許費繰越計算書でございます。

これは国の補正予算に伴う宇宙のまち戦略事業（地域消費喚起・生活支援型）、宇宙のまち戦略事業（地方創生先行型）及び公共土木施設災害復旧工事でございます。繰越額の確定に伴う報告でございます。

次に、条例案件について説明申し上げます。

議案第31号は、町長等の給与等に関する条例の特例に関する条例制定についてでありまして、町長、副町長及び教育長の給料を10%削減するものでございます。

議案第32号は、南種子町手数料徴収条例の一部を改正する条例制定についてでございます。根拠法令の名称が改正されたことに伴い、条例改正するものでございます。

次に、事件案件について説明申し上げます。

議案第33号は、南種子辺地総合整備計画の変更についてございまして、人口及び整備計画の事業費等について変更するものでございます。

次に、予算案件について説明申し上げます。

議案第34号は、平成27年度南種子町一般会計補正予算（第2号）についてでございます。本年度は当初予算を骨格予算として緊急性のある事業関係を中心に820万円を追加し、総額45億6,960万円とするものでございます。

その主な内容について申し上げます。

まず、歳出は、普通建設事業費といたしましては、堂中野線道路改良事業、恵美之江線道路改良事業、清掃センター設備等補修工事、ポルトガル人上陸之地遊歩道等整備事業、小学校営繕工事、多目的グラウンド芝生化改設事業などを計上しております。

このほか公共施設総合管理計画策定及び固定資産台帳整備業務委託、給食費補助、公共土木施設災害復旧事業、各特別会計への繰出金などが主なものでございます。

歳入については、町税の賦課決定に伴う個人町民税及び軽自動車税の増額、各補助事業に伴う国県支出金などが主なものでございます。

また、財源不足を補うため、財政調整基金から繰り入れを行ったところでございます。

議案第35号から議案第38号までは各特別会計の補正予算でございます。

議案第35号は、平成27年度南種子町国民健康保険事業勘定特別会計補正予算（第2号）でございまして、海外療養費不正請求対策事業委託などが主なもので58万6,000円を追加し、総額10億318万6,000円とするものでございます。

議案第36号は、平成27年度南種子町簡易水道事業特別会計補正予算（第1号）でございまして、今後の所要見込みに伴うものと宇都浦線配水管移設工事が主なもので、1,892万2,000円を追加し、総額3億6,877万4,000円とするものであります。

議案第37号は、平成27年度南種子町介護保険特別会計補正予算（第2号）でございまして、前年度介護給付費国庫負担金精算返納金が主なもので、584万2,000円を追加し、総額6億261万7,000円とするものでございます。

議案第38号は、平成27年度南種子町後期高齢者医療保険特別会計補正予算（第

1号)でございます。人件費に伴うもので5万8,000円を追加し、総額8,171万9,000円とするものでございます。

各議案の詳細については、議案審議の折に担当課長から説明を申し上げますので、よろしく御審議方お願い申し上げます。

以上、施策の基本方針と各会計補正予算及び各議案について御説明申し上げますが、依然として厳しい財政環境を踏まえ、行財政改革を引き続き推進し、行財政基盤の強化に努めながら町民福祉の向上と町政振興を図り、希望の持てる活力ある町づくりに取り組んでまいりたい決意であります。各議員の皆様方を初め、町民の皆様方の御理解と御協力をお願い申し上げます。

○議長（小園實重君） これで平成27年度施政方針並びに提案理由の説明を終わります。ここで11時40分まで休憩します。

————— . ——— . —————
休憩 午前11時37分

再開 午前11時40分
————— . ——— . —————

○議長（小園實重君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

日程第6 報告第1号 平成26年度南種子町繰越明許費繰越計算書

○議長（小園實重君） 日程第6、報告第1号平成26年度南種子町繰越明許費繰越計算書について、当局の説明を求めます。総務課長、小脇秀則君。

○総務課長（小脇秀則君） 報告第1号平成26年度南種子町繰越明許費繰越決算書について御説明申し上げます。

平成26年度一般会計予算の繰越明許費の繰越額が確定をいたしましたので、御報告申し上げます。

繰越計算書をお願いいたします。

今回の繰越明許費は3件の事業についてであります。

まず、宇宙のまち戦略事業（地域消費喚起・生活支援型）及び宇宙のまち戦略事業（地方創生先行型）の2件の事業については、国の緊急経済対策として創設された地域住民生活等緊急支援交付金を活用して実施するもので、国の補正予算に伴い交付決定がोकくれたことなどから、事業実施ができなかったことによるものであります。

次に、公共土木施設災害復旧工事については、昨年12月に災害査定を受け、設計積算等を行った結果、工事完成までの標準工期の確保ができなかったことによるものであります。

3件の翌年度繰越額の総額は1億1,661万2,000円で、財源内訳といたしましては、未収入特定財源が1億731万4,000円、一般財源が929万8,000円となっており、未収入特定財源の内訳については、国県支出金が9,391万4,000円、地方債が1,340万円ということになります。

以上で報告を終わります。よろしくお願ひいたします。

○議長（小園實重君） これから質疑を行います。質疑は一括して行います。質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（小園實重君） 質疑を終わります。

これで報告第1号を終わります。

日程第7 議案第31号 町長等の給与等に関する条例の特例に関する条例制定について

○議長（小園實重君） 日程第7、議案第31号町長等の給与等に関する条例の特例に関する条例制定についてを議題とします。

当局の説明を求めます。総務課長、小脇秀則君。

○総務課長（小脇秀則君） 議案第31号について御説明申し上げます。

議案第31号は、町長等の給与等に関する条例の特例に関する条例制定についてでございます。

本条例は、町長、副町長及び教育長の給料を減額する特例について制定を行うものであります。

条例をごらんいただきたいと思ひます。

この条例は、第1条で趣旨、第2条で給料の減額、附則で施行日、有効期限について定めたところでございます。

第1条では、町長、副町長及び教育長の給与について減額する特例を定めるものであります。

第2条の給料の規定におきましては、平成27年7月1日から平成28年3月31日まで、町長、副町長及び教育長の給料月額を10%カットし、給料月額の90%を支給するというものであります。

ただし、期末手当、退職手当の算定に当たりましては、10%カットは適用しないというものでございます。

この条例の施行日は、平成27年7月1日、条例の施行有効期限は平成28年3月31日までとなっております。

以上で説明を終わります。よろしく御審議方お願ひいたします。

○議長（小園實重君） これから質疑を行います。質疑はありませんか。6番、広浜喜一郎君。

○6番（広浜喜一郎君） この条例の制定につきましては、町長の選挙公約、三役の給料を10%減に伴うものだと思いますけれども、この有効期限が平成28年3月31日までとなっておりますが、1年で終わるつもりなのかどうか、町長にお伺いいたします。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 4年間の任期でありますので、条例としては各年度ごとに提案するという考え方を基本にしております。

以上です。

○議長（小園實重君） ほかに質疑はありませんか。7番、上園和信君。

○7番（上園和信君） 選挙公約によって10%の減額をするということですが、この減額した分はどこに充当する考えですか。

○議長（小園實重君） 総務課長、小脇秀則君。

○総務課長（小脇秀則君） これは一般財源に振り替えるということになります。

○議長（小園實重君） ほかに質疑はありませんか。9番、日高澄夫君。

○9番（日高澄夫君） 基本的な考え方として、単年度、単年度で減額をするということではなくて、やっぱり厳しい財政状況でありますから、三役の報酬関係については未来永劫とはいいませんけれども、少なくとも4年間、8年間、10年間ぐらいの報酬審議会に提案をして、そしてこの三役の報酬はいかにあるべきかというふうなことの提案をやってやっぱり町民の意見を聞くということも必要じゃないかと思うんですが、今後の考え方としてどういうふうな考え方でしょうか。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） その趣旨は尊重したいと思いますが、前回、私の町長の時代、いわゆる報酬審議会にかけたことが議会で否決されたことがありまして、そういうことでありますから、私は公約として下げるということを公言したわけありますので、そこについては次年度の2月の段階できちんと整理をして、住民の意見は聞くようにしたいと思います。

でも、基本線としては、私としてはそういう方針でいくということは変わりはないと、このように思っております。

○議長（小園實重君） ほかに質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（小園實重君） 質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（小園實重君） 討論なしと認めます。

これから議案第31号を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（小園實重君） 異議なしと認めます。したがって、議案第31号町長等の給与等に関する条例の特例に関する条例制定については原案のとおり可決されました。

日程第8 議案第32号 南種子町手数料徴収条例の一部を改正する条例制定について

○議長（小園實重君） 日程第8、議案第32号南種子町手数料徴収条例の一部を改正する条例制定についてを議題とします。

当局の説明を求めます。総合農政課長、島崎憲一郎君。

○総合農政課長（島崎憲一郎君） 議案第32号について御説明いたします。

議案第32号は、南種子町手数料徴収条例の一部を改正する条例制定についてであります。

今回の改正内容は、南種子町手数料徴収条例第2条の手数料の種類及び金額を規定する条文中、同条第1項第27号の規定中、引用している根拠法令の題名が改正されたことに伴い、条例引用部分の法令題名の改正を行うものであります。

改正内容の詳細については、新旧対照表をごらんをいただきたいと思います。下線を付してある部分が改正する部分であります。

第2条（種類及び金額）の規定中、同条第1項第27号中の規定の根拠となる法令の題名が「鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律」から「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」に改正されましたので、「鳥獣の保護及び」の次に「管理並びに」を加える改正であります。

関係法令が平成26年5月30日公布、平成27年5月29日に施行されたことによる条例の改正であります。

この条例の施行日は公布の日から施行することとして附則に規定しております。

以上で説明を終わります。よろしく御審議方お願いいたします。

○議長（小園實重君） これから質疑を行います。質疑はありますか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（小園實重君） 質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありますか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（小園實重君） 討論なしと認めます。

これから議案第32号を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

- 議長（小園實重君） 異議なしと認めます。したがって、議案第32号南種子町手数料徴収条例の一部を改正する条例制定については、原案のとおり可決されました。

日程第9 議案第33号 南種子辺地総合整備計画の変更について

- 議長（小園實重君） 日程第9、議案第33号南種子辺地総合整備計画の変更についてを議題とします。

当局の説明を求めます。企画課長、小脇隆則君。

- 企画課長（小脇隆則君） 議案第33号について御説明を申し上げます。

議案第33号は、南種子辺地総合整備計画の一部を変更するものでございまして、辺地に係る公共的施設の総合整備のための財政上の特別措置等に関する法律第3条第8項の規定により議会の議決を求めるものであります。

なお、議会提案前に県知事との事前協議が法第3条第4項で義務づけられておりますので、この計画については既に県の承認を受けている内容でございます。

資料の1ページをお開き願います。

総合整備計画書でございますが、人口について最新の数字に変更してございます。それから2ページをお開きください。

3、公共的施設の整備計画でございます。これは平成26年度から30年度までの5カ年計画について、括弧書きが変更後の数値となります。これまでの実績と今後の事業見込みにより変更するものでございます。

変更後の合計数値が事業費で10億7,647万7,000円、うち特定財源を7億309万円、一般財源を3億7,338万7,000円、一般財源のうち辺地対策事業債の予定額を3億6,410万円としたところでございます。

3ページからは参考資料でございます。

参考資料の年次計画表についてはお目通しいただきたいと思いますが、3ページから4ページの平成26年度につきましては実績の数値でございます。

平成27年度から30年度につきましては、長期振興計画の全体的な事業調整の結果、今後の事業見込みによる今回の変更となっております。

以上で説明を終わります。よろしく御審議方お願いを申し上げます。

- 議長（小園實重君） これから質疑を行います。質疑はありますか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

- 議長（小園實重君） 質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（小園實重君） 討論なしと認めます。

これから議案第33号を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（小園實重君） 異議なしと認めます。したがって、議案第33号南種子辺地総合整備計画の変更については原案のとおり可決されました。

ここで暫時休憩します。再開をおおむね午後1時10分とします。

休憩 午前11時55分

再開 午後1時07分

○議長（小園實重君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

日程第10 議案第34号 平成27年度南種子町一般会計補正予算（第2号）

○議長（小園實重君） 日程第10、議案第34号平成27年度南種子町一般会計補正予算（第2号）を議題とします。

当局の説明を求めます。総務課長、小脇秀則君。

○総務課長（小脇秀則君） 議案第34号平成27年度南種子町一般会計補正予算（第2号）について御説明申し上げます。

それでは、予算書に基づいて説明をいたします。表紙をお開きください。

今回の補正は、予算の総額に歳入歳出それぞれ820万円を追加し、予算の総額を歳入歳出それぞれ45億6,960万円とするものであります。

第1表の歳入歳出予算補正については省略をさせていただきます。

次に、4枚目をお開きください。

第2表の債務負担行為補正については、追加1件であります。

南種子町が契約する公共施設等総合管理計画策定及び固定資産台帳整備業務委託料については、期間を平成28年度とし、限度額を959万1,000円とするものであります。

次のページ、第3表の地方債補正については、追加1件と変更2件であります。

まず、追加1件の災害復旧事業については、公共土木施設災害復旧事業債を追加し、限度額を100万円とするものであります。

次に、変更の過疎対策事業については、農山漁村活性化支援交付金事業（高田浦

地区)ほか5件の事業費変更に伴い、限度額を1億9,620万円に変更するものであります。

次に、辺地対策事業については、道路建設補助事業ほか7件の事業費変更に伴い、限度額を9,720万円に変更するものであります。

起債の方法、利率、償還の方法については、補正前に同じでありますのでお目通しをお願いいたします。

次に、歳入歳出補正予算事項別明細書により説明をいたします。

まず、歳出予算から主なものについて説明をいたします。

今回の補正内容としましては、公共施設等総合管理計画策定及び固定資産台帳整備業務委託、清掃センター設備等補修工事、上中本通り会事業補助、ポルトガル人上陸之地遊歩道等整備事業、堂中野線道路改良事業、恵美之江線道路改良事業、小学校営繕工事、多目的グラウンド芝生化改設事業、各特別会計への繰出金が主なものであります。

また、人件費については、退職手当組合負担金及び職員共済費の負担率改定に伴うものが主なものでありますので、以下の説明については省略をさせていただきます。

それでは、6ページをお開きください。

まず、6ページ、広報費については町勢要覧写真編の更新に伴うもので、印刷製本費285万8,000円を増額するものであります。

次に同ページ、財産管理費については、公共施設等総合管理計画策定及び固定資産台帳整備業務委託が主なもので、877万8,000円を増額するものであります。

次に、同ページから7ページ、企画費については、長崎県五島市で開催される全国離島交流中学生野球大会への参加に伴う実行委員会負担金150万円と、野尻自治公民館がコミュニティー助成事業を活用して放送設備を整備するためのコミュニティー助成事業補助金160万円が主なもので、246万9,000円を増額するものであります。

次に9ページから10ページ、老人福祉費については、施設入所者の退所に伴う老人ホーム入所措置費の減額が主なもので、225万1,000円を減額するものであります。

次に、10ページ、温泉センター管理費については、浴室排煙窓オペレーター取りかえ工事及び浴室入り口引き戸取りかえ工事が主なもので、461万5,000円を増額するものであります。

次に、同ページから11ページ、臨時福祉給付金事業費については、臨時福祉給付金給付事務費等補助金に係る前年度精算返還金が主なもので、438万5,000円を増額するものであります。

次に、12ページから13ページ、じんかい処理費については、設備等の老朽化に伴う清掃センター設備等補修工事が主なもので、9,816万7,000円を増額するものであります。

次に、14ページ、農地費については、雨田、木原地区の新規地区追加に伴う多面的機能支払交付金が主なもので、279万8,000円を増額するものであります。

次に、同ページ、農道等整備補助事業費については、長谷地区、高田浦地区の事業費変更に伴うもので、2,911万7,000円を減額するものであります。

次に、同ページから15ページ、農業支援対策費については、青年就農給付金の減額が主なもので599万8,000円を減額するものであります。

次に、16ページ、商工振興費については、上中本通り会が商店街まちづくり事業を活用して防護柵等歩道整備をするための上中本通り会事業補助に伴うもので、696万円を増額するものであります。

次に、同ページ、観光費については、県の地域振興事業を活用して整備するやさしい観光地道しるべ事業委託及びポルトガル人上陸之地遊歩道等整備事業が主なもので1,478万8,000円を増額するものであります。

次に、17ページ、防災拠点施設整備事業費については、社会資本整備総合交付金の事業費変更に伴うもので3,930万7,000円を減額するものであります。

次に、同ページ、堂中野線道路改良事業費については、測量設計、用地調査業務委託が主なもので、1,051万3,000円を追加するものであります。

次に、同ページ、道路建設単独事業費については、古川一里塚線の道路維持補修工事に伴うもので、341万8,000円を増額するものであります。

次に、同ページ、恵美之江線道路改良事業費については、測量設計、用地調査業務委託が主なもので、1,051万3,000円を追加するものであります。

次に、同ページから18ページ、新栄町焼野線道路改良事業費、宇都浦線道路改良事業費、道路建設補助事業費、橋梁長寿命化修繕事業費については、社会資本整備総合交付金及び防災安全社会資本整備交付金の事業費変更に伴うもので、それぞれ減額するものであります。

次に、19ページから20ページ、事務局費については奨学資金の貸し付け決定に伴う貸付金の減額が主なもので、608万3,000円を減額するものであります。

次に、20ページ、小学校費の学校営繕費については、各小学校の営繕工事に伴うもので1,000万円を増額するものであります。

次に、同ページ、中学校費の学校営繕費については、中学校の営繕工事に伴うもので500万円を増額するものであります。

次に、21ページ、社会教育振興費については、少年の翼事業補助金が主なもので

355万1,000円を増額するものであります。

次に、同ページ、芸術文化費については、国民文化祭町実行委員会負担金が主なもので277万3,000円を増額するものであります。

次に、22ページ、体育施設費については、スポーツ振興くじ助成金を活用して整備する多目的グラウンド芝生化改設事業が主なもので、4,043万2,000円を増額するものであります。

次に、同ページ、学校給食費については、保護者の負担軽減を図るための給食費補助が主なもので604万3,000円を増額するものであります。

次に、同ページから23ページ、公共土木施設災害復旧費の現年発生補助災害復旧費については、準用河川雨田川の護岸決壊に伴う災害復旧工事に伴うもので524万9,000円を追加するものであります。

次に、23ページ、繰出金については各特別会計への繰出金でありまして、簡易水道事業における今後の所要見込みに伴う法定外繰り出しなどによるもので、簡易水道特別会計で1,818万7,000円の増額が主なものであります。

以上が歳出であります。

次に、歳入を御説明いたします。1ページをお開きください。

まず、町税については、賦課決定に伴うもので、個人町民税で646万2,000円の増額、軽自動車税で190万1,000円の減額であります。

次に、同ページ、分担金及び負担金については、宇都浦線道路改良事業分担金596万7,000円の減額が主なものであります。

次に、同ページから2ページ、国庫支出金については、公共土木施設災害復旧費負担金道路河川400万円の追加と、社会資本整備総合交付金1億1,495万8,000円、防災安全社会資本整備交付金3,283万円の減額が主なものであります。

次に、2ページから3ページ、県支出金については、地域振興事業補助金794万3,000円の追加と、農山漁村活性化プロジェクト支援交付金1,949万3,000円、新規就農総合支援事業補助金600万円の減額が主なものであります。

次に、3ページ、繰入金については、今回補正の不足額を補うため財政調整基金から9,750万円を繰り入れるものであります。

次に、同ページから4ページ、諸収入については、スポーツ振興くじ助成金2,309万1,000円の追加が主なものであります。

最後に、4ページから5ページ、町債については、健康公園芝生化改設事業1,640万円、廃棄物処理施設整備事業9,710万円の追加と、新栄町焼野線道路改良事業3,770万円、防災拠点施設整備事業1,500万円の減額が主なものであります。

以上、説明を終わりますが、説明不足あるいは詳細については、この後の審議に

においてそれぞれ担当課長より説明を申し上げますので、よろしく御審議方お願いいたします。

○議長（小園實重君） これから質疑を行います。質疑は款別に行います。

まず、歳出から。

款の1、議会費、6ページ。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小園實重君） 款の2、総務費、6ページから9ページ、質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小園實重君） 款の3、民生費、9ページから12ページ、質疑はありませんか。

5番、塩釜俊朗君。

○5番（塩釜俊朗君） 民生費の臨時福祉給付金についてお伺いいたします。

先ほど総務課長のほうで実績による増額ですというような説明でありましたけれども、支給者の対象者数に対しまして実績の受給者数、これが何名かどうか、これをお聞きしたいと思います。

○議長（小園實重君） 保健福祉課長、高田真盛君。

○保健福祉課長（高田真盛君） 支給者数については実績で1,614名です。

○議長（小園實重君） 5番、塩釜俊朗君。

○5番（塩釜俊朗君） 1,614名ということでありますけれども、これについて支給対象者数というのが、前もって把握をしていた中で、この1,614名というふうな人数が出たかどうか、そのところをお聞きしたいと思います。

○議長（小園實重君） 保健福祉課長、高田真盛君。

○保健福祉課長（高田真盛君） 当初予算を編成するときに、そのときの住民票に基づきまして、課税対象者を含めて概略で人数を把握して当初予算を編成をします。実際は、年度が変わりまして所得とか、その他が変更になりますので、その年度の6月時点での所得とかが対象になります。その後、申請をする人、しない人出てきますので、それとか転入転出の関係も出てきますので、そこを概略で当初予算を組んでおります。

精算方式ですので、支給した額、支給した人数で翌年度精算ということになりますので、今回平成27年度で、精算返納という形で出ているところです。

○議長（小園實重君） 5番、塩釜俊朗君。

○5番（塩釜俊朗君） 平成27年度で見ますというと1,143万円予算計上しております。その中で、これについても先ほど課長のほうから答弁されましたように、ある程度概略的な人数、それを上げての予算化とそういうようなことで理解をするわけですが、これをあえて1,143万円に対する支給額が決定しているでしょうから、

それを計算をすれば大体何千名の支給者対象だと、こういうようなことは理解するわけであります。そういう中で、本年度の大体何千名かいうふうな概数、人数、それがわかりましたら教えていただきたいと思います。

○議長（小園實重君） 保健福祉課長、高田真盛君。

○保健福祉課長（高田真盛君） 先ほど大変失礼しました。一つ答弁漏れがありました。

当初の予定ですけれども、本年度が1,905名を予定しております。当初予算で編成するときにはほぼこの計数でいきますので、平成26年度についてもほぼこの同数で予算を計上しているところです。今年度についても1,905名で、ただ、支給額のほうは今年度6,000円になっていますので、全体の事業費は昨年からすると少なくなっているところです。

○議長（小園實重君） ほかに質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（小園實重君） 款の4、衛生費、12ページから13ページ、質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（小園實重君） 款の6、農林水産業費、13ページから15ページ、質疑はありませんか。8番、立石靖夫君。

○8番（立石靖夫君） 農道等の整備補助事業で、高田浦地区と長谷地区が事業費の減額になっておりますが、この減額の理由としては国の補助事業の交付金の確定によるものかどうか、答弁を求めます。

○議長（小園實重君） 総合農政課長、島崎憲一郎君。

○総合農政課長（島崎憲一郎君） ただいまの御質問ですが、議員御指摘のとおり国の補助枠の確定に伴うものでありまして、離島枠については本土枠よりも配分が多うございますけれども、大体50%から70%どまりということで、全体では3割以上が削減されているというふうな状況でこのような配分になっております。

○議長（小園實重君） ほかに質疑はありませんか。6番、広浜喜一郎君。

○6番（広浜喜一郎君） 次の農業支援対策事業費の青年就農給付金が600万円減額になっておりますけれども、対象者がいなかったということか、それとも人数が減ったということか、をお伺いいたします。

○議長（小園實重君） 総合農政課長、島崎憲一郎君。

○総合農政課長（島崎憲一郎君） この事業につきましては年度当初予算で1,200万円の予算計上をしておりましたが、半額の600万円の減額を予定しております。

この事業につきましては、現在の支給状況につきましては7名分を支給しております。最高額で150万円という額を支給をし、この予算額を確保しているところですが、今回600万円の減額をする分につきましては、国の補助事業の関係で、

3月補正で平成27年度分を前倒し計上をした部分がございます。その部分の額が増額になっておりましたので、新年度予算ではその前倒し分を減額をするということです。相対的な予算額としてはこの1,200万円が確保されているということでございますので御理解をお願いいたします。

○議長（小園實重君） 6番、広浜喜一郎君。

○6番（広浜喜一郎君） 農林水産業費の漁港管理費の中の重機借り上げ料というのがありますけれども、この場所を、地区を教えてくださいと思います。

○議長（小園實重君） 総合農政課長、島崎憲一郎君。

○総合農政課長（島崎憲一郎君） この件につきましては、未指定漁港であります、野尻漁港の船だまりのしゅんせつを行う重機借り上げ料を計上したくお願いをしているところでございます。

○議長（小園實重君） ほかに質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（小園實重君） 款の7、商工費、16ページ、質疑はありませんか。8番、立石靖夫君。

○8番（立石靖夫君） 商工振興費の上中本通り会の事業補助、全体の事業費が幾らで、どのような事業をするのかどうか、説明を求めます。

○議長（小園實重君） 観光課長、坂口浩一君。

○観光課長（坂口浩一君） この事業は商店街のまちづくり事業でございます、総事業費が1,804万2,552円というふうになっております。

この事業の内容ですが、居酒屋次男坊があるところからJAの南種子支所までの約400メートルの区間の緑地帯の撤去をいたしまして、歩道を広くします。それから防護柵を設置いたします。その防護柵の中にはベンチ付きの防護柵も設置するように計画しております。

それと防犯カメラを5基設置しまして、安心・安全なまちづくりを、商店街づくりをするというふうな目的で実施するものでございます。

○議長（小園實重君） 8番、立石靖夫君。

○8番（立石靖夫君） 観光費の工事請負費のポルトガル人の上陸之地遊歩道整備の件なんです、これは碑の建っているところまで遊歩道をつくるということでやると思いますが、向こうは町の土地になっているのかどうか、答弁を求めます。

○議長（小園實重君） 観光課長、坂口浩一君。

○観光課長（坂口浩一君） 今、議員御指摘のあの場所については、崎原と本村の共有地でございます。あの場所を工事するに当たりますと、昨年度から共有の代表の方に御相談もいたしまして、工事をさせていただくことの旨の前段の御了解はいた

だいているところでございます。

○議長（小園實重君） 8番、立石靖夫君。

○8番（立石靖夫君） ということは、無償提供ということになるわけでしょうか、そういう確約書を取るのかどうか、観光課長、答弁をお願いします。

○議長（小園實重君） 観光課長、坂口浩一君。

○観光課長（坂口浩一君） 共有地の中を遊歩道が通るわけでございますので、今、議員がおっしゃいますとおりに、共有の代表の方との確約書といいますか、締結はしたいというふうに考えております。

○議長（小園實重君） ほかに質疑はありませんか。6番、広浜喜一郎君。

○6番（広浜喜一郎君） 同じく観光費の中の負担金補助金で、観光バスの運営補助というのがありますけれども、これはどこに補助をするのかどうか。

○議長（小園實重君） 観光課長、坂口浩一君。

○観光課長（坂口浩一君） この観光バスの運営補助は昨年度から実施しているところでございまして、これは種子島観光協会が運営する夏の時期に限って実施するものでございます。昨年とことしと観光協会に補助をいたします。

○議長（小園實重君） ほかに質疑はありませんか。7番、上園和信君。

○7番（上園和信君） 上中本通り会への696万円の補助ですが、これは聞くところによると、400メートルに植えてあるヤマモモも撤去して、緑地帯も全て撤去をして作りかえるんだと、そういうことをお尋ねいたしますけど。そういう設計書というのもできているんですか。

さっき同僚議員が総事業費は幾らかということでお尋ねをしましたが、総事業もわかったら教えてください。

○議長（小園實重君） 観光課長、坂口浩一君。

○観光課長（坂口浩一君） この上中本通り会への補助の696万円でございますけれども、今議員がおっしゃいましたとおりに緑地帯にあるツツジとヤマモモを撤去して、今あそこの歩道は狭うございますので、緑地帯を撤去することによって往来も行き来が、利便性が向上するというので、上中本通り会のほうは考えているようでございます。

そして、緑地帯がなくなるかわりに防護柵をして車道への行き来をそこでガードするというか、安全・安心な通りをつくるということでございます。

総事業費は先ほども申したつもりでございましたけれども、もう一度、1,804万2,552円でございます。

○議長（小園實重君） ほかに質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（小園實重君） 款の8、土木費、16ページから19ページ。質疑はありませんか。5番、塩釜俊朗君。

○5番（塩釜俊朗君） 土木費の防災拠点施設整備事業についてお聞きをいたしますけれども、3,742万円減額をしております。この理由として、先ほど総務課長のほうで国の内示額の減というふうなことで答弁をなされましたが、これは今の時点での国の内示額というのは、実施における内示額というふうなことで理解をしてよろしいかどうか。建設課長にお聞きしたいと思います。

○議長（小園實重君） 建設課長、古市義朗君。

○建設課長（古市義朗君） お答えをいたします。平成27年度の内示があったわけですが、現時点ではそのように理解をしておるところでございます。

でも、今後国の補正におかれましては未確定ですので、その折には対応をと考えておるところでございます。

○議長（小園實重君） 5番、塩釜俊朗君。

○5番（塩釜俊朗君） 町長にお聞きをいたしますけれども、近年、全国的にも地震、津波災害、それから噴火と異常な気象が続いて起き、また災害も起きているわけですが、この防災対策については私は非常に必要だということに思うわけであり、先ほど建設課長も答弁をなされたわけですが、国がこのような状況の中で追加補正、そういうことがなされた場合、町としての対応、そういうようなことを受けられる可能性があるかどうか。町長はどのように考えているのかどうかをお聞きしたいと思います。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） それについては、当然内示の増によっては対応していく必要があるとこのように思いますが、もう既に計画ができて設計もできています。ですから、それはきちんと計画どおりにはやりたいというわけでございます。

予算の関係上から言うと、例えば私が就任しても予算を計上できないという状況に今ございますので、その辺で基金を崩すということの問題点を含んで、崩すことについての、そのほかいろいろこれから全協でお願いする問題等もありますが、それを含んでの関係もあって予算が来れば、それは当然計画どおりやらんといかんのかなということ判断をしております。

○議長（小園實重君） 5番、塩釜俊朗君。

○5番（塩釜俊朗君） 町長、この事業との関連でありますけれども、昨年上中商店街近くに乳幼児児童親子や一般町民が憩える遊園地公園の創設の実現と、こういうふうな陳情書が参ってございました。このことについては採択をしたわけでございます

けれども。

そんな中で防災拠点事業、この中で皆さんの要望、やっぱり陳情した要望を織り込んでいくという形でいいかどうかと、そういうような形での議員の質問があったわけでありまして。その中で陳情者におきましては、それでもよいと、そういうふうなこと等含めていろんな議論がなされたわけでございます。

そういうような中で、この事業は公園的な機能も備えた事業というふうなところで事業認可を得ているようでございます。この事業は遊具施設はできないと、そういうようなことでございますので。

しかしながら、この事業が終わった後にそういうふうな陳情を含めた中で、そんなスペースができることを検討していただいて、お願いをしたいと思っておりますけれども。

まだ、町長については、この件についてはまだ実質どうだったかというのも理解はできてないと思っておりますけれども、そういうふうな陳情のことも含めて、今後防災公園としての整備をやっていけたらどうかと私はこのように思いますが、この件について町長、一言お願いしたいと思っております。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） それは前町長の時代にそれぞれ議員と議会と町長との関係で、それは協議してなっていることでもありますので、それを私がこれはだめだとかいうことにはならないと思っておりますので。

そこは利用の方法としてどうするかということについては今後担当課の意見とか陳情の内容も踏まえた上で対応していきたいと思っております。

一番最初の点で言ったとおりにそこを完全にしないというそういうことじゃないということだけ。

一つ問題点は、人口がだんだん、今、5,900人です。あと10年でもう4,000人は切りますから、そういったとき、公園管理とか、その辺が今後どうなっていくかというのはもう大きな問題としてなっていくということだけは、もう事実でございます。これは議員の皆さんの考え方も、人口減に対するこれから行政のあり方というものどうあるべきかというのは、もう既にお考えのとおりだと思いますので、そこ辺については担当課長の意見も踏まえながら、また陳情の内容も精査しながら対応していきたいとこのように思います。

○議長（小園實重君） ほかに質疑はありませんか。9番、日高澄夫君。

○9番（日高澄夫君） 小さな要求なんですけれども、ともクリニックの広場の排水とJAの整備工場の排水との関係で、御開2号線ですか、向こう側は。あそこのともクリニックからの流末と、JAの自動車整備工場からの流末という形で側溝整備が

緊急に要請されているというのが、あの近辺の住民からの要望もあったわけなんですけれども。

この町単独の道路整備事業の中には一里塚線の整備が含まれておったわけですけども。向こうの環境整備も含めて豪雨時のともクリニックの御立線を飛び越えての流末処理が不十分だと、そういうこともあったりして、あそこの側溝整備というのをしっかりと緊急にやる必要があると思うんですが、そこ辺で建設課長、町長との話し合いというのはなされてなかったんでしょうか。

○議長（小園實重君） 建設課長、古市義朗君。

○建設課長（古市義朗君） お答えをいたします。町道等いろいろ管理を預かっている建設課、事業課といたしましては、まず道路維持の古川一里塚線につきましては、大きな橋梁がある幅員なんですけれども、あそこはもう何十年来、県の治山工事のり面保護の関係で、町道の排水が施工できなかった部分でありまして、今回6月をお願いをしているところであります。

今、議員の御指摘の箇所につきましても、ほかにもいろいろ町道全般の要求箇所等ございますけれども、今般の予算補正につきましては、財政及び当局との調整の中で今般はついておりませんが、今後優先的といいますか、そこら辺について危険箇所の優先順位を再度精査をしながら、財政とも協議をしながら、予算を要求をしまいたいと思っております。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 今、担当課長が説明しましたが、災害関係とかその緊急事態については、いかなる場合でも早急に対応せんといかんという考え方を持っておりますので、後ほど担当課からまた説明を受けたいとこのように思います。

ちょっと質問にない、ついでで申しわけないんですが、実は島間の島間川の氾濫の関係です。最近、熊毛所長が来てあれを真っ直ぐするようなことの説明もありましたので、あっちも改善されると思っておりますから。

そういうことを含んで災害に対する国民の関心、住民の関心含んで非常にそこは当たり前の話でございますが、その辺は何よりもやっぱり優先してそういったことをきちんとやるような体制というのは、事業というのはやっていくべきだと、このように考えておりますことを御理解いただきたいと思えます。

○議長（小園實重君） 9番、日高澄夫君。

○9番（日高澄夫君） 御開地区が昭和45、6年に構造改善事業をやって住宅地になってきているんですけども、その後活用が余りかんばしくないような格好で、遊休農地が利用されていないというふうな感じで、肝心の側溝整備が不十分だと。また、カラーコーンを置いた状態ということもありますから、ここは一応上中地域の中で

も、多分国道からの隣の道路ですので、2号線だろうと思うんですけども、あの道路はしっかりと側溝整備をやっていただいて、3号線、4号線、吉永整備工場のあの付近の道路よりも交通量も多いでしょうから。

それと、雨水対策でも向こうのほうが量が多いと思いますので、できるだけ早く整備をやっていただくようお願いしたいんですけども、まず側溝だけですから、200メートルぐらいかな、建設課長。ぜひ、そこ辺のところをよろしく願いしておきたいと思います。

○議長（小園實重君） 答弁が要りますか。

ほかに質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（小園實重君） 款の9、消防費、質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（小園實重君） 款の10、教育費、19ページから22ページ。質疑はありませんか。8番、立石靖夫君。

○8番（立石靖夫君） 22ページ。まず最初に体育施設の多目的グラウンド芝生の改修事業。恐らくこれは今使用しているサッカー場のことかなとこのように思っているんですが。

町長にお伺いしますが、4年間ブランクがあったわけなんですけど、この社会体育施設の芝の部分、この多目的の芝生、それから野球場、それから陸上競技場、ゲートボール場、この管理について適正にされているかどうか、町長の答弁をお願いします。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 非常に問題点が多いと。私としては今担当課に話していることとしては、今後使用する団体がやっぱり自主的にやってもらうようなことをしないと、役場の職員が向こうに行って草払いしたりとか、そういうのは今後はっきり言ってできないと。つまり124名しか職員いませんので、そうすることを考えると役場のスリム化を考えないといけないというのが第一ですから、だから機材とか、その危険でない機材は当然保管して、それを日程調整なりの方法でやってもらうということ。

今の問題については、前任町長の時代でもう査定が済んでおるわけでありまして、それは創生事業の関係含まれておりまして、ここについては、内容等についてはなんかサッカー場についてはいろいろあるみたいでして、つまり照明がないような中で位置が違ふとかあるようですから、そこら辺含んで私としては十分競技団体とか、それとも協議する中で対応していきたいとそのように考えています。

○議長（小園實重君） 8番、立石靖夫君。

○8番（立石靖夫君） 私も名越町長と同感なんです。私はこういう社会体育の施設については、それぞれ連盟のほうに一応任せた形で整備をするということが私の考えなんです。何かその辺のところ、社会教育課のほうでは何か嫌っているのかどうか、それをしようとしな。それで、私どもがいろいろ改善を要求すると、あのクラブだけ文句を言うとか、いろいろ言っているらしいです。社会教育課長、答弁をお願いします。

○議長（小園實重君） 社会教育課長、高田健一郎君。

○教育委員会社会教育課長（高田健一郎君） お答えをいたします。

ただいま議員が御指摘の件に関しましては、私どももそれぞれの連盟のほうと相談をしながら、少しでも協力いただけるところにつきましては協力いただきたいということで、お願いをしているところであります。

また、改善等の要望につきましては、今回体協の中でもいろいろ話が出まして、体協としても役員を含む中で一緒になって考えながら町のほうにも要望していきたいということの話等も出ておりますので、そういった部分も含めて今後は十分に検討を重ねながら、前に進めるようにしていきたいというふうに考えているところで

○議長（小園實重君） 8番、立石靖夫君。

○8番（立石靖夫君） 今まで、社会教育課長、もう口がすっぱく言うように私は言ってきていると思うんです。だから、言うと、余り何々連盟は文句だけ言うということで一向にそれを実行しないんです。その連盟に任せれば結構それで済むんですけど、自分たちははしなくて、いろいろ文句だけ言っているというような言い方をしていますから。

特に町長、芝生の場合は何回となく年間に刈っていただいておりますが、刈り取る高さが高いんです。だから、下のほうには雨が降った場合はのりが生えて、それで当分は使えないような状態であると。だから、何百万するかどうか知りませんが、やはりもうちょっと低く刈り取るような機械を選定をして、いつでもどこでも使えるような体育施設にしてもらわんことには、やはりこれが医療費の問題にもかかわっていきますので、やっぱり運動というのは大切なことだろうと私はこう思います。

それから、教育費の最後の給食費の補助、これが今までは小学校の場合は1食20円、中学校の場合は40円補助をしていると思います。今回、474万2,000円、当初予算で294万4,000円計上しております。この理由について、内容について、この二つだけ町長の答弁と教育長の答弁を求めます。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） まず、芝刈り問題は、行革委員会を今度、機構改革の提案をする段階できちんとしますので、そういった段階で位置づけをして、どうしてもこの連盟ができない場合には、そういった雇用の方法とかでやりますが、それには今議員のおっしゃるような設備整備をしないことにはやってくれというのは言えませんから、これはきちんとする中でそうしていきたいと。

それから、給食のこれについては子育ての世帯というのはだんだん少なくなってきて負担も大変だということがわかっておりますし、これは私がマニフェストに書いたそれとして、担当課といろいろ調整して、給食センターに行ってもちろん調べましたけれども、全体的なことを踏まえた上で、私の考えとしては3年間でこれを無償にしていくということを担当課には申し上げておりましたので。その辺の内訳として多分出したと思っておりますので、そういうことで御理解をいただければ、あとは管理課長がお答えすると思えます。

○議長（小園實重君） 教育長、遠藤 修君。

○教育長（遠藤 修君） 担当課長に答えさせます。

○議長（小園實重君） 教育委員会管理課長、小西嘉秋君。

○教育委員会管理課長（小西嘉秋君） 今回、474万2,000円お願いをしているところがございますが、当初の補助金とあわせて768万6,000円になるところでございます。

これは現在、小学校が月額3,600円、中学校が4,200円の給食費の負担をいただいておりますが、それを3分の2になるように補助金でお願いをしているところがございます。

これによって小学校2,400円、中学校が2,800円の負担になるように計上しております。

以上です。

○議長（小園實重君） 8番、立石靖夫君。

○8番（立石靖夫君） 町長のマニフェストによって3分の2補助をするということで十分わかりましたが、もう町民の中には給食費を徴収に行くと、もう無償でしょうと、何で徴収するのかという意見が出ているようです。そのことに対して教育長、答弁をお願いします。

○議長（小園實重君） 教育長、遠藤 修君。

○教育長（遠藤 修君） 先ほど町長の方針の中にもございましたが、やっぱり段階的に実施していきたいと考えております。

○議長（小園實重君） 7番、上園和信君。

○7番（上園和信君） 2点、質問をいたします。ページは21ページ。

芸術文化費の負担金、国民文化祭町実行委員会233万1,000円、これは本町におい

てはどういう内容の事業が実施をされるのか。これについて町民への周知はもう進めているのか。この2点についてお尋ねいたします。

○議長（小園實重君） 社会教育課長、高田健一郎君。

○教育委員会社会教育課長（高田健一郎君） お答えをいたします。

国民文化祭の中身につきましては、規定によりまして企画委員会というのを設置をいたしまして、平成27年度におきましては「種子島歌い継がれた民謡と踊りの祭典」というテーマと、それから「黒潮が育んだ古代文化と宇宙芸術展」ということで、この二つを進めているところでございまして、企画展の中でいろいろと検討しながら進めているところでございます。

現在のところにつきましては、詳細な部分を今、実際にいろいろと打ち合わせをしながらやっているところでございまして、この「種子島歌い継がれた民謡と踊りの祭典」につきましては、各地区、8地区ございますけれども、地区の公民館のほうにお願いをいたしまして、地域に伝わる民謡を後継者育成という観点からもぜひとも御協力をいただいて、その伝承をしていくということで、今回の11月の国民文化祭に向けて現在のところ練習をしていただいているところであります。

そしてまた、特別出演という形で、岡山県の総社市の総社社中においてお願いをいたしまして、神楽の奉納をいただくことになっています。

また、一般出演という形で熊本の炭坑節を、出演いただくということで現在のところ話を進めているところでございます。

また、学校関係におきましては町内におきましては西野小学校、平山小学校、荃南小学校、それぞれに民謡等についてお願いをしているところでございます。

あと地元といたしましては、平山郷土芸能保存会、島間伝統文化保存会、そして宝満神楽等にもお願いをいたしまして、それぞれに発表をしていただくという形になってございます。

また、トンミー大使でありますところの相川七瀬さんが赤米の関係で、今回も総社市、対馬市、本町ということで、サミット等も去る6月の14、15日に岡山のほうで開催がされたところでありまして、こういった赤米を通した相川さんの思いとかにつきましてもスピーチをいただきたいということで、そういった部分も計画をしているところでございます。

また、もう一点の「黒潮が育んだ古代文化と宇宙芸術展」につきましては、現在のところ各小学校においてお願いをいたしまして、展示につきましては広田ミュージアムのほうで展示をする形でございますけれども、10月31日から11月15日までの間に広田ミュージアムのほうで宇宙人のかかし、学生がつくっていただいた部分を展示、発表するというような形で考えているところでございます。

また、低学年につきましては宇宙人のイラストをイメージしていただいて、それを描いていただくということで現在取り組んでいただいているところであります。

また、アーティストにお願いをいたしまして、ワークショップという形で2点のものをつくっていただいて、それを発表していただくというようなこと等で計画をしているところであります。

これらの周知につきましては、7月号の広報誌から順次11月にわたりまして、広報で内容的な部分については周知をしていくということで計画をしているところであります。

国民文化祭がありますという通知につきましては、当初、昨年4月、5月からこの取り組みが始まっておりますので、それについては広報誌等でも周知をしているところでございます。

以上でございます。

○議長（小園實重君） 6番、広浜喜一郎君。

○6番（広浜喜一郎君） 先ほどの学校給食費ですけれども、一般質問でも出したいと思っておるんですが。町長は小学校、中学校の学校給食費を無料にするというふうに言っていられっしゃいますけれども、参考までに管理課長、この学校給食費の個人負担、父兄負担が年間総額幾らぐらいになるものか、ちょっと教えていただきたいと思えます。

○議長（小園實重君） 管理課長、小西嘉秋君。

○教育委員会管理課長（小西嘉秋君） 小学校、中学校、保護者の負担している額でございますが、年間2,200万円程度でございます。

○議長（小園實重君） ほかに質疑はありませんか。9番、日高澄夫君。

○9番（日高澄夫君） 社会教育施設の管理のことがいろいろと出されましたけれども、テニスコートが、向こうは連盟の皆さんとか、それからスポーツをやっている方々が修理ができないオムニコートでありますので、ちょっと3面がもうダメになっているような格好でした。

そういう形でこの業者にお願いをしなければならない施設もありますから、そこはやっぱり総合的に考えて、連盟の皆さんに管理をお願いする場合には、6コートある場合には日常使う方々が、利用する方が1コート、2コート、もう1コートだけで競技を、練習をするんじゃないで、順番にずっと回るとのりは生えないわけですから、そういうふうな利用の仕方も心配りもお願いをして、そういう活用の仕方をしっかりと一緒に話し合いをしなければ、もうその人たちに任せたらもう1コートだけ使うわけです。2コートだけ使うわけです。そこがもう芝がはがれるということになりますから。テニスコートも照明施設のある2面しか使えんわけですので、

昼間使ったけれども、修理をした後のそのまた面がやられているわけです。ちょうどバックラインでしたけれども。

そういう格好で、やっぱり社会教育課のほうでは総合的に連盟の皆さんとか話し合いをやりながら、何をお願いができて、何ができないかということも含めて、しっかりと判断をやってもらわなければ、維持管理というのを、ただやってくれんかじゃだめです。はっきり言って。こうこう、こうこうだからお願いができないかというふうな形で。またのりが生えないためにはさっきもいいましたように、順次、順番に使ってくれないかとかそういうことも含めて、まず皆さんがしっかりと把握をしないと、もう利用する方は、ここは便利だから、ここだけでやろうとなりますから。

余計な話になりましたが、町長、社会教育課長、テニスコートのあの3面と砂の取り方、あれはしっかりと大至急やってください。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 財政担当からもちょっとその辺については伺っておりますから。

私としては、先ほど芝の関係、立石議員から出たような問題等含んで、近々にちよっと行革委員会を含んで、町の基本方針というのを明確にして、それによって協力を求めるということと。それかやっぱり施設設備については、当然、使用団体ではできないというのはわかっておりますから、ここはやっぱり担当課がこれはどういようになっているというのを、財政なり、それぞれ報告することによって改修をしていくという、そういう方向でやることによって、担当課が、変な形で答弁をせんといかんようなことというのはなくしていったほうがいいというように私は思いますから、すっきりした形の管理をしていきたいと、このようにいうことで理解していただきたいと思います。

それについては、まだ現場も確認しておりませんので、現場も確認した上でそれぞれ対応していきたいと、このように思います。

○議長（小園實重君） 教育委員会社会教育課長、高田健一郎君。

○教育委員会社会教育課長（高田健一郎君） ただいま議員の御指摘のとおり、各連盟等につきましても、連携を十分図りながら、こちらのほうも現場の確認等々、また担当者とも一緒に足を運びながら、それぞれに連盟のほうにもお願いをし、また、状況等の確認をしながら、財政当局、また上司のほうにも相談を持ちながら、管理につきましても十分に注意を図りながらやっていきたいというふうに考えているところであります。

○議長（小園實重君） ほかに質疑ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（小園實重君） 款の11、災害復旧費。22ページから23ページ。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小園實重君） 款の13、諸支出金、質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小園實重君） 次に、歳入。

款の1、町税から款の20、町債まで一括して質疑はありませんか。9番、日高澄夫君。

○9番（日高澄夫君） 簡単にいきます。交付税の予算措置がなされていないわけですが、留保財源はなしということですか。

○議長（小園實重君） 総務課長、小脇秀則君。

○総務課長（小脇秀則君） 交付税につきましては、まだ決定がされておきませんので、今回は見送っているところでございます。

留保財源につきましては、昨年と同額を見込んだ場合に、普通交付税、特別交付税もどうなるかわかりませんが、約2億1,000万円ぐらいは留保しているという状況でございます。

○議長（小園實重君） 9番、日高澄夫君。

○9番（日高澄夫君） 当初予算で、やっぱり今、町長がこれまで補正予算で説明がずっとされてきましたが、骨格予算と言いながらも平成26年度からの継続事業もあるでしょうし、また、国の施策によっては先ほどの繰越明許費の問題とかいろいろあって、そういう形で地方交付税を本年度5,000万円をプラスして20億2,000万円ということで交付税の予算措置をやっておりますが、最終的には21億ぐらいしか、26年度の13号補正では21億円ぐらいだというふうな形で、留保財源をどのくらい見るかというのが、これから単独事業をやっていく上では四、五百万円あるいは先ほども言いましたようなともクリニックからの側溝整備なんかという四、五百万円ぐらいベースのこういう事業をやっていくためには、やっぱり自主財源である交付税の留保財源がないとやっていけないわけですが、去年並みという格好でもよろしいんですか。

また、確定がされるのは9月ごろになるんでしょうか。

○議長（小園實重君） 総務課長、小脇秀則君。

○総務課長（小脇秀則君） 最初から見込んで全額、昨年同額を計上するというのは非常に危険でもございます。今回、交付税の決定が7月には今決算統計をやっておりますから、されていきますけれども、まだ、積み残している、どうしてもしなければならぬ事業がございます。例えば庁舎の空調関係が、もうここ20年たっておりまして、故障した状態になっております。こういうもろもろの施策も今後また考え

ていかなければなりませんので、十分財源を調整をしながら予算の編成に当たっていきいたいというふうに思っております。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 今、担当課長の説明がありましたが、基本的には創生事業が、国は創生事業の方向にチェンジしようとしているんです。だから、地方交付税そのものをふやそうということじゃなくて、市町村の独自の計画、これをうまく市町村がどう活用するかということになっておりまして、もう既に来年度事業についてはもうこれから関係課を含んで申請というか、状況調査を含んでやらんといかんということでございますので。その辺からいうと地方交付税そのものは私はふえないというような予想をしておるわけですが、そうかといって今総務課長が言ったように全然予算を組まないということにははっきり言っていきません。

だから、きちんと取り崩した基金については積み戻すというのを大前提にして、私はやっぱり基金を使わせてもらうことによって、一時的に何も仕事をしなかったというのではないような、そういうことがないような形で、職員とも十分協議する中でいい事業を選んで、それと庁内のバランスとか、それも取りながらやっていくことが必要じゃないかなというように思っておりますので、そういう点で御理解をいただきたいというように思っております。

○議長（小園實重君） ほかに質疑はありませんか。6番、広浜喜一郎君。

○6番（広浜喜一郎君） 今回、財政調整基金の繰り入れを9,750万円ですか、しまして、合計1億4,750万円になっているようですけれども。町長、大変基金の取り崩しが多いということで批判をしてくれておりますが、まず、総務課長、昨年度の財政調整基金の取り崩し額、決算がまだですけれども、わかっておれば教えていただきたいと思います。昨年と比較をするためです。

○議長（小園實重君） 総務課長、小脇秀則君。

○総務課長（小脇秀則君） お答えします。昨年の資料を持ち合わせておりませんので、後ほど額についてはお知らせいたしたいと思います。お許しいただきたいと思ます。

○議長（小園實重君） 6番、広浜喜一郎君。

○6番（広浜喜一郎君） 昨年の額をもうことは上回っているんじゃないかというふうに思いますが、町長の言っている基金の取り崩しの抑制と申しますか、それとやっていることと矛盾する点があるんじゃないかと思ますけれども、町長、どういうふうに考えますか。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 私は4年前に町長を辞するとき、5億円幾らの基金を積んだん

です。私の前の町長というのは2億七、八千万円積みましたから。じゃ、その4年間でどのくらい基金を積んでいるのかということになると、その時点でのそこ辺、非常に難しい点もありますけれども、そういうことを含んで相対的にやっぱり考えていく必要がある。

だから、基本的には今45億幾らの予算を計上しておりますが、我々のところのよ
うに5,900人ぐらいの人口規模では、標準財政規模というのは40億以下なんです。
そういうことを考えたとき、これから予算を拡大した、それでいいのかどうかとい
うことも含んでこれは行革委員会とか、これから十分そういうことを組む中で、私
は明らかにしていく必要があるんじゃないかと、このように考えておりますので、
それについてはそういうように御理解いただきたいと思います。

○議長（小園實重君） 総務課長、小脇秀則君。

○総務課長（小脇秀則君） 先ほどの平成26年度の財政調整基金の取り崩し額でござい
ますけれども、1億2,772万円となっております。

○議長（小園實重君） ほかに質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（小園實重君） 次に、第2表債務負担行為補正、質疑ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（小園實重君） 次に、第3表地方債補正、質疑ありませんか。9番、日高澄夫
君。

○9番（日高澄夫君） 総務課長と建設課長にお伺いをしたいんですが、辺地債の場合、
交付税算入が80%ぐらいなんです。過疎債は率は少ないんですが、この過疎債をふ
やして辺地債を減らしてという何か、特別の国県との関係で理由があるんですか。

○議長（小園實重君） 総務課長、小脇秀則君。

○総務課長（小脇秀則君） 当初で計画をしておりました事業の事業費が減額になって
きたということで、今回このようなことになってきております。

○議長（小園實重君） 9番、日高澄夫君。

○9番（日高澄夫君） そうすることで、その事業でどうのこうのじゃなくて、じゃ、
ほかの事業を辺地債のほうに組み替えるとか、そういうことをやる考えはなかった
のか。できなかったのか。不可能だったのか。

○議長（小園實重君） 企画課長、小脇隆則君。

○企画課長（小脇隆則君） お答えをしたいと思います。辺地債については、これはも
う過疎対策事業債も一緒でございますけれども、以前と違って起債の協議制になっ
ているということもありますので、変更で、議員が言われるように過疎から辺地に
もってきて増額をするというのは幾らかは可能であると思いますので、今後、その

辺の県との協議もしながら、可能な分については乗せかえをするような変更もさせていたきたいと考えます。

○議長（小園實重君） 9番、日高澄夫君。

○9番（日高澄夫君） じゃから、一生懸命勉強せんばいけんって職員が。

法律でできないという決まりがあればやむを得んですけれども、今いう、企画課長ができるかもしれないという、一定の方向があるのであれば腹いっぱい勉強して、県の職員をいっぱい利用して、そういう形で、先輩議員が毎回のように言いました。有利債を何で使わないのか。過疎債よりも辺地債のほうが交付税算入率、多分80%だと思いますので、あとの過疎債は50、60、70%という格好ですから、やっぱり辺地債もまた、採用が狭まっているというのは事実です。ですけれども、もう事業がやまったからそれでどうしようもならないということであれば、それはそれでかまいませんけれども。ほかの事業を今度は組み替えて、辺地債に充当できるというのを勉強していただいて、できるのであれば、そういう形でやってほしかったということで、もう今回はやむを得ませんから、追求はしませんけれども。そういうことも含めて、できるものなら今後やっていただきたいというふうに思います。

総務課長はそこ辺をしっかりと指導をしてください。

○議長（小園實重君） 答弁がありますか。企画課長、小脇隆則君。

○企画課長（小脇隆則君） ただいま出ておりますとおり有利債を十分活用した形で調整をしてみたいと思います。

○議長（小園實重君） ほかに地方債補正ありませんか。

次に、全般にわたり質疑はありませんか。4番、西園 茂君。

○4番（西園 茂君） じんかい処理費ですけれども、この中で多額の9,718万円というすごい金額の補正が組まれて、本来であれば骨格予算のほうに来て当然だろうと思うんですけれども、この経緯について。

○議長（小園實重君） 保健福祉課長、高田真盛君。

○保健福祉課長（高田真盛君） 今回の清掃センター、焼却施設なんですけど、平成8年に稼働してから19年目に入っています。随時小規模の補修とかはやってきたんですが、当然老朽化が激しくて焼却炉内の壁自体がもうかなり崩れてきております。当然、これが崩れてくると、もう施設しての維持機能もできなくなりますので、まずその設備等の補修をやりたいということです。

あと、同じく集塵機というのが同じようにあるんですけど、これについてももう壁等に穴があいていまして、これは年々大きくなってきていますので、これを放置していますと、もうその機能もできなくなりまして、当然焼却炉としての機能ができなくなりまして、もう焼却炉をとめなければなりませんので、ちょっと多額の経

費にはなったんですが、ここで1回ある程度の補修工事をしておかないと、維持ができないということで、今回9,700万円余りの維持補修ということで設備工事を計上したところであります。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 今、担当課長から説明した点はそのとおりでございます。

私としては、いわゆる管理をする企業というのがつくった会社じゃないわけです。西之表で後ほどつくった会社が管理をしていると。この会社は基本的には人材派遣会社的なそういう点で1人は来ているようでありますけれども、その辺のやっぱり機械のそれはノウハウがあるわけでありまして、ここは十分今後検討する必要があるというふうに私は思っておりますが。

實際上、5年間の契約になっておりますから、安ければいいということじゃなくて、じゃあ、新しくつくった会社というのはこれをするためにどういう方法があるかというのがひとつありますから、ここは非常に難しい問題である。私はやっぱり機械というのはノウハウがあって、それぞれのそれをつくっているということを考えれば、十分その検討を要するんじゃないかということで、今、一時的にすぐ工事をするという事にならないと思っております。早急に決定をすることには間違いありませんが、そこは十分私個人としては、町長としてはそれは検討してみたいと、このように思っております。

以上です。

○議長（小園實重君） 4番、西園 茂君。

○4番（西園 茂君） 私は常日ごろ維持管理のことをすっぱく言っているんですけども、いろんな今回もポルトガルのどうのこうのというのが本当に必要なんだろうかという感じがいたします。

ほかに皆さんのほうからも質問なかったんですけども、大体こういうハード事業につきましても、ライフサイクル、一定の期間寿命があって、建ててから壊すまでの間の費用というのが4倍から5倍ぐらいかかるというふうに言われております。ですから、余り、本当に将来人間も減ってくるわけですから、本当に必要だろうかということ、観点からもう少し事業に取り組んでもらいたいなあというのが基本だと思います。ですから、維持管理についてはもう少し、ちょっと気をつけて事業を興していただきたい。

それで、こういうじんかい関係についてのいろんな処理については、とても重要なことなんですけれども、最低限やはり常日ごろから注意しておきながら、こういうところがもうそろそろ悪くなるんじゃないかとか、ある程度の見通しをつけて維持管理関係に当たってもらいたいというように思います。

今後の方向について、ちょっと町長の御意見を聞きたいと思います。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 今西園議員がおっしゃるとおりでありまして、予算編成上の第1点はやっぱり補修費をどう組むかというのが第一なんです。新しいものをつくるということよりも。

だから、焼却場でいうと、一般的には20年となっておりますが、もう20年です、はっきり言うと。それを担当課から見せてもらった状況によると、もうだいぶ穴が、大きな穴があいていて、そこから吹き出せば、外に吹き出してしまう。担当課は建物までと言いますが、私は建物は必要ないと思っておりますから。

機械のノウハウ分をどう管理するかというのが、この精密機械であるとか、この管理する日ごろの熱の出し方とか。でも、1週間に3日ぐらいしか動かしていないのが現状でございますので、それを総合的に、やっぱりつくった会社にもどういうようにたませようとしているのか。今管理している会社についても、全く人のつくったそれを別な人が管理しているわけですら。そこで言う管理の形態が違えば、もうまた作り直すというのは簡単にだめだということになりますから。そういうところをつくった当事者としては十分考えながら、修繕をどうやっていくかということになると、最低でもあと10年ぐらいはもたせんといかんと思っておりますから、そういうことを総合的に判断してということで、いましばらく時間をいただきたいというのは先ほど言ったとおりでございますので、時間をいただきたいと思っております。

○議長（小園實重君） ほかに質疑はありませんか。5番、塩釜俊朗君。

○5番（塩釜俊朗君） 歳出のところで質問すればよかったですけれども、全体的なところで1点だけ質問いたしたいと思っております。

温泉センター、10ページにありますけれども、この工事請負費でありますけれども、これについて手すり等を設置ができないかというふうな高齢者の意見というのはなかったですか。

○議長（小園實重君） 保健福祉課長、高田真盛君。

○保健福祉課長（高田真盛君） 手すり等については随時必要な箇所について要望が上がってきた時点で設置をしております。今、議員のおっしゃるところはどの場所になるのか、ちょっと把握ができていませんが、今後そういうように必要な箇所があれば随時予算措置をしながら対処していきたいというように考えています。

○議長（小園實重君） 5番、塩釜俊朗君。

○5番（塩釜俊朗君） 手すりの件については、男性、女性、2カ所、また家族風呂あるんですけども、高齢者がやっぱりもっと手すりがほしいなというふうな話も若干聞きまして、じゃ、どこのほうかに行ってみれば、私も女性のほうからのそ

ういう話がありましたので、ちょっと今、話をするんですけども。中に入って見てどうのこうのというのがなかなかできませんから、一応所管課のほうでそういうふうな意見も聞いた、聞かないは別にして、そういうような調査をして高齢者にもやさしい温泉の活用といいますか、そういうことを切にお願いしたいと思います。

答弁は要りません。

○議長（小園實重君） ほかに、全般にわたって質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（小園實重君） 質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（小園實重君） 討論なしと認めます。

これから議案第34号を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（小園實重君） 異議なしと認めます。したがって、議案第34号平成27年度南種子町一般会計補正予算（第2号）は原案のとおり可決されました。

ここで14時40分まで休憩します。

—————・—————
休憩 午後 2時31分

再開 午後 2時40分
—————・—————

○議長（小園實重君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

日程第11 議案第35号 平成27年度南種子町国民健康保険事業勘定特別会計補正予算
(第2号)

○議長（小園實重君） 日程第11、議案第35号平成27年度南種子町国民健康保険事業勘定特別会計補正予算（第2号）を議題とします。

当局の説明を求めます。保健福祉課長、高田真盛君。

○保健福祉課長（高田真盛君） 議案第35号平成27年度南種子町国民健康保険事業勘定特別会計補正予算（第2号）について御説明いたします。

予算書の1枚目をお開きください。

今回の補正は、予算の総額に歳入歳出それぞれ58万6,000円を追加し、予算の総額を歳入歳出それぞれ10億318万6,000円とするものでございます。

第1表歳入歳出予算補正につきましては省略をさせていただきます。

それでは、事項別明細書の主なものを歳入から御説明いたします。

歳入の1ページをお願いします。

款の5、国庫支出金でございますが、海外療養費の支給申請に対する審査業務委託に係るもので10万8,000円を追加するものでございます。

款の13、繰入金でございますが、職員給与費等分として45万8,000円を追加するものでございます。

次に、歳出、2ページをお願いいたします。

款の8、保健施設費の医療費適正化特別対策費であります。委託料として12万8,000円を計上するものであります。

内容としましては、海外療養費不正請求対策事業委託について、昨今、全国の国民健康保険において海外療養費の不正請求事案が複数明らかになっていることから、一層の対策を進めることの通達が厚生労働省より発出されたことにより、本町国民健康保険の海外療養費不正請求対策事業とし10万8,000円の委託料を追加するものでございます。

以上で説明を終わります。よろしく御審議方お願いします。

○議長（小園實重君） これから質疑を行います。質疑は全般にわたって行います。質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（小園實重君） 質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（小園實重君） 討論なしと認めます。

これから議案第35号を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（小園實重君） 異議なしと認めます。したがって、議案第35号平成27年度南種子町国民健康保険事業勘定特別会計補正予算（第2号）は、原案のとおり可決されました。

日程第12 議案第36号 平成27年度南種子町簡易水道事業特別会計補正予算（第1号）

○議長（小園實重君） 日程第12、議案第36号平成27年度南種子町簡易水道事業特別会計補正予算（第1号）を議題とします。

当局の説明を求めます。建設課長、古市義朗君。

○建設課長（古市義朗君） 平成27年度議案第36号南種子町簡易水道事業特別会計補正

予算（第1号）について御説明申し上げます。

今回の補正予算は、歳入歳出予算の総額にそれぞれ1,892万2,000円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ3億6,877万4,000円とするものでございます。

第1表歳入歳出予算補正につきましては省略させていただきます。

次に、歳入歳出補正予算事項別明細書より主なものを歳入から御説明いたします。歳入の1ページをお願いいたします。

一般会計からの繰入金として1,818万7,000円。雑入では道路改良工事に伴う配水管移設工事補償費として73万5,000円、それぞれ増額するものでございます。

次に、歳出の2ページをお願いします。

款の1、総務費で役務費の手数料は水質検査手数料として33万8,000円の減額補正でございます。

次に、委託料ですが、水道量水器計量事務及び水道料金収納事務委託として26万4,000円の増額。水道施設電気設備保守業務委託として51万5,000円追加補正するものです。

負担金補助及び交付金ですが、遠隔地給水工事補助金として30万円追加するものです。

款の2、事業費の簡易水道施設費ですが、需用費では今後の所要見込みといたしまして消耗品を254万5,000円、光熱水費780万円、修繕費438万円、それぞれ増額補正でございます。

工事請負費につきましては、町道宇都浦線道路改良工事に伴う配水管移設工事として100万円を追加補正するものでございます。

以上で説明を終わります。よろしく御審議方お願いいたします。

○議長（小園實重君） これから質疑を行います。質疑は全般にわたって行います。質疑はありませんか。5番、塩釜俊朗君。

○5番（塩釜俊朗君） 簡易水道事業費でありますけれども、その中で光熱水費780万円を計上しております。当初1,500万円を計上しておりましたが、約52%の増であります。これは当初の予算編成時にはその増額であろうことが見込めなかったのかどうか。そのことについてお聞きをいたします。

○議長（小園實重君） 建設課長、古市義朗君。

○建設課長（古市義朗君） お答えいたします。光熱水費につきましては、年間の必要経費といたしまして2,200万円、平成26年度実績もでございます。当初予算編成におきまして財政及び当局調整の中で、この金額が不足しておりました。年間必要経費として今回お願いをするものでございます。

御理解の上、御審議方よろしくお願いいたします。

○議長（小園實重君） ほかに質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（小園實重君） 質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（小園實重君） 討論なしと認めます。

これから議案第36号を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（小園實重君） 異議なしと認めます。したがって、議案第36号平成27年度南種子町簡易水道事業特別会計補正予算（第1号）は原案のとおり可決されました。

日程第13 議案第37号 平成27年度南種子町介護保険特別会計補正予算（第2号）

○議長（小園實重君） 日程第13、議案第37号平成27年度南種子町介護保険特別会計補正予算（第2号）を議題とします。

当局の説明を求めます。保健福祉課長、高田真盛君。

○保健福祉課長（高田真盛君） 議案第37号平成27年度南種子町介護保険特別会計補正予算（第2号）について御説明申し上げます。

予算書の1枚目をお開きください。

今回の補正は予算の総額に歳入歳出それぞれ584万2,000円を追加し、予算の総額を6億261万7,000円とするものです。

第1表歳入歳出予算補正については省略をさせていただきます。

事項別明細書で主なものについて歳入から御説明いたします。

歳入の1ページをお願いします。

国庫補助金、支払基金交付金、県補助金の増額補正につきましては、介護予防事業、包括的支援事業、任意事業の増額に伴うものです。

一般会計繰入金の増額につきましては、同じく介護予防事業、包括的支援事業、任意事業、職員給与費等の増額に伴うもの及び介護保険法改正による介護保険の1号保険料の低所得者軽減強化に伴う増額補正であります。

歳入の2ページですが、介護保険基金繰入金287万4,000円につきましては、平成26年度の介護給付費及び地域支援事業費の実績に伴い、国庫支出金、支払基金交付金、県支出金の精算返納金が生じることから、不足額を基金から繰り入れるものであります。

次に、歳出の3ページをお願いします。

総務費につきましては、職員手当等の減額と共済費における退職手当組合負担金の増額と旅費の増額が主な補正であります。

地域支援事業費につきましては、備品購入費、普通旅費の増額及び生活援助員派遣事業に伴う委託料の増額補正であります。

諸支出金の482万5,000円につきましては、平成26年度の介護給付費及び地域支援事業費の精算に伴う国、支払基金、県への返納金が生じるための増額補正であります。

以上で説明を終わります。よろしく御審議方お願いいたします。

○議長（小園實重君） これから質疑を行います。質疑は全般にわたって行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小園實重君） 質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小園實重君） 討論なしと認めます。

これから議案第37号を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小園實重君） 異議なしと認めます。したがって、議案第37号平成27年度南種子町介護保険特別会計補正予算（第2号）は原案のとおり可決されました。

日程第14 議案第38号 平成27年度南種子町後期高齢者医療保険特別会計補正予算（第1号）

○議長（小園實重君） 日程第14、議案第38号平成27年度南種子町後期高齢者医療保険特別会計補正予算（第1号）を議題とします。

当局の説明を求めます。保健福祉課長、高田真盛君。

○保健福祉課長（高田真盛君） 議案第38号平成27年度南種子町後期高齢者医療保険特別会計補正予算（第1号）について御説明いたします。

予算書の1枚目をお開きください。

今回の補正は、予算の総額に歳入歳出それぞれ5万8,000円を追加いたしまして、予算の総額を歳入歳出それぞれ8,171万9,000円とするものでございます。

第1表歳入歳出予算補正については省略をさせていただきます。

今回の補正につきましては、共済組合負担金について、平成27年10月からの標準報酬制移行に伴う負担金率が示されたことと、退職手当組合負担金の率変更による

再計算を行った結果でありますので、一般管理費の補正とそれに見合う分の歳入の補正ということになります。

歳入のほうで5万8,000円の追加、歳出で同じく5万8,000円を追加するものであります。

以上で説明を終わります。よろしく御審議方お願いいたします。

○議長（小園實重君） これから質疑を行います。質疑は全般にわたって行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小園實重君） 質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小園實重君） 討論なしと認めます。

これから議案第38号を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小園實重君） 異議なしと認めます。したがって、議案第38号平成27年度南種子町後期高齢者医療保険特別会計補正予算（第1号）は原案のとおり可決されました。

日程第15 陳情第3号 議員報酬の減額及び議員定数15名への増等に関する陳情について

○議長（小園實重君） 日程第15、陳情第3号議員報酬の減額及び議員定数15名への増等に関する陳情についてを議題とします。

お諮りします。この陳情については9人の委員で構成する議員報酬及び議員定数等調査特別委員会に付託し、審査することとしたいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小園實重君） 異議なしと認めます。したがって、陳情第3号議員報酬の減額及び議員定数15名への増等に関する陳情については、議員報酬及び議員定数等調査特別委員会に付託して審査することに決定しました。

引き続き特別委員会委員の選任を行います。

特別委員会委員の選任については、委員会条例第7条第4項の規定によって、河野浩二君、柳田 博君、大崎照男君、西園 茂君、塩釜俊朗君、広浜喜一郎君、上園和信君、立石靖夫君、日高澄夫君を指名したいと思います。御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（小園實重君） 異議なしと認めます。したがって、特別委員会委員は、河野浩二君、柳田 博君、大崎照男君、西園 茂君、塩釜俊朗君、広浜喜一郎君、上園和信君、立石靖夫君、日高澄夫君に決定しました。

ここで暫時休憩します。

休憩 午後 2時51分

再開 午後 3時07分

○議長（小園實重君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

特別委員会の正副委員長が決定した旨、報告がありましたのでお知らせします。

委員長に上園和信君、副委員長に西園 茂君。以上お知らせします。

日程第16 陳情第4号 職員定数改善と義務教育費国庫負担制度2分の1復元を図るための2016年度政府予算に係る意見書採択の陳情について

○議長（小園實重君） 日程第16、陳情第4号職員定数改善と義務教育費国庫負担制度2分の1復元を図るための2016年度政府予算に係る意見書採択の陳情についてを議題とします。

お諮りします。この陳情については総務文教委員会に付託し、審査することとしたいと思います。御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（小園實重君） 異議なしと認めます。したがって、陳情第4号職員定数改善と義務教育費国庫負担制度2分の1復元を図るための2016年度政府予算に係る意見書採択の陳情は、総務文教委員会に付託して審査することに決定しました。

日程第17 陳情第6号 種子島・屋久島を「活動火山周辺地域防災営農対策事業」の対象地域に組み入れることを求める陳情について

○議長（小園實重君） 日程第17、陳情第6号種子島・屋久島を「活動火山周辺地域防災営農対策事業」の対象地域に組み入れることを求める陳情についてを議題とします。

お諮りします。この陳情については産業厚生委員会に付託し、審査することとしたいと思います。御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（小園實重君） 異議なしと認めます。したがって、陳情第6号種子島・屋久島

を「活動火山周辺地域防災営農対策事業」の対象地域に組み入れることを求める陳情については、産業厚生委員会に付託して審査することに決定しました。

散 会

○議長（小園實重君） 以上で、本日の議事日程は全部終了しました。

次の本会議は7月2日午前10時に開きます。

本日はこれで散会します。御苦労さまでした。

散 会 午後 3時09分

平成27年第2回南種子町議会定例会

第 2 日

平成27年7月2日

平成27年第2回南種子町議会定例会会議録
平成27年7月2日（木曜日） 午前10時開議

1. 議事日程（第2号）

○日程第1 一般質問

2. 本日の会議に付した事件

○議事日程のとおり

3. 出席議員（9名）

1番	河野浩二君	2番	柳田博君
4番	西園茂君	5番	塩釜俊朗君
6番	広浜喜一郎君	7番	上園和信君
8番	立石靖夫君	9番	日高澄夫君
10番	小園實重君		

4. 欠席議員（1名）

3番 大崎照男君

5. 出席事務局職員

局長 濱田広文君 書記 日高一幸君

6. 地方自治法第121条の規定により説明のため出席した当局職員の職氏名

職名	氏名	職名	氏名
町長	名越修君	副町長	長田繁君
教育長	遠藤修君	総務課長兼 選挙管理委員会 事務局長	小脇秀則君
会計管理者 兼会計課長	野首知子さん	企画課長	小脇隆則君
保健福祉課長	高田真盛君	観光課長	坂口浩一君
総合農政課長	島崎憲一郎君	税務課長	河口恵一朗君
教育委員会 社会教育課長	高田健一郎君	建設課長	古市義朗君

農業委員会
事務局長

羽生幸一君

教育委員会管理課長兼
給食センター所長

小西嘉秋君

保育園長

小川ひとみさん

△ 開 会 午前10時00分

開 議

- 議長（小園實重君） これから本日の会議を開きます。
本日の議事日程は、お手元の日程表のとおりであります。
-

日程第1 一般質問

- 議長（小園實重君） 日程第1、一般質問を行います。
順番に質問を許します。初めに、河野浩二君。

[河野浩二君登壇]

- 1番（河野浩二君） 5月29日、口永良部島の新岳噴火によりまして、全島避難を余儀なくされた住民の皆様方に、心からのお見舞いを申し上げますとともに1日でも早く島に帰れる日が訪れますようお願いをいたします。

私は、このたびの統一地方選挙において、町民の皆様方の御支持をいただき初当選いたしました。私の心の中にある種子島のこと、そして何よりも南種子のことをもう一度、学習・精査して町政発展のため頑張る所存でございます。

町民各位の御指導、御鞭撻、叱咤、激励をお願い申し上げます。

名越町長におきましては、4年間の雌伏の時を過ごされ、捲土重来を期されましたことにお喜びを申し上げます。

5月1日、再スタート時より全力疾走の気配であります。どうぞ御健康には十分御留意なされ、南種子町政のかじ取りを議会とともに推進されますよう御期待を申し上げます。

さて、私は一般質問の最初に、現在の南種子町の財政状況を取り上げたいと思います。

これは町民にとりまして大きな関心事ではありますが、私を含めまして、なかなか簡単には理解できません。行政用語の難しさがその一要因と考えられますが、本日は、議会新入生の私に免じてございまして、できるだけわかりやすく答弁くださいますようお願いいたします。

まず、貯金であります基金の残高と、それが4年前と比較してどうなのかお伺いをいたします。

- 議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

[名越 修町長登壇]

- 町長（名越 修君） 河野浩二議員の御質問にお答えいたします。

4年前の平成22年度末の基金残高の状況についてであります。25億5,090万

5,000円となっております。また平成26年度末の基金の残高状況は、19億6,137万7,000円となっております、4年前と比較しますと、5億8,952万8,000円の減少となっております。

基金残高が減少している主な理由といたしましては、まずは、特別会計の財源不足を補填するための法定外繰出金の増加も要因となっております。法定外繰出金の状況につきましては、国民健康保険特別会計では、平成23年度から26年度までの合計1億2,000万円を繰り出しております。簡易水道事業特別会計では、平成22年度から26年度までの合計で9,788万5,000円を繰り出しております。合わせて2億1,788万5,000円になっています。

この法定外繰出が年々増加しており、一般会計の財源を圧迫していることは、料金改定を含めた早急な対応が今後必要であるとは思いますが、私としては思案しているところでございます。

また、公共施設の老朽化問題は全国的にも大きな課題となっておりますが、これは前任町政の施策として、国の支援体制がない中で、公営住宅の補修工事や社会教育施設等解体工事など、施設の改修工事や解体工事など積極的に実施し、観光客にとって、きれいなまちづくりの整備を進めたために、町有施設整備事業基金等を活用しながら、問題解決に向けて、事業の推進を取り組んだことからの基金減少の要因になっていると思います。

具体的な費用等については、担当課長から説明いたさせます。

○議長（小園實重君） 総務課長、小脇秀則君。

○総務課長（小脇秀則君） 町長が申し上げたとおりでございますが、特別会計への法定外繰出金につきましては、平成22年度から26年度まで合計で2億1,788万5,000円を繰り出しております。その他維持、公営住宅等の補修関係、それから施設の改修工事関係で申し上げますと、平成23年度に庁舎、研修センター等の改修事業、それと公営住宅等の補修工事等を行っております。

それから、平成24年度におきましても、庁舎及び研修センター等の改修事業、旧郷土館の解体工事、それから清掃センターの補修工事、公営住宅等の補修工事、町立武道館の改修工事、社会教育施設等解体工事、中央公民館調理室の改修工事等を行っております。

平成25年度につきましては、特定職員等の住宅改修工事、それから公営住宅等の補修工事、旧西野中学校校舎屋体の解体工事、旧南種子高等学校のプールの解体工事等を行っております。

金額といたしましては、今申し上げた金額が4億2,016万円ということになってございます。

○議長（小園實重君） 河野浩二君。

○1番（河野浩二君） 法定外繰出金がふえたからということでございます、将来においては、この国民健康保険税、それから水道代、この辺は簡単に上げてしまいますと、町民の負担が強くなりますので、ぜひこの辺は慎重に扱っていただきたいと、また施設の改修とか、解体とかもう随分終わっているようでございますので、その辺を有効活用をしていただければなと思います。

何と云っても、貯金は、我々家庭にとっても重要ですが、行政にとりましては、大変大きなウエートを占める心のよりどころではないかと思えます。ぜひこの基金は大切に扱っていただきたい、そのように思います。

町長が4年後終わるときには、少なくとも20億、21億、それくらいあればいいのかなと思っております。また、町長自身いつも積み立てながら使うんだというようなことを、口癖のように言っておりますので、その辺は安心しているところでございます。

この施設の改修工事、解体工事、私3億7,000万円とつかんでいたんですが、これにトンミー市場と広田遺跡ミュージアムについては入っていないということで、これにはこの基金は使われなかったということで理解してよろしゅうございますか。

○議長（小園實重君） 総務課長、小脇秀則君。

○総務課長（小脇秀則君） 今の答弁につきましては、公共施設等の老朽化に伴う維持補修等についてお答えをいたしましたので、その他もろもろ建設事業も行ってきておりますので、そういう中では町有施設整備基金だとか、財政調整基金を充てながら建設はしてきておりますので、その具体的な数字については、ちょっと一つ一つの項目についてはおさえていませんので、御理解いただきたいと思います。

○議長（小園實重君） 河野浩二君。

○1番（河野浩二君） はい、了解いたしました。

それでは、次に、名越新体制での平成27年度予算の特色について説明を求めたいと思います。

今年度につきましては、そのほとんどを骨格予算として計上され、議会もそれを承認していますので、なかなか難しい質問だとは思いますが、よろしく願いをいたします。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 本年度の予算の特色は何かというような、要約しますとそういうことでございますが、お答えいたします。

本年度予算の特色ということでありますが、施政方針でも述べましたとおり、マニフェストを緊急性、必要性等に配慮しながら、諸施策を実行してまいることにし

ております。

まず、今回の補正予算は、中学生までの給食費について、保護者の負担軽減を図るため、保護者負担の3分の1の補助金を計上しております。3年をかけてこれは無償にするということで、後ほどまた質問が出てきますが、そういうことで、要約しますとそういうことでございます。

これについては、またその他予算については、今後の補正予算に向けて早急に検討を行い、財政状況を踏まえながら、諸施策を実行してまいりたいと思います。

平成27年度の建設事業等は、既に平成26年度中に、大半を事業計画を提出しております。この内示決定が既に来ておるわけでありまして、そのことを踏まえて、46億円余りの予算を決定しておりますから、それを含めまして私としては、さらに、今、担当課から出てきている単独予算というのが、約3億円程度でございます。これを、もうあと基金しかありません。ということは、それを起債であるとか、その辺の適応というのは、もう現在できなくなっておりますので、こういうことを配慮しながら対応していくということが、私の現在の考え方でございます。

取り崩した後は、後年度でどう基金戻しをしていくかということにつきましては、今、河野議員から言われたとおりでございますが、予算を組んで、やはり私の任期中にきちんと戻して、できるだけ多く積み立てていくという、こういうことを基本にしてかからないと、どうしようもないと思います。それは人口減が甚だしいわけでありまして、現在の五千九百数名の方、そのうちの20歳以下というのは12%余りでございますので、これを考えれば、やっぱり今後の予算の組み方というのは、住民の意見、議会の意見を踏まえながら取り組んでいくと、こういうことを目指しております。

○議長（小園實重君） 河野浩二君。

○1番（河野浩二君） 給食の無料化がございました。このことは、後ほど同僚議員がまた質問をすると思いますので、軽く流しておきますけれども、郡内、そして県内市町村のこの給食費の無料化というのはどのような進捗状態でしょうか。わかっている課長さんがいましたら、教えてください。

○議長（小園實重君） 管理課長、小西嘉秋君。

○教育委員会管理課長（小西嘉秋君） お答えいたします。

鹿児島県内で、給食費の無料化を実施している自治体は現在ございませんが、ほとんどの自治体で補助金を交付をしているところでございまして、郡内では一番大きいところが、屋久島町が小学校1月あたり950円、中学校が1,000円を補助金として交付をしているところでございます。給食費も小学校2,900円というふうに聞いております。

○議長（小園實重君） 河野浩二君。

○1番（河野浩二君） ということは、この政策は画期的なことというふうに考えてよろしいわけでございますね。保護者にとりましては、この給食費というのはやはり苦になっている家庭もあるやに聞いております。また、この給食費の集め方等、私は子供は持ってなかったんですが、非常に給食費の集めかたに、非常に難儀をしているという、友人から話を聞いたこともあろうかと思えます。

その辺のことも解決されるわけございまして、お金のかかることですから、安易には申し上げませんが、最終的に今年度3分の1、あと3分の2は3年にかけてやっていくということで、非常にほかの市町村につきましても、先駆的なことで、それじゃあ南種子にちょっと住所移そうかというようなことがあればいいなど、このように思っております。

次に、財政状況の質問の最後に、南種子町の財政力指数、経常収支比率、実質公債費比率並びに町民1人当たりの公債費償還額と、それぞれの県内ランキングを示してください。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 総務課長に答弁をさせます。

○議長（小園實重君） 総務課長、小脇秀則君。

○総務課長（小脇秀則君） 河野浩二議員の質問にお答えをいたします。

平成25年度決算における熊毛郡内の状況と、県内43市町村での順位について御説明をいたします。

まず、財政力指数については、数値の高いほうから、経常収支比率、実質公債費比率、町民1人当たりの公債費償還負担額については、数値の低いほうからの順位といたします。

まず、財政力指数については、南種子町が0.25で県内23位でございます。中種子町が0.21で県内28位、西之表市が0.25で県内23位、屋久島町が0.25で県内23位となっております。

次に、経常収支比率につきましては、南種子町が93.5%で県内39位でございます。中種子町が89.8%で県内第26位、西之表市が93%で県内38位、屋久島町が91.5%で県内34位となっております。

次に、実質公債費比率につきましては、南種子町が11.2%で県内21位、中種子町が9.4%で県内8位、西之表市が10.8%で県内19位、屋久島町が17.1%で県内43位となっております。

次に、町民1人当たりの公債費償還負担額につきましては、南種子町が11万16円で県内31位でございます。中種子町が10万292円で県内28位、西之表市が7万254円

で県内14位、屋久島町が13万4,060円で県内第36位となっております。

○議長（小園實重君） 河野浩二君。

○1番（河野浩二君） まず、財政力指数でございますが、これは1.0を上回れば、地方交付税交付金がおりにないということで、私どものところでは0.25。1に近いところといたら、ほとんど関東、神奈川あの辺ですね。あの辺が1で、私どもはまだ0.25、0.75足りないわけでございますが。県内では22位、23位、平成22年度が22位であったようでございます。その時の指数が0.26です。若干落ちたのかなというような感じでございます。

経常収支比率でございますが、ランク的には相当悪うございます。

市町村で75%を上回れば、ちょっと県からの指導が入ると。75%を上回らないことが望ましいということですね。ですから、75%は既に上回っておりますので、この辺は少し注意する必要があるのかな、ましてやランキングが39位、平成22年度においては、数字はよくなっているんですが、ランキング的には40位ということになっているようでございます。

続いて、実質公債費比率、収入に対する負債返済の割合でございますが、平成25年11.2%で21位、これが、私どもが財政が悪くなったんじゃないかな、悪くなったんじゃないかという、町民の間でよく聞くんですが、なんと、平成22年に、名越町長が終わる年、これが10.6でございます。これでランキングが9位ということで、南種子町の財政はすごくいいなと、要するに収入に対する負債返済の割合ということであるようでございますけれども、これで9位に入ってるということで、少し鼻を高くした部分も、私も素人でございますが、そのようなことがあったような気がいたします。

また、町民1人当たりの公債費償還負担額ですが、これも平成22年、これは町民1人当たりがどれくらいの借金を持ってるかというようなことになります。町の行政の予算に対して、10万6,308円でした、22年。25年が11万16円、25位から31位になっているようでございます。4,000円くらいの差がありますが、プレミアム商品券が発行されています。あれ2万円買ってプレミアムが4,000円つくんですね、そのプレミアムの4,000円がこれで消えてしまうという、これちょっと計算方法違うかもしれませんが、そういうようなことでございますので、これも借金の額が大きくなってるということで、ちょっと心配をいたしておりますが、全体的に見て破綻とかそういうような心配はないのでありまして、可もなく不可もないということであろうかと思えます。

しかしながら、西之表市の指数を見ると、この4年間で随分と改善されているようです。南種子町の場合、逆にこの4年間で全ての数字が悪くなっております。入

るを図りて出づるを制す、よく使われる言葉でございますが、収入を計算してそれに見合った支出を心がける言葉であります。行政、議会も緊張感を持ってこの財政を観察しなければならないと思います。

次に、人口減少対策についてお伺いします。このことは、議会が開会されますごとに議員のどなたが質問をするようでございます。もっとものでありまして、人がいてこの南種子町が存在するわけでありますから、まさしく行政の最重要課題だと思えます。ただ、この問題は御案内のとおり、全国の地方行政のほぼ全てが抱えている問題でもあります。我が南種子町だけの人口減少でありましたら、打つ手も多数ありましようが、あの手、この手と出尽くした感もあります。しかし、指をくわえて見ているわけにはまいりませんので、あえて質問をさせていただきます。

まず、人口をふやす要因は、そこに住む家、住まいがあるかどうかということです。そこで、現在の公営住宅の現況とその中に独身者用住宅があるのかどうかお伺いをいたします。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 具体的には担当課長から説明させますが、私の考え方としては、町内一円に散在している出郷者の空き家調査も実施しまして、人口の対策を含め討する考えであります。状況については課長が説明いたしますけれども、独身者住宅となりますと、大小ありますから、その辺を踏まえて考えなければいけないという大きな問題があります。

私どもとしては、全体で企画も含めて検討して、今後どう対応していくかというのを、副町長を柱として検討していきたいとこのように考えております。

○議長（小園實重君） 建設課長、古市義朗君。

○建設課長（古市義朗君） 河野浩二議員の質問にお答えをいたします。

現在、本町の公営住宅等の現状についてであります。平成27年の6月15日現在の管理戸数は、公営住宅が182戸うち入居戸数161戸、空き家21戸。特定公共賃貸住宅が16戸うち入居戸数15戸、空き家1戸。一般住宅が34戸うち入居戸数33戸、空き家1戸。教員住宅が36戸うち入居戸数34戸、空き家2戸。合計268戸のうち入居戸数243戸、空き家25戸であります。

議員御質問の独身者公営住宅の確保についてありますが、単身者が入居可能な公営住宅は平成24年3月に、南種子町営住宅条例の一部を改正、入居者の資格の同居、親族要件について、そのもの以外に同居するものがいなくても入居できる町営住宅の規格、1戸当たりの住居専用床面積が50平方メートル未満でかつ居室数が2以下の住宅とするとし、平成24年4月1日から施行して、単身者も公営住宅に入居することができるようになったところであります。

平成27年6月15日現在の公営住宅管理戸数は182戸、このうち単身者が入居可能な住宅は9団地81戸であります。既に63戸が入居うち単身者43戸、2名以上が20戸入居しており、18戸が空き家となっております。

空き家となっている住宅は、昭和39年から昭和48年に建設されたものであり、入居に当たっては、ある程度の修繕を要することから、入居希望の動向等を踏まえ対応したいと考えております。

先ほど町長も述べましたが、基本的には町長の考えに今後検討していくと、そういうところでございます。

よろしく申し上げます。

○議長（小園實重君） 河野浩二君。

○1番（河野浩二君） つまり、独身者用を含めて空き家が25戸あるということで、間違いありませんね。

建設課長そうですか、25戸。

○議長（小園實重君） 建設課長、古市義朗君。

○建設課長（古市義朗君） お答えします。

そのとおりでございます。

○議長（小園實重君） 河野浩二君。

○1番（河野浩二君） この25戸のうちに、今、さっきの説明があったようでございますけれども、じゃ、あした入りますといったときに、入れる家が何戸くらいありますが、この25戸のうちに。

○議長（小園實重君） 建設課長、古市義朗君。

○建設課長（古市義朗君） お答えいたします。

現実的には、希望者の受け付けによりまして、対応いたしているところでありますが、はっきり申し上げまして、即入居できますよという状況ではないということでもあります。

というのが、ある程度の修繕をしてその後入れると、その期間についてはいろいろ、1週間なり、10日なり、大きいものであれば工事を委託して1カ月かかるなり、そういうことでございます。その対応につきましては、入居希望の際に、建設課としては、対応しながら進めていくとそういう状況にあります。

○議長（小園實重君） 河野浩二君。

○1番（河野浩二君） 実家が店をしてる関係で、そういった不動産屋がこの町にはないですね、そうするとあちこちに行って、あいている家ありませんかというのが、何度も私も聞きますし、従業員も聞きますし、またほかの方たちもよく聞きます。

つまり、やっぱり4月、5月ちょっと空き家が目立っていたようなんですが、き

のうずっと回ってみますと、空き家もほとんどございません。空き家があれば、この夫婦二人がまた住んでいただいて、人口が2人ふえるのになあ、もったいないなというて、思うのが私の感想でございました。

この1人、すぐ入れないというのが残念なんです。ですから、25戸のうちによく同僚議員が一人親方というような言葉を出して、一人親方の利用というようなことを、私よく聞いております。この一人親方も毎日仕事があるわけじゃないんです。雨が降った、会社に勤めている方もいるんですけども、それは会社の社会保険を受けるのではなくて、全く、言ってみれば、言葉悪いかもしれませんが、一人オオカミで自分で仕事を探してやっていく、そうすると仕事が切れることがあるわけです。仕事が切れるということは、その方にとっては、1日1万8,000円くらいのマイナスになってくるんです。会社勤めの人はいそれだけ、そういう補助がありますから、会社から、働かなくてもお金もらえるようなシステムですけれども、そういう方たちをまずしっかりと守ってあげるといようなことが必要ですので、ぜひそういった修理が必要なもの、そんなにたくさんお金をかけなくて、ぜひその一人親方を使ってこつこつ、雨が降ったときにこつこつ仕事をして、そして完成に近づけて、いつでも貸せるような状態、そうすると一人親方の仕事も随分ふえてくるのかなと、これ私の勝手な想像でそう簡単にはいかないこともあろうかと思いますが、ぜひ御検討をいただければなと思っておるところでございます。

最後に、それぞれ今公募している戸数というのは、単身者、御家族含めてちょっと数を教えてください。

○議長（小園實重君） 建設課長、古市義朗君。

○建設課長（古市義朗君） お答えいたします。

現在の一番新しい状況での、今月の町広報紙で入居可能な住宅の募集については広報紙に折り込みをしたところでございますが、今月につきましては西之団地の1件でございます。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 今の説明のとおりでありまして、既に当初で計画、予算化していたものは全部、全て使い終わっておりまして、これは、今は議員のおっしゃることは当然のことではありますが、大体、今まで大がかりな改修をやってきたと、例えば、昭和39年の19号台風、20号台風、学校が全部倒れたあの時期でしますと、もう30年を超えているわけでありまして、それにやっぱり、1,000万円近くもかけて修理するというのは、私はもう無駄だと思います。つまり、単身者用であれば、半分くらいでできるようなのを、中種子町でも住宅をつくっておりますが、そういうことも配慮しながら、当面はあいている住宅の補修費、100万円以下でできる場合

もあるわけでありますから、隣の住宅との外見上の問題もありまして、これについてはやっぱり塗装が必要になってくると、特に鉄筋コンクリート、ブロック造の場合なんかは、そうしないと上から雨漏りがするということがありますから、そういうのを配慮して、今もう既にそういう方向でやろうということで、今実際やっておりますので、その辺は御理解いただきたいと思います。

○議長（小園實重君） 河野浩二君。

○1番（河野浩二君） 了解しました。引き続き頑張ってくださいと思います。私どもも何かアイデアがありましたら、出してまいりたいとこのように思います。

次に、人口減少対策2の中ですが、次に住まいの次は仕事だと思うんです。ふるさと南種子町に帰ってきたいが、仕事がないので断念している方もおられるやに聞いております。

その反面、仕事場は南種子町なのに町外から通勤しておられる方もおります。もちろん、どこに住まいしようがその方の権利、居住権でありますから強制できるはずもございません。また、それぞれ御事情もあってのことと推察いたします。

しかしながら、その方たちの中にもし、御自分、もしくは御家族にとって、南種子町での生活環境が整えば、南種子に住んでもよいという方もおられるやもしれません。その辺の情報確保が必要だと考えます。

まず、教職員で町外から勤務している方は何名かお伺いするとともに、その理由等がわかっているならば教えてください。

教育長お願いいたします。

○議長（小園實重君） 教育長、遠藤 修君。

○教育長（遠藤 修君） お答えします。

教職員の町内校区内居住については、人事異動対象者への住宅情報提供や教職員研修などの機会を捉えて、積極的に啓発しているところでございます。

県費の職員86名のうち町外居住者が19名となっています。内訳及び理由については管理課長に答弁させます。

○議長（小園實重君） 管理課長、小西嘉秋君。

○教育委員会管理課長（小西嘉秋君） お答えいたします。

南種子町内小中学校の教職員は、県費職員86名、町費等の職員が18名、合計104名ということになっております。

町外居住の県費の職員19名の内訳は教諭が12名、養護教諭5名、事務職員2名となっており、西之表市に6名、中種子町に13名、居住をしているところでございます。

その理由でございますが、出身が種子島ということで実家からの通勤が6名ござ

います。配偶者が学校の教員ということで、他市町勤務ということで、5名が町外から通勤をしているところがございます。その他8名ということになっているところがございますが、教育長が先ほど申し上げましたとおり、研修等で町内居住の啓発をしておりますので、1名は今検討をしている状況にあります。

以上です。

○議長（小園實重君） 河野浩二君。

○1番（河野浩二君） 実に86名の22%の方が、町外から出勤をしておられるということでございます。

何度も申し上げますが、強制ができるはずもありません。このことについてそのようにしようというわけではございませんので、勘違いはなさないようにしていただきたいと思えます。

また、職員の皆様、私の家の前は学校でございますが、日曜出勤も問わず、朝から晩まで、夜は12時過ぎてまでも電気がついて、こうこうと電気がついて、一生懸命教職員の方、もちろん役場職員の皆様方もそうでしょうけれども、そういう姿を何度も見ております。ですから、気持ちは十分にわかりますので、あれなんですけども、やっぱり私が児童生徒のとき、私の担任の先生、教頭先生、校長先生は特にそうですが、ほとんどの先生が地元に住んでくださっているわけです。そのことによって、放課後教育といいますか、そういうこともありまじょうし、子供に与える心理的影響と申しますか、その辺のほっこりとしたもの、教育の、その辺も地元先生がいらしてくれたら、ずっと一生じゃないわけでした、3年、4年ですので、できればいいのかな。その辺では町行政の先生に対する住まいであるとか、そういった生活環境、その辺は、ちゃんと整えてやらなければいけないんじゃないかなと、思っているところでございます。

教育長も赴任したばかりで大変でしょうけども、何かの事あるごとにやんわりと、お願いをしていただければありがたいなと思えます。南種子はとつてもすてきなところですので、教育長も若いころ南種子に赴任をされて、南種子で過ごされたことがあるやに聞いておりますので、よろしくお願いをいたしたいと思えます。

次に行きます。

島内最大規模の民間会社であります株式会社コスモテックの社員の皆様の中で、町外からの通勤者の方が何名いらっしゃるか、数字をつかんでいたら教えてください。そして、その理由と今後1人でも多く南種子町に居住していただくための施策はないかお伺いいたします。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） はっきりいって数字はつかんでおりません。

コスモテック、JAXAまたは教職員の方々に、他町から通勤されている中には、それぞれの御家庭の都合があると思います。それについては、教職員については、今教育長から説明があったとおりであります。本町の居住を強要するということは難しいところであります。

河野議員が申されましたように、定住人口をふやすためにも南種子町内で仕事をさせる方には、本当に住んでいただくということが、何といても一番重要なことだということは了知しておりますが、なかなか難しいというそういう中で、議員の提案、アンケート調査等も実施して、先方の職場の御了解も得ながら、個人プライバシーに問題ない形の中で、調査する必要があるのかなと思います。

それには、まずはコスモテックさんにつきましては、直接お話しをして担当課長、それから責任者の方にお会いしまして、この辺は改善できないかどうかというのは検討させていただきたいと、このように思っております。

○議長（小園實重君） 河野浩二君。

○1番（河野浩二君） なかなか民間会社で、そして、また個人情報ということでございますので、この辺の調査はなかなか難しいと思います。

私も友人が何名かおまして、その雑談の中では、そりゃ要するに公ではございませんので、要するに耳で流しながら聞くということなんですけども、私が知っている限りでは、コスモテックさんがつくった、自分でつくった住宅、そこは超満員だそうです。常に満員。この住宅は南種子町外の人しか利用ができないようです。南種子町に要するに家がある人はそこは利用できないと、そしたら、その住宅をつくったらまだまだ人が入りますねと言い方をその方に聞いたら、まあ、もちろんそうですと、要するに会社の住宅をつくと、すぐ満室になりますということでした。

これは、無理かもしれませんが、1個人、1企業にそういう補助金をあげるちゅうということは、非常に厳しいことでしょうけれども、例えば、3分の1補助しますから、その企業の寮をつくってくれませんかというようなことになると、それがペイするものであって、法的に適うものであればそういう方法もあるのかなというような気もいたします。

ちょっと無理な話かもしれませんが、今後、私もちょっとまた勉強して、そういう補助金があれば、ぜひ探して行きたいなと思います。世の中には、いろんな補助金があるそうですので、知っているのと知らないとは、雲泥の差でございます。課長の皆さん方も一生懸命そういう補助金を目を凝らして見ていただいて、1つでもいい補助金があれば、それを引っ張ってきて、この町の活性化に充てていただければなど、私はいつもそのように思っているところでございます。よろしく願いを申し上げます。

次に、人口減少対策の4でございます。企業誘致についてお伺いします。

過去において、一般質問で多くの先輩議員が取り上げている項目であります。

宇宙センターの立地町としては当然のことと思われませんが、なかなか思うようにならないのが現実であります。

誘致の成功例としては、日本液体水素株式会社がありました。あのころはまだまだ進出企業がふえるだろうと思っておりましたが、残念ながらそれが最後となっております。しかもその企業も撤退してしまい、寂しい限りでございます。

近々人事異動があるやに聞いているところですが、組織の改編でこの企業誘致、観光誘致並びに農林水産物取引等を営業するような係を設置できるか、できないかお伺いをいたします。

昔役場は住民を管理、帳簿を管理、名前を管理、年を管理、家族形態を管理、田んぼを管理そのような仕事ばかりしとけば、昔はよかったように思われます。あと、税金の収納ですね。だけど、今はもう、そのようなことをやっても、もう間に合いません。じゃ、民間でやりなさいよって、民間は全くお金を持っておりません。もちろん一部の2、3社は持っていますけれど、私も民間の中の1つですが、全く厳しい状況の中で商業、商売をやっているところでございます。

ここは、皆さん百数十名いらっしゃる、あなたたちに押しつける気は毛頭ございませんけれど、私どもも頑張りますけれども、ぜひとも頑張ってこの南種子が栄えるようにする原因は、皆様方が頑張ることだと、私は常に思います。皆様方はそれなりの力は十分持っていると思います。ひとつその辺も含めてよろしく願いをいたしたいと思います。

町長の所感があつたらちょっとお伺いができればと思いますが、どうですか。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 本町の企業誘致について、まず対する考え方としましては、基本的には進出いただける企業があれば、積極的に受け入れたいという考えでありまして、離島という地理的要因から、企業進出がなかなか難しい状況にあることは、御承知のとおりであります。

全国的には企業誘致の需要拡大は、まれにはありますが、本町で新たな企業進出は現在では皆無に等しい状態であります。進出しそうな企業もあるとの提言も、私の耳に届いております、これはトンミー大使からの提言もありますが、このようなことを含んで、各方面から、今意見も出ておりますことを収集してまいりたいと、こう考えておるところでございます。

今後ロケットの大型化も考慮しながら、ロケット関連企業への誘致といたしましうか、これなかなか難しい問題ではありますが、農林水産加工関連企業それから観光

関連企業との連携に努めまして、地場産業の振興を図ることが重要であると考えておりますので、今後とも各方面の方々との情報交換もしながら、誘致活動に取り組んでまいりたいと思います。

現在、三菱重工業がロケット打ち上げを執行しておりまして、今後打ち上げ施設大型化も予定されておりますので、その工事もまもなく始まりますし、大変画期的なことになるんじゃないかと思っておりますが、一つには、現状の役場の職員の体制からして、担当1人置いてやらせるというのは、はっきり言って不可能です。やっぱり企画課を中心に、総合農政課あるいは観光課、そのほかの課の皆さんが集中しながら、総体的には企画課のほうでこれは当たっていくということになりますと、進出しようとするその相手さん方、係長では、私はちょっとやっぱり責任の問題もありまして、無理な点もあると思いますから、そういう収集する中での対応をやっていきたいと。

これにはもちろん各担当課長、それから副町長もおりますし、またトップセールスというのものもあるわけでございますので、その辺を御理解いただきたいと思っております。

それぞれ議員の皆さんにおかれましても、引き続き継続的な情報提供を現在もいただいておりますが、ぜひその辺もよろしくお願いいたしたいとこう考える次第であります。

以上です。

○議長（小園實重君） 河野浩二君。

○1番（河野浩二君） よくわかりました。

それでは、企業誘致、関連でもう一つお願いを申し上げます。

高度情報通信社会であります現代では、インターネットは必須のアイテムであります。本町では現在ADSL回線が導入されておりますが、その速度、容量ともロケット関連企業におきましては、満足できない内容であります。企業進出できない理由の一つとして数えられているやに聞いております。

そこで高速通信回線であります光通信の導入についてお伺いしますが、予算の都合上、町単独ではとても実施が困難と思われまます。そこで、三菱重工業、川崎重工業様などのロケット関連企業と連携して、その導入を検討できないかお伺いいたします。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 議員の質問のとおり、大変難しい問題だということでありまます。

ノイズといいます。これは信号の乱れのことのようでございますが、これをそれぞれ今の状況では受けやすいと、こういったことから考えると、今言ったようなこと等が大きな問題になってくるということで、町民からもぜひやっぱり設置してほ

しいと。ということになりますと、何億円もかかるわけでありますから、これは企業進出とか、皆さんがこっちに来てJAXA関係含んで連絡をするということになると、そういう電波がさっとできるような体制というのは、非常に重要でありまして、このことについては長期的な展望に立って、重要課題として検討していく必要があると。

ちょっと簡単に結論は出ないと思いますが、はっきり言って民間の個人の人からも、この人がというような、失礼な話ですけれども、思うような人からの提案がありました。それは子供たちがよそにおったりするという点でいくと、緊急連絡ができないとかとかいうこともあるのかもしれませんが、申しあげましたように、重要課題として検討していきたいとこのように思います。

○議長（小園實重君） 河野浩二君。

○1番（河野浩二君） この光通信というのは、容量がとにかく大きいんです。大体このくらいしか送れないのを、簡単にこんくらいをばんと送れます。スピードがもうそれももう自転車と飛行機あんまりかな、くらいポンポンと帰って来るんです。それでパソコンやっている人っていうのは、タッチでやりますからそれがいらつくんです。たったの0.5秒なんですけれども、その辺がストレスとなって何か仕事が進んでいかないというようなことも多々あります。

ですから、今、西之表市が何年前にこの関連の補助金がちょうどありまして、光通信にしました。実に世の中が変わったようだというようなことでございます。

ですからぜひ、今、町長もおっしゃったように簡単にはできません。予算が大きいですから、これすぐつくってくれとか、そんな無体なこと私も申し上げません。

ですから、だけど、多分、三菱重工様であるとか大きなロケット関係、それから今後、外国人の方がたくさんいらっしゃいます。そういう方たちには絶対必要なアイテムだと、私はこのように思いますので、じっくり、ゆっくり、余りゆっくりゆっくりすると、今度は技術が進んでいきますので、今度は、次のにということになるかもしれませんが、この光通信については、ぜひ検討をしてもらいたいと思います。

余り時間もないのでちょっと急ぎます。

次に、今後、重要な行政課題となります地域包括ケアシステムの構築について伺います。

厚生労働省は、団塊の世代が75歳以上となる2025年をめどに、重度な要介護状態となっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい、医療、介護、予防、生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を2017年度までに、全ての市町村での実施を義務化しております。

そこで伺いますが、本町の地域包括ケアシステムの構築の担当課及び係を教えてください。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 担当課長から説明させます。

○議長（小園實重君） 保健福祉課長、高田真盛君。

○保健福祉課長（高田真盛君） 地域包括ケアシステムの担当課につきましては、保健福祉課の介護保険係にあります包括支援センターを中心に事業実施を行うこととしております。

○議長（小園實重君） 河野浩二君。

○1番（河野浩二君） わかりました。

冒頭で述べましたとおり2017年度までに、このケアシステムの構築を完成し、実施を義務化されております。現在の南種子町の進捗状況をお伺いたします。

○議長（小園實重君） 保健福祉課長、高田真盛君。

○保健福祉課長（高田真盛君） この事業の準備に入ったのは、全国全市町村、平成27年の4月からということになります。それまでに従来の体制が整ったところにつきましては、平成27年4月からこのシステムを構築してやっているところはあります。

島内では西之表市のほうが既に実施しております。あと、中種子町そして本町においては、平成29年度からの開始を目指しているところであります。

現在の状況ですが、今いろんなどういふ事業が本町でできるかとか、そういう形で、今事業とかの計画を立てている段階です。その中で、できるものとしましては、高齢者等の居場所づくりとか、そこに集まっているいろんな会合だとかできる拠点をつくりたいということで、サロンというのを準備をしているところです。

現在、もう西海地区においては、既に実施して事業を行っているところです。あと、今年度につきましては、平山地区と荃永地区を中心につくり上げればと思っております。これについては、全地区8地区つくった上で、最終的には平成29年から事業実施になろうかと思っております。

とにかく今、あの事業始まった段階ですので、数字的に、何%くらいの数字というのはちょっと言えませんが、当然義務づけられておりますので、それに向けていろんな計画、スケジュールを立てながら、やっていきたいというふうに考えています。

○議長（小園實重君） 河野浩二君。

○1番（河野浩二君） 私が簡単に調べたところ、今行政内でこのシステムにかかわっている方が、これはやっぱり事務方総括というようなことなんでしょうけど、課長、課長補佐、係長、この方たちは多分総括だと思います。それにケアマネジャーが

3人です。保健師が1人。そういう面でおると技術職が4人ということでやってようでございます。

町長、あと2年後に迫ってるわけですが、若干事務方が不足してるような気がせんでもないんですけども、今から膨大な事務が発生すると思いますが、その辺どのようにお考えでしょうか。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） それについては、それぞれ定められておりますので、おくらしているということもわかっておりますが、それに対する人員というのは当然必要かと思うんですが、やはり一つは能力の開発等も含んで、全体的には、総合的にはそういうことをしないとイケないんじゃないかという思いもしておりますから、そういう中で、やっぱり事務がおくれないような対策は講じたいとこのように思います。

○議長（小園實重君） 河野浩二君。

○1番（河野浩二君） このことは、私も勉強中ございまして、まだまだ全く皆様方よりも知識ございません。今から一生懸命講習等も受けて、しっかりと、このことは勉強しないと、私ども自分のことになってきますので、しっかりと勉強してこの包括ケアシステム、南種子で立派な包括ケアシステムを構築ができればなと思っております。

また、7月9日には、町の介護予防大会も開催されるということでございまして、住民各位の皆様方に多数の御参加を期待したいと思っております。

次に、このほど発表がありました、8月16日午後10時01分に打ち上げ予定のH-II B ロケット5号機打ち上げにおける観光客の誘致についてお伺いします。

時期が夏休みのお盆明け、そしてロケットも日本最大のH-II B型であります。まさに本町だけのオンリーワンイベントといっても過言ではないと思います。

観光行政にとりまして、この機会を最大限に利用しなければならないと考えますが、御案内のとおり、宿泊施設の確保が大きなネックとなっております。

そこで、旅館組合等関連する団体の理解を得ることを前提にして、町トレーニングセンター、中央公民館の一般開放を行う考えはないか伺うとともに、この打ち上げを積極的にPR、宣伝活動する施策はないか、お伺いをしたいと思います。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） この件については、旅館法との関係いろいろあります。それから保健所との関係もございまして、中身について、観光課長から説明申し上げます。

○議長（小園實重君） 観光課長、坂口浩一君。

○観光課長（坂口浩一君） 御説明申し上げます。

このロケット打ち上げの見学者の対応について、以前の議会でも御質問がありました。今、町長も申し上げましたとおり、公共施設の一般開放については、旅館業法等の担当部署である熊毛支庁の健康企画課、西之表保健所が担当しておるんですが、確認を以前も行いました。

これまで、数回調査を行ったわけですが、県のほうから、こういうふうな公共施設、体育館など、それから公民館とか、個人の住宅なども含めてですが、本来は宿泊を目的としているものでないですので、その使用については島内の旅館、ホテル等が満室でやむを得ない場合であることというふうに指導を受けたところでございます。

また、公共施設開放とか民泊がありますよというのも事前に宣伝したり、周知することは、民間業者とのトラブルになりますので、十分注意をしてくださいということでございます。

河野議員が申しましたとおり、こういうふうな受け入れをするということも、おもてなしの一つであろうというふうに思いますので、今後県の指導を仰ぎながら、前向きに調査、勉強してまいりたいというふうに考えております。

○議長（小園實重君） 河野浩二君。

○1番（河野浩二君） 今後、担当課、種子島観光協会そして旅館組合とも相談しながら、1人でも多くの島外者が、打ち上げを体感することができるよう、私も引き続き努力をし、勉強してまいりたいと思います。

時間がなくなりました。最後の質問です。ちょっと走りになりますが申しわけありません。よろしく願いいたします。

最後に、町選定文化財、選定文化財の次、町指定文化財というのがございますが、町選定文化財となっております「日悦上人の墓及び遺品」につきましてお伺いします。

日悦上人は今から550年ほど前の人で、上中河内神社の祭神であります。

世は室町時代第10代種子島家当主幡時の弟で、出家して喜道と名乗り西之表の律宗大会寺の住職となりました。幡時の死後後継者がいなかったため、喜道は幡時の子を宮崎から連れてきて第11第当主時氏としました。

ところが、それまでの種子島の宗教は全てが律宗でありましたが、時氏はそれを法華宗に全島改宗したため、それに反対して河内に隠遁したのであります。それからの上人は河内の人々のために、村人とともにになり、荒れ地を開墾して畑をつくり、山や岩を掘り開いて水利を導き、水田1町8反余りを開きました。また、郡川両岸にキンチク竹や孟宗竹を植え、川の氾濫を防ぐとともに、それを利用した竹細工の指導もしたと伝えられております。

このように歴史的価値はもとより、その業績も偉大でありますので、現在の選定文化財から町指定文化財に格上げできないか伺うとともに、上中本町集落の故河野長平氏御家族所有の上人の法衣並びに古文書の巻物、これは漢文でございます、ぜひ口語訳をしてもらいたいと思っておりますのでございますが、「日悦上人伝」を譲り受けて、町で保存できないかお伺いいたします。

○議長（小園實重君） 教育長、遠藤 修君。

○教育長（遠藤 修君） お答えします。

議員御指摘の日悦上人の墓及び遺品等につきましては、町選定文化財となつているところでございます。

この文化財の町指定の件に関しましては、町文化財保護審議委員会の中でも、検討課題として取り上げられているところでございます。

その内容についてでございますが、水田を開いた大変すばらしい功績を残しておられることは、確認できているところでございますが、町文化財審議委員の中でも関係資料の整備や河内神社近くの他のいわれのある土盛りの調査など、検討課題として取り上げられているところがあります。

今後これらの課題を解決しながら、この文化財の町指定の件に関しましては、墓及び遺品、業績等を含めまして、一括指定に向けて引き続き検討してまいりたいと思っております。

また、河野家保存の法衣等に関しましては、寄贈受け入れの所定の手続を行い、町で譲り受けて保管庫に保存することは可能であります。

○議長（小園實重君） 時間が終了しました。

これで河野浩二君の質問を終わります。

○議長（小園實重君） ここで暫時休憩します。再開をおおむね11時10分とします。

休憩 午前11時01分

再開 午前11時08分

○議長（小園實重君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、柳田 博君。

[柳田 博君登壇]

○2番（柳田 博君） まず、冒頭ではありますが、同じ熊毛地区住民として、5月29日正午前に爆発的噴火があり、避難を余儀なくされました口永良部島の島民の皆様には衷心よりお見舞いを申し上げるところであります。

また、このたびの統一地方選挙で、町民の支持をいただき議会に送っていただき、

地方議員として町民の声を議会にということ、私がこれより質問することはいささか緊張しておりますが、住民要求ということで、よろしく願いをいたします。

まず1番目に、島間古川川の二級河川改良工事についてであります。

平成16年11月、島間地区から上域の長時間の大雨と満潮が重なったため、河川が氾濫し、古川川の下流域の人家が床上浸水に見舞われ、住民を背負って救出したことはまだ記憶に新しく、ここ最近の雨量は天気予報などを見ている、予想ができていく状況にあり、下流域で少量の雨量であっても、上流域が集中的な豪雨であったら、河川の水位は危険水位を越すことは、最近でもまれではありません。

河川域で暮らす住民は、高齢者が多く不安と恐怖は日夜を問わずはかり知れないものがあります。

設計図もでき、測量についても一部は済んでいながら、一人の地権者、鹿児島市の自宅へ、関係者多数の協力をいただきながら再三出向き、願いをしましたが、同意を得ることができず、計画は棚上げ、予算は返上することになりました。県のほうへ再び計画・実施することができないか、町長の答弁を求めます。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

[名越 修町長登壇]

○町長（名越 修君） 柳田 博議員の質問にお答えしたいと思います。

まず結論を申し上げます、ちょうど4年前に、私の在任期間中でありましたが、申請したその図面で、1週間ほど前に土木部長が私のところに図面を持ってまいりました。

見てみますと、そっくりそのままございましたから、そのことによって、県としてはそういう考え方で進むということはわかりましたので、この年度、時期の問題については、早急に実施することを前提として、私としては用地買収とか、それには積極的にかかわるということを申し上げましたので、そのようなことであるということ、まず申し上げておきたいと思います。

詳細な事項については、きちんとした図面もでき上がっておりますから、だからずっとカーブの、最初、図面見られたどうかわかりませんが、あのときつくった図面は、上のほうのカーブから真っすぐ、ほとんど真っすぐ行って、ちょっと橋がありますよ、あれは古川橋というね、古川橋のところで、急に来た水が圧力で上に上がるんじゃないかということ、私は申し上げましたところ、これについては、きちんとそれは真っすぐであれば、先に通るということで説明がありましたので、また具体的に地元に説明する段階で、その辺については、県のほうから詳しく申し上げるんじゃないかと、こういうことで御理解いただければと思います。

○議長（小園實重君） 柳田 博君。

○2番（柳田 博君） 次に、古川川の土砂の除去の実施についても早急な対応をお願いしたい。

4年前に、土砂を撤去はされておるんですけども、その後また堆積をしてる状況であります。これも同じように、県のほうにお願いをしていただきたいというふうに思います。

○議長（小園實重君） 建設課長、古市義朗君。

○建設課長（古市義朗君） 柳田 博議員の質問にお答えいたします。

土砂等の撤去につきましては、これまでも現地把握をいたしまして、要望等受けました場合は熊毛支庁のほうにもお願いをし、寄り洲等の除去を行ってきたところでもあります。

今後、古川川の改修に向けましては県の管理河川でありますので、河川改修事業等協議いたしながら、対応してまいりたいと思っているところでございます。

なお、河口付近の砂の堆積につきましては、現在施工中の島間港防波堤の西のケーソンの中詰材として利用するというので、支庁のほうからも伺っております。

以上でございます。

○議長（小園實重君） 柳田 博君。

○2番（柳田 博君） 次に、河川の改良が計画・実施されるまでの間、川底の流水の障害になっています石や川底の土砂の除去も、お願いいただければなというふうに思うところでございます。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） この件については、私はまだ、その現場を確認しておりませんから、現場を確認して、部長のほうにきちんと伝えてやっていただきたいと、こういうことを申し上げるつもりにしておることを御了解いただきたいと思います。

詳細は課長から説明します。

○議長（小園實重君） 建設課長、古市義朗君。

○建設課長（古市義朗君） お答えいたします。

町長も申しあげましたように、住民等の要望につきましては、建設課を經由いたしまして、支庁のほうにもお願いをしてまいりますと、そういうところでございます。

○議長（小園實重君） 柳田 博君。

○2番（柳田 博君） 早々の対応をしていただいているということでありがたい、地域住民は非常に安心してるところじゃないかなというふうに思います。私も地元に戻って、それなりの報告をしておきたいなというふうに思うところでございます。

次に、県道588号線の全線開通に伴う、弊害解消についてであります。

平成24年7月、県道588号線が全面開通となり、道路輸送面が大幅に改善。島間港での陸揚げ、下しの車両、または島間を経由する車両もコスト・利便性ともに改善されたと聞くところであります。

ところで、島間仲之町集落内には2軒の商店と民宿があり、集落・地区民が日常的に利用することはもちろん、他町・他県から仕事や旅行などで、島間港へ立ち寄った方々からも、多く利用されておりました。

県道が全線開通するまでは、この2軒の商店と民宿の前を町道が通っており、利用者が車で来た際は、道路脇の駐車スペースに車をとめて、スムーズに商店を利用することができておりましたが、県道が竣工するや否や、商店の前を通っていた町道の片方を通行どめにしてしまい、そのために通り抜けができない状況となり、その不便さから客足が徐々に減少し、ここ最近では、全く売れない状況になっております。死活問題であると言ってもおります。

県道との取り合いもあり、交通事故を起こさせない道づくりということで、十分承知しておりますが、この2軒の商店が県道が開通したことを理由に、経営不振に陥ることがあってはならないと思います。

町道の改修をお願いいたしたいと思います。

町長の答弁をお願いします。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） そういうような深刻な問題を、やっぱり即解決するというのが行政の役割でございますから、これは県との関係もありますけれども、そういった県道の改修をやる段階でのいろんないきさつがあつて、向こうも数年おくれた経緯がありますし、その後どういふようなことで、ああいうことになったのかも精査し、この辺については担当課長含め、私が直接熊毛支庁にまいりたいとこのように思います。町のすべきことについては実施します。

○議長（小園實重君） 建設課長、古市義朗君。

○建設課長（古市義朗君） お答えをいたします。

議員御指摘の路線につきましては、国道58号線、それから臨港道路との改良計画等において、これまで交差点協議等踏まえて県のほうの事業で完成している道路であります。

基本的には交通安全上、現在の状況で改良できない状況にあります。この場所等におきましては、公民館等で、町道敷でございますので、花園等利用してもらえないかと考えているところであります。

この付近の全体的な交差点の安全対策面からいたしましても、現在の状況にかかわるところは、現在のところございませんけれども、住民の方の御意見につきまして

は、御説明もいたしながら、対応してまいりたいと考えております。

○議長（小園實重君） 柳田 博君。

○2番（柳田 博君） 住民感情で、そういうような格好で、どうしても売れ行きが落ちてどうにもならんということでございますので、また住民とも十分相談した中で、公民館上げて陳情するかどうかというのを検討していくような格好に、地元としてはなるんじゃないかなというふうに思っております。

これからも町長の答弁どおり、緊急性を要するところでありますので、ひとつよろしく願いをいたしたいというふうに思います。

次に、町内集落の里道舗装についてお伺いをいたしたいと思います。

町内の里道の舗装については、全般的によく整備がなされてきたと思っておりますが、年数が経過している里道については、施工時の技術不足・予算の見合い、また最近では大型農業機械の往来によりコンクリートに亀裂が入り、そのため下地が雨水などの侵入で洗い流され、凹凸がひどくなり、小型の機械、耕運機とかバッテリーカー、自転車、人などの通行の際、非常に危険な状態が生じております。受益者負担で施工しなさいということはわかりますが、しかし、集落内も高齢化が進み、労力が減少しているために、このような里道については、業者対応の工事を実施する考えはないか、答弁を求めます。

○議長（小園實重君） 建設課長、古市義朗君。

○建設課長（古市義朗君） お答えをいたします。

里道舗装につきましては、基本的には原材料を支給いたしまして、地元公民館等で施工いたしている制度であります。これまでの実情に合わせまして、8センチメートル厚の試算を、現在10センチメートルでの支給といたしております。

業者の委託のことにつきましては、状況を勘案いたしながら、住民で施工困難な箇所であれば、調査をいたしまして、町当局といたしましても、協議をいたしながら、今後検討してまいりたいと考えております。

○議長（小園實重君） 柳田 博君。

○2番（柳田 博君） このことについても、今、校区単位、それから集落単位で対応をしているところであると思っておりますので、私にも、こういった声がかかったということで、質問させていただきましたけれども、これから集落内で検討し、また陳情書上げるなりするような対応をとっていきたくないというふうに思っております。

次に、町長の政治姿勢についてお聞きしたいと思います。

私は以前、教育委員会に席を置いたこともあり、私自身も強く思っていることでもありますので、お聞きしたいと思います。

少子化問題・子育て支援対策の観点から、2点をあわせて考えをお聞きしたいと

思います。

まずは、保育園児の保育料の減額、20%程度はできないか。

現在の保育料は、国・町の基準があり、市町村民税、所得割合課税額の区分・12階級で算出されておるようでございます。

この制度の算出により、世帯ごとにかかなりの保育料の格差が生じております。あるサラリーマン世帯では、妻の働いたパート代のほとんどは、保育料に支払わなくてはならない状況だということです。

片や、自営業の世帯では、資本や償却資産等が大きく、減税の対象となっていることや、基幹産業においては、その出来高が天候に大きく左右され、年度ごとに収入も違うなどの理由から、納税も緩和された上に、保育料は無料、もしくは安い料金で済まされているようであります。

このような不公平・不平等な状況では、現在育児をしている家庭において、子供を保育園に預けようとは思わないと思います。実際、今年度は保育料の関係で、保育園から幼稚園に移動した世帯が多かったと聞いております。

次に、町長は、子育て支援対策として小・中学校の給食費の無料化を公約としておりますが、無料化されれば全ての児童・生徒が安心して平等に給食を食べられると、保護者としては大変ありがたいと思っております。

ただ、気になることは、財源は税金であるために、完全無料化となるとその負担は大きく限界があるのではないのでしょうか。また、そうすることにより、他の福祉サービス事業などが縮小・カットされるのではと懸念します。

私は思うのですが、口にするもの、食事はただではいけないと思う。今、学校現場では、残食や食べ物の好き嫌いについて大きな問題となっております。保護者たるもの多少なりとも給食費の負担をし、毎日御飯が食べられるありがたさについて、家庭で食育することは、親の義務だと考えます。

この2点についてお考えを聞きたいと思います。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 保育料の減免についてでございますが、保育料の設定につきましては、世帯での所得状況に応じて保育料の上限額を定めております。これは国が定めているわけでありまして、本町では、当然国の基準に沿って、所得による階層別の設定をしているところでございます。

そこで、国においては、本年度から5歳に限って保育料の無償化を実施することとしておりましたが、財源の確保等が難しく本年度の実施は見送られたと、こういうように聞いておりますが、私としては、その回って歩く段階で、どうしてもやっぱり無料化してほしいと、町長は、子育て支援を含んで、そういう提案をしてるん

じゃないかという意見が強かったことも含んで、この辺については、国・県の動向を踏まえながら検討をさせていただきたいと、このように思っております、これから申し上げますと、それをやっぱり考えるという方向だということだけは、御理解いただけるのかなと、こう思うところでございます。

子育て支援の件についてでございますが、憲法第26条については、義務教育はこれを無償とすると明記されておるわけでありまして。この憲法の精神に立てば、学校給食を無償とするということは、本来あっていいんじゃないかというのがありますし、私もそう考えた次第であります。

何よりもやっぱり子育てをするということで、なかなか表現は悪いんですが、収入のある家庭とそうでない家庭と、いろいろ学校であるわけでありまして。そういうようなことで、国の基準に基づいて給食関係やっているわけでありましてけれども、私としては、減少の歯どめにならないかということを考えると、やっぱりこれを実施する方向ということで考えておりますので、学校給食の無料化については、私としては、即できませんが、3年をかけてそのように実施をしていきたいと思っております。ということで御理解いただきたいと思います。

○議長（小園實重君） 柳田 博君。

○2番（柳田 博君） 今、給食費は無料化にしていくという確定をしたようなところでありますから、これもやっぱり、今5歳児の保育料の無料化というのが、計画はされたということでございます。しかしながら、これからやっぱりこういった子育て、少子化問題から鑑みて、こういうのは無償じゃなくても多少なりとも減額、減免をしながら子育て、それが子供の少子化対策をして、図っていくというのが、一番適当じゃないかなと私は思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

次に、教育長にお聞きしたいと思います。平成27年5月から毎月第2土曜日が土曜授業として実施されておりますが、今年度、改正の背景・主旨については皆さん御承知かと思っておりますので、省略いたしますが、県教委の「土曜授業の実施に係る学校教育法施行規則一部」の中に「学習機会を提供する方策は設置者の判断により実施してよい」とあります。

そこで、私は、ぜひ親子で取り組める体験学習を、年1回程度は取り入れていくべきではないかと、提案するところでございます。

親と子が共通の体験をすることによりきずな深め、また地域ボランティア精神の養成、南種子町の豊富な自然環境の勉強などの観点から、海岸の清掃活動などを行い、自分たちの住む地域の海、磯にはいろんな動・植物が生息し、食材としても豊富だということも子供たちに知ってもらいたい。私自身も子供のころは、友達と海に行き、ナガラメ、ミナ、魚をとって帰ったら、親からも喜ばれたものでした。

そして、彼らも大人になったとき、南種子町のことを後世に伝えていってもらえればと思っております。

実施するに当たっては、それぞれの関連機関や団体と協議を図り、地域の住民にも開放・実施する考えはないか、教育長の考えをお伺いいたします。

○議長（小園實重君） 教育長、遠藤 修君。

○教育長（遠藤 修君） お答えします。

土曜授業は、平成25年11月29日に公布施行された学校教育法施行規則の一部改正により、学校を設置する教育委員会が、必要と認める場合に実施できることとなりました。

鹿児島県内では、10月までに全ての公立小中学校で、土曜授業が行われる予定となっております。

本町においては、5月から原則月1回、第2土曜日に土曜授業が行われているところがございます。その目的は体験活動を通じた生きる力の育成と学力の向上でございます。本町の各学校においては、総合的な学習の時間等に、老人クラブやPTAなどと連携した取り組みが行われているところであります。これまで同様、このように推進してまいりたいと考えております。

○議長（小園實重君） 柳田 博君。

○2番（柳田 博君） 今の答弁のとおりだと思います。

現場でも、普通勉強をするんじゃなくて、体験学習を通じて人間形成をつくっていくということでございますので、これからも私のこの質問したとおりに進めることが、なかなか容易じゃないかと思えますけれども、こういったものも地区住民は思っているんだということを考えながら、学校教育に取り組んでいただければというふうに思うところでございます。

大変時間が短こうございますけれども、これで私の一般質問を終わらせていただきます。

○議長（小園實重君） これで柳田 博君の質問を終わります。

ここで暫時休憩します。再開を午後1時とします。

休憩 午前11時33分

再開 午後 1時00分

○議長（小園實重君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続行します。立石靖夫君。

[立石靖夫君登壇]

○8番（立石靖夫君） 先に通告しておりました一般質問について、議長の許可をいただきましたので、質問をさせていただきます。

先般執行されました統一地方選挙において、四たび町民の皆様の御支援をいただき、町議会議員として当選させていただきましたことに対し、心から感謝申し上げますとともに、その責任の重大さを痛感し、町民の代弁者として、執行当局の行財政の運営や事務処理、事業実施が適正に、しかも公平公正に効果的になされているか批判し、監視するのが議会の使命であるので、その任務に傾注してまいります。

突然、町長選挙に立候補し、勝ち抜いた名越町長においては、選挙前の4年間発行した、名越おさむ後援会チラシで選挙始まって以来の誹謗中傷に終始したことは、前回と同じく町民を混乱させたのではないのでしょうか。

そこで、名越町長は前町長の政策について、批判はよしとしても、二元代表制の議会に提案された議決に対してまで、前6人の議員を誹謗中傷したことは、「公正、公平で議会の意見を尊重する」と町民に訴えた名越町長の政治姿勢について、正しい情報を町民に伝えるため、あえて質問をいたします。

まず最初に、財政全般についてであります。

名越町長は、選挙期間中、基金は取り崩され貯金はなくなっている。南種子町は危ないと後援会だよりで町民に配布してきました。名越おさむ後援会だより3号では、種子島1市2町の中で、負債の返済率が最悪に転落、基金残高が8億7,026万円減少していると、名越町政の最終年度と梶原町政の比較を掲載しているが、その基金の減少及び返済率が悪いと記載した理由は。また、あなたの発行した後援会だより2号の5事業の「無駄遣い」の理由について、町政を担当する名越町長の答弁を求めます。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

[名越 修町長登壇]

○町長（名越 修君） 立石議員の御質問にお答えいたします。

4年間1町民でありましたので、私の考え方は、町民としてやってきたことに対するひとつ後援会等を通して、町民に知らせたことは事実でございますので、それをとにかく言うことではありません。誹謗中傷はしたつもりはないわけでございます。

決定した事項についての意見の違いというのがありますから、その違いが何であったかということ、を御理解いただければいいんじゃないかと思いますが、特に、今の質問の中で、河野浩二議員からの御質問と同様の内容になりますが、詳細は割愛させていただきますけれども、平成22年度末の基金残高が25億5,090万5,000円となっております、26年度末の基金残高は19億6,137万7,000円となっておりますの

で、4年前と比較しますと5億8,952万8,000円の減少となっているということです。

柳田元町長が、私の前の町長が2億8,000万円程度の基金を積んでおりましたし、私とその基金を上回る5億円幾らのそれを、基金を、5億8,000万円くらいを積み立てたわけでありますので、財政をずっと担当してきた私としては、それは当たり前のことではありますが、そういうことの違いとして述べたことでもあります。

これは担当課長のそれによりますと、特別会計への法定外繰出し等による財源補填、あるいはまた、国の支援制度がない中で、つまり事業費がふえているということではありますが、老朽施設の解体でありますとか、そういったことに積極的に事業したことによって、基金の減少の要因になっているというそういうことでございます。

また、基金の処分につきましては、条例で規定されておりますとおり、経済事情の著しい変動等により財源が不足する場合は、緊急に実施することが必要となった建設事業の経費等財源に充てるときなどに、処分できるものと認識しております。

よって、私としましても一部基金を活用しなければ、平成27年度につきましては、わずか820万円、今回少々出しておりますが、事業の計上しかになっておりませんので、そのあと3億円余りがまだ査定をしていないという状況を考えますと、どうしても基金を一時的に取り崩さなければならないと思っておりますが、その辺については、取り崩した基金については、それぞれ町の財政計画というのがありますから、それに従って私としては、ちゃんと積み残しをするというのを大前提に掲げて、財政運営をやっていきたくてこのように思っているところでございます。

○議長（小園實重君） 立石靖夫君。

○8番（立石靖夫君） 町長、私はそういう質問はしていないんですよ。あなたが後援会だより2号の5事業の無駄遣いを掲載してますから、町長を経験をした方が、この町民のためにやった事業が無駄遣いだという理由を求めたわけですよ。だからその質問に対して、町長は答弁しませんから、いいですが、次に進みますが、名越町長、基金の取り崩しは、先ほど町長が説明したとおり、特別会計財源不足を法定外繰出金として財源補填や国の支援制度のない老朽化施設の改修工事や老朽化した危ない施設の解体工事を行ったことが理由と私はもう認識してるんですよ。

基金残高のピークは平成22年度、25億5,000万円は民主党の政権時代に国の経済対策に伴う財源支援策により積み増しをして、25億5,000万円となったわけです。だから前々の町長からすると19億から21億、2億円までの間で行ったり来たりしてるわけですよ。

だからその辺をそのように町長を経験した人が、このようにチラシでしたのかど

うか、また本町の実質公債費比率については、同僚議員の質問に総務課長は答弁をしましたが、11.2%ということであります。平均18%以上が国・県の許可をとってやるわけですが、平成20年ごろは西之表市、中種子町それから旧屋久町がこれの対象になって、それから、その3町については、一生懸命削減をして、事業、工事費も削減をしながら、調整をしてきたわけで、その基金減少の理由がどのようになっているのかとどうかと、私は、町長は把握をしているのかどうか、ほかに基金減少の理由があれば、総務課長の答弁を求めます。

○議長（小園實重君） 総務課長、小脇秀則君。

○総務課長（小脇秀則君） さまざまな要因があると考えておりますけれども、主な要因といたしましては、立石議員がおっしゃってるとおりだと認識をしております。

○議長（小園實重君） 立石靖夫君。

○8番（立石靖夫君） 次に、中種子町、西之表市は負債の返済率が改善をしているのに南種子町だけはなぜと、このチラシに書いております。返済率という文言があるのかどうか、私は知りませんが、返済額が多く改善されていないということであれば、その理由は何であると思うか、名越町長の答弁を求めます。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 部分的に数字を説明するというのは、私としては非常に困難であります。基本的にはやっぱり、最初申し上げたと思うんですが、やっぱり無駄遣いが多いということがあるわけですよ。

私は、例えば、今必要なものは何をすればいいのかというそういう中で、総務課長は説明しませんでした。平成23年度庁舎及び研修センターの改修工事、2,324万円、公営住宅等の補修工事、5,340万円、それから24年度は庁舎及び研修センター等改修工事、4,000万円、旧郷土館の解体工事、1,600万、多目的交流施設等の一部解体工事、380万円、清掃センター補修工事、3,542万円、公営住宅補修工事、3,549万円、町立武道館改修工事これが1,946万円、社会教育施設等解体工事、5,418万円、それから中央公民館調理室の改修工事が1,092万円、25年度になりました。特定教職員住宅の改修工事、2,577万円、公営住宅等の補修工事、6,572万円、旧西野中学校校舎解体工事、2,646万円、旧南種子高校のプール解体工事、1,030万円、西之運動場の造成工事があります。これはいろいろ理由があるんですが、私たちが中学1年生のとき、もっこで運んであの校庭を広げて、それで一番奥の校舎をつくりました。今建っていたら、農業の使用としてどれくらい役に立ったかということを考えるので、私は無駄遣いと判断しているわけであります。

その関係含んで解体費用もあります。運動場をわざわざまた、3,000万円かけて造成しております。トイレまでが1,468万8,000円でありまして、合計こういった

ことを考えますと、4億6,484万8,000円というのが全部無駄遣いじゃないです。公営住宅修繕も必要ですし、教職員住宅のそれも必要ですが、ものを崩すという点で、今後どうなるかというようなことを考えてやったほうがいいというのは、私の結論でございますので、そういう点での無駄遣いという表現を使ったんじゃないかとそのように思います。

○議長（小園實重君） 立石靖夫君。

○8番（立石靖夫君） 町長、町政を預かる町長としては、マニフェストによって、やはりその町長が政策を担当するわけです。だからそれに従って議会の同意を得てやってるわけですから、それはそのときの町長が判断をして、どうしてもこの解体工事は、青少年の非行の場所となるから解体をしなければならないという判断で、恐らくそういうことはやったんでしょ。私は、そのように思ってこの議会に参加をして、町民のためであれば賛成をしようということやってきてるわけですよ。

だから、名越町長が全く素人なら、私わかりますよ。4年間町長を担当してきた町長がそのようにしてやった事業を無駄遣い、それに賛同した議会を批判をするそういうことがあっていいのかなと、私は思ってますよ。

名越町長、この債務が非常に、起債が多くなってるということではありますが、名越町長は、この要因は、あなたが町長時代の平成21年から22年に建設したキャトルセンター、堆肥センターに関する事業、総額6億200万円、これは平成22年度から26年度5カ年間の決算で8,700万円の赤字、平成20年から22年度継続事業のリサイクルセンター、管理型最終処分場、平成21年度事業旧焼却施設解体工事総額13億8,000万円、平成21年度から23年度継続事業、中平小学校新築工事、9億3,000万円等が4年間の大型事業費合計29億1,200万円であります。町債発行額、平成20年度臨時財政対策債、一般的な町債合計3億3,060万円、21年度合計6億6,290万円、22年度合計13億5,980万円、23年度5億9,752万8,000円で、うち中平小学校建設工事約3億1,600万円が含まれております。

名越町長、あなたの町政担当以前の南種子町中学校建設償還金、利子で平成23年から26年度分1億6,300万円で、名越町長時代の大型事業起債償還が始まっています。御承知でしょうか。名越町長、平成21年度から26年度までの事業ごと、年度ごと、償還金の答弁を求めます。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 今、立石議員からそれぞれ意見がありましたが、私は、南種子町が、将来どうなるのかというのを前提にやったつもりであります。

キャトルセンター、堆肥センター、本町の場合はやっぱり農業が第一なんですよ。農業をするには、やっぱり堆肥を入れないといけないと。その他、今現状どうなの

かという、中種子町と違ってほとんど堆肥は使われておりませんでした。金肥は多かったわけです。農協や鹿児島からの堆肥を買ってやっておりましたから、これについては、マニフェストは農業振興ですから。

○8番（立石靖夫君） 町長、それは、私の質問に答えてください。

○町長（名越 修君） ちょっと待ってください。それはあなたの質問に、今答えないといけないんですよ。これはちゃんとやるということ、つまり、将来必要であったと、キャトルセンターはその当時何ととっても、町の生産で第一時的にそういう示しておりましたから、今後さらに牛は必要だという、それでキャトルセンターと堆肥センター。

中平小学校は老朽化して危険校舎だったんです。それを改善するには、やっぱり長くもてる木造でやったほうが良いと、そういう判断がありましたので、町有林、これは私が担当のときに植えた杉ですが、昭和36年ごろ森林組合と兼ね合わせて、辞令もらっておりましたから、それを植えた杉を伐採して、全部完全に腐食防止でやって、町有林だけでつくった中平小学校です。これは100年もちます。

こういうことを考えて、将来どうなのかということでの施設を考えてやった経緯がございますので、それから、もう一つのごみ処理施設は。

○8番（立石靖夫君） もうわかっているから。

○町長（名越 修君） いや、あなたはわかっていないんですよ。

○8番（立石靖夫君） わかってますよ。

○町長（名越 修君） これは議会で、どうやったんですか、4年も5年もやったわけですから、そのことを踏まえて。

○議長（小園實重君） 名越町長、質問者は持ち時間の関係もあってでしょうから。

○町長（名越 修君） はい、わかりました。

○議長（小園實重君） 答弁をお願いします。

○町長（名越 修君） 総務課長からさせます。

○議長（小園實重君） 総務課長、小脇秀則君。

○総務課長（小脇秀則君） お答えをいたします。

主な大型事業について各年度別の元利償還金を御説明をいたします。

まず、畜産施設整備事業キャトルセンター、堆肥センターについてでございますが、平成22年度が97万円、23年度が380万7,000円、24年度が380万7,000円、25年度が2,407万2,000円、26年度が4,433万7,000円となっております。

次に廃棄物処理施設整備事業リサイクルセンター最終処分場についてでございますが、平成21年度が912万円、22年度が1,159万1,000円、23年度が1,159万1,000円、24年度が7,284万8,000円、25年度が7,972万1,000円、26年度が7,972万1,000円とな

っております。

次に、中平小学校校舎建設事業については、平成23年度が166万9,000円、24年度が283万4,000円、25年度が393万9,000円、26年度が2,524万2,000円となっていてころでございます。

○議長（小園實重君） 立石靖夫君。

○8番（立石靖夫君） 名越町長、私は、町長がやってきた仕事がいけないということじゃないんですよ。

あなたがこのチラシに起債が多くなっていると、償還金が多くなってるということを書いてるから、だからその理由はこういう理由でしょうということでは聞いています。だからこういう正しいことを、町民に知らせるために私は質問をしてるわけです。

決して、あなたが町政を担当した時代の事業が無駄だとは、私は考えておりません。無駄というのは、その人その人の考えで、これは無駄だとか、これは町民のためになってるからということで判断をするわけですから、それを一方的に無駄だけやっとなら、それに賛同した議員を批判をしているということだから、あえて私はそのような質問をしてるわけです。

次に、広田遺跡ミュージアム建設について、名越町長は遺跡発掘現地に建設したことと、町外事業者への発注を無駄遣いと批判しているが、1期目の町政時代に南種子高校跡に20億円程度の事業で、交流複合施設建設を計画したことがあります。これはそのとき出した計画です。

国の文化庁は現地が適当、広田集落の要望もあり、現地建設に私も賛成をしましたが、広田遺跡ミュージアムは名越町長時代に計画したものであるが、建設場所を変更しただけであって、それを無駄な施設と。賛同した議員を痛烈に批判しておりますよ。そのことに対して町長の答弁を求めます。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 実は、この広田遺跡の建設について、私のとき、最終年になりますが、そのとき設計ができ上がって、委託した設計が6億数千万円で上がってきました。私は、これは大変だという思いをしたわけであります。そこで、南種子高等学校の同窓会代表が中央高校に合併した段階で、これを我々が生きている間、五千数百名が南高卒業しておりますから、それを皆さんが校舎を大事に使ってくださいと、学校を、というような要請の陳情が総務課にあるはずで。私のとき来ましたから。そういうのを踏まえて考えますと、やはり今の校舎に併設したほうがいいと、だから恐らく、3億七、八千万円でできるという判断をしましたから、これはだめだと。

それで、市の大きい、例えば、国分の大きな施設とか、それは当然大きな市というのは、そこにつくって当たり前ですが、我々のようにあと18年もしたら、3,000人を切る可能性があるというそういう状況の中では、維持管理費等含んで大変な費用がかかると、つまり、そこに働いている人もたくさんいるわけでありますが、それは、つくったものについての、そこは当然やっていかなければいけないわけですが、そういう点での費用のことを考えたとき、大崎議員が12月14日の日に一般質問をしております。その大崎議員の質問は、あなたの4年間の事業実績についてどう考えるかということに対して、まず町長が答えたのは、それは、名越町長は、つまり広田遺跡、これを三十何億円かかるというそれをしとるんですよ。

ところが、それを議員は選挙期間中、ある議員ですよ、名越町長は30億円もかけて広田遺跡をつくったと、つくると言っていたという、そういうこと聞き違いですよ。恐らく町長は、3億幾らを30何億円と聞き間違えたんじゃないかと思うんですが、そういうのを議員の皆さん、皆さんじゃなかったと思いますので、人が信頼をして、そんな高いものをつくろうとしていたのかという、そういう判断があったということが事実ありますので、そういったようなこと等の中から出てきた問題だと、私は思っております。

したがって、私の考えとしては、現在、広田遺跡につきましては、でき上がっておりますから、これを大事にどう管理していくかということが大きな課題です。これを安くするためには、最低の要件を満たすようなそれをしていかないと、ちょうど1ヶ月前に日経新聞、あるいは、また他の新聞が報道したように、将来10回も打ち上げるということを考えれば、そのために運んで、それでまた戻してという、そういうことをやるというのは大変なことだという、その管理経費を考えると、無駄遣いというのは言えるというのは、私の考え方でありまして、それは、私の考え方とそこは違うわけでありまして、でき上がったものについてはきちんと管理していく必要があるということで、4日前の熊毛支庁長と4市町、支庁、西之表市と3町との首長との平成27年度の事業打ち合わせがありましたが、その中でもそういうことを述べておきました。

広田遺跡その辺とロケット基地との連動をしながら、これから、やっぱりやっていくということを言いましたから、その一部のことをいえば、そういうようなことで、きちんとでき上がったものについては、私はきちんとやっていくべきだと、そういう考え方で進もうとしております。

○議長（小園實重君） 立石靖夫君。

○8番（立石靖夫君） 町長、それはそういうことなんですよ。でき上がったものはそのようにして、最小限度の経費で運営しなければならないということは、誰しも考

えるわけですよ。

あなたは、平成22年の3月4日、こういう博物館建設について、全協で出してるんですよ。だから、私は、この計画についてどうのこうのということではありません。ただ、広田に建設したことを無駄遣いだということで、ちゃんここにチラシに書いてあるんですよ。ここにほら。だから、私はその無駄遣いという理由について答弁を求めているだけですよ。

次に行きます。

2番目の福祉医療問題について質問いたしますが、町民は我が町の医療機関として、公立種子島病院の必要性を認識してきたが、全国的に医師不足の中、一部の議員から医師の診察行為に対し、素人である議員が本会議でも強烈に批判してきました。

名越町長も、1期目現職時代は、野口院長との病院経営をめぐり、降格人事を強行し、伊瀬知医師を院長に昇格させ、野口院長は退職をいたしました。

6人にいたうち4人の医師は、伊瀬知院長の病院運営方法、その他の理由により、名越町長時代に退職することが決定をしておりました。2人残った伊瀬知院長、小出医師は自治地域振興協会に公立種子島病院を委託させ、老健施設として、看護師を整理し、2人の医師は、永久にこの施設に居座ることを進めていたことが後日わかってきました。

自治地域振興協会として、名越 修管理者は、運営の赤字は2町が負担するとの約束で計画を進めようとしていたこともわかりました。

今回の選挙前の、町長、聞いてくださいよ、名越おさむ後援会だより2号に、公立種子島病院が本当に危ない、病院の累計赤字6億10万円と掲載し、名越 修1期就任と梶原町長就任後の野口院長のもとでの患者数の比較、名越町長の1期目の平成19年度、20年度、21年度、22年度の赤字額には触れず、累計6億10万円と記載して町民に配布をしてきました。

平成19年度から22年度までの名越町長時代の単年度ごとの赤字額について、町長の答弁を求めます。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 私の町長時代の赤字額ということではありますが、ちょっと気になることとして申し上げますが、結論から言うとなんですが、實際上からいうと、やはり施設設備の件とか、最終的に私がやめる段階で、あと5名の看護師がおれば、完全に黒字に転ずるといふそういう状況まで来ておりました。

それは、後ほど、皆さんの質問が、これから3、4人ありますから出てきますが、看護師の国の補助が7人に1人に最近変わりました。その前は10人に1人がそうで

す。つまり1人の看護師が10人を見るという、62床の基準でいきますと、その辺がひとつありますので、こういったことを含んで、62床に対するどれくらいの職員が必要かというのがひとつあるわけでありまして、そういうこと総合的にすると赤字が進んでいるというのがわかっているわけでありまして、梶原前町長との関係でいきますと、その辺余り具体的に、私は考えたことございませんが、とりあえずは、そのときの出したそのときの現状がそうだったと、今数字を見ますと、はっきり言いまして、私のときの平成19年から22年までの赤字といえますか、それが2億9,963万何があります、約3億円です。そういった点、梶原さんのときでありましても、約3億3,000万円の赤字が続いてるわけです。これを総合して、これからやっぱり、黒字に転ずるといって、何が必要かということになると、私の思っていることという、どうしても医師を最低でも5名以上、6名いなければいけないし、今は、あれから相当施設がふえました。この施設の産業医としての役割も、今2人の医者がやってるんですよ。今3人でやってますが。

そのようなことを考えれば、私はやはり先の見通しとして、医者確保の問題含んで、こういう赤字は出てきたのかなという思いをしておりますが、その点について、私が出した広報には載っておりませんから、立石議員としては、その辺が一番気になっていることだろうとこう思うわけでございます。

また、ことしになってからも言いますが、私が就任して、もう月900万円のずっと赤字が続くということになっておりますので、その改善含んで、私は病院の対応をしていきたいというのが、今の考え方でございます。

○議長（小園實重君） 立石靖夫君。

○8番（立石靖夫君） 私は、町長、今、名越町長とか梶原町長の時代のその赤字額について触れましたが、だからこのようなことで掲載すれば問題ないんですよ。

あなたの出したチラシは、6億10万円、梶原が赤字を出したというようなことにとられるから、私はこれをどうであったのかということをお聞きわけでありまして、柳田元町長時代平成15年から18年、1,366万5,100円、これは平成15年4人、16年6人、17年6人、18年5人の医者で運営をしました。

名越町長時代、平成19年医師が5人、20年が2人、21年が6人、22年が6人。梶原町長時代は平成23年医師が1人、これは野口院長が1人で頑張ったときであります。24年2人、25年4人、26年4人ということで、平成26年度黒字が出たというような話も聞いております。

小出医師、伊瀬知院長が退職してからの野口院長1人の頑張りをたたえることなく、年間患者数の減に対して比較し、悪化させたと町民に周知してきたが、選挙後の町民のうわさでは、野口院長を解雇して、3階病棟を老健施設として使用すると

のうわさであるが、6月30日に野口院長と9月以降は契約しないということを、名越町長は決定したようであります。これが事実であれば、中種子、南種子町民を無視した、病院議会無視である。4人の医師で平成26年度決算では黒字が出ていると聞いております。

この2点について、町長の答弁を求めます。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 基本的には、4人の医師いろいろありますが、野口先生が、お名前言って申しわけございませんが、なぜやめたかというのがひとつありますよ。それは、私は、野口先生にやめたほうがいいとか1回も言っておりません。

野口先生は伊瀬知先生と児玉先生、この2人がいなくなると、私はやめると自分で言ったんですよ。それで、公立病院をいわゆる診療所にすると言ったんです。先生、それは困りますと、私はやっぱり野口先生に言ったことは、1人では面接しておりませんから、その当時の副管理者、それから事務長、これとして全部記録もあるわけでありまして、その記録は公にしておりませんが、そういうようなことやる中で、私は、野口先生に対して、やめなさいとかそんなこと言いません。ずっと先生はいて、新しく来る先生の指導をしてくださいと、こういうことであつたんですが、私が宣告してすぐもうおやめになりました。

そういう中で、この次の選挙の段階で、またその逆が出てきたことは事実でございますので、この辺も御理解いただきたいと思うんですが、現状では、そういう病院を政争の場に引き入れた、その辺は毛頭考えておりませんでした。私は、やっぱり中種子町民、南種子町民が何で公立病院を避けて、中種子、西之表に行くのかとこういうことから判断すると、この際はやはり院長が変わることによって、新しい先生方が来て全体で、中種子、南種子の町民に合うように、それで少なくなっている患者を、西之表に入院じゃなくて、こちらに引き寄せるにはためには、医師を確保し、それぞれの先生方を、補助員といいましょうか、看護師も含んで、寄せることによって国庫補助も満杯にして、それで黒字に転化していくという、そういう考え方で臨んでいることは間違いないので、そこ辺は私の考えだということだけは、理解していただきたいとこのように思います。

○議長（小園實重君） 立石靖夫君。

○8番（立石靖夫君） 私は前の町長時代に解雇したというのは、町長が出したチラシの中に、院長をおりてくださいよということが載ってるんですよ。だから院長をおりて、先生方の指導をしてくださいという名越管理者の意見がありますので、院長をしておったのがおりてくださいと言われれば、やめなさいということと一緒になんですよ。

次に行きます。3番目の教育全般について質問します。

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」が、平成27年4月1日から施行されました。

今回の改正は、教育の政治的中立、継続性、安全性を確保しつつ、地方教育行政における責任体制の正確化、迅速な危機管理体制の構築、地方公共団体の長と教育委員会との連携強化が主な改正であります。

新教育長の任命について、新教育長は当該地方公共団体の長の被選挙権を有する者で、人格が高潔で、教育行政に関し識見を有する者のうちから、地方公共団体の長が議会の同意を得て任命することと記載しております。

教育長の任命同意に際しては、新教育長の資質、能力を十分にチェックするため、例えば、候補者が所信表明を行った上で質疑を行うなど、丁寧な手続を経ることが考えられること、となっております。議会は履歴によって今回は同意をいたしました。同僚議員の一般質問の中で、県教育委員会に人選を依頼したのかの質問に、町長は、現在、教育長をなさっている意見も収集し、本人の南種子町教育方針の抱負を聞いていないとの答弁でありましたが、まことに残念な人選であり、改正の趣旨に反する同意案件だと思います。

教育長、ここで、南種子町の児童生徒のための教育に対する方針を、3分以内で簡単にお聞かせください。

○議長（小園實重君） 教育長、遠藤 修君。

○教育長（遠藤 修君） お答えします。

児童生徒の教育方針について、私の思いの一端を述べさせていただきます。

まず、法律の改正により、今年4月から新しく就任する教育長は、これまでの教育委員長の職務を合わせて行うことになり、辞令交付の際その責任の重さに対して決意を新たにしたところでございます。

さて、文部科学省は、第2期教育振興基本計画において、教育行政の基本的方向性として、社会を生き抜く力の養成、未来への飛躍を実現する人材の育成、学びのセーフティネットの構築、きずなづくりと活力あるコミュニティーの形成の4つを示しております。

南種子町はロマンのある町、時代を開く町、おもてなし、さきがけの町であると思っております。

広田遺跡から当時の様子を推測したり、赤米から古代の人々の生活を想像したりしながら、ロケットで宇宙へ飛び出すロマンのある町です。

また、鉄砲が伝わり日本の歴史が変わりました。

宇宙センターは、宇宙への扉です。まさに時代を開く町です。

東京オリンピック招致プレゼンテーションから、おもてなしという言葉が流行するようになりましたが、さかのぼること120年前、ドラメルタン号漂着の際、イギリス人をおもてなしの心で世話した、おもてなしさきがけの町です。

このように、教育環境の整った南種子町で宇宙へのロマンがあるように、将来への夢や希望を持ち、目標に向かって頑張る子供、時代を生き抜く強い心と体、確かな学力を備えた子供、人間性豊かな子供、そんな子供たちを育てる学校教育を、学校及び関係機関と一緒に進めてまいりたいと考えております。

よろしく申し上げます。

○議長（小園實重君） 立石靖夫君。

○8番（立石靖夫君） だから、今回の改正は、そういうのも聞きながら、選びなさいということだったんですよ。

ただ、前の臨時議会の中で、同意案件で同僚議員が、県の教育委員会にも相談をしたのかという質問に対して、町長は答えずに、現教育長にお願いをして決めたんだという答弁だったです。

だから、このように大切な改正の時期に、なぜそのようなことをやらなかったのかというのが、私の考えです。

関連してですが、島間小学校長とPTA・島間地区民との間でいざこざが発生し、信頼関係がなくなっていると聞くが、名越町長は就任後、教育長職務代理者にどのような指示をし、職務代理者はどのような対策をしたのか、町長及び遠藤教育長の答弁を求めます。簡潔によろしく申し上げます。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 私はその問題を聞いたとき、これは町長が内部に立ち入るべきかどうかというのは判断しました。基本的には教育委員の中から私に電話がかかってきました。つまり宇宙少年団のそれで、どうしてそういうのが起きるのかということでしたので、これは私としては、それじゃなくて、宇宙留学は、ちゃんと組織をつくっていて、そういう中で地区の公民館とか学校とかPTAが加わって、一つの組織でやっていると。それを受けて町長としては、基本的には宇宙留学生を何名にするかとかということで予算づけをして、ほとんど関知しないような状態ではありますが、もうこの経過を踏まえますと、大変な役割を果たしていることは間違いありません。

だから、そういうことを考えれば、その方にも、私は伝えたわけですが、そういうことで、しばらく我慢いただきたいと、早い時期に教育長も決まるといいますと、管理課長に対して、きちんと処理するようにというように指示したことだけは間違いありませんので、あとについては教育委員会のほうからお答

えいたします。

○議長（小園實重君） 立石靖夫君。

○8番（立石靖夫君） 教育長の答弁は求めませんが、教育長、最近、島間小学校で児童の事故が発生したと聞いております。この対応について、教育長の答弁を求めます。

○議長（小園實重君） 教育長、遠藤 修君。

○教育長（遠藤 修君） お答えします。

学校内でけがが起こったことは、大変遺憾に思っております。それで、早速校長を呼んで、事情を聞いて、指導をしてまいりました。

けがに対する対処マニュアルというのは学校にあります、それが生かされていなかったこと。そのことによって、いろいろ対応がおくれたということでありましたので、今後そういうことがないように、子供を中心に、誠実に学校経営を行うよう指導したところでございます。

○議長（小園實重君） 立石靖夫君。

○8番（立石靖夫君） 今回は、時間がありませんので、突っ込んで質問しませんが、事故が2時ごろだったということなんです。病院に連れて行ったのが6時ごろ。2時間くらい学校に、保健室かどっか知りませんが、そのまましておったということで話を聞いてますが、学校側としてはそういうことが起きて、対応もしておったようですが、なぜ、これは親に連絡をとれないからといって、放置していたのかどうかです。

やはり学校で起きたことは、学校長を初め、教職員がすぐ病院に連れて行って、見てもらうと、それから、保護者に連絡をとるという方法は、私は適正だと思うんですが、それをしなくて、2時ごろに起きたものが6時ごろ病院に行ったら、それで、あくる日は鹿児島島の病院に行ったら、何か瞳孔がもう動かずに、ひよっとすりゃ、この目が見えなくなるというような、この説明もされたということですよ。だから、このことについては、今後私は追求していきますが、大変重要な問題です。

教育委員会のことについては、町長初め、教育長、職務代理者、これがそういう事故があったときに、教育委員会でも開いて、どういう対応をしようかという協議も必要でなかったのかどうか、私は危惧しております。

次に入ります。時間がありませんので簡単に申しますが、名越町長の選挙公約実現策について質問をします。

名越町長の選挙期間中、島間地区において、元建設業者社長及び元島間小学校を最後に定年退職した教員、中種子クリニック、湯川 進医師が訪問し、民間病院が黒字経営であるのに、公立病院が赤字とはおかしい、私が院長になれば黒字にして

みせると言ったそうですが、名越町長は湯川 進医師を承知しているのかどうか、ただ、知っているか知っていないかでいいです。

公立病院の院長に迎える考えがあるのか、また、伊瀬知医師の復帰話も聞くが、そのことだけ、町長の答弁を求めます。答弁がなければ、ないでいいです。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 私は、要請しません。しかし、勝手に来てしまいました。それで、回ったということはわかっておりましたから、ところが話を聞いたら、今そういったようなことを、そこで言ったかどうか知りませんが、私の考えと全然違ったので、その後、なんか土曜日来て、日曜日帰るということでしたが、日曜も全く、最終便か何かで帰ったと思います。その後、私は連絡も一つもしておりませんし、内容的にはそういうことでございます。

伊瀬知先生が来るかどうかとか話もしておりません。それも毛頭考えておりません。伊瀬知先生来ないと思いますよ。

以上です。

○議長（小園實重君） 立石靖夫君。

○8番（立石靖夫君） 残念な、時間等がありませんので、この公立病院の経営を早急に立て直すと、医療福祉の充実と安心して入院できる体制整備について、それから、2番目の安心して入院できる体制整備とは、どのような整備をするのかということで、町長にお聞きをしたかったんですが、これはまたのときにしたいとこのように思います。

次に、島間港への高速船就航実現策について質問しますが、平成21年4月10日南種子町島間港において、県選出国會議員、県議會議員や宇宙センター関係者、観光協会など600人以上の町民が参加し、島間港への高速船就航実現に向けて住民集会を開催をしました。

住民集会後、平成22年7月には高速船就航推進会議を立ち上げ、関係役員及び議会特別委員会は県知事、県議会、県港湾空港課に陳情を繰り返し、平成23年4月5日、コスモラインは7月1日から9月30日の間、高速船を就航させる。その後の就航については、協議を行うことになっていました。

台船は南種子町で購入し、管理は南種子町が行うことで、名越町長は3月定例会後15日に臨時会を開催し、約3,200万円の予算が承認をされました。

しかし、統一地方選挙に落選した名越町長は、翌日、議会及び推進協議会など町民を無視し、就航実現を目の前に、名越町長は落選したことにより、コスモラインに就航を断ったことは、議会軽視と町民に対する裏切り行為であります。

議会特別委員会は繰り返し陳情した経費100万円、これを無駄にしたことになり

ます。このように私物化した名越町政が、今回の町長立候補公約に高速船就航を掲げた理由について答弁を求めます。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） ちょっと期日の間違いがあるんじゃないかと思うんですが、私がやめたのは、ちょうど4年前でありますから、そのときは高速船がもう通わなくなっておりまして、それでどうしようかというのが、それぞれ動きがあったことだけは間違いのないわけでありまして、私はそういうのは、きちっと港の静穏度の問題がありましたし、これについては森山国会議員に3回も来ていただきました。

九州の管理局にも、私も参りましたし、向こうからも来ました。本省のきちんとした担当者も来て、それで工事が始まったんですよ。予算全然ついてなかったですから。

それは始まりましたが、その後私が落ちてから、やめてからほとんど工事がとまった状態でありましたが、また始まって、ことしも予算をつけてもらっておりまして、それは早くしてもらいたいということを思っておったわけでございますが、そうした中で、漁協の関係、その当時陳情をまとめた人たちの意見も聞きながら、それぞれ運動を展開した結果として、岩崎さんは、私は船を通わせないと断ったんですよ。岩崎さん。

それはどういうことかということ、空港の飛行機がジェット化されないと、観光客は連れてくることはできないと、こういうことの中で、だったんですが、しかし、市丸さんをお願いした結果、市丸さんがきちんと考えてやれということで、次期社長、あの若い社長に命令をしました。それで、やるつもりでいたんですが、ところが選挙になって私がわかったこととして、もう名前を、あなたが言ったので私も言いますが、立石議員が5日間、その東北の震災のことで、そういうことにたくさんのお金をかけて、それでトントンの購入、なぜ向こうにやらないのかと、こういうようなことを演説をやったということが、事務所に電話もかかってきたようでありますし、それは私は5日間全く知りませんでした。

それで、予算は通していただいたんですが、私がお後、みんなから言われました。私の後援会からも言われました。あれは予算を出さんかったほうがよかったんだということを言われましたが、市丸さんとの約束でございましたので、私がいなくなった後、大変なことが起きるといふふうに想像しましたから。

○8番（立石靖夫君） 町長、簡潔に答弁お願いします。事情はわかっていますから。

○町長（名越 修君） 以上です。

○議長（小園實重君） 立石靖夫君。

○8番（立石靖夫君） 町長は、この高速船問題を勘違いしてますから、私が特別委員

長したときなんですよ。だからこのことについては、また9月定例会で行います。

それから、町長は給食費の無料化について公約をしておりますが、これは私は公平性が保たれていない。受益者負担が原則ですよ。なぜ、小学校、中学校だけするのか、公立の保育園、私立の保育園給食費を払ってるんですよ。だから、これが公平といわれるのかどうか。税金は町民全体が払っているんですよ。だから、同僚議員が言ったように、支援策はいいとしても、この無料だけは絶対やってはいけないと、私は思います。

それから、医療費の問題、これも今後、高齢化社会になるとやはり高齢者も1割負担が2割負担になってきます。これが、このように。

○議長（小園實重君） 残り1分です。

○8番（立石靖夫君） 高校までなると、高齢者それから中間層、非常にこの税金がふえてまいります。だから支援はしても、やはり無償化はするべきでないと。私も孫もおりますから、無料化にすると大変いいですよ。だけど議員として町政を預かる町長として、これでいいのかどうかというのを考えなければいけないと、このように思います。

以上で質問を終わります。

○議長（小園實重君） 答弁はいいですか。

○8番（立石靖夫君） いいです。また、次にします。

○議長（小園實重君） これで立石靖夫君の質問を終わります。

ここで暫時休憩します。再開をおおむね2時10分とします。

休憩 午後 2時00分

再開 午後 2時08分

○議長（小園實重君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、上園和信君。

[上園和信君登壇]

○7番（上園和信君） 4年に一度の統一地方選挙は、4月26日に執行され、その結果、新町長と10人の新議員が誕生しました。

これから4年間町民の負託にしっかりと応え、町民福祉の向上、活気に満ちた住みよい町づくりなど、行政課題に取り組んでいかなければならないものだと、決意を新たにしているところであります。

ある地方自治に詳しい著名な方が、地方議会は自治体の政治機関として、1、決定者、2、監視者、3、提案者、4、集約者の役割をしっかりと果たすことだ。また、

2元代表制での地方議会には、与党も野党も存在しない。住民目線で案件ごとに
是々非々の態度で審議に臨むのが採決態度である。このように述べております。

このことをしっかりと受けとめ、これからの議員活動に取り組んでいきたいもの
だと考えております。

質問に入ります。名越町長の選挙公約についてであります。

4月26日の選挙を前に、名越おさむ後援会だよりが数回町内に配布されております。

その後援会だよりを見ると町長選挙に臨む基本的な考えとして、①から⑬の項目
を掲げ「南種子町発展のため、全力で取り組みます」との決意が述べられ、町民に
支持、支援を呼びかけております。

名越おさむ後援会だよりNo.2には、このように書かれております。タイトル
を紹介します。

梶原町政4年間の指摘事項と題し、「公立種子島病院が本当に危ない、病院の累
積赤字6億10万円」。梶原町政の無駄遣いでは、「①から⑤の5つの事業を列記し
ております」。梶原町政の不適切項目では、「役場職員数122名、臨時職員数130名、
役場職員採用や人事異動が公平・公正でない」。財政運営面では「基金が4億円取
り崩され、地方債残高は増加、財政は悪化の一途にあります」。このような内容で
あります。誹謗中傷ということになると思います。

公立種子島病院経営についても、「累積赤字のほか、梶原町長就任後、野口院長
のもと、3年間で患者数が1万5,000人減った」「患者数の減少は病院経営を悪化
させる」「公立病院の信頼を取り戻さねば、町民の暮らしが不便になる」町長や公
立病院管理者という要職につこうとしている人間が、公立病院を批判する。今、公
立病院管理者になり、後援会だよりを読み返したときに、どのような感想をお持ち
か、後でお尋ねをしたいと思います。

公立病院、厳しい経営状況にはあるが、平成26年度決算では黒字化が図られ、軌
道に乗り始めてきたところではありますが、町長が交代した現実にあります。

公立病院はどうなるのだろうか、町民からの心配した声が多数聞こえてまいりま
す。

名越町長は、公立種子島病院経営の早急な立て直しを公約に掲げておりますが、
早急に立て直さなければならぬ状態にあると考えるか。お尋ねをいたします。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

[名越 修町長登壇]

○町長（名越 修君） 基本的には早急に取り組む必要があると、立て直さなければ
いけないということです。

まず、結論を申し上げます、62床の病院を平常化運営するには、スタッフが必要です。これは建設当時から、皆さん、首長さんそれぞれ苦勞してきておりますが、私もその後を継いで町長になりましたし、またブランクも踏まえて、やっぱり立て直さなければいけないということだと思います。

第一に、本町の公立病院で70%以上のそれぞれ病床稼働率があったわけですが、それがずっと少なくなってきたことだけは事実でございます、少なくとも、職員数を少なくして経費をそれぞれ支払うのを少なくしていけば、黒字というのは経営上は成り立つと思いますが、現段階におきますと、つまり、一時流用資金、つまり診療所時代から積み立てていた金というのは底をつきましたから、現在の段階では、先ほども申し上げましたとおり、4月になりましてからは、毎月900万円くらいの赤字がずっと続くわけでありますので、それを考えれば、早急に立て直す必要があるというには私の所感であります。

一つ、考えますと、全体がわずか3人で、全体の病院が、今60以上、多分70%になってるかどうかわかりませんが、入院稼働あるというんですよ。病院に行ってみると人がいません。中種子の診療所もずっと詰まっていますよ。ずっと夕方までも。

そういう状況で、黒字になるはずがないということを考えますと、南種子の町民というのは、ほとんどが向こうに行っているというのは、こちらで手術もできないし、整形外科の先生もいないというそういう理由がありますから、これはやむを得ないと思うんですが、どのような医者確保にしてきたかということ等が問題になりますので、そういうことを含んで、やはり早急に立て直さなければいけないということが私の基本的な考え方でございます。

以上です。

○議長（小園實重君） 上園和信君。

○7番（上園和信君） どこをどう立て直すのか、具体的に言ってくださいよ。

患者数が減ってるというのは、町長、あんたがああいうチラシを流すと患者減りますよ。公立病院の患者さんになろうとしてる方が。

平成27年の4月29日付新聞にこのような記事が掲載されております。

一部引用をさせていただきます。

名越氏が町長だった2008年度に赤字に転落、最大6人いた常勤医師は一時1人にまでに減った。これは事実です。2011年5月に就任した梶原町長は、鹿児島大などと連携をし、2013年度は常勤医師4人態勢まで回復し、入院患者受け入れが進んだことで、単年度収支が改善。町長聞いてくださいよ、副町長質問しているときに、2014年度は6年振りに黒字にこぎつけた。赤字の原因をつくったのは名越町長時代ですよ。医師が減ったのも。

平成26年度決算は、病院の医師やスタッフの努力の関係で、少しではあるが黒字化に転じております。

どのように、立て直すか具体的に示してください。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 私になったら、その後、野口先生が1人になったとそういうことでありますが、私は野口先生にやめてほしくないと言ったんですよ。

○7番（上園和信君） そういうのは聞いてませんよ。

○町長（名越 修君） いや、今言ってます。原因を言わなければわからないですよ。

○7番（上園和信君） 町長、質問に答えてくださいよ。

○町長（名越 修君） なぜ1人になったんですか。

今私の答弁の時間じゃないですか。ちょっと待ってくださいよ。私の意見を聞いてくださいよ。私も発言する理由があるんじゃないですか。あなたの質問に対して、理由を言わないとわからないんですよ。

それは、基本的にはそういうことでありましたが、野口先生は診療所にするということで、2人の医師をやめさせろと言うわけですよ。できないと私言ったんですよ。それはさっきも言ったとおりであります。そういう状況の中で1人になったのは事実ですから。それだけは言うておきます。

私のときには、きちんと6人いたわけでありまして、その後、私は1年間で6人そろえましたが、内容は鹿児島大学が医師法の改正によって、4年から6年になったことによって、鹿児島大学に残れないようになったと、そういうことで私になったと同時に、医者が2人鹿大から来た先生が、ずっといた先生が引き上げたというそういう状況を踏まえて、なりましたので、そういう状況の中で感じている点として、公立病院のベッド数、いわゆる病床率というのは、50%、60%のその状況の中では、さっき言ったとおりでございますので、こういう中で赤字、黒字を言う場合はそういう方法ができますが、基本的には62床の中でやるということであれば、最低6人の医者を置きながら、スタッフをそろえると、スタッフも看護師であると7人に1人とか、8対1とか、13対1、17対1とかあるわけですが、そういうのは満杯補助金がもらえるように、そういうのは、そればかりじゃなくて、医者もそうです。それから検査技師とか、そのほか栄養士、つまり病院の薬剤師そういうもろもろがあってやるわけですが、それは整ってないということによって、現状で、いろいろ先生方苦労しておりますから、そのためには、私はやっぱり医者を寄せるというのは大事だというそういう考え方で取り組むわけでございます。

○議長（小園實重君） 上園和信君。

○7番（上園和信君） だからどこをどう立て直すのか、そこを私聞きたいんです。そ

こを具体的に説明してください。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 具体的には、医者を寄せて、それぞれ患者を大事に、院長以下職員が、日常やっぱりきちんと、最低でも1週間に1回くらいは全体会議を開いて、それで患者を大切に、やはりこの病院を救ってほしいというそういう状況をつくり出さないといけないんですが、今はそれができてないので、これをやるのが大事だという考え方で、そのことが立て直す一つの大きな要因だと、医者がそろえば、それぞれスタッフはそろってくるというように思ってますから。その際、やっぱり院長がどういう采配をするかということでもありますので、病院には病院の経営方針というのがきちんと以前から決まっておりますから、それをチェックしていただく中で、私は1年医者探しをしました、その間全部病院が、院長が中心になって先生方で探してくれました。こういう体制をつくることによって立て直しは必要だというようなことでの方法、具体的な点はそういうことでございます。

だから、一生懸命医者を探します。私1人じゃできません。中種子町長、それから病院議会の議員の皆さん、町民の意見も相当出てきておりますので、それを参考にしながら、多々当たっていくということです。

既に、県の医師会とか鹿児島県の病院関係の関係課、医師会長とも協議をして、知恵をいただきながら、これから全国ネットを張って、探しをしていくことによってきちんとなると思っておりますから、その辺が私の考え方で。

○議長（小園實重君） 上園和信君。

○7番（上園和信君） 全然具体性はないですよ。医者をふやしていくということですが、今立派な先生たちが3人、4人いるじゃないですか。その先生たちをやめさせるということですか。新しいドクターを連れてくる。

具体的にどこをどう立て直すかというのを、説明してくださいよ。

ちゃんと新聞で公約してますがね。公立病院経営の早急な立て直し。入院できる体制を整える。ビジョンがないのにこういう公約を掲げた。町民に嘘をついたということですよ。

5月8日に、病院関係者が集まって会議が開かれたようです。町長は病院の経営方針もこう全く示さず、医師からの質問にも全然答えられなかったと、何のための会議だったのか、会に参加した方がちょっと不信感を持たれたようです。

現野口院長との契約期限の9月末のようであります。契約更改についてどのように考えているか。また、今月の30日には何かやめてくださいとかいうことを、口頭で何か伝えたということをお聞きをしております。

そこら辺も含めて、野口現病院長との契約についてどう考えているかお尋ねいた

します。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 先生方との契約については、契約前の3カ月前に通告をするようになっておりまして、それは6月の30日でございましたので、30日の日それぞれその病院の首脳会議を、その前に首脳会議を開きまして、基本的には今期をもって契約はしないというのを伝えました。

以上です。

○議長（小園實重君） 上園和信君。

○7番（上園和信君） それは誰に伝えたんですか。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） それは、野口院長に伝えました。

あとの2人の先生には期限がずっとまだありますので、そういう話は全くしておりません。

なぜ、4日の日だったかということ、5月の1日、私に朝礼の挨拶に来いという事務長からの連絡があったので、私に事務長から言ったこととしては、8時から始まるので、8時前に来てくださるようということでした。

私は、まだ町長に就任しておりませんでしたから、8時半からは就任式があるので、最低でも15分くらいしかありませんでしたから、そういういろいろ準備も含めまして、8時5分くらい前に行きました。そしたら、全職員がそろっておりましたが、その中で、院長から私に対する説教の話がありました。何で、私は1時間前に来て待ってるのに来ないのかと、こういうことでありましたが、その辺は、私は最初ですからそういった、来てる先生方にも挨拶するというところだったのかもしれませんが、私のやはり時間的なこととしては、できなかつたわけでありまして、ぎりぎり行ったことは事実でございますが、そういう経緯があります。

○議長（小園實重君） 上園和信君。

○7番（上園和信君） 野口院長とは、もう新たな契約はしないということですよ。

それ、町長1人の考えですか。管理者として。中種子町長の意向とか、それから病院議会の意向とか、そういうところに聞いて諮って、そして決定したことですか。

町民のこと、入院患者のことは、全く考えてないです、あんたは。そういうことじゃだめですよ。もし、野口先生がいなくなったら、鹿児島大学病院との関係はもうきれいになくなってくると思います。

さっき、鹿児島県医師会の協力も得てということをおっしゃいましたが、鹿児島県医師会も協力はしないと思いますよ。首切りですがね、それは野口院長の。

10月からまた野口院長の後任が来ないと病院の経営が成り立っていきませんので、

その医師の招聘、確保する見込みありますか。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 確保するというので、各方面に提案をして、今、動き中でございます。

○議長（小園實重君） 上園和信君。

○7番（上園和信君） 手配中ですので、10月1日に確保するという事じゃないですよ。一応、手配中、今探してるということですよ。状況によっては、常勤医師の確保も、非常に困難な状態になるのではないかと心配いたします。

この病院の立て直し。いつごろをめどに考えているのか、お尋ねいたします。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 人事に関することではありますが、人との折衝があるわけでありますから、それを今いつというのは言えません。

早急に立て直すということで、中種子町、副管理者、病院議会の議長、それぞれ相談して、全体的に13日から動くように、今、準備をしてるところでございます。

そのほか、私としては、その前にまだ動くような手配をしておりますので、そういうことにして、10月1日ということではなくて、それ以前に来てくれる先生については、即やっぱり来てもらうような対策を講じていきたいと、こう考えております。

○議長（小園實重君） 上園和信君。

○7番（上園和信君） 町長、野口院長がいないことによって、町民に相当な影響が返ってくるんですよ。入院患者にも相当な影響があると思います。これは南種子町だけでなくして、中種子町民にも影響が広がっていきます。

だから、しっかりと、10月1日からは後任の医師もちゃんと配置をするということで、野口院長にも、そういうことを伝えておく必要があったんじゃないかなと思います。余りにも、町民を無視した町長のその態度です。町民のことも考えてやってもらわないと、自分の私的なことでは行政は務まりませんよ。

次の質問に移ります。小・中学校の給食費の無料化についてであります。

現在給食費は小学生児童1人当たり月額3,600円、それから中学生生徒1人当たり4,200円、これを納めているところです。これが無料化されると、保護者負担がゼロ、関係者にとっては非常に喜ばしいことだと思います。

これも選挙で町民に約束した以上、実現をしなければなりません。町長は「決断」と「実行」をモットーにしており、早く決断し、即実行しなければなりません。

町長、ここに来てちょっとトーンが下がったような、無料化は段階的にしていくことを口にしてはいるようですが、これじゃ、有権者は、保護者は納得しないですよ。

ちゃんと無料化という約束をしてますので、その無料化の実施年度をお示してください。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 本年度から実施しますので、これについては3年をめどに実施したいと、このように思っております。

○議長（小園實重君） 上園和信君。

○7番（上園和信君） 本年度からの実施じゃないですがね。本年からの実施は助成です。一部助成です。あれは無料化じゃないですよ。給食費の一部を助成すると。

これは国・県からの助成金はありませんよね。単独事業になります。

管理課長、年間のこの必要経費は何千万くらいになりますでしょうか。

○議長（小園實重君） 管理課長、小西嘉秋君。

○教育委員会管理課長（小西嘉秋君） 平成27年度の児童315人、中学校の生徒162人でございますので、学校給食費の試算額は年間2,238万2,910円でございます。

○議長（小園實重君） 上園和信君。

○7番（上園和信君） この2,238万円の給食費が町民の税金で全て賄われる。いくら選挙で公約したからといっても、医療費も無料化、給食費も無料化、そういうことは、私は考えられないと思います。

南種子町立学校給食センター運営要綱第9条に、給食費の負担責任は保護者とし、学校長は各学校ごとに取りまとめ、毎月分を翌月の5日までに所長に納入するものとする、この条文となっております。

その上に学校給食法というのがあります。この学校給食法にのって、学校給食は運営されていると思いますが、その学校給食法第11条第2項はどのような条文になっておりますでしょうか。教育長に説明を求めます。

○議長（小園實重君） 教育長、遠藤 修君。

○教育長（遠藤 修君） お答えします。

学校給食法第11条第2項には、学校給食費は学校給食を受ける児童または生徒の保護者負担とすると定めております。

○議長（小園實重君） 上園和信君。

○7番（上園和信君） 町長、聞きましたよね。

午前中の同僚議員の答弁で、町長は学校給食の無料化については、義務教育は無償化とすることが、何か日本国憲法にありますので、ということをおっしゃいましたが、これとの兼ね合いは全然ないと思います。

教育長、学校給食法第11条第2項はクリアすることができるのか、教育長の見解を求めます。

○議長（小園實重君） 教育長、遠藤 修君。

○教育長（遠藤 修君） お答えします。

この11条第2項の定めこの意味からいえば、現在実施している中学生までの医療費補助制度と同じでございます。学校給食費の無料化は、保護者に委任された学校長の申請に基づき補助金で対応するものでございます。

昭和29年9月29日文部事務次官通達では、この学校給食法の規定は給食費の一部補助を禁止する意図ではない。また平成22年の国会答弁で、文部科学省は学校給食を無償にするか否かは、地域の実情等に応じ、各学校の設置者が判断すべきものとの考え方が示されているところでございますので、クリアできるものと考えております。

○議長（小園實重君） 上園和信君。

○7番（上園和信君） その給食の無料化、保護者負担はゼロということではできるとい
う見解ですね。もう一回確認をしますけど。

ちょっと、教育長は勘違いしてるんじゃないかなと思うんです。

私が質問をしたのは、学校給食法第11条第2項給食費は保護者が負担するという
明確に示されておりますので、その条項をクリアできるかということです。

もう一回答弁お願いします。

○議長（小園實重君） 教育長、遠藤 修君。

○教育長（遠藤 修君） そのあたりの細かい手続につきましては、管理課長のほうに
答弁をさせます。

○議長（小園實重君） 管理課長、小西嘉秋君。

○教育委員会管理課長（小西嘉秋君） 議員御指摘の受益者負担の関係でございますが、
学校給食に関する質疑応答集の中に、「学校給食関係法令の規定から明らかなよ
うに、学校給食として捉えられるものは、食材料費及び光熱水費であり、原則とし
て保護者負担となるが、これらの法令の規定は経費の負担関係を明らかにしたもの
であって、設置者が保護者にかわって学校給食費を負担することを禁じる趣旨のも
のではない」という文言がございますので、教育長答弁のとおりクリアできるもの
と思います。

○議長（小園實重君） 上園和信君。

○7番（上園和信君） だから、町長、最初から、無料化したらよかったですよ。約
束どおり。どうして一部助成で3年をかけて無料化していくという決定をしたん
ですか。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 私が町長になってみたら、一般財源も7億幾ら、それから地方

交付税これも21億、2億円全部予算化してるんですよ。

それで、うちのような小さい町というのは、標準規模としては40億円以下なんですよ。でも、最近は地方創生にかかわってきましたので、私はその辺については、県が自由に使えるそういう2分の1補助としてやる場合、あるいは無料化になる場合もあるんですが、それは額が非常に少のうございますから、基本的には、私は少子化対策として、今20歳以下の人たちというのは、わずか12%くらいしかいないわけです。本町には、5,900人の中で。どうその子供対策、多くの子供たちをここに集めるかということになると、やっぱりそういった面では、給食であるとか、それから病院の関係とか、町ができることについては、きちんとやってもいいんじゃないかと、金額的にもそう上がらないというようなことですが、ことしに限っては予算がない関係であって、最小限にとどめ、来年度からは、基本的には3年という方針を決めておりますが、組めるということを入れて、全体の事業調整をやっていくということで、できるということで、全国のやってる町村があるわけですから、そういう考え方で私は進もうと思っております。

今、上園議員のお話を聞くと、しないほうが良いという立場をとっているのかなというのを、私は認知しておりますが、こうじゃなくて、やっぱり若い子を持った人たちが多く本町に住んでもらって、乳幼児からやっぱり学生まで、18歳まできちんと、それは保護者負担を減らすことによって、ここに居住してもらったほうが一番いいという判断のもとに、提案しているということでございます。

○議長（小園實重君） 上園和信君。

○7番（上園和信君） 給食費を無料化するのに反対してるのかということじゃなくて、この学校給食法第11条第2項がクリアできますかという質問です。

今、教育長が、クリアができますという答弁でしたので、約束した無料化をどうして早くしないのかという質問でした。

次の質問に入りますが、これも医療費の無料化です。これも選挙の公約に掲げております。最近首長選挙にこの無料化を公約に掲げる候補者がふえてきていると。必ず当選をする。町長も当選したからよかったです。

現在南種子町は、南種子町子ども医療費助成、こういう条例をつくって、中学生までの自己負担分1割から3割、窓口で払う分ですけど、この分を助成をしている。手続として、まず医療機関に1割から3割、自己負担分は支払いをすると、領収かなんかもらってきて、後で保健福祉課のほうに請求をして、返してもらう。そういう方法です。違いますか。私が勘違いしているのであれば、その方法説明していただけないか。これ、通告文に入れてませんでしたけど。

○議長（小園實重君） 保健福祉課長、高田真盛君。

○保健福祉課長（高田真盛君） 現在、中学生まで子ども医療費に対する助成を行っているんですが、手続、おおむね上園議員が言われたとおりの部分もあるんですが、一部若干違ったので、ちょっと補足で回答したいと思います。

窓口のほうで一部負担金分、1割から3割ですが、それを納めていただく分については、一つも変わりありません。その後の手続の関係につきましては、まず、窓口で子ども医療費受給者証というのを提示をしていただければ、その時点で助成対象者になりますので、その後役場の窓口で領収とか、新たな手続をする必要はもうありません。2カ月後にレセプトで、診療報酬が確定した後で、そのまま指定された本人の口座のほうに、直接振り込みをするという償還払い制度をとっておりますので、そこら辺が若干違うということですので、説明させていただければと思います。

○議長（小園實重君） 上園和信君。

○7番（上園和信君） 1割から3割分はもう今も払わずに済んでるということですよ。一旦、払うわけでしょう。窓口で。何かもう、その証書を提出したらもうそのまま払わずにいいというのが、説明で聞こえたもんだから。そうではないわけですか。

○議長（小園實重君） 保健福祉課長、高田真盛君。詳細に理解できるように説明をお願いします。

○保健福祉課長（高田真盛君） わかりました。ちょっと説明不足な点がありまして、申しわけないです。

まず、方法としては、受給者証のほうをまず病院の診療を受けた場合には、窓口で提示していただきます。診療終了後、1割から3割に当たる分の一部負担金については、まず窓口で支払っていただきます。その後の手続については、従来は役場に領収とか持ってきて再度手続が必要だったのですが、今の方法では、その手続はもう必要ありませんので、後日、一応2カ月後という形になるんですが、そのときに本人の指定された口座に、その一部負担金、支払った分は、自動的に振り込みをするという方法をとっているところです。

○議長（小園實重君） 上園和信君。

○7番（上園和信君） 3割分はまず払うということです。町長が唱えて公約した医療費の無料化は、もう最初から窓口には支払いはしないということだと思っておりますので、その無料化の実施年度を、お示しをしていただきたいと思います。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 10月1日から実施します。

当然、条例いろいろ手続はとります。9月議会で。

○議長（小園實重君） 上園和信君。

○7番（上園和信君） 実施が10月1日ということであります。その対象の範囲ですよね、もちろん医科、歯科、それから通院、入院、これも全部対象とすると。

あと所得制限がつくかどうかです。それで病気は公立種子島病院だけの受診じゃなくして、やっぱり病気によっては、鹿児島市内とか受診をしないといけない病気も出てまいりますので、その無料化の範囲は、県内の医療機関全てが対象となるのか、そこら辺についてお尋ねをいたします。

○議長（小園實重君） 保健福祉課長、高田真盛君。

○保健福祉課長（高田真盛君） お答えいたします。

議員御質問のとおり、入院、通院、医科、歯科、全ての診療分に対して、今回の助成金については、助成対象ということになります。

今までの中学までの子ども医療費助成と全く変わりはありません。

それから所得制限については、今までも所得制限はしておりませんので、今回の高校生無料化についても所得制限はありません。

あと、県内の医療機関全てでの受診に対しての助成になりますので、これについても変わりはありません。

あと、ちょっと、若干補足しますけれども、医療費の無料化、無料化ということで、全国的にこういう形で小学生、中学生、高校生まで無料化というのがうたわれているんですが、全国の傾向でこの無料化という意味については、あくまでも保険診療分のうちの一部負担金、個人で1割から3割、その分の助成に対しての無料化ということで、全国的にそういう形でうたわれておりますので、そこ辺は御理解いただきたいと思います。

○議長（小園實重君） 上園和信君。

○7番（上園和信君） これは町外、高校生でも鹿児島市に住所を移したりしてる方もいらっしゃると思うんです。そういう方も対象の範囲になるのかどうか。

○議長（小園實重君） 保健福祉課長、高田真盛君。

○保健福祉課長（高田真盛君） 最近、特に、中学生も含めてなんですが、特に高校生については、町外、島外の高校に進学される方が大変ふえております。当然それにつきましては、条例改正の中で、監護する方、保護者がこちらのほうに住民票を置いてる分については、そういう方でも対象になりますという条文の改正を行いますので、それで全ての本町出身の高校生については、対象となるようにしたいというふうに考えています。

○議長（小園實重君） 上園和信君。

○7番（上園和信君） 全国の議長会も、この子ども医療費を国の負担で全国一律無償

化にしてくださいということを、何か今要請をしているようであります。非常にこれは、保護者にとってはありがたい制度だと思います。

もう一回確認をいたしますが、窓口で一旦負担金を払う償還払いではなくて、窓口の負担なしの現物給付と理解してよろしいですか。

○議長（小園實重君） 保健福祉課長、高田真盛君。

○保健福祉課長（高田真盛君） 先ほどから言ってますように、窓口では一旦支払いをしていただいて、その後、口座に振込む、自動償還払いという方法をとりますので、窓口負担は今までどおりしていただくことになります。

○議長（小園實重君） 上園和信君。

○7番（上園和信君） そこがどうも。医療費無料化したときは、1割から3割負担分は、医療機関の窓口でもう支払う必要はないということでしょう。

○議長（小園實重君） 保健福祉課長、高田真盛君。

○保健福祉課長（高田真盛君） 先ほどの全国的な傾向という形でちょっとお話をしたんですが、全国的にこの医療費の無料化というのは、定義的なものということで、後での償還払いの助成制度のことを、ほとんど指す形にしていますので、完全無料化になると、当然のごとく一部負担金じゃなくて、保険適用内外含めて無償化という定義になりますので、今回行うことについては、あくまでも一部負担金に対する助成をしているという形になります。それが全国的に無料化、無料化という、うたわれていることになりますので、今までの中学生までの助成金制度と全く変わりなく、それが高校生まで延長されるという形での改正というか、適応になりますので、あくまでも一部負担金については納めていただいて、その一部負担金分については、全額、後もって償還払いという形で、振り込みをするという形の助成金ということになります。

○議長（小園實重君） 上園和信君。

○7番（上園和信君） どうも、町長そういう考えですか。まず、町長、無料化を約束してるんですね。無料化。1割から3割の個人負担分の無料化。今、保健福祉課長の説明では、無料化じゃなくして、助成のような形をとって、一応医療機関の窓口では、1割から3割分、個人負担分は支払ってもらおうと、これは後で返ってくるという説明ですけど、町長の考えている無料化というのは、どういう無料化ですか。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 今、担当課長から説明したとおりでありまして、最終的に無料化になると、こういうことで無料化を表現しているわけであります。

○議長（小園實重君） 上園和信君。

○7番（上園和信君） 最終的に無料化に。その無料化というのが、町長掲げている無

料化じゃないわけですよ。無料化というのは、窓口負担分はもう全然払わなくていいというのが無料化ですよ。それを、とりあえず窓口負担分は払っていただくと、後で返ってくるという説明ですけど。どうもそこら辺が、町長と保健福祉課長の答弁が食い違っているような気がします。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 全然、食い違っておりませんので、そういう方法で全国各地でやられておりますから、私も同じように、最終的に2カ月おくれの無料化になっていくということで、御理解いただければありがたいと思います。

理解いただけないとしたら、大変なことになりますので、これは皆さんが理解してくれるんじゃないかというのは、私は思います。

○議長（小園實重君） 上園和信君。

○7番（上園和信君） 町民は理解しないと思いますよ。

次に、教育の政治的中立性、継続・安定性を確保しつつ、地方教育行政における責任の明確化、迅速な危機管理体制の構築、首長との連携の強化を図るとともに、地方に対する国の関与の見直しを図るため、地方教育行政制度の改革が行われ、平成27年4月1日から施行されております。

遠藤教育長は、教育委員長と教育長を一本化した新たな教育長、本町における初代教育長となります。新教育長として6月15日に就任をし、まだ日が浅いところですが、遠藤教育長の本町教育行政全般に取り組む抱負、これについてお聞かせをいただきたいと思います。

○議長（小園實重君） 教育長、遠藤 修君。

○教育長（遠藤 修君） お答えします。

教育行政全般に取り組む抱負について述べさせていただきます。

平成27年3月に策定されました、宇宙の町教育振興基本計画では、あしたを開く心豊かでたくましい人づくりを基本目標に掲げ、知・徳・体の調和がとれ、主体的に考え行動する力を備え、将来にわたって意欲的に自己実現を目指す人間、伝統と文化を尊重し、それらを育ててきた我が国と郷土を愛する態度を養い、これからの社会づくりに貢献できる人間の育成を目指すことを示し、4つの視点、5つの方向性に基づき、30の施策が体系化されております。この施策に沿って教育行政を推進してまいりたいと考えています。

これからの教育においては、豊かな心を育むことを生き方の基本として、一層重視していく必要があります。

また、子供の体力が低下傾向にある中で、生涯にわたって、積極的に運動に親しむ意欲や習慣を養うことも大切です。

さらに、将来の目標に向かって努力する強い意思と、確かな学力や、みずからがまちづくりの主体であるという自覚と、行動なども重要な資質であると考えます。

南種子町は、人間としての生き方の基本や資質を育むのに適した豊かな自然に恵まれ、人と人とのつながりを大切にする人情細やかな土地柄だと思います。

宇宙留学制度も、その環境の中で、評価をいただいている制度であると考えます。

この南種子町で育った子供たちが、将来の南種子町ひいては日本を担う有為な人材となり、国際社会から信頼され、尊敬される、日本の実現に貢献できるよう、教職員研修を充実するなど、教職員の力量を高めるとともに、議員の皆様方を初め、地域の方々から御助言をいただきながら、本町の教育を推進してまいりたい所存でございます。

以上です。よろしく申し上げます。

○議長（小園實重君） 上園和信君。

○7番（上園和信君） 町長は、5月の何日でしたか、町P連総会の席で、小規模校の統廃合を口にしたとお聞きをいたしました。

「町民の声を大事にし、希望の持てる活力のある町づくりに全身全霊で頑張ります」と、これが町長の行政推進の基本姿勢ではないかと思えます。

小規模校も児童数をしっかり確保する対策を立て、統廃合という最悪な事態を避けるよう努力する。これが町長の責務であると考えます。これを聞いた町P連関係者や地域住民、特に花峰小学校、大川小学校の関係者に非常に不安と動揺を与えたようであります。

まず、小規模校の統廃合、実際に進める考えか、町長の考えをお尋ねをいたします。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 全く考えておりません。

それは私の方針にありますように、実際はもう既にやられておりますが、中平小学校を木造でつくって面積を広く教室をつくったんですよ。そのことを考えれば、花峰小学校と大川小学校が10人以下、宇宙留学生でふえて、学校としてのそれをやっておりますが、こういうことを考えたときに、例えば音楽でありますとか、体育でありますとか、それから友達間、多くの友達と話すという、その件を考えたときに、多い学級の中で、やっぱり1カ月に最低でも1回くらいできたら、ちょっとちっちゃな学校では、先生方が複式ですから、1年生の授業と2年生の授業、同じ教室でやっておりますんで、こういったことを逃れるためには、大川小の児童が中平に来て、大川小でやってるような教育をすると、また逆もあるということ、そういうことをやってほしいというのが私の方針がありまして、その辺はP T Aの総会

で、私がしたことは授業の、そこでそんな長く話はしませんでした、これは全く上園議員が聞いたその内容は違います。私は一言もそんなこと考えておりませんし、いかなることがあってもしません。私の任期中は。

○議長（小園實重君） 上園和信君。

○7番（上園和信君） 統廃合は考えてない。

町長、この新聞を見てますよね。教育長も見てますよね。

大川小学校の3年生、園田心海さん、お父さんの似顔絵で文部科学大臣賞、すごい絵ですよ。やっぱり、1回実物を見てみたいですよ。小学3年生。こういう頑張っている子供たちがいっぱいいるんですよ。そういうことを考えて、町長は言動に気をつけてほしいと。こういう知らせがあったもんだから、今回の一般質問に取り上げたわけです。

教育長も町長と同じ考えだと思いますけど。統廃合はしないと。

一応通告をしておりましたので、教育長の答弁求めます。統廃合についてどう考えるか。

○議長（小園實重君） 教育長、遠藤 修君。

○教育長（遠藤 修君） お答えします。

小規模の学校は、小規模なりのよさがあります。やっぱりそのことを生かして、今後も教育行政を推進してまいりたいと思います。

○議長（小園實重君） 上園和信君。

○7番（上園和信君） 最後の質問に入ります。米軍基地等馬毛島移設問題についてです。

町長は施政方針で「米軍基地等馬毛島移設問題については、1市3町で組織している対策協議会が、どう進んでいるのか住民の意見も聴き対応してまいります。」と述べました。私にいわせると、この協議会を脱退してもいいんじゃないかなと、そうにおわせる発言にもとれたところであります。

南種子町、南種子町議会は反対の立場をとっている関係から、町民に正しい情報を提供できていない状況にあり、これを住民に意見を求めても、住民も答えられない状況じゃないかと思えます。

中種子町議会は、1年ほど前に、この協議会から離脱をしております。中種子町の新町長も「公正中立な立場から情報収集したい」このようなことで、この対策協議会からの離脱の意向を明らかにしているようです。これは新聞報道であります。

ただ、反対ではなく、関係機関の説明も聞いて、公正中立な立場から、この問題に取り組んでいくことの必要性を痛感をしております。

余談になりますが、対策協議会の繰越金を720万円ほど、相当程度繰り越した

というふうにお聞きをいたしました。

南種子町も米軍基地等馬毛島移設問題対策協議会からの離脱を表明する考えはないか、町長の所信をお伺いいたします。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 私の立候補にあたってですね、全新聞記者、鹿児島県にない新聞も来ましたが、一番聞かれたのはそれです。今の件です。

私は、ちょうど平成22年の暮れ、22年度だったと思うんですが、そのとき町長でしたから、いわゆる防衛省に行きました。多分事務次官じゃなかったかと思うんですが、応対したことがあります。

その中で、米軍のそれは人が住んでいるところにはつくらないと、ということが示されましたが、その辺を西之表の会長がどういうふうを受けとめたかは別にして、私は落選したその後もずっと会は続いておりましたが、中種子町が議会は離脱したということは聞いておりました。

それから、最近は西之表にもやっぱり今度は札が立つようになりました。考え方がいろいろ変わってきているのかなというふうに思いながら、私としては、やっぱり防衛省はどう考えているのかと、私は直接聞きたいと思っているわけでありまして、その前に、議会の皆さんがどうされるかということも、自分たちも結論を出すでありましょうから、そういうことをもとに、住民の意見も聴き合わせながら、最終的に私の行動というのは決まっていくんじゃないかと。住民がこれを絶対つくらさしやいけないというようなことであれば、私は、それは当然のことながら、住民から選ばれた町長として、それを守りたいと思います。

しかし、現段階で、そういうことじゃなくて、ある面でいうと、私には私の結論だけ、多くの方が聞かれますので、町長という立場というのは、そういうことも一つはあると、立候補するときも、そういう主張をしてきたので、それは一つもかわらないということを申し上げておきたいと思います。

○議長（小園實重君） 上園和信君。

○7番（上園和信君） それに反対するとか、賛成するとか、そういうことじゃなくて、その協議会から離脱する考えはないかということです。

けさ、議員控室に行ったら、こういう「米軍関係施設等の馬毛島移設問題について」西之表市役所の行政経営企画課から届いた文書だと思います。

こういうのを、私も初めて見ました。中身を見ると、陳情に行った内容がずっと書かれている。こういうのも、その都度、その都度、やっぱり報告をすべきだと思います。

以上のことを申し上げて私の一般質問を終わりたいと思います。

○議長（小園實重君） 以上で、上園和信君の質問を終わります。

散 会

○議長（小園實重君） 以上で本日の議事日程は全部終了しました。

次の本会議は、明日 7 月 3 日午前10時に開きます。

本日はこれで散会します。御苦労さまでした。

散 会 午後 3時08分

平成27年第2回南種子町議会定例会

第 3 日

平成27年7月3日

平成27年第2回南種子町議会定例会会議録
平成27年7月3日（金曜日） 午前10時開議

1. 議事日程（第3号）

- 日程第1 一般質問
- 日程第2 提案理由の説明
- 日程第3 議案第39号 平成27年度南種子町一般会計補正予算（第3号）
- 日程第4 委員長報告 陳情審査 総務文教委員会
- 日程第5 委員長報告 陳情審査 産業厚生委員会
- 日程第6 発議第3号 職員定数改善と義務教育費国庫負担制度拡充に係る意見書の提出について
- 日程第7 発議第4号 種子島・屋久島を「活動火山周辺地域防災営農対策事業」の対象地域に組み入れることを求める意見書の提出について
- 日程第8 発議第5号 南種子町議会会議規則の一部を改正する規則の制定について
- 日程第9 発議第6号 安全保障法制の慎重な審議を求める意見書の提出について
- 日程第10 発議第7号 米軍基地等馬毛島移設問題対策協議会から離脱を求める決議
- 日程第11 閉会中の継続調査申し出
- 日程第12 閉会中の継続審査申し出
- 日程第13 議員派遣
- 閉会の宣告

2. 本日の会議に付した事件

- 議事日程のとおり

3. 出席議員（9名）

1番	河野浩二君	2番	柳田博君
4番	西園茂君	5番	塩釜俊朗君
6番	広浜喜一郎君	7番	上園和信君
8番	立石靖夫君	9番	日高澄夫君
10番	小園實重君		

4. 欠席議員（1名）

3番 大崎照男君

5. 出席事務局職員

局長 濱田広文君 書記 日高一幸君

6. 地方自治法第121条の規定により説明のため出席した当局職員の名

職名	氏名	職名	氏名
町長	名越修君	副町長	長田繁君
教育長	遠藤修君	総務課長兼 選挙管理委員会 事務局長	小脇秀則君
会計管理者 兼会計課長	野首知子さん	企画課長	小脇隆則君
保健福祉課長	高田真盛君	観光課長	坂口浩一君
総合農政課長	島崎憲一郎君	税務課長	河口恵一朗君
教育委員会 社会教育課長	高田健一郎君	建設課長	古市義朗君
農業委員会 事務局長	羽生幸一君	教育委員会管理課長兼 給食センター所長	小西嘉秋君
保育園長	小川ひとみさん		

△ 開 会 午前10時00分

開 議

○議長（小園實重君） これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元の日程表のとおりであります。

日程第1 一般質問

○議長（小園實重君） 日程第1、一般質問を行います。

順番に質問を許可します。初めに、西園 茂君。

[西園 茂君登壇]

○4番（西園 茂君） 一般質問をさせていただきます。

口永良部の新岳の大噴火、大変なことが起きてしまいました。島の人たちは、自分の人生設計を変更せざるを得ないわけですから、本当に大変なことだと思います。ぜひとも、この困難を乗り越え、生活していくことを願うばかりでございます。

今回の地方統一選挙で、町民の皆様のおかげで当選させていただきました。本当にありがとうございました。仕事ができます。本当に感謝しております。

また、名越町長は本当におめでとうでございます。私は、梶原町政が終わり、本当にほっとしています。日本国も管理できていない社会インフラ資産、箱物を次から次へとつくり、本当にこの4年間、ひやひやものでございました。町民に訴える以外に対応がなく、ばたばたした4年間でございます。梶原町政は、維持管理費をふやしただけで、今後の課題をたくさん残し終わった感があります。

さて、質問に入ります。

国道58号線、上中地区整備事業についてであります。

第1の質問は、今年度1,000万円の予算がついています。課長との打ち合わせの折、1,000万円の使途は土地取得費と補償費であると聞いておりますので、2番目の次の質問にまいります。

この国道58号線の整備につきましては、平成9年に南種子町建設課職員が、国道58号線の上中地区整備事業に関する設計計画図面、青写真だと思いますけれども、ある地権者に、地主ですけど、事前に配付している件についてでございます。

その方は、国道が自宅を通る図面をもらい、次の工事で自宅を国道が通ることを信じて、大きな期待をもって約16年間もの長い間待っていましたが、ここに来て、当初の計画から変更があつてか、自宅に道路がかからなくなったようでございます。この16年間の間には、国道の歩道整備もあり、自分の駐車スペースまでも提供し、協力しています。また、その後、公立種子島病院への水道工事にも大変協力をして

いる方でございます。

本町の当時の建設課職員の行動ですが、全くもって大変な問題を起こしたと私は思っております。その方の人生設計を変更しなければならない事態に陥っているわけですから、本町職員の行動としては不適切な行動だったと私は思います。このような現実を見過ごすことは絶対できません。町長として、今後どう対応するのか、質問いたします。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

[名越 修町長登壇]

○町長（名越 修君） お答えいたします。

今、西園議員から趣旨の説明がありましたが、私としては、詳細なことを承っておりませんでした。先般、熊毛支庁土木課からまいりまして説明を受けたわけですが、私としては、第1の質問のそれも含んでお尋ねしましたところ、事前に施工地図の配付等のことにつきましては、県の事業であります、全然そのようなことはないという答弁でございましたので、それ以上は何の回答も引き出すことはできませんでした。また今度機会があれば、支庁に行ったときに尋ねたいと、このように思うところでございます。

以上でございます。

○議長（小園實重君） 西園 茂君。

○4番（西園 茂君） 町長におかれましては、今後とも精査をして対応していただくようお願いしておきたいと思っております。

次の質問にまいります。

私は、今回の質問の中に、西之表馬毛島への米軍空母艦載機の陸上離着陸訓練（FCLP）の移転計画反対対策協議会についてということで町長に質問する予定だったんですが、昨日、同僚議員のほうから質問がありまして、町長の答弁の中で、町民の意向を反映したいという答弁でしたので、当然至極なことかなというふうに思います。

私は、ちょっと提案なんです、国は今、皆さんも御存じのように、国防について安全保障法制の見直しを進めております。大変な話題が、国中で起きております。ただ、現状として、外国の偵察機でありましたり、戦闘機の領空侵犯、いわゆるスクランブルという対応が、既に700回も去年は超えているようでございます。安全保障に関する環境が、大分変わってきたというのが現実じゃないかと思っております。

また、沖縄では、普天間飛行場の辺野古への移転反対が沖縄の多数の県民の意向として明確となり、国内では解決できず、沖縄県知事は、日本政府ではなく、アメリカにお願いに行っている状態でございます。非常に残念な話でございます。終戦

前の沖縄の地上戦を考えますと、日本国民として他人事では済ませられない話でございます。協力できることは協力したい気持ちでいっぱいでございます。

そこで、私の提案なんですが、まず国がやるべきことは、今後絶対に戦争をしないとの目的のために、日本国が世界平和に貢献する多くの人材育成を行うことが先決問題だと私は思っております。この費用についても、国費で賄うことが私は当然だと思います。

そこで提案ですけども、ロケットの町、時代の最先端に行く本町ですので、世界平和のための人材育成大学を本町につくることを国に提案することも一案だと思いますので、名越町長におかれましても御検討願いたいと思います。

また、国からの資金が流れてこない状況であったとしても、設立のため、戦後70年の節目の年でもありますし、また、ネット社会でもあります。群衆からの資金調達という形のクラウドファンディング等を利用して、大学設立等も可能じゃないかと、そういうふうにあります。ぜひとも、今後、検討課題の一つに入れてもらえればいいと思いますけども、町長の考えをお聞きいたします。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 質問事項にないことでの提案であります。率直に申し上げますと、ただいまの提案については、方向性として、議員としての提案でございますし、またロケットの町でありますから、今後、10年後、この町が相当変わるということ予想していることを考えると、そういった形の協議といたしましうか、要請と申しまじうか、必要じゃないかという思いをしております。

議会でも、当然そういった動き等があると思ひますし、また、今回、ちょうど二十日ぐらい前でしょうか、日経新聞に出たように、ロケットの大型化というのも着々と進んでおりますし、あと5年したら、H-3の打ち上げ試験が始まるという、そういう状況を踏まえますと、やっぱり取り組む必要があると。私1人だけではどうしようもないわけでありまじうから、これは議会の皆さんと十分協議をいただきながら、各方面に対する陳情といたしまじうか、要請活動は当然のこととして考えていいという判断をいたすことを答弁としておきまじう。

以上です。

○議長（小園實重君） 西園 茂君。

○4番（西園 茂君） 前段にちよつと申しておきまじうけれども、私は、もう16回、一般質問をしているようなんです。なかなかない状況なんですけども。昨年から、提案型の一般質問をしたいと思ひております。若干、質問事項から外れることもあるかと思ひますけども、町長におかれまじうは、何とぞよき計らいをいたしてもらひますようよろしくお願ひいたしたいと思ひます。

○議長（小園實重君） 西園議員、発言中ですが、通告以外の設問については御遠慮願います。

○4番（西園 茂君） はい。毎回議長から指摘を受けております。反省しております。済いません。

次の質問にまいります。

地区公民館からの要望書に対する対応についてでございます。

公民館組織ができて、地区公民館のこのシステムの中で、たくさんの方々が自分の地区をよりよい環境にしたいという思いで要望書が提出されております。この要望書に対して、建設課のほうが大まかなとこなんですけれども、現在の対処方法についてお聞きしたいと思います。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 各地区公民館からの要望事項というのは、8地区ありますが、特に西海地区でありますとか、それから下中地区、非常に少数の人たちが地区をまとめて、それで広い道路でありますとか、そのほか地域を守っているわけでありまして、その辺からいうと、大小かかわりなくいろんな意見があるというのは私も察しておりますので、この件については、多々あると思う中ではもちろん、私としては現地確認もしながら、予算を要する事件等が当然あると思いますから、これも各地区との比較が必要です。そういうことを精査しながら検討していくということで、全てこの提言については、あるいはまた要求については検討したいと思います。

現在の対処方法については、担当課長から説明させます。

○議長（小園實重君） 建設課長、古市義朗君。

○建設課長（古市義朗君） 西園 茂議員の質問にお答えをいたします。

地区公民館からの御要望についての対応につきましては、受け付けをしましてから、それぞれマニュアルに沿って対応いたしてるところであります。

要望書等につきましては、課内それから関係課、当局等に、用途にあわせて決裁等に付し、内容につきましては、安易に解決できる案件、それから予算が必要な案件等ありますので、その都度、申請地区等に、口頭または必要に応じて文書においてお知らせをいたしながら対応いたしてるところであります。

○議長（小園實重君） 西園 茂君。

○4番（西園 茂君） 現在までですけれども、私が公民館長時代にも文書でやった経緯もありますし。ただ、文書で送りましても、回答が文書で来たというのが、私の場合は見られなかったというところもあります。ぜひとも、できれば年に2回か3回程度、状況はどうなってるのかということは報告していただきたいと。

また、町では、集落担当職員という制度をつくっているようですので、その方々

が認知するということが非常に大切だろうと思いますので、そこら辺も対応していただければよろしいかと思っておりますので、ひとつよろしく願いいたしたいと思っております。

さて、要望書につきましては、西海地区からも、先般出ております。その内容について、7項目程度出ているんですが、そのうち6項目については危険箇所の解消でございます。町民の命にかかわることですので、早急に対応するというのが常でございます。本町に、要望書の中でどの程度の危険箇所があるのか、またそれが対応できるのか、質問いたします。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 担当課長が説明するようにはなっておりますが、基本的には、地区の要望事項について何カ月も回答がないというのは、これはもう話になりません。私は、速攻型でございますから、その辺、文書決裁をした後は、担当課と連携をとって速やかに、できる、できない、あるいはこういう検討してるといことはお伝えしたいと思っております。

しかし、この要望箇所の中に、県が管理する河川でありますとか、それから道路、そのほかあります。これについては、熊毛支庁との話が必要でございますし、その辺についても速やかに話が通じるようにしていかなければいけないんじゃないかということを感じますので、私の説明で不足するのであれば、担当課長から説明させます。

○議長（小園實重君） 建設課長、古市義朗君。

○建設課長（古市義朗君） お答えをいたします。

町長も申しあげましたとおりでございます。本町におきましては、危険箇所が何カ所あるかという御質問でございますけれども、まず、土石流の危険渓流、それから急傾斜地崩壊危険箇所、地すべり等危険箇所、これは県の土木部のほうで管理いたしておりますけれども、その中におきまして、土石流の危険箇所でございますけれども13カ所、それから地すべりの危険箇所3カ所、崖崩れ、急傾斜地等という名目でございますが、32カ所指定をされております。ここまで、対策が県におきまして年次ごと図られてきておるところでございます。うち砂防ダムにつきましては32基、地すべりの対策、雪の子、それから河内、ここは整備をされて、今、進んでいるところかと思っております。

危険箇所の整備補修につきましては、町長も申しあげましたとおり、県のほうの施設が多数ございます。熊毛支庁とも協議をいたしながら、今後とも整備に向けて検討してまいりたいと考えております。

○議長（小園實重君） 西園 茂君。

○4番（西園 茂君） 私の地区のほうからも、先ほど言いましたように、7項目についての要望が出ております。その中で、港の整備関係については、管理港ですので、ある一定の課題についてはクリアして状態を保つというのが町の役目ですので、そのようにしていただきたいと思っておりますけれども、相当な予算がかかりますので、できれば経過を年次的に、毎年のごとく、こういう経過ですと、進んでなくても報告をいただければ、非常に地区公民館としても助かるのではないかと思いますので、ひとつよろしく申し上げます。

西海地区の中で、1つ、私が非常に心配しているのは、大川の堤防のことです。皆さんも、ここ何日かの天気が非常に心配だろうと思っております。異常気象という位置づけをしてもいいのではないかと天候でございます。非常に心配してるところですけれども。

堤防のかさ上げについては、前回、防災ダムをつくっていただきまして、一時的にはどうにかしのげたという経過はありますけれども、もう満杯になって、建設課の話をお聞きすると、もう防災ダムの役目を果たしてないというような話を聞きます。それであれば、なおのこと、かさ上げのほうをどうしてもお願いしたいというのが切な思いでございます。質問いたします。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 非常に重要なことでございます。最近、気象庁の発表によりまして、もう大変な、いわゆる潮位が上がっているということもございますが、これは日本だけじゃなくて、また南方のほうの鹿児島県だけじゃなくて、全国というよりも世界的にこうなっているということはお聞きしますが、またその反面、アメリカとか大陸では、もう干ばつで、例えば飼料関係がなかなかとれないと、こういったようなことがあるわけでありまして、本町の場合のそれでいきますと、今、議員がおっしゃることというのは非常に重要なことでございますので、担当課から聞いておりますから、現地確認もしながらやっていかなければいけないんじゃないかと。その際、創生事業等の適用ができるかどうかという、ちょっと担当課から聞いてないので、あるいはまた企画課からも聞いてございませんから、その辺の調整もしながら、できないのであれば、やっぱり自前でやる必要があると。

再三、私が就任して、議会、今、3回目でございますが、ちょっと本年度予算というのが一般財源、そのほか、交付税等ございませんから、一時的にはどうしても基金を活用させていただくということになりますけれども、基金についても申し上げているように、きちんと任期中には返すような、積み立てるようなことを念頭に置きながらやっていくことを御理解いただきまして、早急な対応が必要ということについては認めます。それによって検討するということでございます。よろしくお

願います。

○議長（小園實重君） 建設課長、古市義朗君。

○建設課長（古市義朗君） 御質問にお答えいたします。

まず、建設課のほうから、砂防ダムが機能していないというお話がございましたが、そのようなことはないと考えておりますので、もう一度精査をさせていただきたいと思えます。大川川上流の砂防ダムにつきましては、熊毛支庁にも問い合わせてみました。機能していない状況ではないとの報告であります。

異常気象時の状況につきましては把握しておりますので、職員も調査をいたしながら対応してまいりたいと考えております。

○議長（小園實重君） 西園 茂君。

○4番（西園 茂君） 濟いません。私の聞き違いだったようですけれども、見る限り、いつも満杯の状態で、あそこにたまった水なんかを吐くことはできるのかなというふうに思うところはあります。

西海地区だけじゃなく、本当に集落担当制もありますので、町内に危険があるところがあれば、早急に対応していただくようお願いして、次の質問にまいりたいと思えます。

地方創生事業でございます。

私は、前回からこの質問はずっと続けておりますけれども、地方創生に関連して、宮本常一さんという方で、農産漁村を歩き続けた民族学者で、全国離島振興協議会の初代の事務局長をされた方でございます。離島振興法につきましては、1953年、新しくまた改正もありまして変わってきておりますけれども、非常に離島については恩典のある法律でございます。

この方が、1966年に種子島で講演をしております。そのときに話した内容ですけれども、「離島振興法ができたから島がよくなるのではない、人々が島をよくしようとするときにこの法律が生きるのだ」と。それから、「離島に対する国庫補助率がかさ上げされて、道路・港は整備され、見かけはよくなったが、島の生産力が高まっていない。住民が地域の経済と生活を豊かにする知恵を出してこなかったのではないか」ということで、厳しく叱ったそうです。これが、もうはるか遠い1966年の話ですから、それ以降、町民の生活がよくなったかといえば、私は余りよくなっていないというふうに思います。

この地方創生事業、新たなチャンス到来だと私は思っております。これを、我々も含めて、南種子町が一緒にかかわって、町民の生活のレベルがアップするように、南種子町に住んで苦しい生活ではないというような、そういう人々を満杯にするように、この事業を大いに利用してくことが私たちの務めだろうと思っておりますので、質

間に入っていきたいと思います。

今回、アンケートを企画課が実施しております。前回、平成26年度の一般会計補正の12号で、人口ビジョン総合戦略委託600万円が組まれていましたので、私は、自分たちの町のことから自分たちでやるべきではないかということをご提案しましたところ、町長答弁で、御理解くださいということで、まあ、理解はしてないんですが、そのときの質問は終わっております。

今回のアンケートですけれども、一般町民用のアンケートと町民外に対するアンケートがあったのか。それから、また、無作為に抽出とあったが、何名に実施したのか、お聞きしたいと思います。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） この問題は、私は4年間ブランクがありますので、農園に毎日行っておりましたから、はっきり言って社会から離れた生活をしていたということから考えますと、入って見たら大変な進みぐあいであるということがわかりました。地方創生事業が起きたことによって、例えば平成27年度の予算というのは、大体1年前にはきちんと県、国に申請をし、県、国は国の予算の範囲で県が決める、それを例えば熊毛支庁がやる部分とかいろいろあるわけではありますが、そういったことで、申請をすればすぐもう内示が来ると。事前に大体内示的な点は担当課には多分わかっていたらと思うんですが、そのことによって予算要求をしていたわけでもありますから。

こういうことを考えると、やっぱり素人がやるような調査とか、それじゃできないというのが1つあります。つまり、全国なシェアとか、鹿児島県全体の考え方、それから各種多様な人々に対する意見を求められますので、その辺からすれば、この地方創生の関係で言うと、我々は真剣に、今、企画課ばかりじゃなくて、全部の課長が、あるいはまた職員がこのことを認識するというのが一番大事な点。むしろ、若い職員たちはいろんな発想があるわけでもありますから、こういう点では。

先般、五、六日前に、熊毛支庁長以下熊毛の1市3町の首長が、屋久島からも初めてこういう中で来ましたが、それぞれ各市町の考え方を述べようということと、また県の考え方の進め方についての説明がありました。そのことを考えてみても、今後やっぱり県とか国に対するアプローチがいかに大事かというのを感じたわけがありますので、今、御質問の件については担当課長が説明しますが、そのアンケートの関係でいろいろ誤りがあったことは私もちょっと課長から聞いてわかりました。単なる誤りでは済まされないとしますので、今後、このような勘違いのないようなことを職員はきちんとやっていくべきだと思ってることを、課長にも申し添えておきました。

内容について、課長のほうから説明申し上げます。

○議長（小園實重君） 企画課長、小脇隆則君。

○企画課長（小脇隆則君） この計画策定に当たりましては、結婚、出産、子育てや経済、雇用などの現状把握と分析を通じまして、人口減少に関する課題を明確にした上で、施策の方向性を検討していくことが必要となっているところでございます。

調査票については、1つ目に一般町民向け、2つ目に若者・女性向け、3つ目に高校生向け、4つ目に転入者向け、5つ目に転出者向け、6つ目に町内の事業所向けということで、6区分に分けて実施をしてございます。

町民外に対するアンケートにつきましては、直近3年間の転出者に協力をいただいているところでございます。

アンケート件数については、事業所100事業所を含めて、全体で約2,900名の方々をお願いをしたところでございます。

○議長（小園實重君） 西園 茂君。

○4番（西園 茂君） 私は、このアンケート、意味があるのかなと当初思ってたんですけど、まあまあ、今の課長の話聞いて理解できる場所もあります。

ただ、町長、この南種子がどういう状況かということについては、もう皆さん知ってることなんです。ですから、本来であれば、もうそろそろ委託じゃなくて、自分のとこで企画立案するということができる人材が、この南種子町役場にいることが普通なんです。それが無い、なかなかチャレンジしないもんだから前進しないわけで、おのずと町長もわかっていると思うんですけども、所得も低いし、それこそ各地域、いろんな地域、上中を除いたほかの地域、本当に人がいなくなって、大変なことは目に見えてわかってますよね。そうすると、何が必要かということがおのずとわかってくるわけで、ぜひとも企画立案につきましては、役場職員なり、私達も議会としての活動もありますし、その中でできることは率先してやっていくという作業がないと、何もかも委託、委託で、金が幾らあっても足りないわけです。だから、何のために役場の職員がいるかということも問われてきますので、ぜひともそういうふうな方向でやっていただきたいと思います。

その中でも、アンケートの内容で若干引かかることは、第5次の長期振興計画でございます。

アンケートの調査内容からして、地方創生総合戦略の整合性です。アンケートの中で、長期計画のキャッチフレーズですけども、「人と自然が輝き 夢がふくらむ ふれあい元気タウン」、それから「自立・自興 参加と連帯によるまちづくり」という形で第5次の長期振興計画の中では掲げているわけです。こういうキャッチフレーズ等を変えるという感覚でアンケートを出したのかどうか分かりませんが

も、第5次の長期振興計画との整合性です。当初、10年計画で立てられて、新たに後期の計画も、梶原町長時代に、見直したかどうか分かりませんが、新しい冊子でできております。そこら辺の整合性が本当にあるのか、整理できてるのか、お聞きしたいと思います。

○議長（小園實重君） 企画課長、小脇隆則君。

○企画課長（小脇隆則君） 長期振興計画との整合性ということでございますが、長期振興計画とこのアンケート調査結果によりまして、ただいま言われました長期振興計画のスローガンが変わるというものではないわけでございます。地方創生戦略の推進体制について、ちょっと勘違いをされてるんじゃないかと思っておりますので、説明をさせていただきます。

今回の地方版総合戦略については、人口減少克服、地方創生を目的としているものでありまして、長期振興計画は、町全体の総合的な振興・発展を目的として策定されているものでございます。あくまでも、平成22年度に策定をした第5次長期振興計画が柱となりますけれども、長期振興計画のように、町の施策全てを整理をしてまとめるというのではなくて、仕事づくりなど、特化したことについて、目指す方向性に対し、しっかりとした目標値を立てて、それを実現するために必要だと思うメニューを、ただいま申し上げたそういうアンケート調査であるとか、これから分析をしていく地域経済分析とか、そういった分析結果等を踏まえて、今後議論をして、メニューを策定してくものでございますので、御理解いただきたいと思えます。

○議長（小園實重君） 西園 茂君。

○4番（西園 茂君） 私は、町議になりましてから、数値目標の設定ということに関しましては、もう何度となく言っております。町というのは、一つの国です、簡単にいいますと。ただ司法関係がないだけで、国会、法律をつくる機関、この議会があります。それから、施行関係の行政という形のものもあります。ですから、常に町民の生活がよくなるために目標を掲げて、それに毎回邁進しているわけです。今回は、地方創生事業という事業を、こういうのを計画しましたよ、その目標はみずから皆さんが持つてるでしょうから、その目標のためにこれを利用してはどうですかというのが今度の創生事業なんです。わかりますか。自分の目的はちゃんと前に見据えて、いつもですよ。役場の職員というのは、給料もろうて、報酬もろうて、生活ができる体制づくりができていますから、南種子町民の生活がどうであるかということは常にチェックをして、そして、ある程度、数値目標を決めて、そのためには、あらゆる国の事業を利用して町民がよくなるようにというのは、いつも自分の頭の中、構想の中にはあって、この事業はこういうふうにご利用できるな、

これはこういうふうにご利用できるなというのが、この南種子町の行政の進めていく方向ですよ。ですから、勘違いでも何でもありません。

ちょっと声が上がりましたけれども、次にまいります。

実は、私は、今回の目的についてもいろいろ聞く予定だったんですけども、まず、地域経済がこの総合戦略で特に配慮したい点というのをお聞きしたいと思うんですが、1点は、地域経済の収支と財政収支の黒字化を図ることと、それからもう一点は、本町の経営が破綻しないことというのが大きなこの総合戦略で配慮しなければならない点だと思っております。地域経済収支といいますと、いかに南種子町でお金を稼いで、利益を上げて、町民が豊かになるかという作業ですから、いろんな作業があると思います。後もって、いろいろと農業関係については提案しますが、そのことは頭の中にあって進めておられるのかどうか、お聞きしたいと思います。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 当然のことながら、そういうことを念頭に置かないといけないと思うんですが、例えば、地方創生でいうと、幾分限られているわけです。国は、国全体の予算を減らすための一つの施策として提案をし、それで、今、アンケートの調査とか、これ、やってるということは、全てまとめて、また県、国に提出しなければいけないという、そういう規定の中で担当者はやってると思います。

冒頭、申し上げましたように、私もきょうで62日ぐらいですから、その中、半分は部外で仕事をしておりますので、そういうことを考えれば、私自体もまた勉強しなければいけません。

1つははっきりしてることは、わずか5,900人余り、10年したら、これが4,000人は当然切るわけでありますから、こういった中での計画ということになれば、人口に合ったような長期振興計画、これと同時に、うちの職員もそうだと思いますけれども、皆さん方の提案というのもやっぱり他市町との比較でもってやるわけでありまして、他市町としていけば、私の町としてはロケット基地があるということで非常にうらやまれておりますが、それとは全然関係のないことです。

だから、今、提案されたことについては、そういうことをもとに仕事を職員にはさせないといけないし、そういう発想を求めないといけない。この2カ月間、職員の動向を注視してみますと、非常に一生懸命仕事をしてるわけですが、係ごとに目を配ってみると、大変な仕事です。国は大体減らす。どんどん減らしていきます。それは、全部、県に来ます。県も各市町村におろしているわけでありまして、ちょっとおろし方として、本町は43市町村中、一番多く受けてるということはちょっと何か記録で見ましたので、こういう状態からすれば、それを受けないというこ

とになると、住民が不便を来たすということになりますので。だから、この小っちゃいこの町村で、職員をどう確保していくかということも含めながら、今言ったことはちょっと部内でも、副町長を中心としてやっぱりやっていかないといけないのかなと、そういう思いをしております。

つまり、当然のことながら、こんなところで、細分化した仕事の仕分けというのは非常に難しいと。だから、大体1人3役ぐらい、あるいは4つか5つぐらいの仕事を3人ぐらいでやるようにみんなができるような、そういう体制をつくることによって職員の仕事のバランスがとれていくという、そういうことを感じますので、今、提言のありました、あるいはまた御意見も踏まえながら、やっぱり勉強して対応していくべきかなと、私はそう思っているところでございます。

○議長（小園實重君） 企画課長、小脇隆則君。

○企画課長（小脇隆則君） ただいまの件に関してでございますけれども、先ほどのアンケートの整合性ということについては、西園議員が、調査結果によってスローガンが変わるんじゃないかという御指摘でありましたから、そのスローガンを変えるためにアンケート調査を実施をしているわけではありませんので、勘違いをしてるんじゃないかという答弁をしたところですので、誤解のないようにお願いしたいと思います。

それから、この経済収支とか、そういうことでの、今、御質問でございますけれども、議員が言われますように、今回の地方創生戦略については、メニューについてはKPI、重要業績評価指標とありますが、議員が言われるような、そういう目標値を立てて、PDCAサイクル、計画・実行・チェック・改善、これを繰り返して、見直しをしながら改善を図っていくと、これが目的であります。

この検証については、この事業を行ったこの年度末、2月、3月にそういう検証機関を設けて、毎年度見直しをしていくということでございますので、そのようなことで御理解いただければいいかなと思いますので、よろしく願いいたします。

○議長（小園實重君） 西園 茂君。

○4番（西園 茂君） 先ほどのスローガンの件ですけれども、私もそうだと思いますので、そのことで言ったということであれば、私の誤解でありますので、謝りたいと思います。

地域経済の収支といいますと、いろんな手法があると思いますけれども、前梶原町政の中で、観光と農業のコラボということで事業を進めた経緯がありますけれども、観光については、町民みんながお金をもらえて生活ができる体制づくりというのはできません。農業についても、それだけで町民全員が潤ってくるという体制づくりもできません。

ただ、観光でいろんな施設をつくりましたので、できれば大量に東京、大阪、福岡等からお客さんが来れるような体制づくり、例えば飛行機のジェット化、滑走路を伸ばして。今、屋久島のほうには、新幹線あるいは飛行機で来て、トッピーに乗って屋久島に行くと。恐らく、縄文杉で人の心を洗うというような環境がそこにあるのかなという思いで行ってるんだらうと思いますけれども、果たして乗り継いで来るだけの魅力がこの種子島にあるかということなんです。ですから、行くんだしたら、乗り継ぎじゃなくて、直接来て観光したい、ロケットを見たいというのが世の常であらうと思います。ですから、LCCの格安航空でありますとか、そういうジェット化で大量に種子島空港におりてもらおうとか、霧の問題が解消できればそのような方向で観光にもつなげていただければというふうに思います。

町の中でお金を稼ぐことはたくさんあると思います。財政収支の黒字化の中でも、恐らくコンパクトな行政組織というのが今後必要だらうと思いますし、それからふるさと納税、税外収入の確保というのも恐らく必要になってくると思いますので、そこら辺も、全般的な感覚に立って。国のほうでも、議会との連携プレーを進めるようにという指導もありますので、私たちも一致協力してやりたいというふうに思いますので、今後、頑張っていきたいというふうに思います。

次の質問に入ります。

私は、町政座談会の開催についてお聞きしたいと思ってたんですが。ちょっと時間がないですけれども。

地方創生事業、全町民を巻き込んで進めることが条件だと思いますけれども、町長は町政座談会の開催を計画しているのかどうか、お聞きいたします。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 前期も、1年に1回は最低やりましたから、今回は早速、できるだけ近いうちにやります。

○議長（小園實重君） 西園 茂君。

○4番（西園 茂君） 町政座談会の前に準備してもらいたいというのがあると思います。私は、先ほども言いましたけれども、この創生事業につきましては、町民全員を巻き込んで進めていく事業が、一番ベターじゃないかなというふうに思っております。ですから、若干ちょっとここで読み上げますけども。

本町の過疎化対策と活性化は、町が主体となって取り組むこと、地域・集落が主体となって取り組むことを明確にして対策を立てることが重要だと思います。

まず、町が主体となって取り組むことは、町民の生活の安定、そのための改革。例えば、仕事をつくるための産業振興でありましたり、町の事業の民営化でありましたり、労働者の雇用条件の改善、公の仕事については公契約条例関係の設定とか、

いろいろあります。また、集落が活性化するための町ができる助成施策、例えばリフォーム条例とか空き家条例、それから集落環境整備助成とか、いろんなものを準備して、そして町政座談会に臨むという形が一番いいだろうなと思います。

それから、地域・集落が主体となって取り組むことは、本町58集落が個々の今後の集落の未来像を描き、年次的に計画を立てることが必要だと思います。つまり、各集落で、例えば自分の集落の人員は15名いると、それでは、2年後にこれを18名にしたい、3年後には20名にしたい、22名にしたいという計画を立ててもらおう。そのためには、この集落で何をしなければいけないのかという課題が見えてきます。その課題を、町のほうに、こういうのをやりたいがこの事業を取り入れてくれないかとかという要請が、各集落からできると思います。だから、そういう体制づくりというのをつくるのがいいのではないかなと。そういうシステムづくりをしておいて、町政座談会に臨むと。

そして、また、先ほども申しましたけども、集落担当者がそこにはいますので、もう高齢化が進んで、こういう企画立案も各集落ではできないと、未来像も描けないという、そういう集落もそろそろ出てきてると思います。ですから、役場の集落担当者がフォロー役となって、そういう計画づくり等も携わっていくことが、町民を挙げてこの町がよくなることの一端だと思いますので、そのことをぜひお願いしたいと思います。

町長の考えをお聞かせください。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 議員がおっしゃるその辺についての趣旨は、そうであれば一番いいと、それは思います。

ただし、それを集落ごとにまとめて、これを全58集落のものを提案するというのはなかなか困難です。そういうことがあって、各方面からなる地方創生関係のアンケートをとってまとめようとしているわけでありますから。多分、西園議員かどなたかの質問もありますけれども、やっぱり議会もそれをまとめようとしているわけでありますので、そういった形での、まず議会と町とそういう協議の場を持つ、そういう中で、それもまた地方、各地域に、地区に説明するというのも重要なことという思いはしておりますから、そこを含んで、今後進むべきじゃないかと。

そのことを考えれば、ちょっと私も考えたんですが、私は、全体的にやろうとしている、その辺の最初の計画等を含んで、やっぱりそれについては議会の意見も交えながらやっていく必要があるのかなというのを、今、感じてることだけを申し上げておきたいと思います。

○議長（小園實重君） 西園 茂君。

○4番（西園 茂君） 先ほど、私が申しました南種子町の経済の収支黒字化ということでの提案で、その一番最後に質問として挙げているのが、完熟堆肥の増産による農業振興についてでございます。若干、これ、読み上げさせていただきます。そして、質問に移りたいと思いますけれども。

私は、農業振興で地域の活性化ができないかと考えています。本町の人口減の対策は、町民が生活しやすい環境であるかが問題でございます。定住する条件として、町内で普通の生活ができているかです。男女が出会い、家庭を持ち、住居を構え、子供が生まれ、育て、老後を安心して暮らせることができているかというのが基本だろうというふうに思います。

平成26年度の税務課のデータがあります。この内容を申しますと、町民の7割近くが200万円以下の所得です。税金の申告者、3,214名いるんですが、そのうち858名の方が50万円以下の所得でございます。この中に、赤字所得者、営業所得で申告をしている人が408名いるんですが、そのうち、何と100名が赤字申告です。それから、農業所得者、986名申告しているんですが、その中で374名の方が赤字所得者です。所得がないということですよ。いろんな職業の組み合わせがありますから、その中で皆さん生活ができているわけですから、非常に苦しいことは苦しいでしょうけども、いろんな職業の組み合わせの中でどうにか生活ができているというのが現状だろうと思います。ですから、非常に南種子町民が厳しい生活をしているということは、頭に置いておく必要があるんじゃないかなというふうに思っております。

それで、私は常日ごろから言ってるんですけども、種子島農業のネック、つまり障害は、多くの農家が慢性的な運転資金不足、つまり金がないもんですからいろんな投資ができない、前準備ができないという現況に陥っていると。それから、慢性的な農地の地力不足というのがあると思います。去年は本当にひどい年で、子牛生産の農家が子牛価格でどうにか経営が保たれておりますけども、他の農家につきましては、散々の1年でした。本当言って、ことしは非常に心配しているわけでございます。

この農業の完熟堆肥の増産によって、おいしいものがたくさん私はできると思います。ですから、その農産物の販売であったり、あるいは一次加工6次産業化を進めることで益を得るという形であったり、雇用拡大も望めると思います。

堆肥生産は、畜産業が基本となりますが、日本の家畜のえさは輸入飼料に頼っています。その多くが、遺伝子組みかえのえさです。できるだけ安全な完熟堆肥の増産、町内の道路の土手草等を敷料として、堆肥増産に取り組むことが大切だと思っています。しかし、コスト高がかさむ可能性があります。かさむコストをいかに下げて、堆肥の増産ができるかが課題でございます。現在の島内の畜産農家の問題は、

敷料不足です。敷料さえ確保できれば、堆肥増産が可能です。早急に取り組む考えはないか、町長にお聞きしたいと思います。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 私は、町長に立候補するに当たって、2つの点を主として挙げました。

1つは、病院の問題です。きのうから、今回9名のうちに、5名か6名が病院を言っております。

それから、農業の問題は、私のどうしても取り組まなければいけないというのは、本町の基幹産業の農業を上げないといけないと。例えば、JAXAに行ってる人は別として、コスモテックさん含んで、公務員あるいはまた農協の職員含んで、大半が農業やってるんです。土曜、日曜の休みがありますし、100日以上がいずれにしても休みなんです。ですから農業ができるということではありますが、その中で、農業とは何かというと、今、議員がおっしゃるようなことでの地力の増進、これはもう堆肥しかないということをはっきりわかってるわけでありますから、そういうことで、キャトルセンター、堆肥センターの造成をしましたが、これがフル回転して回ってないということだけは事実でありますので、これについては、例えば堆肥で申し上げますと、敷料が足りません。従来、草払い、大変な草が出るわけです。これが、山に、道端に押し込んでというのがありますから、通常であればやかましく言われるわけではありますが、行政にはやかましく言わなかったかどうかは別として、この辺のを含んでやっぱり回収して、これも使うということとあわせて、ちょうど堆肥センターはYM菌を使っておりますので。YM菌は、最高107度になって、四十数日で大体1つの所で100トン以上ができるわけでありまして、7槽ありますから。こういうことをすれば、YM菌の社長から、今、提案が来ているのは……。

○議長（小園實重君） 町長、時間的なこともありますので、敷料の確保についてのストレートな答弁を。

○町長（名越 修君） それでは、敷料の確保についてはそういうことでございます。

○議長（小園實重君） 西園 茂君。

○4番（西園 茂君） 町長の取り組みに、本当に大いに期待しております。ひとつよろしくお願ひします。

私は、町長が就任して、地方創生事業、5事業ほど事前に提案させてもらっております。町長の話、聞きますと、私と若干違う意見もあろうかと思っておりますので、私は農業に関しましては、この手法でしか恐らく農業経済がよくなる見通しはないと思っておりますので、ぜひとも進めてもらいたいと思ひます。

最後になりましたけども、今日の異常気象で、安定した農産物の生産が今後可能

なのか不安ですが、チャレンジしていかなければなりません。東北の食材は、福島
の原発事故で、韓国、台湾が輸入禁止をしています。国内でも、東北の食材は敬遠
され、子供を持つ親たちは、特に九州産をよく買っているという情報もあります。
町民に安全でおいしい食材を安く提供すること、これは私たち南種子町の役目でご
ざいますし、また、島内でも安全な食材の供給基地として、2,000ヘクタールの農
地をフル活用して事業に結びつけ、真に安全な食材生産を追求し、宇宙の町プラス
安全でおいしい食材供給基地としてPRすることも一案だと思います。町長のお考
えを、私の意見どう思いますか。質問に対するお考えをお聞きしたいと思います。

○議長（小園實重君） おおむね残り30秒です。町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 今、提案のとおり、可能な限り努力したいと思います。

○議長（小園實重君） 西園 茂君。

○4番（西園 茂君） 1点だけお願いしておきます。

私、堆肥センターに行ったんですが、生ごみのにおいがすごいもんです。ですか
ら、堆肥センターは堆肥をつくる場所ですから当然なんですけども、生ごみの搬
入場所を別途つくってもらって、あのおいをどうにかできないものかと、入り口
のほうにありますので。一つ、それを希望して終わりたいと思います。

以上で終わります。

○議長（小園實重君） これで、西園 茂君の質問を終わります。

ここで、11時10分まで休憩します。

休憩 午前11時03分

再開 午前11時10分

○議長（小園實重君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、日高澄夫君。

[日高澄夫君登壇]

○9番（日高澄夫君） 初めに、5月29日、屋久島町口永良部島の新岳の爆発的噴火が
発生し、警戒レベルが5に引き上げられ、住民が屋久島に全島避難との報道で、本
当にびっくりしました。また、先月18日、再び噴火し、噴煙が島間でも確認されま
した。こうしたことから、島民の避難生活は長引くことが予想され、島民、屋久島
町当局の御心労は大変なものとお察し申し上げます。心からお見舞いを申し上げま
す。

さて、最近、今回の選挙を通じて、前町長の梶原弘徳氏が町民の皆さんにお礼状
を出しております。友達が読んでみろというので、読ませていただきました。文面

で、「このたびの選挙は、戯言で人を傷つけ、追い詰め、罵詈雑言で町政をなすという、このようなやり方に町民の皆様が惑わされたことを残念で不憫に思いました」とあります。今回の選挙戦は、本当に氏が言うような状況だったのでしょうか。多分に、私が選挙戦で町民皆さんに訴えたことに対する抗議だったろうと感じました。

しかし、私は、正々堂々、梶原前町政4年間の政策、実績について、事実に基づいて訴えながら選挙戦を戦いました。

第1に取り上げたのが、元職員を懲戒免職にした事件でした。

前町長が、元職員を何が何でも懲戒免職にする必要があったのなら、事件の報告をした平成24年5月28日以前に処分ができるように規程を改正しなければならなかった。しかし、梶原前町長はそれをしておりませんでした。何としても元職員を懲戒免職にするために、法令違反を犯してまでも平成24年4月1日改正したように工作をしたということであったでしょう。首長たるもの、絶対あってはならないことです。

結果として、鹿児島県人事委員会、裁判所に対して、うそを言わざるを得なかった。このことが、判決で明快に示された。また、情報公開請求で、平成24年4月2日告示したとされる文書は不存在ということからも、私たちが追求してきたことが本当に正しかったということを感じております。

私は、選挙期間中、うその規程で懲戒免職にした事実に基づいて、「平気でうそを言う梶原町長」と力いっぱい訴えました。

第2に取り上げたのが、上中下中線の無駄遣いの工事についてでありました。

自分の家の前がいびつだからというだけで、1億1,339万円の無駄遣いでした。自分の財布から出すわけではありませんから、無駄遣いの感覚は多分になかったのでしょうか。どうしても用地買収する必要があったなら、隣の家の中庭の解体の範囲内の延長線で実施すべきだったものを、母屋まで解体するという巧妙な測量を仕組んでおりました。丈量図を含む一切の図面の情報公開請求をしましたが、拒否されました。西野運動場用地買収の条例規則の脱法行為の疑い等も含めて、選挙期間中、「平気で無駄遣いをする梶原町長」と訴えました。

選挙期間中のあるところで、私がこの2つの訴えをしていたところ、町長候補者が、「誹謗中傷だから耳をかさないでください」と通り抜けていきました。お礼状では、戯言、罵詈雑言という言葉を使って、不特定の町民を非難し、自分は悪くないという態度から、お礼状の文面になったのでしょうか。過去4年間の行政推進からは、そのようには全く理解できないことであります。お礼状では、非常に難しい言葉を引用していますが、要するに、批判と誹謗中傷は全然違うということが多分

にわかってないし、幼稚であると私は思っております。

それでは、名越町長の政治姿勢について、住民要求を取り上げながら質問をしたいと思います。

1番目に、町情報公開条例は厳格に運用してくださいということであります。

前町長には、本当にひどい目に遭いました。自分に不利なことは、全て非公開でした。町民の知る権利を何とんでいたのかわかりませんが、とんでもない行為でありました。名越町政では、町情報公開条例については厳格に運用するように求めたいと思いますが、名越町長の姿勢についてお伺いをします。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

[名越 修町長登壇]

○町長（名越 修君） 日高澄夫議員の御質問にお答えします。

情報公開条例の適用につきましては、条例に基づきまして適切に対応してまいります。

以上です。

○議長（小園實重君） 日高澄夫君。

○9番（日高澄夫君） 次に行きます。

子供医療費を高校卒業まで無料にしてくださいということですが、課長に事務的に伺いをします。

前町政のとき、中学校卒業まで無料化を実現しましたので、できたら、小学校入学前までの全対象者の全医療費、小学生の医療費、中学生の医療費についてわかっていれば示してください。

○議長（小園實重君） 保健福祉課長、高田真盛君。

○保健福祉課長（高田真盛君） 議員の御質問のお答えします。

今、議員が質問されました各段階ごとの医療費の総額については、把握は現在できておりません。

○議長（小園實重君） 日高澄夫君。

○9番（日高澄夫君） 高校生についての全医療費はどのくらいでしょうか。

○議長（小園實重君） 保健福祉課長、高田真盛君。

○保健福祉課長（高田真盛君） 高校生の医療費の関係なんですけど、統計的な調査で、年間1人当たり、一部負担金での数字ですけども、2万6,000円ということになります。

○議長（小園實重君） 日高澄夫君。

○9番（日高澄夫君） 年間2万6,000円ぐらいだろうと思うんですが、高校在学中の医療費、種子島中央高校、種子島高校、それから鹿児島を含めてですが、これ、高

校生全体の額がわかりますか。わからなければよろしいです。

○議長（小園實重君） 保健福祉課長、高田真盛君。

○保健福祉課長（高田真盛君） お答えします。

ちょっと訂正をお願いしたいんですが、先ほど、私、高校生の1年間1人当たりを2万6,000円と言いましたけども、これについては、2万6,000円は、未就学児から小学3年生までが2万6,000円でしたので、訂正して、高校生については、1人当たり2万4,000円ですので、3年間で7万2,000円、そういう形で自己負担金が発生するという事に予定をしております。

○議長（小園實重君） 日高澄夫君。

○9番（日高澄夫君） 実際に、私が最初、柳田長谷男元町長のときに、乳幼児医療費の無料化という形で要請をしたわけですけども、その時点で、3歳未満児でしたか、これが年間で四、五百万円ぐらいだと。職員との話の中でも、やっぱりこの3歳未満児が一番お金がかかる時だということもあって、それから小学校未就学児、小学校卒業、そして、前町長のときに、長田浩二元議員が中学生までやれということで、はい、やりますという格好で一発で中学卒業までになったんですが、これが、全国的には高校卒業までというのが流れのようです。

問題なのは、きのうでも、わかっておってわかってないような質問、答弁でしたけども、償還払いと現物給付ということで、現物給付をした場合に、政府は国保の補助金関係にペナルティーをかけてくるわけですよ。ペナルティーが恐ろしいものだから、償還払いだという形で。しかし、償還払い、制度の中では、もうほとんど全国で実施をされているということでもありますから、昨日も言いましたように、全国町村議長会からでも、そういう意見書なんかも発しているというふうなことでありますから、子供医療費を高校卒業まで無料化にするということは、もう本当に社会的な問題であるし、必要だということですので、無料化を——昨日、町長が言いましたように、償還払いですから、2カ月か2カ月半ぐらい後に精算がされるということですので、今、課長が統計上の数字はとっていないということでありましたけども、これは今後、できるものなら、パソコンの中で統計をとっていったら、また後々、新たな利用価値もあるんじゃないだろうかというふうに思いますので、何分にも、南種子町で子育て支援を第一に考えて、子育て、働く世帯をふやすということからも、高校卒業までの子供医療費を無料化にするという考えはないでしょうか。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 子供医療費については、平成27年の10月1日から実施することとして、関係条例の整備を9月議会に提案する予定であります。

検討していくということですが、いつまでも期間をおくわけにはいきませんから、近く、それぞれ協議する機関が設置されると思っておりますので、そのときの対応にしたいと、このように思います。

○議長（小園實重君） 日高澄夫君。

○9番（日高澄夫君） じゃ、今ある補助事業等とか交付金を活用して、少なくとも雨漏り対策でブルーシートやほろで屋根対策をとっている家庭等について適用ができるような補助事業ちゅうのは、建設課長、ないですか。あるいは、また、ほかの課長でもよろしいですが。

○議長（小園實重君） 建設課長、古市義朗君。

○建設課長（古市義朗君） お答えをいたします。

ここまで交付金事業の対象とならない状態でしたが、今般の国のまち・ひと・しごと創生総合戦略及び地域住民生活等緊急支援のための交付金、これから策定していくわけですが、この中で、助成事業のパッケージ等を含めて、今、検討しているところですけど、現時点まではなかなか、今、議員申しあげました案件についての助成についてはないのが現状でありますけども、ここにつきましては、役場全体の考え方もありますので、建設課としても動向を踏まえながら検討が必要と思っております。

○議長（小園實重君） 日高澄夫君。

○9番（日高澄夫君） 次に行きます。

町民に選挙のしこりを少しでも解きほぐす気持ちが町長にあるなら、あえて言わせてもらいます。

中・南の住民のために、町長としての仕事は、公立種子島病院の経営安定を確かなものにするために、医療収支をとんとんにすることです。そのために、医師の招聘、これが一番の仕事だろうと思います。そして、農家所得向上対策であります。これだけに邁進すべきです。ほかは、地方創生と辺地過疎対策事業で職員が計画できますので、この2つの問題をいつも頭に置いて頑張っていたきたいと。

その一環として、国保法第44条の、より充実した運用についてということで質問をしたいと思います。

南種子町は、南種子町国民健康保険における一部負担金の徴収猶予及び減免並びに保険医療機関等の一部負担金の取り扱いに関する要綱を制定しております。この要綱の第4条第1項第3号の見直しを求めるものであります。

第3号の規定について申し上げますと、現行は基準生活費というのがありますが、これは生活保護の基準をこういう呼び方でしております。基準生活費月額額の115%未満の場合は、全額窓口負担を免除するということになっております。それから、

115%以上120%未満の基準生活費月額の場合は、100分の80を助成すると。120%以上の場合は、100分の50助成するというので、窓口の一部負担金の助成をこういう形で、全額免除、100分の80、100分の50という形でやっておりますが、これを現在の生活の状況の中で、150%未満を全額免除に、150から160%未満を100分の80、そして、160%以上を100分の50という形で、低所得者の医療費の助成というのを考えていただきたいというふうに思うんですが、ひとり世帯の生活保護費の基準というのが、6万1,000円から6万2,000円ぐらいでありますので、これに住宅費が加わりますが、基準生活費月額ですから、6万3,000円の150%の世帯の方について全額免除ができないかと。イメージが湧きますか。

そういうことですので、これはもう柳田長谷男元町長のときから、ずっとお願いをしてきておったわけですが、115%というのがどうしても壁になっておって、低所得者の助成というのが当分なされておられません。今、社会問題にもなっておりますから、病院に行けなくて亡くなるとか、それから独居家庭で亡くなるとか、そういうのがもう全国でテレビや新聞にも載っておりますから、そういう点で、少しでも6万1,000円の150%、9万円ぐらいですか。月額収入の9万円ぐらいに見直しをした世帯については、病院の窓口負担を無料にしてもらえないかということですので、その辺について、町長はどのようにお考えでしょうか。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 非常に難しい問題だと思います。日高議員が説明してることについては、8年前から、私が町長になった段階でちょっと一時的に上げました。ところが、県下で一番高い国保税でありましたから、それをまたずっと下げたわけですね。そのことが、ずっと下げたままで来ておまして、今、市町村の中では南種子が一番安い国保税じゃないかと思っておりますが、（「ちょっと勘違いしとらん」と呼ぶ者あり）その辺については……。

失礼しました。それじゃ、担当課長から説明します。

○議長（小園實重君） 保健福祉課長、高田真盛君。

○保健福祉課長（高田真盛君） 日高議員の御質問ですが、窓口負担軽減の本町の対策について、まず若干説明をしたいと思います。

先ほど言いましたように、要綱を平成23年4月1日に定めて実施しているところであります。本町の国保税の負担構造から見ますと、およそ6割の世帯が応益割の軽減を受けていることから、所得割の課税所得者の重税感が高くなっていると思われております。

郡内の状況についても、実収入額が1.25から1.3倍未満のときが適用となっております。厳しい国保の財政事業の中でありますので、国の特別調整交付金で措置される

基準を大きく超えてまでの減免というのは厳しい状況であります。調整交付金で措置されていない部分の財源については、国保税で補填することとなってくるようになります。

現在の国保の財政状況は、税負担の抑制を図ることから、税率については据え置きとし、財源不足については一般会計からの法定外繰り入れで運営をしている状況であります。

国保法の改正により、国保の運営を平成30年度から、市町村から都道府県へ移すことが決定しております。県への移管前の期間の運営について、税負担、法定外繰り入れ、医療費の減少対策、減免等、総合的に検討する必要がありますので、引き続き御理解をお願いします。

○議長（小園實重君） 日高澄夫君。

○9番（日高澄夫君） 忘れないで検討をお願いします。

次に行きます。

元職員を懲戒免職にした捏造の南種子町職員の交通事故及び交通違反に対する行政処分に関する規程（平成24年4月1日訓令第2号）は破棄して、旧規程に戻してくださいということであります。

町公告式条例第4条によるこの規程を公表する関係文書は、不存在でした。訓令として職員に示達した日を証明するように、裁判所は、平成24年6月29日に口頭で職員に周知され、同年9月20日に南種子町例規集に掲載されたものであり云々と判決で示しております。南種子町政史上に汚点を残す訓令第2号であり、法律不遡及の原則に反して、元職員を処分するために制定した訓令第2号でありますから、破棄して、旧規程に戻すべきだと思いますが、町長、いかがお考えですか。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 捏造された訓令第2号を破棄せよということではありますが、現在のところ、本当に捏造されたのかどうか、判断がしにくい状況にあります。当事者本人からの事情聴取、顛末書から判断しても、現段階でははっきり見えない状態にあります。

今後、さらに調査を進めながら、最終的には近く判決が出る福岡高裁宮崎支部の判決との関連もありますので、司法の判断を考慮しながら、適正に対応してまいります。

規程の見直しが必要かどうかは、今後、十分検討してまいります。後を絶たない地方公務員の不祥事や、平成20年4月1日改正の人事院懲戒処分の指針の一部改正、平成21年6月1日施行の道路交通法の一部改正を受け、社会情勢を考慮し、近隣町村の改正にあわせて、厳重な処罰もできるように改正されたということであり

ます。

○議長（小園實重君） 日高澄夫君。

○9番（日高澄夫君） 町長、首長になって時間もないですから、それはそうかとは思
うんですけども、この判断しにくいという、そこ辺の判断はちょっとおかしいです。
そういうことをすると、懲戒免職にあった職員というのは浮かび上がりませんよ。
もちろん、高裁宮崎支部の判決が今月8日にあるというふうなことも聞いておりま
すけども、余計なことですが、もし判決で地裁の判決を支持した場合に、最高裁に
上告するかどうかということになるわけですけども、これは梶原弘徳氏が自分のこ
とでやったわけですよ。南種子町のためにやったわけじゃないんですよ。まして、
町の公告式条例第4条にいう起案をして、告示をする、公告をするという玄関の掲
示板ですよ。向こうに告示をするのが不存在だったということですから、4月の
2日から、まあ、4月10日でもよろしいですが、公布の日から施行するといった場
合に、20日近くかかりますから、4月いっぱい不存在だったんですよ、文書が。初
めて裁判長が言ったのは、平成24年6月29日に口頭で言ったということなんですよ。
それを、判断しにくいなんかというのは、これはとんでもない話ですよ、はっきり
言って。

ですから、お父さんが、今、告発をやってますけども、私も行きました、行こう
からと言うから。行ったけども、捜査中というだけで、なかなか前進しませんでした
けども。やっぱり刑事訴訟法では、速やかに検察庁に上げなければいけないとい
うふうなこともありますので、また警察署に行って、どうなるかと、何をしよう
かということをお願いしたいと思ってるんですけども。

はっきりしてるわけです。それを、名越町長が今のような言い方で、判断がしに
くいなんかということであることであることであることであることであることであ
れば、とんでもない話ですよ。町長としても、梶原町長と全然政治姿勢として変
わらないということです。不存在という情報公開をした以上は、行政上、悪いとい
うことじゃないわけですから、これはもうしっかりと戻すべきだというふうに再
度検討してください。

次に行きます。

名越町政の人事行政ということですが、いろいろ言われていますように、人事行
政で昔も今も変わらないのが、選挙にまつわる論功人事であります。支持者との
情実採用人事、論考人事などに対する報復人事、そして極めつけが、首長が勝手
に支持者の子弟等の任用で、自分の地位の保全、自己の利益を守るための獵官人
事で、職員の差別扱いがあります。これはもう、今も昔も変わりません。これら
は、全て公平公正な人事行政ではありません。権力を握れば何でもできると、あ
からさまに実行してきました。

名越町政においては、こうした公平公正ではない人事行政の反省の上に立って、町民が納得する公平公正な人事行政を求めるものであります。具体的に言わせてもらえば、3カ月から6カ月の短期非正規職員の雇用であっても、全て2カ月ぐらい前に広報紙で公募するような、そういう気配りをお願いができませんでしょうか。

そして、また、昨日の質問の答弁の中でも、職員が多いとかというふうな答弁も若干見受けられましたので、そういう場合の雇いどめは法律違反を犯さないように、派遣法に関する改正法律なんかを通りましたけども、これがまだ施行がなされておられませんから、現労働契約法なんかは適用されると思いますけども、雇いどめは法律違反をした者以外は実行しないでください。法律違反、つまり交通違反とか、そのほか明確に法律違反を起こした者以外は、これは前町長が採用したとしても労働者には責任はありませんので、非正規職員であろうとも真面目に勤務している職員については、法律違反を起こした者以外は首にしないように考えていただきたいんですが、いかがでしょうか。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 日高議員のおっしゃるその辺については、当たり前のことだと思います。私は、公平公正に適材適所の配置をし、報復人事等は絶対しません。

しかし、つまり公務員の中には、どうしても精神的にまいってしまうというパーセントがあります。これは、5%から6%です、国家公務員も全て含んで。そういうことであれば、都合によって場所を移らなければいけないということもあります。つまり、仕事の軽減とか、その辺を、私は課長にも就任した当初から申し上げておりますので、そういう気配りをしながら一生懸命みんなやってもらうようなことをして、それで、今、議員がおっしゃったようなことは、当然のことながら、そういうようにすべきだと考えておることを答弁いたします。

○議長（小園實重君） 日高澄夫君。

○9番（日高澄夫君） 過去4年間、報復人事から始まりましたので、そして猟官人事まで行きましたので、あえて私は名越町政においては、こういう人事行政はやりたくないということに要請をしました。これは、職員あるいは——今、何で役場に、ちょっと感想を言いますと、南種子町役場に非正規職員が生まれたのは、給食センターからでした、もう私が組合の役員をしてるときでしたけども。給食センターの調理員の定年退職と同時に非正規職員で調理師を雇用していきました。また、運転手についてもそういうことでしたので、現業部門が非正規関係になっていきました。これは、また和歌山県かどこかでしたけども、町で裁判に負けたんですね。当局が勝ったということもあったりして、それから最高裁の問題もあっただろうと思うんですけども、非正規というのがふえてきました。

そういう形で、それを国ももちろん自民政権ですから、当然認めるでしょう。そういう形で、職員で賄うという地方公務員法という法律があるのに、非正規職員を地方公務員法の範囲内の非正規職員ではなくて、もう大きく拡大がなされてきましたので、そういう点からは、労働者には責任はないわけですから、そこで真面目に働く職員については首にしないように、ぜひよろしく願いをしておきます。

次に行きます。

禁煙は時代の流れですから、庁舎敷地内はもちろん、各学校も含む町管理の公共施設では、昼食時間以外は、職員、来客を問わず禁煙にすることを検討してみてください。

7月1日の南日本新聞にこういうのがありました。喫煙原因の肺疾患、COPDで、鹿児島県が全国ワースト1だという形で記事もありました。ですから、時代の流れだということで、大きな気持ちで禁煙ということに対する取り組みを考えてみてはいかがでしょうか。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 禁煙問題については、議員の発言のとおり、どこでも言われているわけです。そうした中で、これを条例でやるとかということはできませんから、私としては、喫煙の時間帯や場所を含めまして、職員の意見も聞く必要があると思っておりますから、そういうことも含んで、職員の協力が得られたら、実施していかなければいけないんじゃないかと思いますが、時間帯の問題もありますし、十分検討させていただきたいと、このように思います。

○議長（小園實重君） 日高澄夫君。

○9番（日高澄夫君） 健康を守る法律はあると思いますから、それに基づく実施要綱をつくれればいいわけです。何のことはないです。検討をすることも必要ないですよ。がんになるわけですから。COPD、肺気腫になっていくわけですから。そういう法律がある中で、じゃあ、その法律に基づいて実施要綱をつくろうじゃないかと。簡単ですよ。やろうと思えば簡単です。

8番目に行きます。

特別会計に対する一般会計からの法定外繰り入れについて、平成26年度の実績を示していただけますか。そして、平成26年度の実績を基準にして、27年度以降も法定外繰り入れを求めたいと思いますが、課長でもよろしいです。

○議長（小園實重君） 保健福祉課長、高田真盛君。

○保健福祉課長（高田真盛君） 平成26年度の国民健康保険特別会計の法定外繰入額については、3,000万円の繰り入れをしたところであります。

○議長（小園實重君） 建設課長、古市義朗君。

○建設課長（古市義朗君） お答えいたします。

建設課といたしましては、水道事業の法定外繰り入れでございます。平成26年度の実績で、3,772万円であります。

○議長（小園實重君） 日高澄夫君。

○9番（日高澄夫君） この問題と、あと電柱の問題だけですね、16分ですから。ここでじっくり課長と話し合いをしたいと思いますが。

国保で3,000万円ですので、準備されとれば、基金は幾らぐらいですか。今、基金、幾らありますか。水道はないと思いますから。言ってもらえますか。

○議長（小園實重君） 保健福祉課長、高田真盛君。

○保健福祉課長（高田真盛君） 基金の残高につきましては、平成27年度繰り越し分含めて、現在、2,491万8,958円あります。

○議長（小園實重君） 日高澄夫君。

○9番（日高澄夫君） 町長、それだけ積み立てておきながら、3,000万円の法定外繰り入れを一般会計から国保会計にするということで、これは画期的なことなんです。前は、日本全国どこでも基金を何億も積み立てているから、それを取り崩してというふうな形ですとどこでもやられておるんですけども、私も、柳田長谷男元町長にもう何回も言って、基金の取り崩しをしてもらいました。

法定外の繰り入れというのは、梶原町長からなんですよ、はっきり言って、話が。それが、高速船のポンツーンですか、あれが中止になりましたから、300万円からずっとスタートをして、そして議員の一般質問なんかもあったりして、繰り入れの額を下げるといって、今3,000万円ということを経営が申されましたけども、3,000万円の一般会計からの繰り入れという形で、もしわかってたら、保険税の率を示してもらえんですか、課長。わかってなければいいですが。——わからない。じゃあ、いいです。

じゃあ、わからないということであれば、何年間ぐらい率のアップをしておりますか。4年か5年ぐらい。お願いします。

○議長（小園實重君） 税務課長、河口恵一朗君。

○税務課長（河口恵一朗君） 5年ほど上げてないと思っております。

○議長（小園實重君） 日高澄夫君。

○9番（日高澄夫君） 町長、税務課の資料と総合農政課の資料なんですけども、平成27年度の申告状況です。つまり、平成26年の収入分で、農業所得2億1,000万円、対前年度比で85.52%、3,561万9,730円も26年の農業所得は下がってるわけです。プラスは給与所得とその他の所得という形で、営業所得、不動産所得、年金所得、ほとんど下がっております。こういう形ですから。

もう一つ、また総合農政課の資料として、さとうきびの実績、農家の平均単価ということで申し上げますが、南種子が1万7,648円、西之表が1万8,044円、中種子が1万8,024円、こういう平成26年産の実績です。甘しょについてみれば、これは南種子だけですけども、2万5,129円、10アール当たり1,694キロ、俵数ですと45.2という、反収45俵、そういう格好ですよ。きびの問題にしてみても、20年来、本当にこういう所得が下がってるというふうなことでありますから、一般会計からの繰り入れというのはどうしても必要ということで、平成27年度以降も最低3,000万円。

それから、建設課長、この3,700万円の中で、認可関係の分が入ってますでしょうか。

○議長（小園實重君） 建設課長、古市義朗君。

○建設課長（古市義朗君） お答えいたします。

この数値は、認可以外の数値であります。

○議長（小園實重君） 日高澄夫君。

○9番（日高澄夫君） 認可外の数ということになれば、事務費、経費、それから補助事業としての建設事業費を含めて、これだけ3,700万何がしの補助をしなければ、水道料金だけでは賄えないということでもありますから、3,000万、3,700万円、こういうのは、ぜひ一般会計からの繰り入れということで、平成27年度以降も法定外繰り入れをしてもらいたいわけですが、町長、いかがでしょうか。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 大変難しいことだと思うんですよ。水道関係では、今後また本年度はさらに事業がふくれてきますから、これも起債がつかない場合、そういうときもありますので、そういった点も考慮しながら、やっぱり今後の財政運営を含んで検討しなければいけないと、そのようには思います。

しかし、国保関係で言えば、総合的に平成30年度から、市町村じゃなくて、県単位のそれになるということになりますと、鹿児島県で一番安い南種子町の税というのは相当上がることはもう間違いないわけでありまして、その辺はそれとして、現在、町がやっている段階ではどうしようもないという現状は私も理解できますので、その点は検討してまいります。

○議長（小園實重君） 日高澄夫君。

○9番（日高澄夫君） 町長、4年間、値上げ町長と言われぬように、ぜひこれだけは最大限の努力をしてもらいたいというふうに思います。それ以上に町民の生活は苦しいんですよ、はっきり言って。ですから、極端な言い方をすれば、給与生活者だけが一定限の生活をやってると。西園議員も所得の関係の質問を出しましたけ

ども、そういう実態ですよ、はっきり言って。

ですから、今、言ってるのは、きのうからも出されていますように、公共料金が第2税金だと、学校給食費も第3税金だと、町県民税、所得税が第1税金だと見ればですよ。そういう格好で、もう地方公共団体に吸い上げられる料金というのが何種類もあるわけですから、それを少しでもカバーをするという、低所得者をどういふふうに見守っていくのかという点については、そこ辺を総合的に検討していただいて、今、一番何が大事かという、水道料金と国保税です。そういう点で、無駄遣いをやってきた梶原町長でさえ、4年間、この国保税については、それから水道会計については、法定外繰り入れをやってきたわけですから、これは必ず守っていただきたいというふうに思います。

最後に、上中本町共栄線の町道敷地の九電柱——3本ではなく、4本でした——を移転してもらうように九電が確約するまで、ぜひ、課長、要求してもらいたいです。

そして、最後の手段として、九電が絶対言うことを聞かないときには、中平小学校の公共用地あるいはまた私有地で相談ができるところ、保育園の敷地の隅っこなんかを利用して、この4本を移転をしてもらえないかと。

というのが、このゾーン30を要求したのも私でしたので、梶原町長がゾーン30に指定をしました。ですから、狭い道はゾーン30という格好で通学路として子供たちを守っております。その中に、でっかい電柱が4本ありますから、これを障害物として移転をしてほしいということですので、町長、いかがでしょうか。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） この件については、関係課長、それぞれ担当課長の答弁書も踏まえて、九電の担当者に直接電話を入れました。そしたら、申請書を出すようにというように言われまして、これはもう担当課長はそれに沿って出しております。電柱番号、それから立てる位置もこちらとしては示してあります。つまり、電柱はどったほうがいいということは、もう皆さんの提言、意見でありますし、以前からそういうことがあってなかなか実現されてい wasn't したので、私が直接やっぱり折衝したほうがいいという判断をしましたので、直接やりましたから、近く、また九電から来ると思います。

以上です。

○議長（小園實重君） 日高澄夫君。

○9番（日高澄夫君） この上中共栄線は、歩道がないです。ですから、電動車椅子、通行が非常に危険です。そして、また、子供たちも、学校も相当考えて通学路をどうしようかということで、やっぱり声かけの問題とか、いろいろ防犯協会がブザー

を買って子供たちに渡すという、そういうことまでしなければ犯罪の防止にはつながらないということもありますから。この上中共栄線は人通りが多いんです。ですから、そこを通学路として、学校とも十分相談をしながらするというのが一番適当なことじゃないだろうか。そのためには、車も同時に通行しますから、障害物は一日でも早く撤去してもらおうと、移してもらおうということで、ぜひお願いをしたいと思いますので、よろしく願いしときます。

終わります。

○議長（小園實重君） 答弁はいいですか。

○9番（日高澄夫君） はい。

○議長（小園實重君） これで、日高澄夫君の質問を終わります。

ここで暫時休憩します。再開をおおむね午後1時15分とします。

休憩 午後 0時08分

再開 午後 1時13分

○議長（小園實重君） それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続行します。広浜喜一郎君。

[広浜喜一郎君登壇]

○6番（広浜喜一郎君） 私も、さきの統一地方選挙におきまして、町民の皆様方の御支持をいただき、町議会議員として2期目の当選をさせていただきましたことに対し心から感謝申し上げますとともに、その責任の重大さを痛感しているところであります。町民の皆様方の負託に応えるため精いっぱい頑張りますので、よろしくお願い申し上げます。

それでは、通告に従い、一般質問に入りますが、今回の選挙ほど、町長と町議の選挙が絡み合った選挙は今までにはなかったことではないかと、私なりに感じているところであります。

今回の統一地方選挙についてであります。町長も、何回か後援会だよりも出しまして選挙戦を戦ってきておられますが、出馬に当たっての挨拶の中で、「昨年12月29日に立候補を決意した」とありますが、選挙までの時間も余りない中で出馬に至った考えをお伺いいたします。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

[名越 修町長登壇]

○町長（名越 修君） 広浜喜一郎議員の御質問にお答えいたします。

町長に出馬することを全く考えてはいなかった中にありまして、私に対しまして

出馬してほしいという要請が、12月24日、25日、26日と3団体によって申し出がありました。

私としては、関係者と協議した結果、決意をしたというのが年末の29日の日であります。その後、1カ月間かけて、後援会、町民の方々の意見を聞き、1月31日に後援会を開きました。2月1日から55日ぐらいかけて毎日回ったというのが、私の選挙を展開した経緯でございます。

○議長（小園實重君） 広浜喜一郎君。

○6番（広浜喜一郎君） 町長は、出馬に当たっての挨拶の中で、「現在の南種子町は、町長と議員、議員と議員の裁判が行われています。日本全国こういう町はありません」とありますが、全くそのとおりだと思います。町長を相手に裁判を起こしている議員、議員を相手に裁判を起こしている議員を町長は知ってると思いますが、ここで名前を出していただきたいと思います。町民にも知らせる必要がありますので。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） そのことは、私じゃなくて、広浜議員が一番わかっていると思いますから、自分で出したほうがいいと思います。

○議長（小園實重君） 広浜喜一郎君。

○6番（広浜喜一郎君） 私は、議会の会議録にも記載する必要があると思いますので、町長に答弁を求めたわけです。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） それは、発言しません。

○議長（小園實重君） 広浜喜一郎君。

○6番（広浜喜一郎君） この前町長を相手にやっている裁判は、町民の大事な税金が使われています。国の許可、県の許可もあり、予算も議会で可決されて実施した事業です。もう一方は、議員が議員を相手に裁判をやっております。このような全国に余り例のない裁判をやる議員がいる限り、南種子町議会は正常化されないと私は思います。

町長、この日本全国に余り例のない裁判をやっている議員に対し、町長はどのように思っているのか。裁判をやって当然だと思ってるのかどうか、考えを聞かせてください。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） それを私が答弁する必要があるんでしょうか。その辺については、皆さんも常識的にわかると思うんです。考え方は違うわけです。皆さん方、議員の人たち、あるいはそれに異論を唱えている議員、それぞれ考え方は全く違うわけでありまして、私としては、議会というのは南種子の将来のことを考えながら、

それぞれの言っていることが何であるかということなどを踏まえますと、皆さん方がやっぱり意見を出し合うという、そういう中で解決されていくんじゃないかなという思いがありますので、今後、そういった形で、議員の皆さん方もお互いに協議しながら、裁判せんでもいいんじゃないかと、何でそうするのかとか、いろいろあるじゃないですか。そこを話し合うのが議会議員同士だと思っておりますから、ぜひ今後そうあってほしいなという希望を申し上げたいと思います。

○議長（小園實重君） 広浜喜一郎君。

○6番（広浜喜一郎君） 町長が、後援会だよりに「日本全国こういう町はありません」というふうに書いてありますから、それに対して、町長はどういうふうにこの裁判について思ってるかということを知りたいわけですよ。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 裁判をするような町長と議員、何で起きたんでしょう。町長がしっかり答えておれば、こういうことは起きないんじゃないでしょうか、全て。私はそう思います。

○議長（小園實重君） 広浜喜一郎君。

○6番（広浜喜一郎君） 全然答えにならないと思いますけども、この裁判を認めるということかどうかを私は知ってるわけでありまして、そこら辺はどうですか、町長。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 認めるかどうかじゃなくて、今、裁判が起きてるじゃないですか。だから、それは、あなたが今言ってるとおり、私に聞かなくても、町民がそれぞれ考え方を持っていて、そういうことが全体では選挙にもあらわれたと思っております。

○議長（小園實重君） 広浜喜一郎君。

○6番（広浜喜一郎君） それでは、副町長にお伺いしますが、副町長も建設課長もやりますので、この事業予算の執行については十分にわかっていることと思いますが、議会で通過した事業費の予算を執行したことに対して、議会の議員から裁判をされたらどういうふうに思いますか。副町長の考えをお伺いします。

○議長（小園實重君） 副町長、長田 繁君。

○副町長（長田 繁君） 議会で可決した事業費の予算執行したことに対して、議会の議員から裁判されたらどう思いますかということですが、まず、私は、もし自分が建設課長であったとすれば、このような問題に波及しないよう、実施設計の委託料を計上する前に、建設課内で十分、今の計画はいいのかどうか、その辺も検討しなければならないというふうに思いますし、予算計上前には、議会への十分な事前説明があれば、このようなことにならなかったのではないかとこのように思

っております。

特に、このことについては、梶原前町長のかかわる大事な用地買収問題でありますので、議会においても、委託料の予算計上、工事請負費の計上段階では、特別に十分な調査をする必要があったのではないかなというふうに思っております。予算が議決をされたということであれば、それは尊重すべきことだというふうに思っております。

○議長（小園實重君） 広浜喜一郎君。

○6番（広浜喜一郎君） それでは、副町長は、この事業に対しては適当な事業ではなかったというふうに思ってるということですか。

○議長（小園實重君） 副町長、長田 繁君。

○副町長（長田 繁君） 適当かどうかということじゃなくて、私は事前の説明を十分して、本当に必要かどうかというのはそれぞれが判断をすることですので、私がどうかということについてはコメントを差し控えたいと思います。

○議長（小園實重君） 広浜喜一郎君。

○6番（広浜喜一郎君） この事業については、事前に十分打ち合わせもしてやってることだというふうに思っております。この議員が、6月30日付で裁判所への訴訟を取り下げたと聞いておりますけども、本当ですか、町長。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） きょう、和田弁護士から、そのようになったということで文書が届きました。

○議長（小園實重君） 広浜喜一郎君。

○6番（広浜喜一郎君） 町長が代われば訴訟を取り下げる、全くおかしな話ですよ。今まで町が支出した経費等を含めまして、損害賠償を求める考えはないかどうか、お伺いいたします。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 損害賠償を誰に求めるんですか。その裁判を起こした人に対してですか。（「そうです」と呼ぶ者あり）それは、今、まだ考えておりません。

○議長（小園實重君） 広浜喜一郎君。

○6番（広浜喜一郎君） もちろんですよ。町の予算を使っているわけですから。裁判をしたから。ですから、その議員に対して損害賠償を求めるのが当然でしょう。取り下げるんですから。そういうことですよ。どうにも話になりませんけども。

この上中下中線の道路改良事業ですが、町長は、「町民を無視し、上中下中線の道路改良事業など私利私欲も甚だしい」と後援会だよりで言っておりますけれども、今まで中断していた中学校からの両側歩道つきの道路ですよ。これを、国や県の話

し合いも終わって、許可も受け、有利な補助事業で継続して実施したものだとは私は理解しております。そこが誰の土地だろうが、関係ないのではないですか。町長、どのような理由で「私利私欲も甚だしい」と言うのか、お伺いいたします。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 私は、基本的には、桂荘の前からJAXAの向こうまでは、もう舗装されたわけですよ。してあるわけです。その前に、私の段階で長期振興計画は、辞めた段階で工事ができるようになっておりましたから、それを延期して、長期振興計画を見直して、それで、現在の道幅でやっても、わずか30センチぐらい町側のほうにずらせば、一つも買収せずに七、八千万円で済むということだったと思うので、そのことを考えれば、何で買収したんでしょう。自分の家をかけて、隣の人と含んで、JAXAの向こうまで。十分歩道としてもありますし、交通量からしてもそうですし、速度制限にしても40キロですから。上中から西之表まで、ほとんどが速度制限50キロですよ。そういう人通りのことも考え合わせて、私は今、話をしてるんですが。ちょうど事故がああとき起きた、その段階の立ち会いに私は行ったわけです。そこで考えたこともちゃんと僕は覚えておりますが、そういうことを総合的に判断すると、その必要はなかったんじゃないかというのが私の判断で、そう思ってるということでございます。

○議長（小園實重君） 広浜喜一郎君。

○6番（広浜喜一郎君） 町長、この「私利私欲」という言葉の意味はわかっておりますか。辞書にもありますように、自分だけの利益をむさぼろうとする心のことです。この道路改良事業は、前町長の母の家だけが対象になったのではなく、もう一人の個人の家も含め、JAXAの敷地、それに施設も対象になっています。ですから、自分だけの利益にならず、私利私欲には当たらないと思いますけども、どうですか、町長。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 計画を出したのは誰でしょう。誰だと思いますか、その計画を出したのは。町長じゃないですか。全国、その当時、二千幾らの市町村があったんですが、自分の関係する敷地を買収する首長というのは、全国にいませんよ。そういう点は、誰が計画して誰とやろうとしたかということが問題になってくるんじゃないかと思うんですが、その辺から言うと、私は、梶原氏がそういう計画をしたらあろうということであれば、梶原氏は、わずか七千七、八百万、八千万円ぐらいで済むような工事費が、1億五、六千万円もかかったというわけでしょう。そういう無駄遣いをする必要ないんじゃないかというのが私の基本的な考え方から、そういう言葉を使ったということでございます。

○議長（小園實重君） 広浜喜一郎君。

○6番（広浜喜一郎君） 町長、この中学校からの両側歩道付きの道路ですよ。改良事業は、平成14年度で、前町長の母の家の軒先まで来てるんです。それで中断になっていますが、町長はこの時期、助役だったと思いますけども、ここで中断になった理由も知ってるのではないかと思いますけども、知ってましたら教えていただきたいと思います。平成14年度。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 具体的には覚えておりませんが、そうできているからといって、向こうのほうから出てきたのに、そこだけを広げるという必要はないというのが私の判断だということです。

○議長（小園實重君） 広浜喜一郎君。

○6番（広浜喜一郎君） そこだけを広げるんじゃないくて、そこまで来てるから、軒先まで。それをつなごうという事業でしょう、この事業は。そこで町長の家の前だけ幅員を広げるとか、歩道を広げるのならわかりますよ。それと、町長の家の前からその事業が始まるんだったらわかります。今までやってきた事業をそこで中止しとっておいて、何でそこが私利私欲になるか、ちょっと理解できませんけども。もう一度、平成14年度で中止になった理由を知ってございましたら教えていただきたいと思いますけども、知りませんか。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） その辺については、あなたの判断で結構でございます。

○議長（小園實重君） 広浜喜一郎君。

○6番（広浜喜一郎君） 中学校からの両側歩道付きの14メートル道路を、山崎団地から来ている山崎通り線に接続したという事業だと聞いております。個人の家軒先まで来て、それでそこからもう片方の歩道はやめるとか、そういうこと自体がおかしいことで、それまでは何の反対もしなくて事業を実施してきたのを、町長が代わったら急に変更するとか、反対するとか、私には理解できませんけども、町長はどのように考えておりますか。（「議長、副議長を退席させてくれ」と呼ぶ者あり）

○議長（小園實重君） まずは、私語は慎んでください。（「退席、退席」と呼ぶ者あり）

町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 今、高等学校の前からずっとそういう計画があったのかというと、なかったわけですよ。公立病院の前まで歩道はついてないでしょう、片方は。だから、そういう片方が計画に載っていれば別として、そこで終わるということになっておったと思いますので、じゃあ、梶原氏が、そこをずっと両方とも買収しよ

うとしていたのかどうかということだと思いますよ。それはどうでしょうか。

○議長（小園實重君） 広浜喜一郎君。

○6番（広浜喜一郎君） 私は、高校の前からのことは一つも言ってませんよ。この道路は、中学校から両側歩道つきで来てるから、学園橋も通って来てるから、その継続だというふうに私は思ってるわけで、高校の前なんか関係ないですよ。何を言ってるのか、ちょっと。（「どっちも関係あるよ」と呼ぶ者あり）

○議長（小園實重君） 議長を通して発言願います。

○6番（広浜喜一郎君） 理解できませんけども。

話が先に進みません。次に行きます。

選挙公約マニフェストについてでありますけれども、公立病院の運営について、病院経営についてであります。昨日も同僚議員から質問があり、重複する点もあるかもしれませんが。

町長は、選挙公約の中で、「公立種子島病院運営を早急に立て直し、医療福祉の充実を図る」と言っておりますが、公立病院は、平成26年度決算見込みでも、今までの努力が実り、幾らかの黒字決算となっているようです。病院運営をどのように立て直そうと思ってるのか、きのうも質問があったんですが、再度お伺いいたします。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） きんのうも、3名の議員から、私のマニフェストに掲げる公立種子島病院についての質問がありまして、本日の広浜議員にも重複した答弁になるかと思いますが、お答えいたします。

広浜議員も御承知のとおり、去年は4名の常勤医師によって、財政的に経営利益は発生しておりますが、しかし1人の先生が3月で転任後は、後任の予定が立っていない現状であります。健全経営にはほど遠いということもございますし、私は早急に医師確保に取り組まなければならないということ、4年前の首長でありましたから、そういう経験を踏まえて、やっぱり医師確保のノウハウというのはありますから、それを踏まえてやることによって、62床にふさわしい医師、看護師あるいはまた検査技師とかたくさんいるわけですが、特にそういった施設職員をそろえることによって、62床が完全に運用できるようにしていくというのが、首長としての、管理者としての責任だと思って、町長になった場合はこういうことをやりたいということを申し上げたところでございます。

○議長（小園實重君） 広浜喜一郎君。

○6番（広浜喜一郎君） これも昨日質問があり重複しますが、町長は後援会だよりの中で、病院の累積赤字が6億10万円だといって前町長の責任追求をしていますが、

この6億10万円の中には、前の町長時代の平成19年度から22年度までの赤字も約半分含まれております。数字を申し上げますと、平成19年度、約2,836万9,000円、平成20年度、約1億1,669万6,000円、平成21年度、約1億1,423万5,000円、平成22年度、約4,033万2,000円の赤字であります。4年間の合計で、約2億9,963万2,000円の赤字となっております。

自分のときの赤字をよそに他人だけの責任を追及するやり方は、幾ら選挙の資料とはいえ、卑怯なやり方だと私は思いますが、町長はどう思いますか。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） その資料については、私はいわゆる情報公開がされませんでしたから、総務省に出している市町村の決算状況、それから引き出しまして、総合的に財政分析を専門家にしていただいた結果として数字を出しましたが、実際、私のときの赤字というのも3億円ぐらいつてのはあるわけでございますので、きちんとそういう状況というのを踏まえた上で、累積では6億幾らということになった、その表現でございますから。ちょっと表現がまずかったかどうかは別にして。私は町長になりましたので、中身の精査については今後さらに精査をしてまいりたいと、このように思います。

○議長（小園實重君） 広浜喜一郎君。

○6番（広浜喜一郎君） ですから、この後援会だよりの中にも、「私のときにも3億円ぐらいの赤字はありましたが」というふうには書けばいいんですけども、片方の批判ばかりしておりますんで、町民がどのように受け取ってるか、ちょっと気にかかりますけれども。

次に、常勤医と正看護師の確保対策についてであります。町長は公約の中で、「常勤医と正看護師の確保に早急に取り組む」と言っておりますけれども、現時点で常勤医確保のめどが立っているのかどうか、きのうも質問があったかと思いますが、お伺いいたします。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 現時点では、誰をとということまで確定はしておりません。折衝中でございます。そのことについては、就任してから、即、県庁の担当課長、それから県立病院局の次長に面談に行きました。その後も、総務課長等含んで、医師会長のところにも行きましたし、医師、それから職員の確保についてどのような対応をしたほうがいいのかということ等も調査をしておりますし、それは今後生かされると思っております。

そういったようなことをやらなければ、やはり病院は、3名の医師あるいは4名の医師ぐらいではどうしようもないと。なぜかと申しますと、62床の病院ですから、

62床をもとに決算をつくらないといけないと。つまり、25億円を毎年1億数千万円ずつ返済しているわけでありますので、そのことを考えると、やっぱり医師を6名以上。本当は5名以上と事務局では提案しておりましたが、私るとき、6名以上いたことがあります。6名以上ぐらいいないと、どうしても病院の経営というのはできないんじゃないかと思うわけでございます。

つまり、そのほか、町立病院としては、産業医もやらないといけないです。JAXAでありますとか、お隣の福祉施設関係含んで。それにも毎週2人の先生が行っているわけでありますから、それに加えて、宿直があるんです。土曜、日曜の休みの代休もありますし。そうすると、医師はもうどうしようもないと。だから、今、3人の先生というのは、本当に不眠不休でやってるような状況でありますから、それを横から見たときに、病院経営というのはきちんと院長、事務長、それから関係スタッフがそろって、経営まで含んだ体制でやらないといけないという、そういうことも含んで私の方針となったところでありますが、基本的には、私が町長になった段階で、鹿大からの医師派遣がストップになりました。それは、医師法の改正によって、4年研修が6年に変わったことによって引き揚げたわけでありますが、そういった中で、先生方をどうするかということでありましたので。でも、頑張った結果として、医師はちゃんと確保しましたから、その後については、全部院長が中心になって、私は1年やっただけで、あとは全部病院のほうで医師の招集はやりましたので。そういったようなことも含めれば、まず最初は、やっぱり医師をちゃんと確保することによって、それに必要なスタッフというのは、当然事務局の事務長含んで、そこから出てくるわけでございますので、そういうことをしないと病院経営はできないんじゃないかというのが私の考え方でありますので、それに向かって、私は今後やっていこうということを取り組みをしたいと、こう考えております。

○議長（小園實重君） 広浜喜一郎君。

○6番（広浜喜一郎君） 町長、現在の院長の契約が9月までのようです。前町長が何回か苦勞してお願いに行きまして、ようやく来てもらってる院長ですけども、院長のおかげで、鹿児島大学病院との連携もうまくいくようになっております。現職の議員からは、公の場所で、院長の診断書はにせ診断書だとか根拠もないことを何回も言われまして、院長を免職にしろとか名指しで批判をされたら、誰だって辞めたくくなりますよ。多分、この町長がこの契約の更新をしなくても、院長は辞めたと思います。

院長の契約は9月までで、更新はしないと町長は言ったようですが、そうなった場合、あとの常勤医2名はどうなるのか。町長はマニフェストどおり、早急に常勤医師の確保ができるのかどうか、もう一度伺います。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） その件については、十分私も考えました。しかし、現状の体制の中で、病院内部でいろんなことがあることは、あなたが知ってるかどうかわかりませんが、そういうのも一掃する必要があると。その際は、やっぱり町政で町長が代わるごとく、首長というのは——しかし病院の責任者というのは、管理者は私ですから、それが代わることによって、全体的には中身も変わっていくというのが私の基本理念でございますので、そういう点で言うと、3カ月前に9月以降も雇うということを宣告しないと、必然的にまたずっと院長であと残るようになりますから、これでは医者をお寄せすることはできないんじゃないかと、体制ができないという。私の管理者としてやっていく中での、それはそぐわないという、そういう判断の結果、先生にはそのように伝えたところでございます。ということは、今回の契約でもって契約更新はしないという、そういうことを伝えました。

以上です。

○議長（小園實重君） 広浜喜一郎君。

○6番（広浜喜一郎君） 何かその病院の中で、不穏な動きか何かあるわけですか。そういうことは聞いておりませんが、よかったら教えていただきたいと思っております。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） それはうわさですから、具体的に言うわけにはいきませんが、やっぱり住民が受け付けをして、診断をして、入院する、ほかに行く、あるいはまた救急車が来て、診察をして、西之表に行く、そういったのがあるわけでございますが、いろいろ対応の問題とか、そういう点でいろいろ意見が私に飛び込んできますので、そういうようなことを含めれば、やっぱり院長が交代したほうが一番いいという、そういう判断をしたということが理由であります。

○議長（小園實重君） 広浜喜一郎君。

○6番（広浜喜一郎君） 町長、院長を首にした弊害が出てきますよ、多分。わかっていますか。聞くところによりますと、7月の22日水曜日から、毎週水曜日の午後の診察は休診するということになってるようです。また、8月からは、医師が交代で夏休み等を取るために、診療が2人体制になり、午後は休診になる可能性があるというふうに思います。

院長の契約は9月までですが、9月から有給のため、院長の診療は休みとなるのではないかとこのように思います。また、現在、院長のやっているカメラ等での検査も、8月からできないというふうに聞いておりますが、現在、厚生連の検査が終わりまして、結果報告会を各地区でやってるようですけれども、今後、再検査等も多

数出てくるとは思いますけども、該当者がたくさんカメラ等の検査に来ると思われませんが、それが公立病院ではできないわけですから、全て西之表の病院のほうの検査へ行くようになりますので、町民からも不平不満が出てくるのではないかというふうに思うところでもあります。このようなことに対しまして、町長はどのように対応していくのかお伺いいたします。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 一時的にそういうのがあるというのは承知しておりました。これは、また、先生方からもそういうことを聞きました。

しかし、15日から午後の休診を何曜日か、水曜日か、するについては、それと関係なくするようになっていたわけでありますから、その後の問題がどうなるかというのがありますが、私は、やっぱり残った先生方がその間頑張っていたいただいて、早急に野口先生が全然来なくなった段階では、多分、医者に来ていただくという、そういう動きになるんじゃないかというように思いますので、既に13日からは、病院の関係者、つまり中種子の副管理者含んで、県庁とかそのほか関係機関に回る予定にしております。

また、そのほかの機関についても、それぞれ話をしながら要請をしておりますので、これを確実に来ていただくような、そういう対応をする必要があると。きょうまで議会でありましたから、本当はあしたから動きたいんですが、あしたは別の要件がありますので、余った時間については、それに集中して動きたいと、こう考えております。

以上です。

○議長（小園實重君） 広浜喜一郎君。

○6番（広浜喜一郎君） 町長、それでは、今のところ、常勤医師の確保、何月何日から間違いなく来るという常勤医師の確保の契約と申しますか、確認はとれていないということに理解してよろしいですか。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 現段階ではそういうことです。

○議長（小園實重君） 広浜喜一郎君。

○6番（広浜喜一郎君） 時間もありませんので、次に行きますが、小中学校までの給食費無料化についてであります。

マニフェストの中で、小中学校までの給食費を無料化すると言っておりますが、いまだかつてない提案だと思います。この給食費の無料化については、きのうも同僚議員から質問もありましたが、全額無料にするのではなくて、少しは保護者にも負担をしていただいて、学校給食のありがたさや給食をつくってる職員の苦労もわ

かってもらったほうがよいのではないかと私は思いますけども、町長は、この全額無料化する考えを変更する考えはないかどうかお伺いいたします。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 子育て支援、人口増対策も含んで、我が町はそういった条件を整わせることによって、IターンあるいはUターンも含みますが、そういうことを機構改革の後は担当を置いてやらせるつもりでおりますので、その辺を考えて、やっぱり医療費関係含んでそうしたほうが良いという判断のもとにやろうとしておりますが、具体的には、小中学校までの無料化が、平成27年度から段階的に保護者負担の軽減を図っていききたいと、平成29年度に完全に無料化を実現するという考え方でございますので、年間費用として約2,200万円かかるようでございますが、新たに今からすると1,600万円が必要になっていくと、こういう計算であります。

○議長（小園實重君） 広浜喜一郎君。

○6番（広浜喜一郎君） 給食費を全額無料にいたしますと、これは私の個人的な考えかもしれませんが、給食そのものを粗末にする子供が出てくるのではないかと私は心配をしております。給食を指導する先生の立場からしても、親が苦勞して給食代を負担しているのだから、残さずに大事に食べなさいとかいう指導もできやすのではないかと思いますけども、私の考え過ぎかもしれませんが、教育長はそこら辺のところはどういうふうに考えておりますか。

○議長（小園實重君） 教育長、遠藤 修君。

○教育長（遠藤 修君） お答えします。

食を大切にすることを育てるということは、大変大事なことだと思います。平成17年に、国において、食育基本法が制定をされております。それを受けて、各学校においては食に関する指導の全体計画、年間指導計画を作成しております。学校給食を活用した指導はもとより、全教育活動を通して食に関する指導を行っているところでございます。議員御懸念のことも含めまして、今後とも指導の充実を図ってまいりたいと思います。

○議長（小園實重君） 広浜喜一郎君。

○6番（広浜喜一郎君） 次に、高校生までの医療費無料化についてでありますけども、先ほども質問がありましたが、現在、中学生までの医療費を無料化しておりますけれども、高校生までの医療費を無料化した場合、幾らぐらい予算の追加が必要になってくるのか、見込みでいいのです。先ほど答弁があったかもしれませんが、再度、確認の意味で。

○議長（小園實重君） 保健福祉課長、高田真盛君。

○保健福祉課長（高田真盛君）きのうからの質問の中で、町長の答弁にもありました

ように、一応、本年の10月1日から実施したいということで計画をしております。今年度に係る分につきましては、175万円程度です。あと、次年度以降は、毎年350万円ぐらいの高校生分ということで必要経費がかかるというふうに予定をしております。

ただ、これにつきましては、毎年医療費は動向がありますので、若干のずれはあるかもしれませんが、今、積算してる数字ではその金額ということになります。

○議長（小園實重君） 広浜喜一郎君。

○6番（広浜喜一郎君） わかりました。

次に、温泉水の活用についてであります。

温泉水を病院や商店街に利用される計画のようですが、全く夢のような話だと私は思います。まず、どのようにして活用される予定なのかお伺いいたします。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 前回、私は温泉を掘って、病院に活用しようと、こういうことを提案しておりましたが、落ちてしまいましたからできませんでした。

それは、やっぱり観光を今、これから皆さんお聞きのとおりですが、観光を重視するという国、県のそういうのも踏まえて、特色あるまちづくり、観光客が宿泊してもらえるような条件整備ということになると、うちは温泉があるんです。だから、その温泉を旅館、ホテル等、引くことによって、また他町と比較して変わった形での認識をいただけるんじゃないかと。やがてロケット打ち上げがありますが、打ち上げ期間、JAXA、関連企業のほうとしては、向こうもあけてほしいと、こういうことまで要請が来ておりますから、温泉がいかにかということはお承知のとおりです。

これは、そういうことを含んで、観光の一環として、それから公立病院にそれを引くことによってリハビリ関係、霧島に鹿児島県のリハビリセンターがあるんですが、この辺は、もう抜群の違いがありますので、それを参考にしながらやるためには、公立病院の運営のことも含んでやったほうがいいという判断です。

計算をしないとわからないことですが、これから各方面からの情報収集の中で計画を立てるということにはなりますが、今すぐというわけではありませんが、やっぱり任期中にこれを取り組んでいくということを掲げているわけであります。

○議長（小園實重君） 広浜喜一郎君。

○6番（広浜喜一郎君） 今、河内温泉からの温泉という話が出ましたけども、河内温泉からポンプアップをして配管をしたり、多分、この上のほうにも貯蔵タンクもつくったりすることになるかと思えますけども、簡単にはいかないと思えますよ。どのくらいの予算が必要だと思ってるのか、概算でもいいですんで、思っている金額

等がわかれば教えてください。そして、本当に実行できるのか伺います。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 本当に実行できるかどうかは、きちんと調査しなければわかりませんが、河内から上げる考えは毛頭ありません。別のところに掘るということを考えております。それは、幾分ポンプアップしなくてもできるような位置を選ぶということになりますから、その中ではどこが出るというのはちゃんとわかっておりますので、それを中心にやっていくことになるんじゃないかと、こう思っております。

金額的には、設計とか、専門家にしてもらわないといけないので、これから検討するというので、先ほど言ったとおりでございます。

○議長（小園實重君） 広浜喜一郎君。

○6番（広浜喜一郎君） 次に行きます。

三役の給与10%減についてであります。三役の給与を10%削減するというので選挙公約にも掲げ、今議会にも条例改正が提案され、可決されましたが、この時点でも質問をいたしました。確認の意味で、任期の4年間、継続して実施するかどうか、再度お伺いいたします。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） それは、当然そういうことでございます。4年間、そのようにするというので御理解いただいて結構です。

○議長（小園實重君） 広浜喜一郎君。

○6番（広浜喜一郎君） わかりました。

町長、あなたの支持者であります現副議長が、昨年の7月に、南種子民報「絆」を発行し、町民に配布しておりますけれども、その中に、町長の給料を40%カットし、町長の退職金は、引退後、南種子町に全額寄附するという内容の提案がありましたけれども、町長はこれを検討する意志があるかどうかお伺いいたします。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） それについては、それはそれぞれ発言する人の考え方ですから。私は、三役の、自分の給料もですが、私が指名する副町長、教育長のそれを削減するという提案をいたしましたから、それについてはきちんと守ってまいりたいと。副議長のそれは私とは関係ありませんので、差し控えます。

○議長（小園實重君） 広浜喜一郎君。

○6番（広浜喜一郎君） 私が言うのは、こういう提案があったが、それを検討する考えはあるのかないのかを聞いたわけですよ。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） ありません。

○議長（小園實重君） 広浜喜一郎君。

○6番（広浜喜一郎君） はい、わかりました。

次に、キャトルセンター、堆肥センターの運営についてでありますけれども、平成26年度までの経営状況についてであります。

これも昨日質問がありましたが、町長、あなたが前町長時代につくったキャトルセンター、堆肥センターの事業が、開始時点から赤字続きだということは知ってると思いますが、平成23年度から26年度までの累積赤字は幾らになってるのか、お伺いいたします。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 累積赤字は、堆肥センターで、5年分累積で6,378万7,682円の赤字のようであります。それから、キャトルセンターについては2,379万4,905円あります。

○議長（小園實重君） 広浜喜一郎君。

○6番（広浜喜一郎君） このキャトルセンターの決算の歳出には、職員の人件費が入っていないんですよ。わかっていますか、町長。職員の人件費を入れますと、まだまだ赤字額はふえてくると思いますよ。町長は、今回の選挙では、このことは一切ふれておりません。他の候補者の批判ばかりやっておりますが、このキャトルセンター、堆肥センターをつくる時点では、赤字にならないと聞いてつくったと聞いておりますけれども、これに賛同した議員にも責任はあると思いますが、赤字は全て町民の税金で賄われております。この2つの施設は一部の農家しか利用しませんが、このまま赤字が続きますと、誰が責任をとるのか問題にもなりかねませんが、町長はどのように考えておりますか。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 運営の仕方によって中身は改善されますから、私が辞める段階でも、多分、赤字がこの半分くらいはあったのかなと思いますが。これは始まってから間もなくでございますから、つくるのに2年ぐらいかかりましたので。

それを、例えば堆肥センターでいけば、ちゃんといわゆる菌を入れるということによって、堆肥ができるわけではありますが、菌を2回しか買ってありませんから、それを買わなければ、普通の堆肥と一緒になんです、入れないと。ですから、私が辞めたときの1カ月か2カ月か後に、200トン買ってあります。それから、ことしの2月は、また200トン入れてありますが、その間、堆肥は変えてないんです。だから、普通の堆肥と一緒にの状態になりますので、だから、そういうことでは堆肥生産というのはいけないということでもありますので、堆肥生産するには、決まったYM

菌を使うようになっておりますが、培養堆肥です。培養菌です。これが、最高107度まで出るわけでありますから。牛1頭が2週間ぐらいでなくなってしまうわけです。そういう状況を踏まえる堆肥として、実際やっているところは、山形県で県の事業でやって、ある町がそれを運営しておりますが、そこは水田に毎年2トンずつ入れております。だから、倒壊もしないし、特殊米として販売しているわけでありますので、そういったようなことも考え合わせて堆肥センターとしてはきちんと菌を入れてやらないといけないと。この堆肥センターについては、山村氏からの提言もございますので、早急に農業団体交えて協議する中で、完全に農家に堆肥が行き届くような、そういう体制をとりたいと思います。

つまり、鹿児島からも持ってくるようなことも含んで、でも町としては商売をしたくありませんので、運営の方法については今後検討していく必要があるんじゃないかと、こういうことを頭に入れております。

それから、キャトルセンターについては、はっきり言って、これは200頭入れる予定が、100頭以下でありますから、やっぱり職員も相当努力しないとイケないと思うんですよ。これは、現状では七、八十頭しかいってないと思いますので。しかし、向こうに入っている牛というのは、全体的には高く売れておりますから、このことを考えたら、牛の現状の値段の関係も含んで、それから肥育農家が少なくなっていく段階で、向こうを利用することによってたくさんの牛が飼われると。それで、種子島全島で月最低2日のせり市ができるというようなことに持っていくことによって、牛の生産、牛を飼っている人の生産所得が上がっていくと。これが農家所得の大きな要因になりますので、そういうことをあわせて、私は改善を図る必要があると思っておりますので、これについては、先般、畜産課にも行って、知恵を拝借してまいりました。今後、職員を交えて、また招聘して、その取り組みをし、飼っている人たちの中の会議にも私は出席しましたが、一生懸命みんなでやろうという確認ができましたので、そういう方法で改善を図っていききたいというのが、今の心境でございます。

○議長（小園實重君） 広浜喜一郎君。

○6番（広浜喜一郎君） それじゃ、現在、その菌を使っていないから、堆肥の効果が余らないという、肥料の効果が無いということですか。

それで、キャトルセンターの生ごみ、これは堆肥になっているのかどうか。どれぐらいの割合で生ごみが堆肥の中に入っているのかどうか、わかっているならば、農政課長でもいいですので教えてください。町長でもいいです。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） まずは、生ごみについては、生ごみだけでやっているようであ

ります。これは、さっきどなたかの質問もありましたが、菌を入れてないと思います。菌を混ぜたら、においがしなくなるわけですから。だから、そこが問題なんです。

それと、カラスが相当来てます。あれは、やはり全部閉めないといけないと思います。それは、私のとき、つくったわけでありますから、やっぱり課長に相談して、しなさいということをお前は途中何回か言ったことがあります。あそこは閉めないといけない。においがしないというのは、つくるとき、野大野の人との約束でございますから、菌を混ぜてしたものについては、即混ぜて、堆肥に入れて、菌を混ぜたら、においは全くしなくなりますので、そういうことを今後やってもらわないといけないと。

それから、もう一つは、対応する職員がはっきり言っていなくなっております。全く素人でやっておりますから。これも、きちんと研修にやるなりして。

菌を使わなければ、製造期間が長くなるわけです。45日だったのが2カ月になるとか。だから、生産量が少なくなるということです。私が辞めたあの年は、生産量のほとんどを中種子、西之表の構造改善の関係の仕事に全部やっておりましたから、南種子のためにはなってなかったということもありますので、そういうことがないように、町民の所得向上と、そのほか水田、さとうきび、からいも、野菜、これは堆肥を入れてもらうための方策をとらないといけないという思いをしております。

以上です。

○議長（小園實重君） 広浜喜一郎君。

○6番（広浜喜一郎君） 総合農政課長、生ごみが年間に何トンぐらい、キャトルセンターに入ってくるもんかどう、わかってますか。教えてください。

○議長（小園實重君） 総合農政課長、島崎憲一郎君。

○総合農政課長（島崎憲一郎君） ただいまの御質問についてでありますけれども、ただいま堆肥センターのほうで実績として搬入をいただいている分が、生ごみ、牛ふん、これは原料堆肥ですが、そのほか、生草、剪定枝、それからさとうきび等の副産物であるバガス、ハカマ、その他があるわけですが、そのうち生ごみについては、平成26年度実績で276トンの状況であります。

この生ごみ分が堆肥としてどのように還元されているかにつきましては、生ごみにつきましては、御存じのとおり、水分を相当含んでおります。また、異物も相当入っている現状がありますので、それを堆肥化して、販売する堆肥には到底及ばないものでございますので、その分については学校等の堆肥等、そういうものに利用させていただいているところでございます。自家消費分に充てているということでございます。

ただ、生ごみ分については、これまでも再三議会の中でも御質問にお答えしてきているとおりですが、この生ごみを焼却施設で焼却する際に、当然、燃料、電気料等、費やさなければいけないんですが、それを必要なしとして、施設の延命も含めて、その経費分がこのまま堆肥という形で戻してあるというところで、そういう部分の必要経費を節減してるといことは御理解をいただきたいと思います。

○議長（小園實重君） 広浜喜一郎君。

○6番（広浜喜一郎君） 町長、今後もこの赤字は増加し続けると思いますけども、別に黒字になる必要はないんです、公共施設でありますんで。飼料代も値上がりをしております。今、子牛の価格も高い状態が続いておるようですけども、1頭当たりの利用料も少しは上げてもいいのではないかとこのように思います。何か聞くところによりますと、屋久島が530円だとかいうふうな話も聞いておりますんで、そこら辺も検討したらいいんじゃないかと思ひます。

また、堆肥センターの堆肥につきましても、中種子で販売してる堆肥の半額だと聞いておりますけれども、もう少しは値上げをしてもいいのではないかとこのように思ひますが、今後はどのような運営計画を持っているのか、町長に伺ひます。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 総合的に判断する必要があると思ひるので、一挙に上げるわけにいきませんから、やっぱり今、農家が使っている町の培養堆肥は、ほんのわずかですよね。だから、それを相当ふやさないといけないということになると、山村社長との協議を経て、それで生産量をふやすということ、これが第一だと思ひておりますから、そういった中で、技術を職員は習得していつて、きちんと正常な堆肥生産ができるようにもつていかなければいけないんじゃないかということ、このように考へております。

○議長（小園實重君） 広浜喜一郎君。

○6番（広浜喜一郎君） 時間がありませんので、次に行きますけども、臨時職員の雇用についてであります、昨年度までは、緊急雇用対策事業等で臨時職員を雇用し、町道、農道等の草払いもやってもらっておりますけれども、今年度はまだその雇用がなされていないと聞いております。今まで働いていた人たちも収入がなくなりまして、生活に困っているという人もいるようです。今後の雇用予定があるのかどうか伺ひます。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） その辺については、契約職員、それから役場の職員含んで二百数十名の職員を抱えておりますので、総体的にどうこの職員をうちの町にふさわしい体制にもつていくかということ考へたとき、即、賃金として支払っているのか

どうかというのは最初聞いたんですが、基本的には話を聞いた結果として、既に予算化しているということが後でわかりましたので、きょう既に多分面接の通知をしたんじゃないかと思いますが、そういうようなことで、本年度については計画どおりきちんとやっていきたいと、こういうことで、すぐ取りかかりたいと思います。

今、各地方等を含んで、草払いが相当おこなわれております。それは、2年前から、県道、国道、5万メートル以上を草払いを請け負っているわけでありまして、その金額が大したことじゃないんですね。中種子、西之表は県が直接やっておりますから、この件についてはやっぱり県に返上をして、今おる職員が町道と農道等含んで、地域の道路整備のそこを含んでやらせたいという基本的な考えのもとに、今度、行革委員会を設置いたしますので、その中で十分来年の3月までというよりも、年末ぐらいまでにはきちんと整理をして方針を示したいと、こういう考えを持っております。

以上です。

○議長（小園實重君） 広浜喜一郎君。

○6番（広浜喜一郎君） 今、町長が言うように、町道、農道等が非常に荒れております。草払いしないからですけども。予算は計上しておりますので、至急検討してもらいたいと思いますけども、いつごろから雇用できるのか、わかっておれば教えてください。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 面接の文書を近く発送しますので、それで、面接し次第、作業に取りかかってもらうということを前提にして指示をしております。

○議長（小園實重君） 広浜喜一郎君。

○6番（広浜喜一郎君） 最後に、今、面接の話もありましたけれども、雇用については……。

○議長（小園實重君） 残り1分です。

○6番（広浜喜一郎君） はい。1分で終わります。

雇用については、選挙には関係なく、公平公正な採用をお願いをして、私の一般質問を終わります。

○議長（小園實重君） これで広浜喜一郎君の質問を終わります。

ここで、午後2時20分まで休憩します。

休憩 午後 2時13分

再開 午後 2時20分

○議長（小園實重君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、塩釜俊朗君。

[塩釜俊朗君登壇]

○5番（塩釜俊朗君） 議長の許可をいただきましたので、一般質問をいたします。

まず、初めに先月29日、9時59分、屋久島町の口永良部島の新岳が爆発、住民125人が屋久島に避難をいたしました。種子島の近くの噴火ということでびっくりしたところでございます。

口永良部島の皆さんは、精神的にも大変御苦労なさっていることと思います。火山の早目の鎮静化を願っていると同時に、口永良部島の皆さん方にお見舞いを申し上げます。

また、梅雨に入り、降り続く雨のため、日照不足による農産物の成長、また大雨による公共施設、農業用施設の災害等を危惧するところであります。

私は、今回の統一地方選挙により町民の支持をいただきまして、2回目の当選をさせていただきました。町民の声をよく聴き、町の活性化のため頑張っていきたい、このように思っているところでございます。名越町長におきましては、公平公正な立場で町のかじ取りをお願いするところでございます。

それでは質問に入ります。まず、最初に町長の公約の1つ、人口増対策について、お聞きをいたしたいと思っております。本町の人口は、平成27年4月30日現在、5,916名であります。国立社会保障、人口問題研究所が平成25年3月、2013年でありますけれども、公表した2040年の人口推計によると、南種子町は2010年の人口に対して、30年後は39.2%減の3,778名になると言われております。

このようなことから対策をとらなければとのことで、政策の1つとして掲げているのではないかと、このように理解しておりますが、このことについて、まず、どのような人口増対策をとるのか、町長の所信を、お伺いをいたします。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

[名越 修町長登壇]

○町長（名越 修君） 塩釜議員の御質問にお答えいたします。

人口増対策につきましては、本町の人口減少が進む中で、町内における自然増はなかなか困難な状況にありますので、今後、移住対策の推進が必要であると思っております。そこで、施策の1つとして、町内の空き家を借り上げ、UIターンの定住促進を図ってまいりたいと考えております。定住の促進のための住宅の確保につきましては、町が建設するか、または、借り受けた住宅をリフォームするなどして、UIターンの方々に対応することにしたいと思っているところでございます。そのためには、この制度を運営する上での、条例、整備等が必要になってまいりますので、

先進事例として他自治体の取り組みを参考にしながら、調査研究してまいります。

そのほか、人口対策としましては、今後、本町は宇宙の町としての全国に知られているわけでありますが、ロケット打ち上げ場の施設設備等も含んで、これから打ち上げ回数がふえるという、そういう条件等もありますから、こちらに来たいという、そういう人もたくさんいるというやに聞いておるわけでありまして、そういう人にいち早く声をかけて連携をとれるようなポジション、つまり各課に所属させてやるような、そういったような対策も必要かなというようなことを思っているところでございます。

以上でございます。

○議長（小園實重君） 塩釜俊朗君。

○5番（塩釜俊朗君） 移住対策を中心に、人口増対策をやると。いろいろと述べられましたけれども、町長は人口増対策の1つとして、先ほど申しましたように、空き家管理を行い、Uターン、Iターン等の対策を図ると。このように公約に述べております。

このことにつきまして、まず、現在の町内の空き家数、Uターン、Iターン者数の人数を、お聞きをしたいと思います。

○議長（小園實重君） 観光課長、坂口浩一君。

○観光課長（坂口浩一君） 町内の空き家数につきましては、空き家バンク制度を平成25年8月から実施しておりますが、これまで登録されているものについてお答えいたします。

ことしの6月末現在の、空き家バンクの登録件数は3件でございます。これまで、平成25年の8月から延べ13件の登録がございまして、うち6件の契約が成立したところでございます。

また、U I ターン者の方々の人数についてでございますが、これは役場において把握している平成19年度からの移住実績についてお答え申し上げますが、世帯数が65世帯で、157名が移住をしてきております。

なお、古い年度の実績を調べる中では、Uターン者とIターン者の区別がございませんので、そこは御了承いただきたいというふうに思います。

○議長（小園實重君） 塩釜俊朗君。

○5番（塩釜俊朗君） 今の人数はUターン、Iターン者含めての人数ですか。

私、157名とそういうふうな人数をお聞きしましたけれども、私、まだ、以前は200名以上おったのではないだろうか、こういうふう聞いておりましたし、そういうふうな認識もあったわけですけれども、いわば、この人数の減に対しては、どういうふうな減になったかと、そういうことが官公庁も理由づけとして、例えば、

家庭の事情で、よそにまた引っ越したとか、また、家族のいろんなことによりまして、また町を離れたとか、そういうふうな理由があったのではないかと思います。そういうふうに認識をしておるんですけれども。

この空き家の情報を管理をし、その情報を提供して対策をとると、こういうようなことで、町長の公約として、捉えて私はおるんですけれども。この対策が具体的にどういうふうな対策をとっているのか、とるのか、そのことについてお伺いいたします。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 具体策は、まだ立てておりませんので、今後、役場の機構改革等も含んで、きちんとした係を置かなければ先に進まないと、こう思っておりますから、今、しばらく時間をいただきたいとこのように思います。

○議長（小園實重君） 塩釜俊朗君。

○5番（塩釜俊朗君） その対策については、今後の状況によって、進めていくと、そういうふうな答弁でございますけれども。

これは、昨年の26年の9月の3日でありますけれども、まち・ひと・しごと創生本部が設立され、9月12日、基本方針が決定し、基本目標が示されたところであります。

その理由として、地方が成長する活力を取り戻し、人口減少を克服するなどあります。昨年の9月の19日、第1回、ひと・まち・しごと創生会議で、これはある新聞に掲載しておりましたので紹介をいたしますけど、安倍総理は、「地域ならではの資源や予想を生かすことにより、地域に仕事をつくり出す。そして、強制するのではなく、地方に住みたい、子供を持ちたいといった、国民の意欲を実現するアプローチを図る。そして、地域の声に徹底して耳を傾け、地域の個性を尊重し、支援していく」、このように言っております。

また、昨年の9月22日でありますけども、石破 茂地方創生相がNHK番組で、地方自治体が求める重要度の高い交付金の申請について真剣に検討すると表明をしております。

さらに、東京から地方に移住したい人は多いとして地方移住法を促進、情報提供を強化する考えを示しております。また、これも石破 茂氏のコメントでありますけれども、これに地方創生を大きな一步を踏み出すということでコメントをしております。これもちょっと読んでみたいと思っておりますけど。

「人口急減、超高齢化というピンチをチャンスに変える。今後、国と地方が総力をあげて、地方創生を推進し、国民の意識が変わっていけば、活力ある日本社会に向けて未来が開かれていく確信をしております。地方創生は日本の創生であるとい

う認識の下、新しい国の形づくりに向け、次世代を担う世代のためにも全身全霊を傾けて取り組んでまいります」。

このように地方創生担当大臣はコメントをしておりますけれども、その中で、地方移住を促進して、情報提供を強化すると、そういうような考えでありますけれども。町も、この地方創生事業を、こういうようなハードではなくてソフト、そういう交付金事業も活用すべきではないかと、こうように思いますけれども。町長はどのように考えていますか。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 具体的な点になれば、非常に難しい問題が、はっきり言ってあります。ですけど、現状の段階で言えば、どうしても人口を増やさないといけないという形の中で、やはり、この子育て支援を含んで、若い人たちにたくさん来ていただいて、で、ここで結婚し、子供を生んでいただくと、こういうようなことから始めないといけないわけですが、じゃあ、その人たちがここで何をするかというのが、今、あなたのおっしゃる点での大きな問題としてありますから。

職場関係については、きのうからの一般質問もありますが、本町では何と云っても、コスモテックさんが二百数十名、場合によっては、やっぱり、三百名から四百名を雇用している、その状況にある中で、やっぱり J A X A、今度、三菱が打ち上げのそういうのになっていきますが、大型化していくことによって合理化されてくるということも予想する中で、しかし、それぞれ皆さん、一生懸命、頑張っていたいておるわけでありまして。

そういった点での、何とか、またここで仕事をふやすのはないのかということ等を含んで、これからやっぱり関係企業にも当たっていく必要があると思いますし、何よりも、やっぱり企業が来てもらわないといけないというのが1つあるんです。でも、昨日も出ましたが、液水がなくなってから、もう40年、三十数年なるわけですが、ああいった特殊なこととしては、人数的には少なかったわけですが、1つの企業がここに定着するということでの、この仕事の幅というか、全体の意識も変わってくるわけでありまして、そういうようなことを、遠いところから見れば、やっぱりいいのかなということでの誘いもあるんじゃないかと思っております。

私は、それぞれ、地域に5畝とか1反とか畑がたくさんあると思うんです。そういったようなところで、1反ぐらいあれば、数十万円ぐらいの収入があるというような、そういったような点も、予定されておりますので、そういったようなことも含みながら、多くの皆さん方の知恵を拝借して、総合的にやっていく必要があるのかなという、そういうことを考えております。

トンミー大使を通しまして、ここで数千名、使っている、農業をやっている、農家というのは、ここじゃなくて東北関係ですが、中国のほうに全て農作物を輸出しているという、そういうことです。

ところが、その辺では非常に日本は高いということもあって、これを全部中国に移そうという、そういうようなことがあるんですが、その大使が、ぜひここにもつくるべきじゃないかという提案もしているということもお聞きしましたから、そういった形で、総体的には関係各課、連携をとって動くというのが大事なかと、こういうことを考えております。

○議長（小園實重君） 塩釜俊朗君。

○5番（塩釜俊朗君） 対策としては、そういうふうな町長の考え方で、対策は進めていくと思うんですけども。この人口減の対策は、先ほど私も申したように、30年後は半分以下に減るんです。

その中において、何とかこの人口減少に歯どめをかける、そういうふうな中においては、国もそのような情報を提供し、移住をさせていくと、そういうことも言ってるわけでございまして、先ほど、私もハードじゃなくてソフトの、全体的な移住、あるいは、それに対しては、やっぱり、そういうようなこの、地方創生の補助金の中でないかと。そういうようなことを、私は思うわけでございまして。

そういうようなただ、物事を言う、話をする、そうじゃなくて、そういうようなことも含めて、やっぱり計画性を持つての人口増対策をするべきじゃないかと、そういうようなことを思うわけでありましたが。企画課長、こういうような事業の中で、そのソフト的な事業があるかないか、そのことについてお聞きをいたしたいと思えます。

○議長（小園實重君） 企画課長、小脇隆則君。

○企画課長（小脇隆則君） このまち・ひと・しごと創生法に関しましては、議員が言われておりますとおり、今回のこの法については、ソフト事業を基本的にそういう事業をやりなさいということになっているので。

ハード事業は対象になっていないところがございますから、特別には幾らか、見られる部分もありますけれども、基本的にはソフト事業ということでございますので、言われるようなメニューをこれから組み立てていくということになると思えます。

○議長（小園實重君） 塩釜俊朗君。

○5番（塩釜俊朗君） そのように、国も、いろんな移住に対する情報提供をすると、そういうふうなことで言っておりますし、また、参考になるかどうか分かりませんが、東京在住の方で、今後の移住に関する意向調査が出ているようでござい

まして、これは内閣府の世論調査であります。

移住を検討するに当たって、重視する声、これは東京の方でありますけれども、これは内閣府がしたので何十名か何万名か知りませんが、その結果として、移住したいと、そういうのをするためには、こういうような、いわば、町が、こういうこと、施設整備をすれば行くんですよと。そういうふうなことを書いておりましたから、ちょっと読んでみますと、生活コスト、日常生活や公共施設の利便性、仕事、医療福祉の施設の充実を上げる人が多いと。

そういうふうなことを、町が受け皿対策としていけば、いろんな行く場所は違ってあっても、これはこの体制をしっかりしていれば移住をしてもいいと、そういうふうな結果が出ておりますので、その上にやっぱり、町長は移住を中心にした形の人口増を図ると、そういうふうに申したから、私はこういうような質問をするんですけども。そういうことを提供しながら、具体的に相談に乗れる体制が必要とこういうふうに思うわけです。その中において町長はどのように考えているのか、お聞きをいたします。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） それが今、塩釜議員、おっしゃるようなことが基本にならなければ進まないということだけ、私はわかっているわけでありまして、それはまだ、取り組んでおりませんから、これから総合的に取り組んでいくと、いうことで御理解いただきたいと思えます。

○議長（小園實重君） 塩釜俊朗君。

○5番（塩釜俊朗君） そういうことで理解をするわけですけども。人口増対策については、私は、今言われるようにIターン、Uターンだけではないと、そういうふうに思っておるんですけども。やっぱり、子育て対策、それから結婚対策、また企業誘致、やっぱり、いろんな住宅の受け皿をどうするか。こういうようなもろもろの受け皿があってこそ、移住はふえてくると。そういうようなことを思うわけであります。

そういう中で、議会は、人口減少・定住対策促進委員会を設置いたしました。平成27年の3月議会でありますけれども、このように報告をしております。

その報告の中で、平成26年11月まち・ひと・しごと創生法案を含む地方創生関連2法案が可決成立し、それを受け、南種子町も向こう5年間の総合戦略を作成すること、このようになっております。できるだけ早期に策定し、人口減少対策の各政策を全力で取り組んでいただくと。こういうふうな内容で報告をいたしております。

今、現在、人口ビジョン総合戦略を作成するためのアンケート、これについては同僚議員も質問をしておりますけれども、今、アンケートを作成して集約とそうい

うふうなことになっておると思うんですけど。この中で、やっぱりいつごろまで策定を考えているのかどうか、そのことについて、お聞きをしたいと思います。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 企画課長に説明させます。

○議長（小園實重君） 企画課長、小脇隆則君。

○企画課長（小脇隆則君） 現在、アンケート調査を実施をしているところございまして、これから、その分析、集計、それから地域経済分析等を経まして、部内の専門部会、戦略本部会、そして外部の地方創生推進会議等に図って10月末ぐらいをめどに策定する準備を進めているところでございます。

○議長（小園實重君） 塩釜俊朗君。

○5番（塩釜俊朗君） 次の質問にいきたいと思います。

町長は国の重要な機関であるJAXA及び関連企業との連携により、雇用の創出とロケット打ち上げの協力支援をより一層強化すると、このように公約として示しております。

具体的にどのようなお考えをお持ちか、町長の所信をお聞きをいたします。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） これはJAXAの関連企業を含んで、そういったことの申し出を近く、可能であれば、7月中には出向いていってお願いをしたいとお話を聞いたり、何か組織的に動けないかとか、そういったようなことの提案をして、取り組んでいただくというようなことを思っておりますので、そこについては先の企画課長の戦略計画のまとめり等も先を捉えて動くようなことにならんといかんのじゃないかと思いますが、あわせて議会のほうが進んだ形で、もうきちんと進んでいるようでございますから、その御指導も仰ぎながら、また一緒に行動もしていただくべく、協力をお願いをしていくということをせんといかんのじゃないかと。

私の立場としては、ちょうど、二十日前の県の宇宙開発促進協議会で、例えば、空港延長問題とか、それはロケット、つまり衛星の搬入について北九州におろして、船で持って来て、島間港から揚げるという、それを島間港の荷役は少なくなります、やっぱり、そういう利便性を図ることによって、コストダウンにつなげていって、逆に、観光客がこっちのほうに来やすくなると、飛行機で。

今も飛行機は、何千人という形で、飛行機できているのは事実でございますから、天候の悪いときは欠航になりますが、そういうことも含んで、三菱さん、JAXAさんにも提言しながら、また一方では、私たち地元に対する接近をお願いをしたい。連携をうまくいってもらうような要請を今後、強くしていく必要があるんじゃないかという思いをしているということでございます。

○議長（小園實重君） 塩釜俊朗君。

○5番（塩釜俊朗君） 公約というのは、やっぱり実施ができると。そういうような意味での公約だと、私はそういうふうと考えておるんですけども。それが実現できるかどうかについては、町長の手腕だというふうなことで期待をするわけでありませんが。

知ってのとおり、今月の6日に宇宙開発推進協議会の総会が開かれまして、平成26年の実績、27年度計画等を提案されて、それで全て承認されたと、そういうことでございます。

平成26年においては、5基打ち上げられ、全て成功をしております。また、27年度の打ち上げ計画も示されました。町内の打ち上げ場所においては、皆さんもご存じのとおり、町内外から相当な観客が来て、その対応とおもてなしについても行政を初め、関係諸団体の協力をいただき、スムーズにできたのではないかと、私はこのように理解をしております。

この打ち上げにより、町にも相当な経済効果があったのではないかと、このように感ずるわけですけども、企画課長にお聞きをいたします。5基打ち上げ時の観客数とどれぐらいの経済効果があったのかどうかお聞きをいたします。

○議長（小園實重君） 企画課長、小脇隆則君。

○企画課長（小脇隆則君） ただいま、議員からございましたように、平成26年度は年間過去最多の5基の打ち上げがございましたけれども、H-II A ロケット24号機が5月24日打ち上げで約4,000人、25号機が10月7日打ち上げで約3,000人、26号機が12月3日打ち上げで約3,100人、27号機が2月1日打ち上げで約2,500人、28号機が3月26日打ち上げで約2,500人、5基合計観客数が約1万5,100人という結果でありました。経済効果につきましては、正確には難しいですが、総務省が出している計算方法がありまして、総務省統計局産業連関表というのがございます。これにより算出をしますと、あくまでも試算でございますけれども、宿泊、飲食、レンタカーなど直接的な効果額に伴う各産業部門に誘発をされた生産額を考慮しますと、約10億6,000万円程度の効果があったと推計をしているところでございます。

○議長（小園實重君） 塩釜俊朗君。

○5番（塩釜俊朗君） 5基打ち上げで10億6,000万円。非常に経済効果のあるロケットの打ち上げだと、こういうように認識をいたしましたけれども。

この1万5,100人の中で、再度聞きたいと思っておりますけれども、これはやっぱり町外の数か、それとも町内も含めた人数。カウント的にはどうのように判断するのかわかりませんが。わかっている範囲内であれば、大体、何割ぐらいが町外であるってというような判断ができますか。

○議長（小園實重君） 企画課長、小脇隆則君。

○企画課長（小脇隆則君） 見学者数の町内、町外の数でございますけれども、現実的にはその把握は非常に難しいところでありまして、町内の方も打ち上げの基数ごとに号機でまた違いますので、数値的には把握が難しいですので控えさせていただきます。

○議長（小園實重君） 塩釜俊朗君。

○5番（塩釜俊朗君） 多分、カウント的には、それは把握はできないというのは、私もわかっているんですけども、これだけ、10億6,000万円の経済効果があったといえ、町の予算の5分の1ぐらいの予算になるのかなと、そういうように感じるわけでございます。

そういうような中で、今年度は2基、3基程度の打ち上げということで、昨年よりも回数が少なく、当然、観客数、経済効果も減少すると、こういうふうな思われますけれども。この平成27年の最初に打ち上げられる、このとり5号機も8月16日打ち上げと発表されたというふうなところでございます。

今月の6月5日の南日本新聞でJAXAの方針として、種子島の発射場を改修し、後続H-3打ち上げ増と2017年度に着工、2019年度の完成を予定していく、このようなことであります。この改修事業がどれぐらいで、工事の内容等また地元企業参入できるのかどうか、このことについてお聞きをいたします。

○議長（小園實重君） 企画課長、小脇隆則君。

○企画課長（小脇隆則君） JAXAの発射場の改修等についてでございますけれども、6月4日の日経新聞、6月5日の南日本新聞に報道されておりましたが、JAXAによりますと、新たにロケット発射場を設置するということではなくて、現在、開発中のきのう発表になりましたけれども、H-3を2020年に初号機を打ち上げる計画にあわせて、既存の大型ロケット組立棟や現在、H-II Bロケットの打ち上げで使用している第2射点、これを改修活用していくということでございます。なお、これらの改修の現地工事については、2017年から始める計画であると聞いてございます。

地元企業の参入については、JAXAの契約については平成19年の2月に閣議決定された独立行政法人整理合理化計画によりまして、原則、一般競争入札によるとされたようであります。地域限定についても、規程上、合理的理由が認められておりませんので、250万円以上は一般競争入札になっているというところでございます。

○議長（小園實重君） 塩釜俊朗君。

○5番（塩釜俊朗君） この事業費、大体、何十億かどうか、それを聞いてませんか。

それと、その事業内容がどういうふうな内容であるのか、このことについてわかる範囲で、教えていただきたいと思います。

○議長（小園實重君） 企画課長、小脇隆則君。

○企画課長（小脇隆則君） 事業内容ということでございますけれども、ただいま説明をしましたように、新たにつくるということではなくて、既存の第2射点、H-II Bを打ち上げしているところでございますけれども、ここの射点の改修工事、それから機体組み立て棟から移動する施設、これの新生、新しくつくるといふこと、それから打ち上げ時に、発射場の地下に150名ぐらい待機をして作業をしている職員がいるんですけれども、この方々が現在あるJAXAの管理棟の下ですね、どこかあの辺にその既存の施設を改修して新たに整備を図るといふことで、射場内にはそういう関係者もいなくなるということ聞いております。金額的には、はっきり把握をしておりますが、かなりの経費が計画されているものと考えているところでございます。

○議長（小園實重君） 塩釜俊朗君。

○5番（塩釜俊朗君） 今後、事業内容ですね、そういうことを把握しながら、やっぱり、地元企業が参入できるよう、これは南種子町民であれば、それなりの雇用対策、1つするとしてもできるんじゃないかと。そういうふうに思っているわけですがけれども。

その中で、このH-II Aへの打ち上げ時には、100人から150人の作業員が必要なら、コンピューターを取り入れ、点検作業を自動化し30人に削減すると、こういうように書いておりました。いままで、その150人のスタッフが急に30人に減ると、そういうことであれば、百数十人の雇用がなくなると、単純に言えば。

そういうふうなことも、いろいろ考えてみれば、国にとってみればコスト削減でいんでしょうけども、本町にとって経済効果、雇用に対してもマイナスになるんじゃないかと、このように危惧をしているところでございます。

先ほど、課長が申しましたように250万円以上については一般競争入札になっていると、そういうふうな答弁でございましたけれども。やっぱり地元の企業が参入できる、そういうふうな、町としても考えるべきじゃないかと、私、こういうふうにするんですけれども。このような情報をもとに、町長、JAXA、打ち上げ関連企業と協議に入るべきじゃないかと、こういうふうに考えておりますけれども、町長はどのように思いますか。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 地元企業優先というのは、はっきり言って非常に難しいです。

これは1年に2回、会計検査院の検査が来ているわけですが、これはちょっと、

いわゆる独立行政法人整理合理化計画というのがありまして、原則的に一般競争入札をするということが決まっております、それを動かすことができないというのがJAXAの言い分でありますから。

その辺から言うと、一番大きな、コスモテックさんなんかも、もちろん入札参加しておるわけですが、コスモテックさんと、また民間の業者も落札していますが、数が非常に少ないです。ここはもう、入札も完全に電子入札と聞いておりますから、そういった資格を持っておればできるわけでありますので、基本的にはスタッフをそろえて、きちんとした試算が計算ができてというようなことになると、技術の問題が必要なのかなという思いもありますが、その辺は建設業の関係者の人も十分、研究検討をしていることと思いますので、また話す機会があれば、そこについてはやっぱりこういう条件の中でどう参加するかなどということについては伺ってみたいと、このように思っております。

○議長（小園實重君） 塩釜俊朗君。

○5番（塩釜俊朗君） 私もそれはわかっているんです。やっぱり一般競争入札ですから。そういうふうな状況の中で、やっぱり単純作業とかいろいろあるんです、仕事。だから、そういうようなことも含めて、いろんな雇用的な、いろいろ考えれば、やっぱり町長もちょっと考えて、そういうふうな事情もわかるんですけど。

やっぱり、この地元の企業の活用という言葉は悪いかもしれんですけど、地元企業はやっぱり働く場所としても、JAXAも1つの国の管轄の中のJAXAですから、そういうこともトップリーダーとしては、ある程度の地元企業の参入のお願いとかというのを、できるんじゃないかと。そういうように思うんですけども。それは、何らかの法的に悪いということ、そういうふうなことであれば、それについては当然、法に悪いことはしてはいけませんから、そういうこともやっぱり、本当に町長も考えることがあるのか、できるのかどうか、そのことについてお聞きをしたいと思います。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 数日前、コスモテックの社長さんも私のところへ見えました。役員の方も来たわけですが。大半はやはり、この日常、二百四、五十名を抱えたコスモテックさんがあらゆる面で、仕事のプロとしてJAXAに関するいろんな仕事はやっているわけでありますので、その拡大のことなども含んで、私としては、JAXAとは話さないといけないんじゃないかと思っております。

基本的なこととして、やっぱり理事長にもお会いする計画を持っておりますので、その辺については遠慮なく、私としては、議会の協力もいただきますが、やっぱり今、議員がおっしゃるような形で動くべきだとは思っておりますから。それだけじ

やなくて、そのほかまだたくさんの方の企業が参画しております。それは当然のことながら、そういう動きをしていく必要があるということは認識しておりますので御理解いただきたいと思います。

○議長（小園實重君） 塩釜俊朗君。

○5番（塩釜俊朗君） その認識をぜひとも行動に移していただきたいと、こういうようをお願いをしておきます。

次の質問に入ります。

公営、町営住宅の現状と今後の整備についてであります。非常に厳しい経済状況の中で、自宅をなかなか建てられないという住民の声をよく聞くわけであります。このような中、公営、町営住宅の期待度は大であると、私はこのように思うところでもありますけれども。そこで町営、公営住宅の総数と、実際に入居している戸数、入居を希望しながら入居できないでいる方の人数。このことについては、先日、同僚議員も質問の中に入れておりましたけれども、再度。

私の場合は、これを団地ごとにわかっていればお聞きをしたいと思います。

○議長（小園實重君） 建設課長、古市義朗君。

○建設課長（古市義朗君） お答えをいたします。

各公営町営住宅の総戸数でありますけれども、入居戸数、空き家戸数についてで、平成27年6月15日現在の住宅の管理戸数は公営住宅で182戸。うち入居の戸数161戸、空き家21戸。特定公共賃貸住宅が16戸。うち入居戸数15戸、空き家1戸。

一般住宅が34戸。うち入居戸数33戸、空き家1戸。合計232戸で、うち入居戸数209戸、空き家23戸であります。今後、改修しなければ入居できない戸数については公営住宅の空き家1戸。6月に公募した平野団地以外の全ての空き家住宅22戸において改修や修繕を行わなければ入居できない状況であります。これらの住宅については、計画的に改修や修繕を行い、入居を募集したいと考えております。なお、公営住宅空き家の昭和39年から昭和42年に建設された16戸の中には、経年劣化等の激しい住宅もあるため、今後、用途廃止も含めて検討いたすところとしております。

次に、入居を希望しながら入居できないでいる方の数についてであります。これについては町広報紙で入居希望者を募集した直近の状況を説明させていただきます。

平成27年6月の公営住宅の平野団地1戸募集に対し、申込みゼロ件。公営住宅コスモタウン南種子団地1戸募集に対し、申込み2件。特定公共賃貸住宅コスモタウン南種子団地1戸募集に対して申込み1件であり、公営住宅コスモタウン南種子団地において入居できなかった方が1件という状況であります。

一般住宅につきましては、平成27年2月に、西之団地1戸の入居者募集しました

が、申し込み1件でありました。教員住宅現状につきましては、平成27年6月15日現在の住宅管理戸数は36戸。うち入居戸数34戸、空き家2戸です。空き家の2戸につきましては、軽微な修繕を行わなければ入居できない状況にあります。

○議長（小園實重君） 塩釜俊朗君。

○5番（塩釜俊朗君） これは、わざわざ、聞かなくてもよかったですけれども。昨日の答弁の数と一緒にありましたので、それは当然そういうことでしょ。

ただいま、戸数等についてお聞きをしましたがけれども、私がお聞きしたいのは、耐用年数、それが過ぎた住宅、また補助金適化法に触れなくて、危険で取り壊してもよい住宅、これについてお聞きをしたいのですが、今のこの説明の中においては、私もそういうような質問をしませんでしたから、このことについて、耐用年数、補助金適化法に触れなくて、危険で取り壊してもよい住宅、これについて何戸あるのかお聞きをしたいと思います。

○議長（小園實重君） 建設課長、古市義朗君。

○建設課長（古市義朗君） お答えをいたします。取り壊しても法的に問題のない戸数になるかと、思うんですけども、公営住宅の処分制限期限は公営住宅法施行令第3条で定めていまして、木造の住宅、簡易耐火構造平屋建ての住宅で30年となっております。

平成26年度末で、30年を経過した住宅は、木造がゼロ、簡易耐火構造平屋建てが昭和39年度から昭和58年度までに建設された住宅の126戸。管理戸数の69.2%となります。これらの住宅の一部を省き、修繕や改修の長寿命化に向けた取り組みを行えば、今後も十分活用できる住宅であります。

○議長（小園實重君） 塩釜俊朗君。

○5番（塩釜俊朗君） ということは、危険でない。取り壊してもよいという住宅はないというふうな判断でよろしいですか。

○議長（小園實重君） 建設課長、古市義朗君。

○建設課長（古市義朗君） 基本的にはそういうことでとられても結構かと思うんですけども、取り壊しても改修等の経費等、費用対効果をしたときに取り壊してもいいんじゃないかというところも二、三はあります。

○議長（小園實重君） 塩釜俊朗君。

○5番（塩釜俊朗君） 私はいろいろと町内を回ってみますところ、やっぱり、住宅でも、これはちょっと生活できないなど、危険であるなど。また子どもたちが、ああいうふうなところに行けば怪我でもするんじゃないかなと、そういうふうなことを思っておったんですけれども。

やっぱり、そういうふうな場所については、危険であるというふうな、いわば安

全対策というのほどのように考えてますか。

○議長（小園實重君） 建設課長、古市義朗君。

○建設課長（古市義朗君） 住宅係のほうで管理をいたしておるところでございますが、巡回をしながら、台風時とか、空き家については管理をいたしているところがございます。

○議長（小園實重君） 塩釜俊朗君。

○5番（塩釜俊朗君） 次、住宅の改修等について質問したいと思いますけど。現在、継続中の山崎団地、この改修工事はここ、年次的に実施をしておりますけれども。この工事は今後も実施をするとすれば、実施しなくてはならないと思いますけど、あと何年で完了予定かどうか、そのことについてお聞きをしたいと思います。

○議長（小園實重君） 建設課長、古市義朗君。

○建設課長（古市義朗君） お答えをいたします。

山崎団地の状況でありますけれども、従前の11棟42戸を、2戸1改善10戸、1戸1改善を12戸、充当解体2棟10戸、改修後9棟22戸の計画で、平成21年度に着手をいたしまして、平成26年度末で2戸1改修を8戸、1戸1改修を8戸と1棟5戸の解体が完了したところであります。

残る工事が外壁改修を含む2戸、1改修2戸、1戸1改修4戸、充当1棟、5戸解体と駐車場、それから通路、排水路等の整備等で2カ年の工事予定であります。

○議長（小園實重君） 塩釜俊朗君。

○5番（塩釜俊朗君） 町長、この継続的な山崎団地の改修工事ですね、これは今、課長が示したように、やっぱり完了まで持っていくと、その考え方でよろしいですか。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 基本的には、住宅の改修といったときに、大々的な改修というのは耐用年数がある程度きておりますから、私は、それは避けたほうがいんじゃないかと。つまり、やがてもう10年もしないうちに取り壊さなければいけないという住宅については、雨漏りを防いで、それから外壁をきちんとして、内装をやるという点でいくと、わずかの金額でできるということははっきりわかっておりますから、そういった修繕を新栄町の住宅でやった経緯もありますので。

しかし、ブロック造づくりでございますので、天井の雨漏りと外観との関係で言うと、ペンキはどうしても塗らんといかんというようになるのが担当者の意見としてありますので、それを参考にしながら、可能であれば、できるだけ早くしたいわけではありますが、そこは、財政計画のことも含んで、今後、検討していきたいとこのように思います。

○議長（小園實重君） 塩釜俊朗君。

○5番（塩釜俊朗君） 今の答弁は山崎団地のことですか。それとも町全体の補修的な答弁ですか。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） さっき、山崎団地と言ったので、取り壊しの点も言いましたので、やっぱり取り壊さなくてもいんじゃないかというのが、私の考え方です。それを修繕していけば、わずかの金額で修繕できるというようなことを考えれば、建築主事と十分協議する中で、壁、その辺含んで、天井はどうなのかという、そこを含んでした場合に、山崎の場合は、そういうことが言われます。

それから大字の点では木造住宅の点もありますので、そういうのは、当然、シロアリが来ていなければ、修繕すれば、また軽微な費用で修繕できると思っておりますので、総合的にいずれにしても、公営住宅をどうするかと、あるいは教職員住宅をどうするかという点では全部一斉に当たる中での計画にしないといけないんじゃないかなと、そういうように私は思います。

○議長（小園實重君） 塩釜俊朗君。

○5番（塩釜俊朗君） この山崎団地の件でありますけれども、これは住宅改善で、今、実施をずっとやってるんですね。例えば、1室を2室に変えるとか、やっぱり居住体系がよくなるように、生活がよくなるように。そういうふうな形の計画で、私も、理解をしておりましたけれども、ことし、来年、あと2カ年というふうな話を、課長はしましたが、この残った住宅については、雨漏りとかそういうふうなことでの実施をしていくと。そういうふうなことですか。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 2戸1にするといったときに1棟当たり数百万円もかかるわけです。金額的には、私は、確認しておりませんが、多くかかるということだけを聞いておりますから、お金が一番心配だということです。計画はあるんですが、昨日の議員の質問もあったとおり、入居したいと言ってもなくては困りますので、そういうのも勘案しながら、一定の予算を確保して修繕してやっていくということにしないと、一挙に数千万円もかけてやるというようなことはできないんじゃないかと思っておりますから、そこが財政的なこととの兼ね合いと。例えばことしの場合で言うと、私の使うお金はないわけですから、だから、昨日から言っておりますように、やっぱり基金を取り崩すということで、相当の金額を取り崩すというのは、一時的には、当然そうさせてもらわないといけませんけれども、そこを年次的にやっていくような、そういう中で抑制しながら、どうしても基金が必要な場合っていうのは出てくる可能性を想像しながらやっていくという点でいくと、財政を基本にしてやらなければならないんじゃないかなという思いをしているということですよ。

だから、今、課長が2年でやるということを私も聞きましたけど、その内容を私は聞いておりませんので、具体的には従来のやり方でどれぐらいかかるのかということも聞いておりませんから。そういうのも、この際ですから、やっぱりIターン、Uターンの問題も考えたとき、そういう人たちは民家のほうを、あるいは地方に住んでもらう方がいいと、私は思っておりますけれども、総合的な判断を、先ほど申し上げましたような形での検討を、そのうちに洗っていかんのかなという思いをしてるということです。

○議長（小園實重君） 塩釜俊朗君。

○5番（塩釜俊朗君） 山崎団地に言わせれば、私、思うことには、いろんな、居住者に対してこういうような方法でやりますよと。あと2年で終わるっていうふうな、そういうふうな話を、説明会をしたんじゃないかと、私、そういうふうに思ってるんです。

それはしてるかどうかというのを、言えば、主管課だとか、そういうふうな方が知ってると思うんですけども。そういうふうな説明をした中において、じゃあ、今度は、住宅改善はしませんよと、補修だけしますよと、そういうふうなことになった場合、やっぱりそちらに居住してる人とか、この計画でやりますよというふうな理解をする人たちが、やっぱり理解をしてもらえるような形を持っていかないと、やっぱり、これは居住者に対しては無視されたようじゃないかなと、私、こういうふうに思うんですが。そのことについてのそういうような方向づけができてきたら、そういうふうな地域住民にも説明をしていく必要があるんじゃないかと、こういうふうに思うんですが、町長、いかがですか。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 私の集落でございますので、私も集会には、総会とか行っておりますから、その辺については意見を十分踏まえた上で、公民館の役員の方とも相談しながら。今、住んでる人が修繕してほしいという、そういうのがあるわけでありまして。そのほかについては、山崎に住みたいという人も出てきているわけでありまして。

やっぱり、住宅の真ん中に2戸を1戸にしてやるというときに、どういう人が住むかということ等含んで、検討しないといけないと思いますんで、それは担当の職員の見解も拝聴しながら、総合的にやっていくということが、私の基本理念でございますので、それは御理解いただきたいと。

恐らく、向こうに住むという人は外部からの人はないと思うんですが、周辺環境についての説明が主じゃないかなというような思いを、ちょっと察知しますから、その周辺対策というのは美観の問題です。住宅の隣り合わせてしたときどうなのか

ということ等もありますので、その辺は配慮しながらやっていくということですから。ずっと5年も6年も延ばすということじゃありませんので、その辺は詰めてやっていく必要があると、修繕しやすいと思いますので。でも、取り壊しについては、私は、余り取り壊しは好きじゃないので。修繕が可能なのは修繕をしてやっていくと。これがものをつくる、これから事業を新しくやるちゅうときの原則でございますので、その原則に立って、総体的に計画を持ってやっていくというまとめをせんといかんじゃないかというように、私としては思ってるということでございます。

○議長（小園實重君） 塩釜俊朗君。

○5番（塩釜俊朗君） そうような考え方であれば、町も財源がないとか、そういうことを言っておられますから。そういう中においても、当然、居住者、やっぱり住んでいる方、住宅というのは不必要じゃなくて、非常に重要なんですよ。そういう中でちょっと質問をしますけれども。

住んでる方は、今、30年も20年も住んでる方がいらっしゃって、その住宅自体が生活のニーズに合わないんです。そういうふうな話をよく聞くんです。そういうふうな形で、今後、小規模の改修を、例えば、風呂場の改修とかトイレの改修とか。そういうふうな、私もずっと回って話も聞くんですけど、そういうような小規模の改修をしてほしいと、そういうような話を聞くわけであります。

だから、そういうことを踏まえたときに、やっぱり、この個人個人の話じゃなくて、やっぱりそういう人たちに、今後、居住に対して、どうのような、生活しやすい住宅であるかどうかということも聞き取りもしながらして、また、こういうようなものもつくってほしいとか、そういうふうな希望があると思うんです。そのためにはアンケートとなりをとって、住宅に居住した人たちが安心して住めるような、そんな形を持っていく。そういうような中において、町長が今、言いましたように修理修繕をやっていけば、それはそれでいいと思うんです。そういう形で、アンケートをとるとか、聞き取りをするとか、そういうふうな考え方があるかどうかを聞きたいと思います。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 住宅宅の担当者は、幾分、面接で、ここをこういうふうにしたらどうかということも受けているということも、僕は担当者から聞きましたから、今、塩釜議員がおっしゃるようなことと一致することとしますので。全住民にアンケートをとるというのは、もう、新しく半分以上はきれいにしてあるわけありますので。

隣の住宅との関係もありますので、その辺は今、提言されたことも踏まえながら対応していきたいと、このように思います。

○議長（小園實重君） 塩釜俊朗君。

○5番（塩釜俊朗君） 次に、教員住宅について質問をいたしますけれども。

これについても、きのう同僚議員が質問をしておりますので、聞く必要がないんですけども。町内で校区外に居住をしている教職員の人数を管理課長にお聞きしたいと思います。

○議長（小園實重君） 管理課長、小西嘉秋君。

○教育委員会管理課長（小西嘉秋君） 南種子町内の県費の教職員は86名でございます、そのうち、町外に19名でございます。校区内に49名居住をしております、町内で校区外居住は18名でございます。

○議長（小園實重君） 塩釜俊朗君。

○5番（塩釜俊朗君） その18名の、なぜ、校区内に居住できないのかどうか。その理由を聞きたいと思います。

○議長（小園實重君） 管理課長、小西嘉秋君。

○教育委員会管理課長（小西嘉秋君） 理由は実家が町内にあるっていう方もいらっしゃいますし、その学校区内に教員住宅が不足をしているという状況もございます。

○議長（小園實重君） 塩釜俊朗君。

○5番（塩釜俊朗君） 時間がありませんので、次にいきます。

教育長にお聞きをいたしますけれども、教職員に対して、これも、きのうの一般質問と重複するんですけど。やっぱり、教育長、町内に住んでほしいというのが、町民からもよく聞こえてくるんですよ。

というのは、やっぱり町内に住めば、まず、単純なことかもしれんですけども、人口増になります。それと、地域に住めば地域のよさがわかる。そういった地域との交流もできる。その中において、南種子町に住んでよかったと。そういうようなこともわかる。

そうしてまた、郷土芸能を子供たちと一緒にやっていくのも、時間的にも余裕ができる。そういうふうなことから、住宅等というのも改修をしながらしていると、例えば、受け皿をやっているというふうなことで理解をしますけれども。教育長は、どのように思われますか。

○議長（小園實重君） 遠藤 修君。教育長。

○教育長（遠藤 修君） お答えします。

居住地につきましては、本人の御事情があつて、お考えの上で、お決めになっておられることとは思いますが、せっかく南種子町の職場に勤めていただいておりますので、議員が御指摘のように、今後とも機会を捉えて、町内居住、校区内居住を進めてまいりたいと思います。

- 議長（小園實重君） 塩釜俊朗君。
- 5番（塩釜俊朗君） 次に、緊急雇用対策事業について質問をいたします。
先ほど、同僚議員が質問をしましたがけれども……。
- 議長（小園實重君） 残り1分となりました。
- 5番（塩釜俊朗君） 町広報紙の4月号にて、緊急雇用対策による臨時職員を募集をしております。受付期間も締め切られておりますけれども、先ほどの町長の答弁で理解をしましたがけれども、この中で、その段階で何名が申し込んでいたのかどうか、それをお聞きしたいと思います。
- 議長（小園實重君） 総務課長、小脇秀則君。
- 総務課長（小脇秀則君） 申し込み者については10名でございます。
- 議長（小園實重君） 塩釜俊朗君。
- 5番（塩釜俊朗君） 雇用は何名を予定しておりますか。
- 議長（小園實重君） 総務課長、小脇秀則君。
- 総務課長（小脇秀則君） 面接で決定をしていくことになろうかと思っております。
- 議長（小園實重君） 塩釜俊朗君。
- 5番（塩釜俊朗君） 10名なら、10名の面接で決定していくと。そういうような判断でよろしいですか。
- 議長（小園實重君） 総務課長、小脇秀則君。
- 総務課長（小脇秀則君） はい。予算の範囲内で決定をしていくことになろうかと思っております。
- 5番（塩釜俊朗君） これで私の質問を終わります。
- 議長（小園實重君） これで、塩釜俊朗君の質問を終わります。
ここで、午後3時25分まで休憩します。

————— . ——— . —————
休憩 午後 3時20分

再開 午後 3時25分
————— . ——— . —————

- 議長（小園實重君） 休憩前に引き続き会議を開きます。
- . ——— . —————

日程第2 提案理由の説明

- 議長（小園實重君） 日程第2、町長から追加議題として提出されました議案第39号について提案理由の説明を求めます。町長、名越 修君。

[名越 修町長登壇]

- 町長（名越 修君） 提案理由について御説明申し上げます。

今回、追加提案いたしました案件は予算案件1件でございます。

議案第39号は平成27年度南種子町一般会計補正予算（第3号）でございます、500万円を追加し、総額45億7,460万円とするものでございます。

今回の補正内容につきましては、6月14日に発生した、落雷により被害を受けました設備等の復旧に要する費用、及び南種子交番建設予定地の用地調査等業務委託について追加補正を行うものでございます。以上、説明を終わりますが、詳細については議案審議の折に、担当課長から説明を申し上げますので、よろしく御審議方お願い申し上げます。終わります。

○議長（小園實重君） これで、提案理由の説明を終わります。

日程第3 議案第39号 平成27年度南種子町一般会計補正予算（第3号）

○議長（小園實重君） 日程第3、議案第39号 平成27年度南種子町一般会計補正予算（第3号）を議題とします。当局の説明を求めます。総務課長、小脇秀則君。

○総務課長（小脇秀則君） 議案第39号平成27年度南種子町一般会計補正予算（第3号）について御説明申し上げます。

それでは予算書に基づいて説明をいたします。表紙をお開きください。

今回の補正は、6月14日に発生いたしました落雷による被害を受けました設備等の復旧に要する費用及び南種子交番建設予定地の用地調査等業務委託に伴うもので、予算の総額に歳入歳出それぞれ500万円追加し、予算の総額を歳入歳出それぞれ総額45億7,460万円とするものであります。第1表の歳入歳出予算補正予算については省略をさせていただきます。

次に、歳入歳出補正予算事項別明細書により説明をいたします。

まず、歳出から説明いたします。2ページをお開きください。

まず、一般管理費については落雷被害を受けた電話交換機の更新が主なもので124万円を増額するものであります。

次に、同ページ財産管理費については、交番建設予定地の水廻地区用地調査等業務委託が主なもので、376万円を増額するものであります。

以上が歳出であります。

次に、歳入を説明いたします。1ページをお開きください。

地方交付税については、今回補正の不足額を補うため、普通交付税500万円を増額するものであります。

以上、説明を終わります。よろしく御審議方お願いいたします。

○議長（小園實重君） これから質疑を行います。質疑は全般にわたって行います。質疑はありませんか。

7番、上園和信君。

○7番（上園和信君） 土地鑑定の委託料という説明であります。

この交番の予定地は、旧野菜販売所、ここで県警との協議が進められて、そこに建設するという話し合いがなされているようであります。この町長が交替したことによって、この水廻地区に変更をしたと。変更した理由はどこにありますか。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 今、交番をつくろうという、その箇所は中央公民館と使用している、全ての入口になっておりまして、そこに車もとまりますし、その前に建物をつくることによって、入口が全く逆の方向に来ないといけないというそういうこと等もございまして、そうなれば、向こうにつくった場合で言いますと、役場から中央公民館、それから体育館等、向こうに行く場合、それから運動場等集会施設に行く場合、全部、町道を通っていかないといけないと。信号機のところを車で行くにしても。その辺を考えますと、向こうは不適切であるという考え方です。

それから、交番の後ろに住宅をつくらなければいけないというのが1つあります。それはどういうことかということ、拳銃保管をするためには、所長がきちんと保管するということが義務づけられているようでありますから、その辺でいくと、その面積を要するというので、後ろのほうになりますので、住宅側が、一方側、農協の二階建てのその辺を含んで、適当でないんじゃないかということもあります。

一番、重要なこととしては、町の施設に通う通行路をふさぐことになりますので、その辺からして移転したほうが良いという判断をして警察署にもその旨を申し上げたと、こういうこととございます。

○議長（小園實重君） 7番、上園和信君。

○7番（上園和信君） 私は適当な場所であると思います。遊んでる町有地の有効活用ということにもつながってまいります。これは、県警本部との協議した上で変更したわけですか。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） 前町長と向こうが良いということで、何か正式に交わしたわけじゃなかったんですけど、向こうだということを議会に報告したということも聞いておりましたので、それは困るというような思い、みんなの意見として、向こうに交番ができて、分断された形で野菜市場とか体育館、それからトレセン関係へ行くについては不都合が生じてくるという、そういうこととございますので、今のよう計画変更して警察署にもお願いをしたと、こういうこととございます。

○議長（小園實重君） 7番、上園和信君。

○7番（上園和信君） 県警との協議をやったかという質問です。向こうの了解もとら

れたのか。ここは確か、名越町長の選挙事務所に使っていたところだと思うんですけど。それを、選挙が終わったらここを購入しますからという約束はしてないですよね。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） そういうことを策略してやるような町長がどこにいますか。私はそういうのは毛頭考えません。

基本的には、一番、国道のそれとして、これから打ち上げ基数もふえていくという島間港、JAXAに行く玄関港としての直角の場所にありまして、向こうが一番いいという判断を、向こうもして、向こうからもこっちがいんじゃないかということ、私に言ってきましたので、私はその次に言ったのは、前の図書館を提言したんですが、これはちょっと狭すぎると。700平方メートル以上でないといけないというようなことがございましたので、それじゃどこかと言ったら、向こうのほうが一番いいんじゃないかということ、向こうのほうからも言ってきましたので、じゃあ、それは相談しようということで、御本人に連絡したところ、それは売ってもよろしいということだったので、議会に相談して、いろいろ手続きをとりたいというところまで、現在、来ているという状況でございます。その話は全くないということをお話しておきます。

○議長（小園實重君） ほかに質疑ありませんか。8番、立石靖夫君。

○8番（立石靖夫君） 会期中の全協の中で、町長から説明は受けて、幾らかはわかっているつもりでおるんですが、要は場所については、その首長がまだ契約をしていなければ、私は場所を変更していいと思うんですが、私の考えは、今、この図面を見ますと、この区域内に3件の家ですか、3件あると思うんです。2件か3件です。これの、建物の保償、解体工事、土地代、用地調査業務委託、これで幾らになるのかどうかです。

町長は住宅も含めて、700平方メートルなければいけないということなんですが、これは住宅を含めてると思うんです。だが、当初の県警の説明では、各地区にある駐在所の住宅は警察が住んでいくんだということを説明をされたと思うんです。

だから、上中の駐在さんについては今の本町の駐在に居住を設けるということで、別にこの住宅をつくるのかなと思ったりはしているんですが。まず、最初に建物の保償、解体工事、土地代、用地調査費で幾らになるか答弁をお願いします。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） それについては、これから折衝をしないとわからない点ですが、そこについては、総務課の管財係のほうが資料としてこういう建物がありますよとか、そう出てきましたから、私はそれについてはやっぱり、現在の建物の評価の価

格というのがありますから。それから去年、国の町内の固定資産評価額という4年に1回ある、3年に1回ですか、ある施設で調査済みでありますので、そういうようにしないといけないのかというようなことを話しましたがけれども、それはやっぱり、町が買収する場合は、きちんと個別に頼まんといかんのじゃないかと、そういう話があったので、そういうことで総務課に予算を出すようにというのは指示したところでございます。

○議長（小園實重君） 8番、立石靖夫君。

○8番（立石靖夫君） だから、町長、その建物の保償とか、解体工事、土地代、幾らにかかるかわからないものに対して土地の鑑定委託するんですか。それで、建物はどのような建物を建てるのか、まだ、議会には提示してないですよ。だから、私は、今の野菜市場、これにつくって、本当に住宅が必要であるとするならば、私の考えですよ。住宅を必要とするならば、美之吉とそれから姫内さんの土地、ここの道路が狭いわけですから、ここを町が購入して、土地も大きくして、それで運動会、ロケット祭りにも大きい道もできるような形でして、その後、住宅をつくるという方法が、私は一番ベターだと思うんです。そのことについて。

○議長（小園實重君） 町長、名越 修君。

○町長（名越 修君） まず、それを提案しました。

姫内さんの土地ですね、美之吉の前。ところが向こうが交番として引っ込んでいるという、そういうこと等もあって、別の場所ということになりましたから。そして、700平方メートルということになると、駐車場の半分ぐらいまで、その奥まで行きますから。

住宅の件については、つまり、この事務所とくっついたところに、そこには管理者の住宅をくっつけてつくるんだそうです。そこに拳銃等を保管するという。というような説明でありましたので、やっぱり別のところがいいという提案に基づいて、向こうも回ったかどうか知りませんが向こうから言ってきました。じゃあ、そこについては、なかなか難しい人ですけれども、話はしてみましようということで、現在の位置になりましたので。

予算関係については、私は基本的には、もうこの話つまり、こういう話は出たというのは東京に届くと思いますけど。私の考えはやっぱり、実際、土地評価というのは去年5月から6月にやっているんですよ、固定資産の。それが70%の課税基準でやっておりますから、その評価した価格ですね。そういうことでいんじゃないかというのを担当のほうには伝えたんですが、担当課としては、従来、土地を買収するときは、そういうことをきちんとそれも全部やるんだということでありましたので、その辺は予算の点についてはこうだということで、私は予算を組みなさいと

いうふうと言った経緯があります。

○議長（小園實重君） 8番、立石靖夫君。

○8番（立石靖夫君） だから、総務課長、私が言いたいのは、今、評価額が取り引き価格、大体、例があるんです。ないとすれば今まで、平方メートル当たりどれだけだったというのがあるから、大体、建物の保償についてはこれだけぐらいですよと、約。だからあと、ほか2件の建物があるが、この建物保償が大体幾らぐらいと。

今度は、この3件の解体工事に幾らぐらいというのは、大体の計算をすれば金額は出てくるんです。だからこの範囲内で購入をしたいと、だから、調査業務をさせてくださいというのが、私は筋道だと思うんです。それから、もう3回目ですから、町長の言い分も、県警のほうに向こうのほうがいいという話もあったということなんですが、最初、この交番を、上中に駐在所を全部統合してやるんだと。そのかわりに地域には駐在員が住居をそのまま構えるんだという説明をしてるから、私はこう言うんです。だから上中駐在の場合は、本町で、私はいいと思います。

だから、その銃の保管庫をするのであれば、その交番の中にきちんとした設備をしてやれば、私は別に問題ないという考えで、このように今、言ってるんです。

もう1回答弁をお願いします。

○議長（小園實重君） 総務課長、質疑でおわかりのように予算をつけてる、調査をしようとしている土地が更地ではないから、以前までの出てきてた用地は現在更地になってます。プラス、だからどれだけ費用が嵩むのかっていうのが、知りたいんだと思うんです。明快に、簡潔に答弁願います。

○総務課長（小脇秀則君） 明快な解答になるか心配ですけど。今回の用地調査等の土地鑑定委託によって、そこの額を調べていただくというようなことでの委託料でございまして。これまでの隣接地の取り引き価格については、調べればわかることではございますけれども、そういうものも含めてこの鑑定で結果が出てくるだろうというふうに思っております。

それから住居の関係でありますけれども、警察のほうからの話は、これまでもずっとやってきておりますけれども、居住の関係につきましては、この派出所の廃止後、町営住宅として1年ないし、2年はそのままだ勤務員が居住する予定であるということ聞いております。その後は、現在の派出所は町営住宅としてということでございますので、そのあとの関係は後に話はなってくるかと思いますが、当然、交番に付随した住宅を建設をして、そこに交番所長の住宅は交番と一緒に建設するものだというふうに理解はしております。

○議長（小園實重君） ほかに質疑はありませんか。6番、広浜喜一郎君。

○6番（広浜喜一郎君） 総務課長、今質問がっておりますけれども、この調査費用を

含めて、土地代、それから建物の評価といますか、税務課の評価でもいいですが。それから取り壊し料を含めて、大体、大まかに幾らぐらいの予算を見込んでいるのか、わからないわけですか。

全然、そのわからんでいいんですか。

○議長（小園實重君） 総務課長、小脇秀則君。

○総務課長（小脇秀則君） 県の定める地価調査による価格ということで、中之上の水廻の地区で定めている額がございしますが、ここについては平方メートル当たり2万3,700円ということになってございます。土地に関しては、面積が948.98平方メートルということでございますので、土地に関しては2,250万円程度ということになるかと思えます。

あくまでも、これは地価評価に対する価格でございますので、買収価格とは全然異なってきますので、そこら辺は御了解いただきたいと思えます。

建物については、本当に何とも言いようの金額でないございますけども、積算のしようがございませんで。私たちがここで押さえている額というのは、建物、木造で坪当たり35万円の面積、坪数です、それと経年劣化、経年減点等を、計算をしております。また、コンクリート造りについては坪45万円の経年減点をかけまして、押さえている金額でございまして、この分については、なかなか金額をおさえることはできませんので、現在は500万円程度ということで見込んでいるところでございしますが、実際の取り引きとはかけ離れてくるだろうというふうには予想をしております。

○議長（小園實重君） 6番、広浜喜一郎君。

○6番（広浜喜一郎君） 今、言った金額を合計いたしますと3,000万円を超えます。多分、実際に売買になりますと、これ以上になるかと思えます。本当に無駄遣いです。今まで無駄遣い、無駄遣いと言ってきておりますけれども、これこそ、本当の無駄遣いだと、私は思います。

ですんで、できるだけ町有地があるんですから、その町有地を活用して、例えば、先ほど、姫内建設さんの前の駐車場もありましたが、姫内さんの家のところは買収しなくても、その後ろの駐車場だけでも活用してやるとか、出来るだけ町有地を活用した方法でやっていただきたいというふうに思います。

本当の無駄遣いだと、私は思います。

○議長（小園實重君） 総務課長、小脇秀則君。

○総務課長（小脇秀則君） 警察のほうとは賃貸の契約でやろうということで、現在、進んでおりますので、評価額にかけて、規定に沿った金額で、年数はかかっていきますけれども、そこら辺については賃貸契約で行うという状況でございます。

○議長（小園實重君） ほかに質疑はありませんか。9番、日高澄夫君。

○9番（日高澄夫君） 総務課長、この200万円の予算額は、何のための予算額かということでも聞きたいんですが。というのは、前の町長のお母さんの家を解体、用地買収をするときには、測量会社が設計をしましたよな。これは200万円で水廻地区の用地調査でしょう。

用地調査というのは、今、コンクリート平屋建てと、それから奥のほうに木造の家が2つありますけども。あれがない場合で、ないと仮定をして、更地の場合にどのくらいの土地の評価があるかという、そういう調査の経費じゃないんですか。

それとも、今、立石議員とか、いろいろ言われるように、大概、更地にするための経費まで含めて、どうかこうかという話になっておるんですけども。この200万円の根拠です。これ、200万円組んだのは、更地として、きのう一昨日、路線価方式のあれが出ましたけども、この、交差点の一画が、土地の売買に適する価格として、不動産鑑定を入れた場合に、どのくらいの平方メートル単価になるかという、建物の解体とか、それはもう別にしてということじゃないの。

もしそういうことであれば、そこをしっかりと説明をした上で、こうこう、こうこうだと。また、解体費用なんかは別に組むんだと。組むかそれとも地主が解体をして更地にして提供するのが普通ですから。その解体費用とかというのは、また上澄みされるかもしれませんけども。そういう説明をしてもらいましょうか。どっちかということ。

○議長（小園實重君） 総務課長、小脇秀則君。

○総務課長（小脇秀則君） ここに、水廻地区用地調査等業務委託と書いておりますけども。土地、建物等の保償費、鑑定委託料でございますので、土地の鑑定、それと建物の鑑定と、これに基づいて、今後、相手方と交渉をしていくということになりますので、御理解をいただきたいと思います。

○議長（小園實重君） 9番、日高澄夫君。

○9番（日高澄夫君） 鑑定をするというのは、更地にするんじゃないくて、今のままでどれくらいという評価は出てくるわけかな。建物ですから。それで、土地と建物を、購入をして、契約して、県警には更地として出すという、そういう段取りになるわけですか。

○議長（小園實重君） 総務課長、小脇秀則君。

○総務課長（小脇秀則君） そういうことでございます。

○議長（小園實重君） ほかに質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（小園實重君） 質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

原案に反対の討論を許します。7番、上園和信君。

[上園和信君登壇]

○7番（上園和信君） 反対討論をいたします。

まず、購入した後の計画性も全然立っていないようであります。この交番建設予定地は旧野菜販売所跡地ということで、県警本部とも綿密に協議をし、了解の上で建設をするということになっているんじゃないかと思います。そこら辺は総務課長も、もう十分にわかってると思います。

町の遊んでる町有地、これを有効に活用して、無駄な経費は使わずに、当初計画をしました旧野菜販売所跡に建設を進めてほしいと、このように考えます。そうすることによって、鑑定委託料ゼロ、土地購入代ゼロ、こういうことで、町長は、かねがね言われております無駄遣いはしないということにつながってくると思います。

よって、議案第39号平成27年度南種子町一般会計補正予算（第3号）について反対するものであります。議員各位の御賛同方よろしくお願いします。

○議長（小園實重君） 次に、原案に賛成者の討論はありませんか。4番、西園茂君。

[西園 茂君登壇]

○4番（西園 茂君） 一般会計補正予算（第3号）について、賛成の討論をいたしたいと思います。

この費用でございますけれども、経過を聞いていますと、更地にして県警のほうに提供をして、県警のほうで建物を建てると。土地の賃借が発生するというところで理解しております。

その中で固定資産の取得ですので、当然、本町の資産がふえてまいります。なおかつ、県警との契約でございますので、信頼関係も安全なものになろうかと思えます。その点から、この取得調査の費用につきましては、当然、必要な経費でございます。賛成とする意見でございます。以上でございます。

○議長（小園實重君） ほかに反対討論はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（小園實重君） 賛成討論はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（小園實重君） 討論を終わります。

これから、議案第39号を採決します。この採決は起立によって行います。議案第39号はこれを原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長（小園實重君） 起立少数です。

したがって、議案第39号平成27年度南種子町一般会計補正予算（第3号）は、否決されました。

日程第4 委員長報告

○議長（小園實重君） 日程第4、委員長報告の件を議題といたします。

総務文教委員会に付託していましたが、お手元に審査結果報告書をお配りしておりますが、審査の経過と結果について、総務文教委員長の報告を求めます。総務文教委員長、塩釜俊朗君。

[塩釜俊朗総務文教委員長登壇]

○総務文教委員長（塩釜俊朗君） 総務文教委員会に付託されておりました陳情第4号の審査の経過と結果について報告をいたします。

当委員会は6月25日全委員の出席のもと、第1委員会室において委員会を開きました。陳情第4号は職員定数改善と義務教育費国庫負担制度2分の1復元を図るため2016年度政府予算に係る意見書採択についてであります。

提出者は南種子町中之上2861-6、大石正博氏でございます。提出者の趣旨説明のため、出席を求めましたが、欠席。教育委員会、小西管理課長の出席を求め、本町の学校教職員学級編成に伴う概要について説明を受けました。本町の教職員数は、小学校の県費職員69名、中学校の県費職員17名、計86名、町費職員、小・中合わせて17名、中学校PTA職員1名、計104名とのこと。

本町では35人学級は中平小学校2年生と南種子中学校の2年生が該当するとのこと。国庫負担金2分の1復元というのは、平成18年に三位一体改革で2分の1から3分の1に国庫負担が下げられた、これについての復元という中身ではないかということでありました。

質疑では意見書の内容について、陳情書1、2、3を採用し、意見書として提出することといたしました。他に質疑討論はなく、陳情第4号は賛成多数により採択するものとして決定をいたしました。陳情第4号については、本会議において採択された場合、意見書の発議を予定しておりますので、議員各位の御賛同を、お願いをいたしたいと思っております。

以上で、総務文教委員会に付託された陳情審査の経過と結果の報告を終わります。

○議長（小園實重君） これから質疑を行います。質疑はありますか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（小園實重君） 質疑を終わります。これから討論を行います。討論はありますか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（小園實重君） 討論なしと認めます。

これから、陳情第4号について採決します。本件に対する委員長の報告は採択です。委員長報告のとおり、決定することに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（小園實重君） 異議なしと認めます。

したがって、陳情第4号職員定数改善と義務教育費国庫負担制度2分の1復元を図るための2016年度政府予算に係る意見書採択の陳情については委員長報告のとおり採択することに決定しました。

日程第5 委員長報告

○議長（小園實重君） 日程第5、委員長報告の件を議題とします。産業厚生委員会に付託していました陳情につきましては、お手元に審査結果報告書をお配りしておりますが、審査の経過と結果について産業厚生委員長の報告を求めます。産業厚生委員長、西園 茂君。

[西園 茂産業厚生委員長登壇]

○産業厚生委員長（西園 茂君） 産業厚生委員会に付託された、陳情第6号の審査の経過と結果について報告します。

当委員会は、6月26日、全委員出席のもと、委員会を開きました。陳情第6号は種子島・屋久島を「活動火山周辺地域防災営農対策事業」の対策地域に組み入れることを求める陳情であります。提出者は、中種子町坂井2093-203、熊毛地区茶業推進協議会会長、山浦重夫氏、南種子町島間4184、南種子町茶業振興会会長、鮫島春香氏でございます。

提出者の鮫島春香氏、総合農政課長、課長補佐の出席を求め、陳情の内容、降灰の状況等、説明を受け審査しました。平成27年5月21日の桜島の噴火は上空9,000メートルにも達し、種子島島内全域で降灰を確認しているとのこと。また、6月18日の口永良部島新岳の噴火は、中種子町野間から西之表市で降灰が確認され、降灰による二番茶価格に影響が出たとの報告です。

質疑では、降灰の観測機設置の件、他作物への影響、他市町の対応等、審議がなされ、陳情書の記1、2を採用し、意見書として提出することとしました。ほかに質疑、討論なく、陳情第6号は全会一致で採択すべきものと決定いたしました。陳情第6号においては、本会議において採決された場合は議員各位の御賛同をよろしくお願いいたします。

以上で、産業厚生委員会に付託されました陳情審査の経過と結果の報告を終わります。

○議長（小園實重君） これから質疑を行います。質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（小園實重君） 質疑を終わります。これから討論を行います。討論はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（小園實重君） 討論なしと認めます。

これから、陳情第6号について採決します。本件に対する委員長の報告は採択です。委員長報告のとおり決定することに御異議ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（小園實重君） 異議なしと認めます。したがって、陳情第6号種子島・屋久島を「活動火山周辺地域防災営農対策事業」の対象地域に組み入れることを求める陳情については、委員長報告のとおり採択することに決定しました。

日程第6 発議第3号 職員定数改善と義務教育費国庫負担制度拡充に係る意見書の提出について

○議長（小園實重君） 日程第6、発議第3号職員定数改善と義務教育費国庫負担制度拡充に係る意見書の提出についてを議題とします。提出者の説明を求めます。塩釜俊朗君。

[塩釜俊朗君登壇]

○5番（塩釜俊朗君） 発議第3号について提案をいたします。

発議第3号は、職員定数改善と義務教育費国庫負担制度拡充に係る意見書の提出であります。別紙意見書を内閣総理大臣、内閣官房長官、財務大臣、総務大臣に提出するものであります。提出者は、南種子町議会議員、塩釜俊朗、賛成者は南種子町議会議員、柳田博、同、上園和信でございます。

趣旨については、意見書の中に詳しく記載しておりますので省略しますが、要望は次の3項目であります。

- 1、子供たちの教育環境改善のために計画的な教職員定数改善を推進すること。
- 2、教育の機会均等と水準の維持向上を図るため、義務教育費国庫負担制度の負担割合を2分の1に復元すること。
- 3、離島、山間部の多い鹿児島県において教育の機会均等を保障するため、国の学級編成基準を改めて、複式学級解消に向けて適切な措置を講ずること。

以上、地方自治法第99条の規定により、意見書を提出するものであります。議員各位の御賛同をよろしくお願いをいたします。

○議長（小園實重君） これから質疑を行います。質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（小園實重君） 質疑を終わります。これから討論を行います。討論はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（小園實重君） 討論なしと認めます。

これから、発議第3号を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（小園實重君） 異議なしと認めます。したがって、発議第3号職員定数改善と義務教育費国庫負担制度拡充に係る意見書の提出については、原案のとおり可決されました。

日程第7 発議第4号 種子島・屋久島を「活動火山周辺地域防災営農対策事業」の対象地域に組み入れることを求める意見書の提出について

○議長（小園實重君） 日程第7、発議第4号種子島・屋久島を「活動火山周辺地域防災営農対策事業」の対象地域に組み入れることを求める意見書の提出についてを議題とします。提出者の説明を求めます。河野浩二君。

○1番（河野浩二君） 発議第4号について提案をいたします。

発議第4号は、種子島・屋久島を「活動火山周辺地域防災営農対策事業」の対象地域に組み入れることを求める意見書の提出であります。別紙意見書を鹿児島県知事に提出するものであります。提出者は、南種子町議会議員、河野浩二、賛成者は南種子町議会議員、西園 茂、同、広浜喜一郎、同、日高澄夫、同、立石靖夫であります。

趣旨については、産業厚生委員長から陳情審査報告で詳しく説明がありましたので省略しますが、要望は次の2項目であります。

1、種子島・屋久島全域を「活動火山周辺地域防災営農対策事業」の対象地域に組み入れていただくよう御尽力いただくこと。

2、降灰の観測地点を種子島・屋久島にそれぞれ3カ所設置し、観測を行えるようにすること。

以上、地方自治法第99条の規定により、意見書を提出するものであります。議員各位の御賛同方よろしくお願いいたします。

○議長（小園實重君） これから質疑を行います。質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（小園實重君） 質疑を終わります。これから討論を行います。討論はありませんか。

んか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（小園實重君） 討論なしと認めます。

これから、発議第4号を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（小園實重君） 異議なしと認めます。したがって、発議第4号種子島・屋久島を「活動火山周辺地域防災営農対策事業」の対象地域に組み入れることを求める意見書の提出については、原案のとおり可決されました。

日程第8 発議第5号 南種子町議会会議規則の一部を改正する規則の制定について

○議長（小園實重君） 日程第8、発議第5号南種子町議会会議規則の一部を改正する規則の制定についてを議題とします。

提出者の説明を求めます。日高澄夫君。

[日高澄夫君登壇]

○9番（日高澄夫君） 発議第5号を提出します。発議第5号は、南種子町議会会議規則の一部を改正する規則の制定についてであります。

上記の議案を別紙のとおり、会議規則第14条の規定により提出するものであります。提出者、南種子町議会議員、日高澄夫、賛成者、南種子町議会議員、上園和信、同、河野浩二、同、西園 茂、同、塩釜俊朗でございます。

それでは、改正の内容について説明をしたいと思います。

新規対照表じゃなくて、この公布する原稿で説明をしますのでよろしく願います。

南種子町議会会議規則の一部を改正する規則、南種子町議会会議規則（昭和62年南種子町議会規則第1号）の一部を次のように改正するものであります。

まず、第2条に次の1項を加える。「2、議員が出産のため出席できないときは、日数を定めて、あらかじめ議長に欠席届を提出することができる。」

第9条第2項中「3人以上」を削る。これは地方自治法が改正されて、動議や発議等については12分の1でいいということになっておりますので、この人数を削るものであります。

第14条第1項を削り、第2項中、「所定の賛成者とともに連署して」を、「署名して」に改め、第1項とし、第3項を第2項とする。

「第16条中、他に1人以上の賛成者がなければ議題とすることができない」を「発議者の口頭又は文書による提出がなければ議題とすることができない」に改め

る。

第17条第1項を削り、第2項中、「所定の賛成者が連署して」を「発議者が署名して」に改め、第1項とする。

第19条中、「3人以上」を削る。

第37条中、「3人以上」を削る。

第56条第2項中、「3人以上」を削る。

第81条第2項中、「3人以上」を「2人以上」に改める。

第82条第1項中、「3人以上」を「2人以上」に改める。

第87条中、「3人以上」を「2人以上」に改める。

この81条、82条、87条についてだけ、複数にしておりますが、これは表決との関係がありますので複数にしたということであります。

第88条第2項中、「3人以上」を削るというものであります。

附則としまして、この規則は公布の日から施行する。以上であります。よろしくお願いをします。

○議長（小園實重君） これから質疑を行います。質疑はありますか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（小園實重君） 質疑を終わります。これから討論を行います。討論はありますか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（小園實重君） 討論なしと認めます。

これから、発議第5号を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（小園實重君） 異議なしと認めます。したがって、発議第5号南種子町議会会議規則の一部を改正する規則の制定については原案のとおり可決されました。

ここで暫時休憩します。

—————・—————
休憩 午後 4時18分

再開 午後 4時31分
—————・—————

○議長（小園實重君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

日程第9 発議第6号 安全保障法制の慎重な審議を求める意見書の提出について

○議長（小園實重君） 日程第9、発議第6号安全保障法制の慎重な審議を求める意見

書の提出についてを議題とします。

提出者の説明を求めます。日高澄夫君。

[日高澄夫君登壇]

○9番（日高澄夫君） 発議第6号を提案したいと思います。

発議第6号は、安全保障法制の慎重な審議を求める意見書の提出についてであります。提出者は、南種子町議会議員、日高澄夫、賛成者、南種子町議会議員、上園和信、同、河野浩二、同、西園 茂、同、塩釜俊朗であります。

上記の件について、別紙のとおり、会議規則第14条第1項及び第2項の規定により提出をするものであります。中身については、別紙のとおりであります。発議するに当たっての趣旨説明の一端として国会議員の訴えを述べさせていただきたいと思っております。

6月30日、東京有楽町の日本外国特派員協会で自民党の村上誠一郎衆議院議員が記者会見をやっております。これが新聞報道されました。中身は憲法を理論的におかしいことを天下の自民党がやってはいけない。また、現行の憲法下では集団的自衛権の行使はできないと訴えました。

こういう中で、リベラル色の強い、旧河本派出身の村上誠一郎衆議院議員は自民党一筋で、今は無派閥のようですが、多様な意見と自由な議論が党の持ち味と思っていた。だが、憲法解釈の変更による集団的自衛権の行使容認の議論が2013年に本格化するにつれて、自分とともに何人か反対すると思ったが、誰もいなかった。その一方で、議員会館の部屋を訪ねては、あんたの言うとおりで言い残していく同僚議員が今もたくさんいるというようなことで、会見で西ドイツ新聞の記者が訪ねておりますが、反対票を投じる与党議員はほかにいないのかに対して、村上氏は直接答えず語った。

政治家の信念の問題、自分の良心に従って判断するしかないというふうなことで、政府は90日間の会期延長をしまして、何が何でもこの安全保障法制を成立させたいというふうなことで、一生懸命のようでありますけども、私たち、南種子町議会では安全保障法制の慎重な審議を求めるということで意見書を内閣総理大臣、衆議院議長、参議院議長、内閣官房長官、外務大臣、防衛大臣に意見書の提出をするものであります。どうかよろしく願いをします。

○議長（小園實重君） これから質疑を行います。質疑はありますか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（小園實重君） 質疑を終わります。これから討論を行います。討論はありますか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（小園實重君） 討論なしと認めます。

これから、発議第6号を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（小園實重君） 異議なしと認めます。したがって、発議第6号安全保障法制の慎重な審議を求める意見書の提出については原案のとおり可決されました。

日程第10 発議第7号 米軍基地等馬毛島移設問題対策協議会から離脱を求める決議

○議長（小園實重君） 日程第10、発議第7号米軍基地等馬毛島移設問題対策協議会から離脱を求める決議についてを議題とします。提出者の説明を求めます。立石靖夫君。

[立石靖夫君登壇]

○8番（立石靖夫君） それでは、発議第7号について説明をします。

提出者は南種子町議会議員、立石靖夫、賛成者、南種子町議会議員、上園和信、同、広浜喜一郎であります。米軍基地等馬毛島移設問題対策協議会から離脱を求める決議であります。

上記の件について、別紙のとおり、会議規則第14条第1項及び第2項の規定により提出をするものであります。決議の理由については、朝ほどお配りをしておりましたので、皆さんのほうでお目とおしをしておりますが、平成23年第2回定例会において、陸上空母着陸訓練施設の馬毛島への移設に反対する決議を全会一致で議決いたしました。

当時、南種子町議会は訓練による騒音等が種子島、屋久島両町の環境や、農林水産業に甚大な影響を与え、観光イメージが根底から覆される可能性があること。また、訓練中の事故発生等などが予想されることから、本町議会も反対決議をしましたが、FCLPには、賛否両論あり、町民からの意見として町民に説明不足との声が多く求められたところであります。

反対ありきの反対でなく、今後、正確な情報を収集し、種子島、南種子町の将来にどのようなメリット、デメリットがあるのか、このことを町民に正確に伝え、その上で町民の意思決定を判断することが、私たちの議員としての責務であると考えます。

そこで、米軍基地等馬毛島移設問題対策協議会から脱会し、南種子町議会は公正中立な立場で関係機関に十分な説明を受けながら、南種子町議会独自による調査研究を行い、町民に正しい情報を提供するため、米軍基地等馬毛島移設問題対策協議会から離脱することを決議する。平成27年7月3日、南種子町議会。議員各位の賛同

をよろしく申し上げます。

○議長（小園實重君） これから質疑を行います。質疑はありますか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（小園實重君） 質疑を終わります。これから討論を行います。討論はありますか。

原案に反対者の討論を許します。9番、日高澄夫君。

[日高澄夫君登壇]

○9番（日高澄夫君） 反対討論をします。馬毛島問題の協議会から脱退しようとの提案ですが、反対の討論をします。

自衛隊の基地をつくって、アメリカの空母艦載機の離着陸訓練施設として提供しようとする動きは、とても認められるものではありません。なぜなら、島民の平和な生活を脅かすからであります。沖縄での犯罪や事件、事故を見ればわかると思います。

これまで、種子島、屋久島で歩調をそろえて運動してきました。艦載機は西之表の住吉方面から侵入すると考えられているようですが、訓練が始まると、パイロットは周辺一帯を自由に飛び回ると言われており、南種子町の上空に飛来することが目に見えています。

ロケット基地関連、ロケットマラソンなどの振興策でも、3市町で協力してきております。昨日の質問で町長は、協議会から脱退しませんときっぱり答弁しませんでした。種子島島民の平和な生活を脅かす恐れに対し、きっぱり答えない、いい加減な態度に幻滅を覚えます。

馬毛島問題はこれまで同様、共同歩調をとるべきです。以上をもって反対討論とします。

○議長（小園實重君） 次に、原案に賛成者の発言はありますか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（小園實重君） ほかに討論はありますか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（小園實重君） 討論を終わります。

これから、発議第7号を採決します。この採決は起立により行います。

お諮りします。発議第7号は、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長（小園實重君） 起立多数です。したがって、発議第7号米軍基地等馬毛島移設問題対策協議会から離脱を求める決議は原案のとおり可決されました。

日程第11 閉会中の継続調査申し出

○議長（小園實重君） 日程第11、閉会中の継続調査申し出の件を議題とします。

委員長から会議規則第75条の規定によって、お手元に配りました申出書のとおり、閉会中の継続調査の申し出があります。

お諮りします。委員長から申し出のとおり、閉会中の継続調査とすることに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（小園實重君） 異議なしと認めます。したがって、申し出のとおり、閉会中の継続調査とすることに決定しました。

日程第12 閉会中の継続審査申し出

○議長（小園實重君） 日程第12、閉会中の継続審査申し出の件を議題とします。

委員長から会議規則第75条の規定によって、お手元に配りました申し出書のとおり、閉会中の継続審査の申し出があります。

お諮りします。委員長から申し出のとおり、閉会中の継続審査とすることに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（小園實重君） 異議なしと認めます。したがって、申し出のとおり、閉会中の継続審査とすることに決定しました。

日程第13 議員派遣

○議長（小園實重君） 日程第13、議員派遣の件を議題とします。

お諮りします。お手元に配りました議員派遣のとおり派遣したいと思います。御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（小園實重君） 異議なしと認めます。したがって、議員派遣の件は派遣することに決定しました。

閉 会

○議長（小園實重君） 以上で、本日の議事日程は全部終了しました。会議を閉じます。

平成27年第2回南種子議会定例会を閉会します。御苦労さまでした。

閉 会 午後 4時45分

地方自治法第123条第2項によりここに署名する。

南種子町議会議員 小園 實 重

南種子町議会議員 上園 和 信

南種子町議会議員 立石 靖 夫